

令和5年度

病院年報

第21号



日本赤十字社

高槻赤十字病院

理 念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

方 針

1. 患者さんの人権と意思を尊重し、患者さん中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さんを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さんのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字にかせられた使命を果たします。

患者さんの権利の尊重

1. 患者さんは個人として常にその人格を尊重される権利があります。
2. 患者さんは良質な医療を平等に受ける権利があります。
3. 患者さんは自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療法の有無等について、分かりやすい説明を受ける権利があります。
4. 患者さんは自分が受ける治療計画を立てる過程に参加し、自分の意見を表明し、自己決定する権利があります。医療機関を選択し、転院・退院する権利があります。
5. 患者さんは自分が受けている医療について知る権利があります。
6. 患者さんは自分の情報を自分の承諾無くして第三者に開示されない権利があります。

看護部の理念

赤十字の理念に基づき、療養生活支援の専門家として、根拠に基づいた安心・安全な看護を提供し、看護の対象者がその人なりの生活ができるよう支援します。

令和5年度病院年報出版にあたり

令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）版病院年報がまとまりました。高槻赤十字病院のホームページにアップしています（<http://www.takatsuki.jrc.or.jp>）。

令和5年度を振り返りますと、老朽化した病棟の改修工事が前年度から継続し行われる中で5月に新しい血管撮影装置を導入しました。この結果循環器内科や消化器内科の検査や治療を行う上で被ばく線量が減り、患者さんと医療従事者の安全性を高めて、得られる画像もより鮮明になり今後の診断、治療に大変役立ちます。

さらに令和6年5月には日本医療機能評価機構の一般病院2の病院機能評価（3rdG:Ver.3.0）を受審し、合格しました。患者さんの命を預かる急性期の病院として行っている医療の質の評価をしていただきました。これを契機に高槻赤十字病院は今後も地域医療に貢献していきたいと思えます。

令和7年1月末日

院長 玉田 尚

目 次

I 病院の沿革

病院の沿革	1
-------------	---

II 病院の現況

1. 病院の特色	6
2. 施設の概要	7
3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認	7
4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況	8
5. 診療体系	9
6. 施設基準	10
7. 配置図	13
8. 付近見取図	14
9. 主な施設・機器	15
10. 年 表（沿革）	18
11. 整備医療器械備品	22

III 組織及び職員

1. 高槻赤十字病院組織図	23
2. 幹部職員	24
3. 職員現況表	25
4. 職種別・年齢別・職員構成表	25
5. 会議及び委員会	26

IV 統 計

1. 令和5年度実績表	27
2. 入院患者数	28
3. 入院稼働額	29
4. 入院単価	30
5. 外来患者数	31
6. 外来稼働額	32
7. 外来単価	33
8. 科別患者構成比	59
9. 診療科年齢別構成表	60

10. 救急患者数	61
11. 剖検件数	62
12. 紹介率・逆紹介率	63
13. 食事別給食数	64
14. 栄養指導件数	65
15. 手術件数	66
16. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について	67
17. 病院利益（損失）	68
18. 年間購入雑誌一覧	69
19. 医療社会事業年報	70

V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数	71
2. 科別・月別退院患者数	72
3. 科別・転帰別退院患者数	73
4. 疾病大分類別・性別退院患者数	74
5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数	75
6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数	76
7. 科別死亡数および剖検数	77

VI 診療科・部門別活動実績

総合診療科	78
緩和ケア科	79
血液腫瘍内科	80
循環器科	81
消化器科・消化器内視鏡センター	82
神経内科	85
呼吸器外科	86
呼吸器科	87
小児科	91
外科	93
脳神経外科	98
整形外科	99
形成外科	101
皮膚科	102
泌尿器科	104

産婦人科	106
眼 科	107
放射線科部 及び 核医学科部	108
リハビリテーション科	111
麻酔科	115
救急部	117
医療技術部	118
薬剤部	122
検査部	128
病理診断科部	131
看護部	132
医療社会事業部	142
医療安全推進室	168
事務部	175
VII 委員会活動	
委員会	177
VIII 誌上・講演発表	
誌 上	239
講 演	244

I 病院の沿革

I. 病院の沿革

当院は、昭和 16 年 11 月 2 日、「日本赤十字社大阪支部病院分院阿武野勝景園」として誕生しました。

日本赤十字社大阪支部は、大正から昭和にかけて蔓延し、「亡国病」とまでいわれた結核の予防と治療という国家的見地に立って、昭和 10 年頃から大規模な結核療養所の建設を計画していました。この計画を知った東洋紡績株式会社からの寄付金を基金とし、各方面からの援助も得て、昭和 15 年 6 月より大規模な建設工事が始まりました。

生駒連峰を望み、北摂平野を見下ろす、林間景勝の地（当時の三島郡阿武野村、土室・奈佐原・塚原の三大字にわたる地域）にちなみ「阿武野勝景園」と命名され、敷地は約 20 万坪、近世式木造平屋建、一部 2 階建 71 棟、134 室、250 床を有し、非常時には 400 床の収容が可能な結核療養所が完成しました。

しかしながら、竣工式の一ヵ月後の 12 月 8 日に太平洋戦争が始まり、当院も時代の大きな渦に飲み込まれて行くこととなりました。

昭和 17 年 5 月 20 日からは「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として、軍患者を收容することとなり、昭和 20 年 6 月 6 日以降は「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍所属となり 475 名の傷病兵を受け入れ救護にあたりました。

終戦後の昭和 20 年 11 月 30 日、軍病院は解除され、12 月 1 日からは「大阪赤十字病院阿武野勝景園」として軍患者以外の一般診療を開始し、昭和 22 年 9 月 1 日には、分院から昇格し「大阪阿武野赤十字病院」と改称し独立しました。

戦後の厳しい状況下にあっても、患者の食糧や燃料の欠乏を補うため、農作業や薪炭作りの勤労奉仕にあたり、また府下の有力大病院が結束して結成した結核病院協会に参画する一方、近接地域に結核相談部を開設して巡回診療を実施するなど、事業進展に最大限の努力を行った時代でもありました。

戦後 20 年を経て高度経済成長の時代の中、千里丘陵での万国博覧会の開催と相まって高槻市、茨木市などは京阪神のベッドタウンとして大きな発展を見せはじめました。病院の周辺においても宅地造成が進み、隣接地域に約 3000 戸の公団住宅が建つなど目ざましいものがありました。住民の地域医療に対する渴望に応えることが求められるようになり、時を同じくして結核患者の急速な減少が見られるようになったことから、一般各科の診療を開始し、総合病院への転換を図ることになりました。

昭和 45 年 1 月 1 日、病院名を現在の「高槻赤十字病院」に改称し、同年 2 月より第一次病院整備事業として外来診療棟を中心とした、一般科患者の入院設備も有する鉄筋コンクリート造り、地下 1 階地上 3 階の新館において診療を開始しました。とはいえ、当院の設立のいきさつもあり、この時点では、一般病床 99 床に対し、結核病床は 559 床でした。

新薬の開発など、結核の予防と治療は飛躍的に進歩しました。結核患者の減少傾向は一層加速し、懸命な経営改善への取り組みにも関わらず財政は悪化の一途をたどることとなり、ますます一般病床への移行が重要な課題となってきました。

昭和 53 年 10 月 31 日、鉄筋コンクリート 6 階建て、延床面積 22,991㎡の新病棟の完成により、

二次にわたった病院整備事業は一つの区切りを迎えることができました。この新病棟の完成により同年11月21日より名実ともに総合病院としての診療業務が開始されました。この時、一般病床322床、結核病床197床、合計519床と一般病床が結核病床を上回ることとなりました。その後も結核患者の減少と疾病構造の多様化に対応するため、結核病床の削減と一般病床の開設を順次行い、昭和61年2月には、一般病床454床、結核病床65床に、そして平成9年3月末には、この65床も廃止し、厚生省（当時）の結核患者収容モデル事業による陰圧室の病床（6床）を設置することにより、一般病床446床、結核病床0床の病院となりました。

地域医療への取り組みでは、平成4年4月の医療法改定を受けて、平成8年7月には「高槻赤十字訪問看護ステーション」を開設、平成10年10月には「開放型病院」認定、平成11年8月には介護保険法の制定により「高槻赤十字病院居宅介護支援事業所」を設置するなど、訪問看護の充実、在宅介護支援、地域診療所との連携を図りつつ、地域住民への医療サービスの提供に努めてきました。

こうした中、がんの増加とそれを受けての終末期医療の充実を求める声の高まりを受けて、平成14年5月に緩和ケア病棟『Lakeside Home』（20床）を尾広池の辺に開設しました。豊かな自然環境を生かした癒しの空間が特徴であり、「第1回癒しと安らぎの環境賞」の最優秀賞（ホスピス部門）を受賞しました。

また、当院の病院機能等への評価・格付けに関するところでは、平成11年4月には「臨床研修病院」の指定を受け、研修医の育成に貢献するとともに、平成14年12月には「地域がん診療拠点病院」に指定され、地域のがん診療の中核を担うこととなり、更に平成16年2月には第三者による医療機関の評価である「病院機能評価（Ver.3.1 一般病院B）」の認定を受けました。

また、医療のIT化が叫ばれる中、平成17年11月に電子カルテシステムを稼働することができました。

医療機器の高度化・医療のIT化に伴い、安定した電力供給は必要不可欠なものとなり、環境保全・省エネルギー・省コストとともに、商用電力との併用による電力の二重化により、万一の際にも一定の電力が確保できるように、自家発電装置以外の発電設備としてガスコージェネレーションシステムを平成18年6月から稼働させました。

更に平成17年度にはこれらと並行し、老朽化・狭隘化という問題を抱えていた手術室を新たに外来正面玄関前に新築移転することになり、2階部分にバイオクリーンルーム2室を含む計7室の手術室、1階部分には生理機能検査室と外科の外来診察室、更には緩和ケア病棟や高槻市街が眼下に広がる場所に『外来化学療法室』を持つ新手術棟・外来棟が平成18年3月に竣工しました。

続いて平成18年10月には、旧手術室を内視鏡室・血液浄化療法室などに改修するとともに、眼科・整形外科を中心に外来部門も整備改修し、診療機能の整備とアメニティの向上にも努めました。併せて病院建物全体の耐震補強工事を行い、万一の際にも赤十字病院としての医療機能を保持できるようにしました。

この病棟改修、手術棟・内視鏡室の新設・改修、外来部門の整備にあわせ、診療機能・管理体制の充実にも努めました。平成16年4月には、それまで皮膚科の中に含まれていた形成外科部門を独立した診療科として標榜するとともに、呼吸器科についても呼吸器科（呼吸器アレルギー内科）と呼吸器外科に分科し、それぞれの専門性を発揮できる体制としました。続いて平成18年7月に

は、「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」「緩和ケア科部」「血液・腫瘍内科部」「消化器外科部」「乳腺外科部」「がん統合治療科部」を院内標榜し、患者により分かりやすい診療体制をめざしました。同時に、院長直属の機関として「医療安全推進室」を設置、専任リスクマネジャーを配置し、複雑化する医療への安全管理と患者への安心の提供のために専門に取り組む体制を強化しました。平成19年2月には、患者・家族のがんに関する不安や悩みの相談に応え、各種の要望に迅速かつ適切に対応するために、『がん相談支援センター』を設置しました。

この目まぐるしい病院運営の中にありながら、平成18年11月には、全国の赤十字病院が集う『第42回日本赤十字社医学会総会』を「地域の人々が感動し、誇りにする病院」をメインテーマに、本院の主催で国立京都国際会館にて開催し、全国から様々な職種が集い、1,000名余りの参加を得て大成功を収めることができました。

近年急性期病院としての必須の機能であり、長年の懸案であったICUについて、施設基準としての特定集中治療室管理料は届出しえないものの、その機能を十分に持った6床を平成19年10月に3病棟の一画に開設することができました。

また、看護師確保対策として“看護職員が働きやすい職場を作り上げる”を主軸とした、院内保育所（高槻日赤保育園『すくすく』）と病児保育室を院内に開設するなどの対策を施し、看護師の採用を積極的に行うことで平成20年2月には念願の7対1入院基本料を算定できるようになりました。

更に同年7月にはDPC対象病院として承認されました。厚生労働省では平成15年4月より大学病院などを中心とした「特定機能病院」で診断群分類別包括支払（DPC）と呼ばれる診療報酬の包括評価制度を導入し、以後徐々にその対象を広げ、本院でも導入の必要性を認めた事から、平成17年1月、事務部内に「診療情報管理課」を設置し、平成18年より“DPC準備病院”として調査データの提出を厚生労働省に対して行ってまいりました。

平成20年度より導入を進めてきた「放射線治療装置リニアック」も平成22年度4月には文部科学省の認可が下り、同年10月には厚生労働省“高エネルギー放射線治療”の稼働が許可され放射線治療を開始。翌年2月には正式に施設基準として認可され、大阪府がん診療拠点病院として癌治療に対する近代医療を提供することが可能となりました。

平成23年11月25日、医療機能の役割分担と連携、自院の役割の明確化と地域医療への貢献を主旨とし、予ねてより計画していた「地域医療支援病院」を取得。救急、紹介、特殊な技術を要する高機能外来など、急性期を中心とした医療提供体制を構築することができました。

平成24年2月には、より高度な内視鏡検査・治療に対応するため、消化器内視鏡センターを開設。また平成24年8月には緩和ケア診療科を開設し、緩和サポートチームが入院・外来を問わず患者のさまざまな苦痛の緩和、ご家族の抱える負担や気がかりへの関わり、治療方針や治療場の選択にかかる意思決定などの支援を行い、ホスピスを提供する緩和ケア病棟と合わせ、緩和ケアにおける診療機能を充実させました。

平成 26 年 1 月 26 日には高槻市制 70 周年記念事業高槻市全域大防災訓練が開催され、当院から救護班として 25 名が参加、消防や各機関と連携して災害救護活動を実施し、赤十字病院としての使命を果たしました。

病院機能評価としては平成 16 年において病院機能評価 Ver.3.1 の認定、平成 21 年において病院機能評価 Ver.5.0 の認定を受けてから 5 年が経過し、平成 26 年 3 月に機能種別版評価項目 3rd G : Ver.1.0 の医療機関として改めて認定されました。

平成 26 年度から新たに「医療の質の評価を継続的に向上させる事業」Q I プロジェクトに参加を開始し、他の参加病院から医療の質改善の事例やノウハウを学ぶなど、病院経営や運営管理に生かす動きを行っています。

平成 26 年 7 月から患者支援センターを開設し、地域医療の中核病院としてかかりつけ医である開業医の先生方や回復期医療・福祉関連施設との連携を図り、地域における良質な医療を提供できる体制を確保し、紹介患者増加に努めています。

平成 26 年 7 月 26 日には医療の現場を知ってもらうことを目的として地域の中学生・高校生を対象にブラックジャックセミナー（手術体験セミナー）を開催し、地域社会への医療教育の貢献を行いました。

平成 26 年 8 月にはフェイスブック (SNS) を開設、11 月には病院診療科案内の冊子を初めて発行するなど様々な病院情報を発信し、広報戦略を展開させました。

平成 27 年 3 月から新たに眼科二次救急当直を毎週木曜日に開始し、医業収益の増収を図るとともに、地域に必要とされる医療提供を行っています。

平成 29 年 9 月に J R 摂津富田～病院間にてシャトルバスの運行を開始、また平成 30 年 6 月には JR 総持寺駅へ運行エリアを拡大し、病院へのアクセス改善を行っています。

平成 30 年 12 月には無菌治療室を 9 床（個室 1 室、4 人部屋 2 室）増床、これまでの個室 3 室を合わせ合計 12 床とし、免疫機能が低下した造血幹細胞移植やがん化学療法のお客さんの入院受入体制を充実させました。

平成 31 年 4 月に電子カルテシステムを更新し、業務の効率化、迅速化を図りました。

令和元年 5 月には老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な 2 病棟を 8 病棟に移動し、新たにレディース病棟としてリニューアルオープンし、新入院患者の増加を図りました。

令和 2 年 8 月に新型コロナウイルス感染症拠点病院「重点医療機関」と認定される。

令和 3 年 3 月には、老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な 2 病棟及び休棟となっていました 4 病棟併せて 104 床分を返還し、ダウンサイジングすることで、当院の身の丈にあった病床数 335 床へ変更となりました。

令和3年11月には創立80周年を迎え、新型コロナウイルス感染症に対して積極的な立ち位置を堅持して地域医療に貢献してきました。

令和4年4月に総合診療科を設置し診療機能を充実させました。

令和5年2月には卒後臨床研修評価機構（JCEP）の認定となりました。また、4月にはがん相談支援センターを設置しました。

今後も赤十字の使命として災害救護活動をもとに、災害医療対応も地域と共同して推進し「人道・博愛」の精神に基づいた、安全・安心な医療を提供するとともに、さらなる急性期医療提供体制の強化と“継続と変革”を高いレベルで補完し、永続的な発展を行える医療機関として日々邁進していきます。

Ⅱ 病院の現況

1. 病院の特色

医療機能

- ◎ 大阪府より『地域医療支援病院』に承認され、地域医療連携室を通じ、登録医の先生方との連携を密にし、地域に根差した病院として尽力しています。また、地域の登録医からの入院用に『開放病床』を49床設置しています。
- ◎ 大阪府より『がん診療拠点病院』の指定を受けており、地域のがん診療の中心的役割を担っています。また、『がん相談支援センター』の設置、平成22年10月には『放射線治療装置リニアック』の導入を行い、医療機能充実に努めています。
- ◎ 『2次救急告示病院』として地域の救急医療に貢献しています。
- ◎ 三島地区における『大阪府災害医療協力病院』として災害発生時の医療体制の提供を担っており、大規模災害時や救急時に対応できるように、ヘリコプターが離発着できるヘリポート用グラウンドを有しています。
- ◎ DPC対象病院として、平成20年7月より包括請求を実施しています。
- ◎ 看護体制を整備し、『急性期一般入院料1』を取得しています。
- ◎ 『光・水・緑』豊かな環境を生かした『緩和ケア病棟』を開設し、がん患者のケア施設として、身体的苦痛だけでなく、孤独感や不安を軽減し、患者さんがその人らしく尊厳を持って生きることのできる環境を提供しています。
- ◎ HCUを設置し、さらなる急性期医療の充実に努めています。
- ◎ 院長直属の組織として『医療安全推進室』を設置し、専任リスクマネージャーのもと、医療安全の推進に取り組んでいます。
- ◎ 一部の診療科はセンター化を行っており、より専門的な臓器別診療科や特殊外来の充実に努めています。
- ◎ 患者さんやそのご家族が住み慣れた地域で療養生活が継続できるよう他職種による協同支援体制を目的とした患者支援センターを開設しています。

その他

- ◎ 厚生労働省の臨床研修病院『基幹型臨床研修病院』として、また京都大学や大阪医科大学の臨床研修協力病院（施設）として、医師の初期研修の場として貢献しています。
- ◎ 電子カルテシステムを運用しており、診療情報の共有、医療の質の向上に努めています。
- ◎ 看護職員等の労働環境改善のために、『院内保育所』や『病児保育所』を開設しています。
- ◎ 医師職員の労働環境改善のため『医師事務補助職員』の導入を行っています。

2. 施設の概要

病 院

所 在 地 高槻市阿武野一丁目1番1号
敷 地 58,841.39㎡
建物建築面積 11,242.47㎡
建物延床面積 30,154.96㎡

付属施設

訪問看護ステーション
所 在 地 高槻市阿武野一丁目1番1号

3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認

保険医療取扱機関	臨床研修指定病院
国民健康保険療養取扱機関	大阪府災害医療協力病院
労災保険指定病院	母体保護法指定病院
	生活保護法指定病院
救急告示病院	第二種感染症指定医療機関
大阪府肝炎専門医療機関	公害健康被害補償法公害医療機関
児童福祉法医療給付指定医療機関	原子爆弾被爆者医療指定機関
大阪府がん診療拠点病院	地域医療支援病院
難病指定医療機関	小児慢性特定疾病指定医療機関
臨床研修協力施設証（厚生労働大臣）	
大阪府アレルギー疾患医療連携協力病院指定書（大阪府知事）	

4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況

担当診療科	名称
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
内科	日本内科学会認定医制度教育病院
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本老年医学会認定施設
緩和ケア科 緩和ケア診療科	日本緩和医療学会認定研修施設
血液・腫瘍内科	日本血液学会認定専門研修認定施設
循環器科	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
消化器科	日本消化器病学会専門医制度認定施設
消化器科	日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度専門研修連携施設
呼吸器外科	日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
呼吸器外科 呼吸器科	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
呼吸器科	日本呼吸器学会認定施設→学会 HP に当院名前あり。
呼吸器科	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
外科	日本外科学会外科専門医制度修練施設
外科	National Clinical Database 施設会員
消化器外科	日本消化器外科学会専門医修練施設 日本食道学会全国登録認定施設
乳腺外科	日本乳癌学会専門医制度認定施設
乳腺外線 放射線科	日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設
整形外科	日本整形外科学会専門医制度研修施設
形成外科	日本形成外科学会認定施設
皮膚科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
皮膚科	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
産婦人科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
産婦人科	日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設(補完研修施設)
麻酔科	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
病理診断科	日本病理学会研修認定施設 B
病理診断科	日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設
薬剤部	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
薬剤部	日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師研修施設(基幹施設)
薬剤部	日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設(基幹施設)
栄養課	日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設
放射線科	日本医学放射線学会画像診断管理認証施設

外	科	日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設	
検	査	部	日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度（I & A制度）認証施設
血	液・腫瘍	内科	非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科 JALSG 認定準施設
内	科	日本内科学会認定専門研修プログラム	

5. 診療体系

診療科目 25 科

内科 (内科、緩和ケア科)
 糖尿病・内分泌・代謝内科 (糖尿病・内分泌・生活習慣病科)
 血液内科 (血液・腫瘍内科)
 脳神経内科 消化器内科 循環器内科 呼吸器内科 呼吸器外科
 外科 (血管外科) 消化器外科 脳神経外科 整形外科
 産婦人科 小児科 眼科 皮膚科 形成外科
 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 泌尿器科 放射線科 麻酔科
 病理診断科 乳腺外科 美容皮膚科

専門外来

内科 リウマチ・膠原病外来、緩和ケア
 糖尿病・内分泌・代謝内科 糖尿病・内分泌外来、フットケア外来
 血液内科 血液外来、移植後外来 (造血幹)
 脳神経内科 神経内科外来
 消化器内科 消化器外来
 循環器内科 循環器外来
 呼吸器内科 睡眠時無呼吸外来、禁煙外来、ほっとひといき看護外来
 呼吸器外科
 外科 消化器外来、乳腺外来、ストマ外来
 脳神経外科
 整形外科 脊椎外来、肩外来、リウマチ外来
 産婦人科 子宮癌検診
 小児科 心臓外来、ダウン症候群・神経外来、乳児健診、1 カ月健診
 小児アトピー性皮膚炎外来
 眼科 緑内障外来、ロービジョン外来、網膜外来、眼形成外来
 皮膚科 美容皮膚科外来、褥瘡外来
 形成外科 レーザー外来
 耳鼻咽喉科 めまい外来
 リハビリテーション科 身障診断
 泌尿器科 排尿ケア外来

病棟

	許可病床
3 病棟	34 床
5 病棟	58 床
6 病棟	58 床
7 病棟	49 床
8 病棟	54 床
9 病棟	56 床
緩和ケア病棟	20 床
HCU	6 床
計	335 床 (3/31 末現在)

6. 施設基準

基本診療料

一般病棟入院基本料（急性期一般入院料 1）
総合入院体制加算 3
救急医療管理加算
診療録管理体制加算 1
医師事務作業補助体制加算 1（20 対 1）
急性期看護補助体制加算（50 対 1）
看護職員夜間配置加算（16 対 1 配置加算 1）
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算 1
無菌治療室管理加算 2
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算 1
感染防止対策加算 1
患者サポート体制充実加算
重症患者初期支援充実加算
報告書管理体制加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
術後疼痛管理チーム加算
後発医薬品使用体制加算 1
病棟薬剤業務実施加算 1
病棟薬剤業務実施加算 2
データ提出加算 2 イ
入退院支援加算 1（入院時支援加算・総合機能評価加算）
認知症ケア加算 1
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算

地域医療体制確保加算
ハイケアユニット入院医療管理料 1
小児入院医療管理料 5
緩和ケア病棟入院料 2

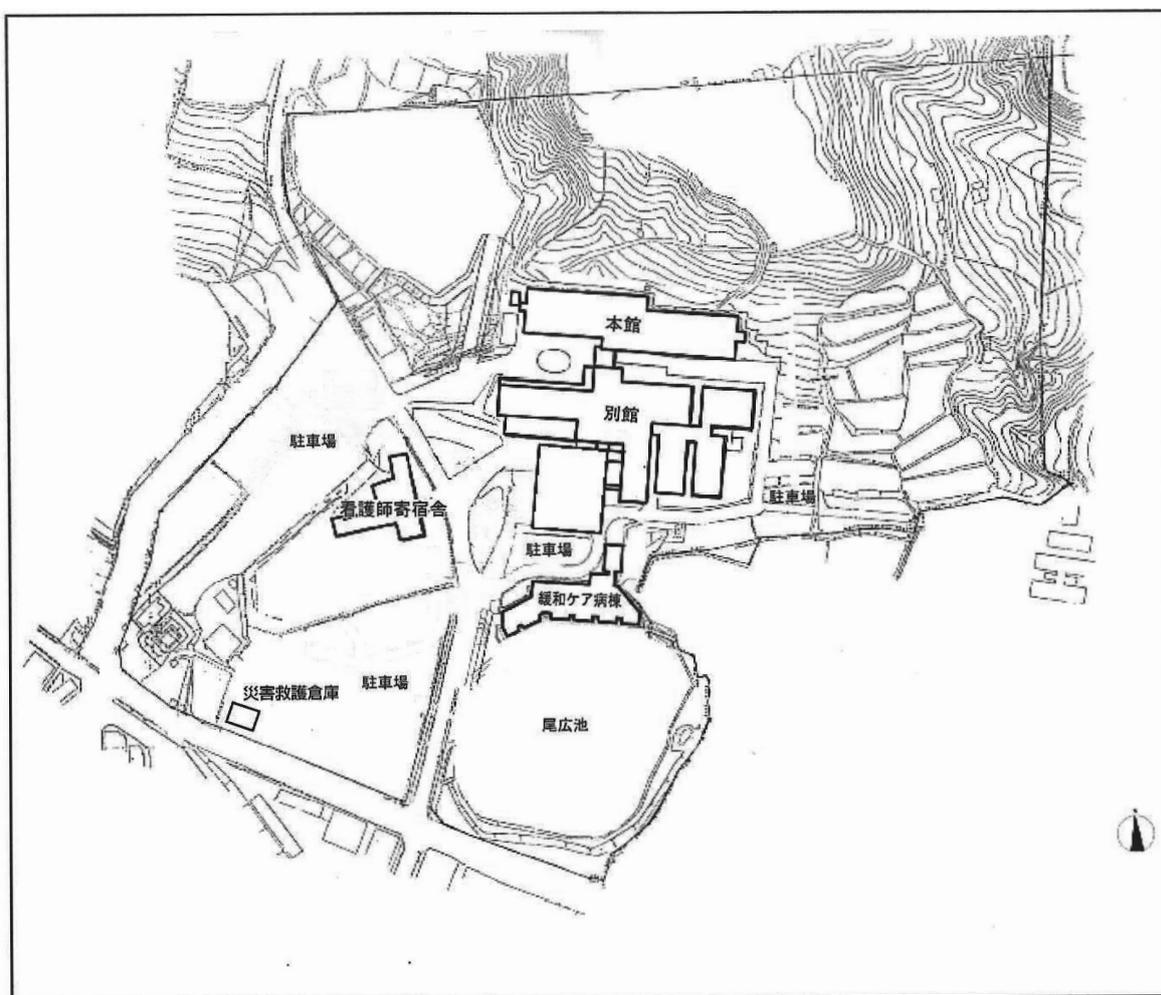
特掲診療料

外来栄養食事指導料の注 2
心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
外来腫瘍化学療法診療料 1
連携充実加算
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に掲げる遠隔モニタリング加算
骨髄微小残存病変量測定
BRCA 1 / 2 遺伝子検査
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ⅰ）
検体検査管理加算（Ⅱ）
検体検査管理加算（Ⅳ）
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験
神経学的検査
小児食物アレルギー負荷検査
画像診断管理加算 2
CT 撮影及び MRI 撮影
冠動脈 CT 撮影加算
心臓 MRI 撮影加算
乳房 MRI 撮影加算

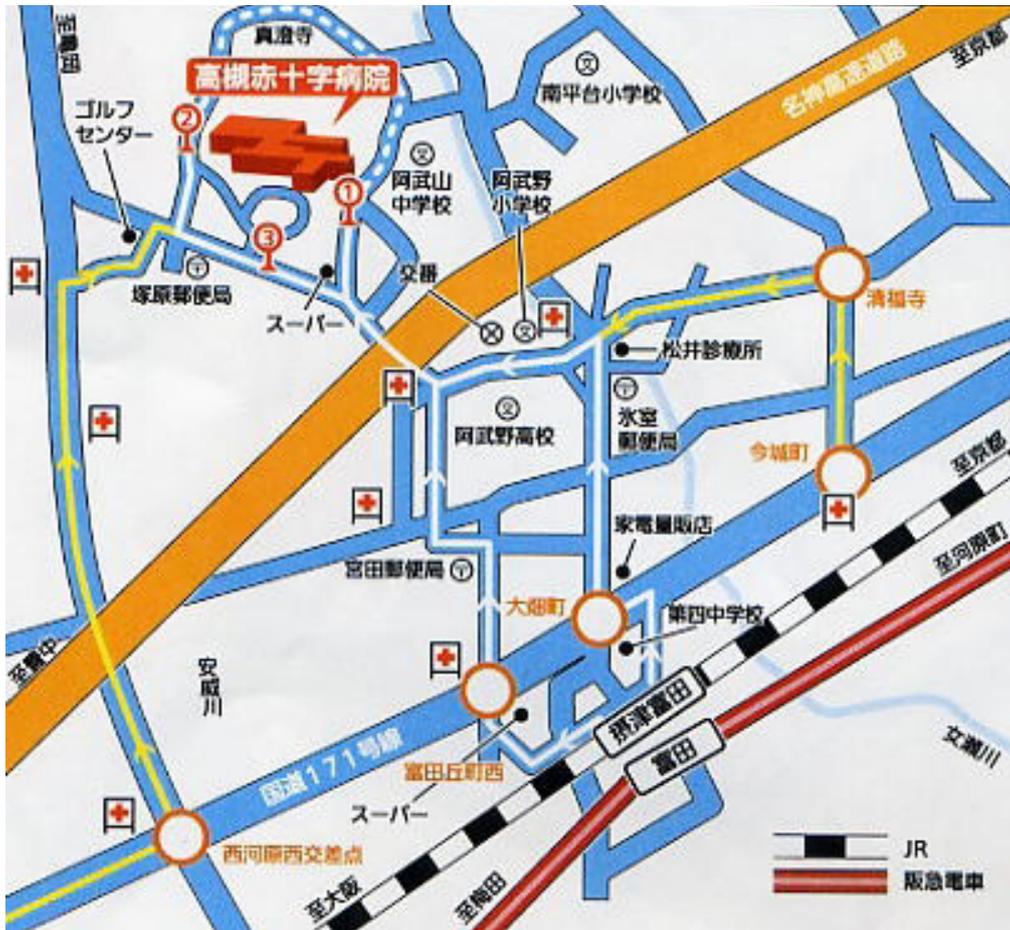
小児鎮静下 MRI 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料 (I)
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
運動器リハビリテーション料 (I)
呼吸器リハビリテーション料 (I)
がん患者リハビリテーション料
集団コミュニケーション療法料
人工腎臓 (慢性維持透析を行った場合 1)
導入期加算 1
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術 (プレートのあるもの))
緑内障手術 (緑内障手術 (流出路再建術 (眼内法) 及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
緑内障手術 (濾過胞再建術 (needle 法))
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検 (併用)
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検 (単独)
食道縫合術 (穿孔、損傷) (内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、腎 (腎盂) 腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術 (内視鏡によるもの)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
大動脈バルーンパンピング法 (IABP 法)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術 (側方)
内視鏡的逆流防止粘膜切除術
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剝離術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
胃瘻造設術 (経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む) (医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術)
周術期栄養管理実施加算
輸血管理料 I
輸血適正使用加算

自己生体組織接着剤作成術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻増設時嚥下機能評価加算
麻酔管理料（Ⅰ）
周術期薬剤管理加算
高エネルギー放射線治療
病理診断管理加算Ⅰ
悪性腫瘍病理組織標本加算
（令和6年3月31日現在）

7. 配置図



8. 付近見取図



- | | | | |
|---|---------|---|------------|
| + | 印は当院の看板 | ← | は病院への市バス路線 |
| ○ | 印は当院の看板 | ← | は病院への自動車道路 |

9. 主な施設・機器

医療用リニアック Clinac iX	除細動器 TEC-5631
532 レーザー眼科光凝固装置 ピュアポイント	小林メディカル 電気メス 5000
AutoVue	心臓マッサージシステム Ver.3.1 LUCAS III
Class II安全キャビネット SS インテリア W1300mm パッケージ	心電計 ECG-2450
COOL-TIP RFA ジェネレーター	診断用 X 線撮影システム RADIOTEX
CUSA EXcel	人工呼吸器 HAMILTON-C1
CV5030 カバーガラス自動封入装置	瑞穂医科 分離式電動手術台
ECU4 ハンドルセット ECU4B1000 他 一式	据置型デジタル式汎用 X 線透視診断装置 EXAVISTA 一式
GE 超音波診断装置 Vivid E9	全自動散薬分包機 (2 枚円盤タイプ)
IABP 駆動装置 corart	全身麻酔器 Apollo
ICG 付眼底カメラ + 無散瞳システム	全身用 X 線 CT 装置 Aquilion Prime SP/i Edition
IDEAL EYES スコープ AC4cm 30° スピートロック	送信機 ZS-630P
MRI 撮影装置 Vantage Fortain 一式	多目的デジタル X 線 TV システム
NIOX MINO(一酸化窒素ガス分析装置)	体外衝撃波結石波砕装置 (ESWL)
OES ヒステロファイバースコープ	大研 ステリキープ手洗いユニット
PillCam カメラ内視鏡画像診断システム・富士フイルムメディカル デジタル内視鏡	単票式薬袋プリンター
QuantStudio5 リアルタイム PCR システム 96 ウェル PC 付パッケージ	炭酸ガスレーザー手術装置 レーザリ-
Q スイッチレーザー IB101	超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo
SonoSite MicroMaxx(携帯型超音波診断装置)	超音波診断装置 Affiniti70
Synergy Resection シェアードコンソール 一式	超音波診断装置 ARIETTA50
VIO3 5 ツケットモデル (超音波切開装置)	超音波診断装置 ARIETTA70
X線アンギオグラフィシステム Infinix Celeve - i	超音波診断装置 CX50 Xper
アケア手持眼圧計	超音波診断装置 EPIQ Elite DS
イソメディカル 脊椎外科用手術フレーム	超音波診断装置 Nemio XG
インフィニティモニタリングシステム デルタ XL	超音波診断装置 PROSOUND-6
ウォッシュャーデイスインフェクター デジタル	超音波診断装置 SONOVISTA FX premium edition
エアウェイマネジメントモバイルスコープビデオスコープ 2 台	超音波診断装置 Viamo SV7
エクスケアバイク RG-EM400	超音波診断装置 X300 Premium Edition
オートレンズメーター LM1800PD	電気手術器 SHAPPER mini 一式
オリンパス 内視鏡外科手術システム	東芝 フルデジタル超音波診断装置 Xario
キセン光線治療器 ICON	内視鏡システム VISERA PRO
キャノンメディカルシステムズ 全身用 X 線 CT 装置 Aquilion Prime SP	内視鏡ビデオシステム EVIS LUCERA SPECTRUM
クボタ ユニバーサル冷却遠心機	内視鏡ファイリングシステム SolemioEndo
クリーンパーテーション ACP-897AH	内視鏡用診察台 EX-ESD
クリーンパーテーション ACP-897CH	内臓脂肪測定装置 DualScan
サカセ オーダーリングカート	白内障手術装置インフィニティビジョンシステム
サクラ精器 高圧蒸気滅菌装置	搬送用モータ BSM-1763
シラス HD-OCT	汎用超音波画像診断装置 (心臓超音波診断装置) Vivid E95
ステリキープ手洗いユニット	泌尿器科用 X 線テレビ装置 UROVISION II
ステリルガードⅢ	補助循環装置システム バイオコンソール等
スペキュラーマイクロスコープ	網膜硝子体手術器械コンステレーションビジョンシステム
スリットランプ カメラ監視装置システム	薬用冷蔵ショーケース MPR-N450FH - PJ
セントラルモータ CNS - 6201 他一式	涙道ファイバースコープ 0.9mm CK10
ソニー製 ZEISS 眼科手術顕微鏡用カメラ装置一式	連動昇降式平行棒 シンクロレル SP-735S
タカラベルモント 外科用手術台	フリップス 成人用人工呼吸器 V60 ベンチレータ Auto-Track+
タブレット超音波診断装置 Lumify	低温インキュベーター MIR-154 - PJ

デジタルマンモグラフィ CAD
 デジタル超音波診断装置 HI VISION Preirus
 デファイブリータ (除細動器) TEC-5631
 ドレーゲル 人工呼吸器 Savina300 一式
 バーサパルスセラ 30W(ホルミウムレーザー)
 バイオメディカルフリーザー MDF-137-PJ
 バイオメディカルペースメーカーテスタ
 ハイブリッド 高速冷却遠心機 一式
 パワープロ・システム スモールハンドピース等
 ハンフリーフィールドアナライザー
 ビーライン BeeFiles for HFA(800 シリーズ)
 ヒラサワ テーハー式ウィークリー恒温器
 ヒラタニ 器械展開台
 フリップス 経食道用食道ニフレーション型トランスデューサー
 フジレスピロニクス 簡易睡眠検査装置 スターダストII
 フラットパネル デジタルラジオグラフィ AeroDR 一式
 フラットパネル 画像ワークステーション 一式
 フラットパネル 大林製長尺用撮影台
 フラットパネル 島津製立位撮影台
 フリーズ NF-75HC (冷凍庫)
 ベッドサイドモニタ BSM-3562-Q21 一式 (BIS モニタ付)
 ベッドサイドモニタ PVM-4763-Q20 他
 ホルタ心電図解析システム
 マットフラットフォーム充電式電動昇降
 マルチカラーキャンレーザー光凝固装置 MC-500Vixi
 ミズホ マイクロサージャリー手術台
 ミズホ 分離式電動手術台 整形用
 メディカル HD レコーダー HVO-550MD/SUR
 メディカルビデオレコーダー UR-4MD
 マク遠心血液ポンプシステム (拡張ユニット付) 一式
 メラ高頻度ジェットベンチレーター
 ユヤマ 注射薬自動払出機
 ライカ 滑走式マイクロトーム
 リアルタイム PCR システム QuantStudio5
 リトクラスト 2
 リューザブルエンドスコープショート
 レスピロニクス 終夜睡眠ポリグラフィ検査装置
 レッグ CPM L4KD-100
 レビテーター I-LHPAMUR 623-003-01 他一式
 安全キャベネット BHG-T701 II A2-G
 移動型手術台 MEERA
 医用テレメータ WEP-1450 他一式
 一酸化窒素ガス分析装置ナイオックス NIOX VERO
 陰圧式エアテント NP-45
 回診用 X 線撮影装置 MobileArt Evolution
 回診用 X 線撮影装置 MobileArt Evolution MX7 version
 回診用 X 線撮影装置 MobileArt Lumina
 外科用 X 線テレビシステム OPESCOPE ACTENO
 核医学ワークステーション
 医用テレメータ (8 人用) WEP-1450 一式
 集細胞遠心装置 サイトスピンドル 4
 連動昇降式平行棒 シンクロレル SP-735S
 ベンチナベンチマーク GX
 ハイエンドクリニカルフローサイトメーター NAVIOS EX 2 レザー 6 カラー
 Synergy RF コンソール 一式
 全自動錠剤分包機
 心電計 ECG-2450
 自動遺伝子装置 TRCReady-80 一式
 平山製作所 新高圧滅菌器
 自動染色装置 AUTOSTAINER XL
 メディサムIII (高・低体温維持装置)
 センテック デジタルモニターシステム
 血圧脈波検査装置 FORM-5
 タブレット超音波診断装置 Lumify10.1 インチ LA3-SL
 電動昇降リフト式体重計 AD-6082
 ヘッドライトシステム (呼吸器外科)
 超音波診断装置 Aplio a Verfia
 東機質 サーティファイアー FA テストシステム
 散薬監査システム
 電気マス maXium (マキシム)
 体成分分析装置 InBody
 エルマン サージトロン EMC (フットスイッチ付) 付属品除く
 フリップス 自動体外式徐細動器 ハートスタート
 陰圧排気 / 空気清浄機ユニット
 腎盂鏡 内視鏡スコープ 20°
 レビテーター (両支脚器) 2 個入
 Pillicam レコーダー DR3 パック
 個人用多用途透析装置 TYPE E 他 一式
 睡眠評価装置 ソムノスクリーン BT-plus
 ジンマー パワープロエアオーシレーター
 薬用冷蔵ショーケース MPR-S300H - PJ
 HEPA フィルター付パーテーション (除染除去タイプ)
 誘発電位検査装置 Neuropack S3
 C-MAC (気管支鏡)
 IDEAL EYES スコープ AC4cm 30° スピンドロック
 ドレーゲル 人工呼吸器 Savina300 一式
 メドトロニック XPS マイクロシステム
 ハイロストレッチャー KK-728
 マク改良モース開胸器 0452008500
 グライトスコープビデオ咽喉頭鏡システム
 デファイブリータ (除細動器) TEC-5631
 陰圧ブース CL-905 他 一式
 膀胱用音波画像診断装置 ブラッドガーキャン BVI6100
 人工呼吸器 Infinity EvitaV500
 ジンマー ATS2000 タニケットシステム
 一包化錠剤仕分け装置
 ケイセイ メッシュダマーマートーム (形成外科)
 病院版ピッキングロボットシステム

角膜形状屈折力解析装置 OPD-Scan III (中古品)	包埋ブロック作製装置 HistCore Arcadia
患者監視装置 WEP-5208	日本光電 解析機能付心電計
感染症検査業務支援システム SMILE Honest	ガンプロ 個人用逆浸透精製水システム
感染対策空気清浄ユニット NRC-601D	タンゴ M2 ECG ボード付システム
感染防止機能付 クリオスタット	体外式ペースメーカー
眼科用 ヲグレスター手術装置 YC-1800	抗がん薬調製支援システム
眼科用手術台メプロ 4J	薬用保冷庫 FMS-650L
眼科用冷凍手術システム	ベッドサイドモニタ
眼底カメラ接続取込端末一式	細隙灯 ホータブルスリットランプ
眼底観察システム Resight700	超音波診断装置 Affiniti70
気管支ビデオスコープ BF-Q290	生体情報モニタ Vital Sensor S
起立台 フィルテブル SPR-1000C	ハイスピードドリル プリマド 2 一式
吸収補正用 CT 付き 核医学診断撮影装置 (RI)	ジンマー M パワー 2 スターナムソートハンドピース一式
血液ガス分析装置 ヲットポイント 500e	骨塩量測定装置ダイクロマスキャン Dichroma Scan
顕微鏡 BX43-33	電動マイクロドリルシステム
個人用多用途透析装置 TYPE AWF	超低温フリーザー MDF-DC200V - PJ
光学視管 12° Φ 4mm	ヘモクロン レスポンス (血液凝固計)
光学式眼軸長測定装置	加温加湿フロージェネレーター Airvo2 一式
光干渉断層計 RS-3000	ヒストコアール (自動固定包埋装置)
骨手術器械 システム 8 パワーシステム 一式	全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルス L2400
山田医療照明 スカイルックス ゼニス A 型	CPM ユニット レッグ用
山田医療照明 スペースラブリブラTVカメラシステム	ビジュランスヘモグロビンモニター (心拍出量測定装置)
治療台 トリートメントベッド 5 セクション 油圧	ストレートショット M4 ハンドピース
治療用電気手術器 Valleylab FT10	テスフルラン用気化器 Drager D-Vapor-desflurane
耳鼻咽喉科ファイバースコープ ENF-GP2	運動負荷血圧計 TangoM2
自動遺伝子装置 TRCReady-80 一式	注射薬自動払出装置
自動血球洗浄遠心機 MC450	心電計 ECG-2450
自動浸透圧測定装置オスモステーション	ドレーゲル 人工呼吸器 Savina300 一式

10. 年 表 (沿革)

- 昭和15年 6月 8日 療養所起工式並びに地鎮祭
- 昭和16年11月 2日 日本赤十字社大阪支部病院分院「阿武野勝景園」竣工
- 昭和17年 5月20日 「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として軍患者を收容。
- 昭和18年 1月 1日 日本赤十字社支部病院管理規則により「大阪赤十字病院阿武野分院」に改称。
- 昭和20年 6月 6日 「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍属となる。
11月30日 軍病院を解除。
12月 1日 大阪赤十字病院分院阿武野勝景園として一般診療開始。
- 昭和22年 9月 1日 分院より昇格(独立)大阪阿武野赤十字病院と称す。
- 昭和23年 6月 9日 大阪阿武山赤十字病院と改称。
- 昭和26年11月 1日 完全看護制度実施。
- 昭和27年 5月 6日 医療社会事業部を新設。
10月15日 勝景園神社を阿武山神社と改称。
11月20日 中央材料室開設。
- 昭和34年 4月10日 病院機関紙として「阿武山ニュース」(現:日赤たかつき)創刊号発行。
11月 5日 手術棟(鉄筋コンクリート平屋建)竣工。
- 昭和35年 1月18日 北朝鮮帰還列車添乗派遣を開始。
- 昭和44年12月 5日 病院第一次増改築工事竣工式。
- 昭和45年 1月 1日 高槻赤十字病院と改称。
2月 2日 新館開設、一般外来及び入院診療開始。
(一般99床、結核559床)
- 昭和45年 9月 1日 大阪府労災指定病院に承認。
11月 3日 大阪府救急指定病院に指定。
- 昭和47年 2月 1日 一般病棟(新館)「特類看護」の承認。
- 昭和49年12月 3日 看護婦寄宿舎(鉄筋コンクリート4階建)竣工式。
- 昭和52年 7月 1日 耳鼻咽喉科の診療開始、総合病院となる。
10月31日 病院第二次増改築工事竣工式。医療法による許可病床を421床とする。(一般224床、結核197床)
12月 1日 理学診療科部(現:リハビリテーション科部)新設。
- 昭和54年 1月 放射線科部にRI検査を新設。
- 昭和55年 4月16日 1病棟開設、定床37床。医療法による許可病床458床。
(一般261床、結核197床)
4月16日 全身用東芝CT-60A型スキャナー導入。
- 昭和58年 8月17日 障害等級2・3級の小児転地療養事業(健康回復キャンプ)実施。
- 昭和61年 2月24日 8病棟(結核病棟)を閉鎖、一般科病棟に転換、実働病床375床(一般310床、結核65床)。

昭和62年 5月11日 上の池（溜池）を埋立て、駐車場用地とする。

昭和63年 4月 1日 理学診療科（現：リハビリテーション科）に作業療法室を開設。

平成 3年11月 5日 創立50周年記念祝賀会開催。

平成 4年10月 1日 麻酔科部の設置

12月18日 外来増改築工事完成。

平成 5年 9月 1日 総合リハビリテーション承認施設。

平成 6年10月21日 許可病床数、519床より511床へ変更。

平成 7年 1月17日 兵庫県南部地震（阪神・淡路大地震）による被災者救護活動開始。

8月 1日 高槻赤十字訪問看護ステーション開所式。

平成 8年 9月 2日 「MRI棟」増改築工事完成。病院構造設備使用許可。

平成 9年 3月31日 結核病棟廃止。（一般病床446床、結核0床）

平成10年10月 1日 開放型病院の指定。（12床）
（平成11年6月～ 40床、平成13年10月～ 49床）

11月26日 剖検慰霊祭を以後毎年実施。

平成11年 4月 1日 厚生省臨床研修病院の指定。

8月31日 指定居宅介護支援事業者となる。

平成12年 1月 1日 院外処方箋の実施。

8月21日 アレルギー科の診療を開始する。

10月 1日 病診連携係（現：地域医療連携課）設置。

平成13年 3月 1日 産婦人科病棟全面改修。

4月 1日 脳神経外科開設。

7月 9日 7病棟全面改修。48床（血液内科、透析、外科、化学療法）運用開始。

平成14年 5月 7日 緩和ケア病棟開設。（全室20床）

10月 1日 業務委託による診療材料の定数管理（SPD）実施。

10月15日 駐車ゲートシステム導入、外来患者以外の駐車有料化実施。

12月 9日 地域がん診療拠点病院の指定を得る。

平成15年 1月 業務委託による検査室共同運営（FMS）実施。

7月 1日 一般病棟1群入院基本料1許可。（2対1看護）

平成16年 2月16日 病院機能評価 Ver.3.1（一般病院種別B）認定。

4月 1日 形成外科、呼吸器外科の開設。（アレルギー科の廃止）

12月 7日 4・5・6・8・9病棟の改修終了
MRI装置入れ替え実施。

平成17年 1月 1日 診療情報管理課設置
事務部総務課に医療安全係設置。

1月 4日 亜急性期病床開設（20床）

3月 1日 救急部設置。

10月27日 NST運用開始。

11月 1日 電子カルテ稼動。

- 平成18年 3月27日 新手術棟完成 竣工式。
(1階外科外来・生理検査部門/2階手術室・中央材料室)
- 平成18年 6月 1日 ガスコージェネレーションシステム運用開始
- 平成18年 7月 1日 「医療安全推進室」設置、「癌統合治療科部」設置。
「第一内科」を「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」と「緩和ケア科部」に分科。「第二内科部」を「血液・腫瘍内科部」に名称変更、「第一外科部」を「消化器外科部」に名称変更、「第二外科部」を「乳腺外科部」に名称変更。
- 平成18年10月 全手術部門及び外来改造工事、病院建物(本館・別館)の耐震工事、並びに3病棟改修工事完了。
- 平成18年10月20日 マルチスライスCT 64列の導入。
- 平成18年11月16日 第42回日本赤十字社医学会総会主催(於国立京都国際会館)。
- 平成18年12月16日 日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価」認定。
- 平成19年 1月 4日 院内保育所高槻日赤保育園『すくすく』開園。
- 平成19年 2月 1日 がん相談支援センター室設置。
病児保育室を委託開設。
- 平成19年 4月 1日 「医療技術部」を新設(臨床工学技術課、栄養課を設置)。
医療社会事業部地域医療連携課内に「がん相談支援センター室係」を新設。
- 平成19年 7月 1日 教育研修推進室設置。
- 平成19年10月 1日 ICU(院内基準)開設。
- 平成20年 2月 1日 一般病棟7対1入院基本料施設基準届出受理。
- 平成20年 2月 8日 地域がん診療連携拠点病院の指定更新。
- 平成20年 6月 1日 週休二日制実施。
- 平成20年 7月 1日 DPC対象病院として請求開始。
放射線画像等フィルムレス運用開始。
- 平成21年 2月16日 病院機能評価 Ver.5.0 認定
- 平成21年 8月15日 兵庫県佐用町の台風9号水害による被災者救援活動のため、医療救護班を派遣。
- 平成22年 3月15日 X線アンギオ装置(血管造影装置)の入れ替え実施。
- 平成22年 3月 災害救護倉庫の整備。
- 平成22年 4月 1日 事務部医療安全課設置。
- 平成22年 6月 エコロジーガーデン設置。
- 平成22年10月 患者・家族向け図書コーナー設置。
- 平成22年10月 1日 放射線治療システム「リニアック」導入完了・治療開始。
- 平成23年 3月15日 東日本大震災により、宮城県庁前・岩手県山田町へ医療救護班を派遣(3/15～5/26)。
- 平成23年 3月30日 震災により石巻赤十字病院支援派遣(3/30～4/4・5/9～5/14)。

平成23年	4月	1日	神経内科開設。
平成23年	11月	25日	地域医療支援病院に承認される。
平成24年	2月	1日	消化器内視鏡センター開設。
平成24年	8月	1日	緩和ケア診療科開設。
平成24年	12月	1日	医療社会事業部地域連携推進課設置。
平成25年	4月	1日	事務部研修課設置。
平成26年	3月	7日	機能種別版日評価項目3rdG: Ver.1.0 認定。
平成26年	7月		患者支援センター開設。
平成26年	9月		病理診断科標榜。
平成28年	3月		消化器外科標榜。
平成29年	9月	1日	病院～JR摂津富田駅間でシャトルバス運行開始。
平成30年	1月		糖尿病・内分泌内科、血液内科標榜。
平成30年	4月		事務部人事課設置。
平成30年	6月		シャトルバスの運行をJR総持寺駅へ拡大。
平成30年	12月		無菌治療室を9床増設（合計12床）。
平成31年	4月		電子カルテシステムの更新
令和元年	5月		病棟の再編成実施。2病棟を8病棟に移動し、レディース病棟として運用。
令和元年	11月		乳腺外科、美容皮膚科標榜。
令和元年	2月		駐車場リニューアル。（駐車スペース増加、一般駐車場全面舗装）
令和2年	2月		新型コロナウイルス感染症帰国者・接触者外来設置
令和2年	3月		新型コロナウイルス感染症入院受け入れ開始
令和2年	4月		新型コロナウイルス感染症「重点医療機関」に指定及び発熱外来設置 病床管理室設置
令和2年	8月		新型コロナウイルス感染症PCR検査委託事業を受託開始
令和2年	12月		CT-80列装置の入れ替え実施
令和3年	3月		2病棟、4病棟病床返還。医療法による許可病床335床
令和3年	5月		新型コロナウイルス感染症高槻市民を対象にワクチン接種実施
令和3年	10月		創立80周年記念号発刊
令和4年	2月		3病棟（34床）を休棟し、稼働病床301床へ
令和5年	2月		卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定
令和5年	4月		がん相談支援センターを設置

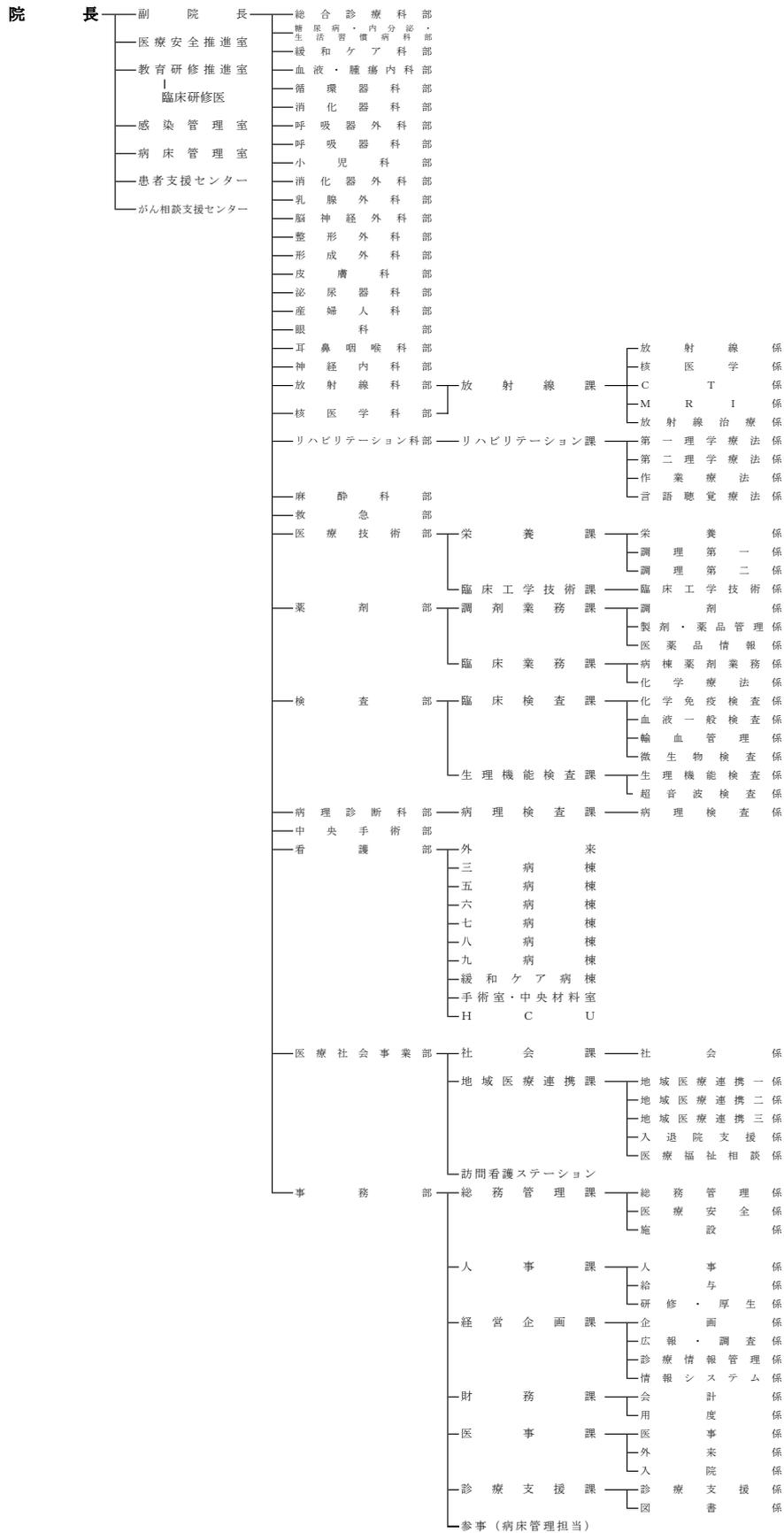
11. 整備医療機器備品

メーカー名	固定資産名	規格型式
平山製作所	高圧蒸気滅菌器 HV-25 II	HV-25 II
富士フィルム	超音波画像診断装置 SonoSite Edge II	L21590
日本光電工業	脳波計 EEG-1260	EEG-1260
日本光電工業	送信機 ZS-630P	ZS-630P
日本光電工業	医用レメータ Wep-1450 他	Wep-1450 他
日本光電工業	OP 室向け ハットサイトモニタ	CU-172R 他
日本医器器械製作所	ハイドロサード対策用クラスIIキャビネット (安全キャビネット) VH-1303BH-2B2	VH-1303BH-2B2
日本フリース(株)	ハイドマルチクーラー	KGT-4010HG
日本アルコ(株)	白内障手術装置 CENTURION Vision System	
日本 BD	BD Elevation ハイドロシステム (ドライバ) EVDRIVER	
日機装	個人用多用途透析装置 TYPE AWF	DBB-200Si
東レ・メディカル	血液浄化装置 AcuFil Multi55X- III	AcuFil Multi55X- III
その他	CUSA Clarity	
酒井医療	ケイトレーニングシステム	BDX-GTM3.1-LHR 他
高研	上部消化管内視鏡トレーニングモデル	LM-103
久保田製作所(株)	【治験】 707型冷却遠心機 S700FR	S700FR
久保田製作所(株)	【治験】 卓上遠心機システム S300T	S300T
(株)京都科学	採血・静注シミュレータ シンジョー-III	MW49 11430-000
(株)京都科学	縫合手技評価シミュレータパソコン付	11230-100
(株)京都科学	CVC 穿刺挿入シミュレータII CVC カハットセット	M93B 11347-510
(株)京都科学	CVC 穿刺挿入シミュレータII 超音波ハット II セット	M93B 11347-500
リオン	オージオメータ	AA-K1A
メトロック	MED フレキシブルアームサボータアセンブリ 9560523	9560523
ヘネティクスジャパン合同会社	自己血回収システム セルセーバー エリートプラス	3900454400
フクダ電子(株)	心臓リハビリシステム	RH - 1000 他
ハナソニックヘルスケア(株)	CO2 インキュベーター	MCO-170AIC-PJ
ハナソニックヘルスケア(株)	血液保冷庫 MBR-107T4-PJ	MBR-107T4-PJ
ニデック	自動視力計 NV-350	NV-350
ドレーゲル	ドレーゲル 人工呼吸器 Evita V600	Evita V600
ドレーゲル	全身麻酔装置 Atlan A300	
テルモ	テルモ シンジホソフ 5 台	TE-362PCA
テルモ	テルモ シンジホソフ	TE-362PCA
テクノメディカ	中央採血室患者呼出システム BC・ROBO - 8001RFID 他	BC・ROBO - 8001RFID 他
チェスト	総合肺機能検査システム	CHESTAC-8900 α D型他
タカラヘルモント	タカラヘルモント 診察台	EX-C2
タカラヘルモント	デジタルコロポスコプ	DG-QC-1 他
タカギセイコウ	タカギ LCD 視力検査装置 VC-60	VC-60
ストライカー	IDEAL EYES スコープ AC4cm 30° スピートロック	0502-104-030
ストライカー	DEAL EYES スコープ AC4MM70°	0502-104-070
ストライカー	DEAL EYES スコープ AC4MM30°	0502-104-030
コアデザイン	VLFT10 エネルギープラットフォーム	
ケティンゲ・シヤハン(株)	大動脈内バルーンポンプシステム IABP CARDIOSAVE Hybrid,3.1 Edition	
サニタリシステム(株) (旧東芝システム)	超音波診断装置 Aplio a Verifia	
サニタリシステム(株) (旧東芝システム)	超音波診断装置付属品 Smart Fusion キット	
サニタリシステム(株) (旧東芝システム)	超音波診断装置 Aplio a Verifia	
オリンパス	オリンパス エアウェイマネジメントモジュールスコープ MAF-TM2	MAF-TM2
ウルフ	ウルフ ネフロスコープ 20° 鉗子孔 10.5Fr	94-609 8965.411
ウルフ	硬性尿管鏡 ウレテロノスコープ	8702.534RU 94-479 他
アムコ	汎用冷凍手術ユニット ERBECRYO2	
アムコ	VIO3 5 ソケットケーブル (超音波切開装置)	E12-5000
アムコ	アムコ 高周波手術装置 VIO50C	VIO50C
アマノ(株)	アマノ ハットバス fino SP110	
アルイメーICAL	近大式中心フリッカー値測定器 III 型	CFF-3000
J & J	ステラットヒートシーラー 1000	ASP 19590
GEヘルスケア・ジャパン(株)	X線骨密度測定装置 PRODIGY Fuga C Lite	
Arthrex	Synergy RF	AR-9800 他
Arthrex	Synergy コンテインアスウェーブ 4 関節鏡ホソフ	AR-6485 他
Arthrex	Synergy Resection シェーバー	AR-8305 他

Ⅲ 組織及び職員

1. 高槻赤十字病院組織図

2023. 10. 1



2. 幹部職員

(令和5年度末現在)

院		長	玉田	尚	
副	院	長	神田	直樹	
副	院	長	小林	稔弘	
事	務	部	松田	好正	
看	護	部	岸	恵美	
総	合	診療科	大中	玄彦	
糖	尿	病・内分泌・生活習慣病科	大中	玄彦	
緩	和	ケア科	橋本	典夫	
血	液	腫瘍内科	玉田	尚	
循	環	器科	木澤	隼	
消	化	器科	神田	直樹	
呼	吸	器外科	小林	稔弘	
呼	吸	器科	北	英夫	
小	児	科	河上	千尋	
消	化	器外科	恒松	一郎	
乳	腺	外科	小林	稔弘	
脳	神	経外科	小林	稔弘	
整	形	外科	徳山	文人	
形	成	外科	小林	稔弘	
皮	膚	科	玉田	尚	
泌	尿	器科	六車	光英	
産	婦	人科	中村	路彦	
眼	科		小林	稔弘	
耳	鼻	咽喉科	玉田	尚	
神	経	内科	中川	朋一	
放	射	線科	後藤	公男	
核	医	学	山室	正樹	
リ	ハ	ピリテーション科	大中	玄彦	
麻	酔	科	宇田	るみ子	
麻	酔	科・手術	澤井	俊幸	
救	急		中村	保清	
医	療	技	術	部	長
薬	剤		玉田	尚	
検	査		小島	一晃	
病	理	診	断	科	部
中	央	手	術	部	長
看	護	副		部	長
看	護	副		部	長
医	療	社	会	事	業
社	会	課		長	(兼)
地	域	医	療	連	携
事	務	部	付	参	事
総	務	管	理	課	長
人	事	課		長	
経	営	企	画	課	長
財	務	課		長	
医	事	課		長	
診	療	支	援	課	長
			上	成	弥生

3. 職員現況表

会計決算書より（令和6年3月31日現在）

区分	① 病院																	
	医師	薬剤師	放射線技師	検査技師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床工学技師	視能訓練士	栄養管理栄養士	助産師	看護師	准看護師	看護助手	医療技術補助者	事務職員	その他職員	小計
常勤	65.0	19.0	16.0	18.0	12.0	3.0	2.0	7.0	1.0	4.0	4.0	223.0	0.0	18.0	1.0	50.0	10.0	453.0
非常勤	8.6	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	1.1	20.8	0.0	3.9	0.0	3.0	5.8	45.5
計	73.6	19.0	16.0	19.7	12.0	3.0	2.0	7.0	1.6	4.0	5.1	243.8	0.0	21.9	1.0	53.0	15.8	498.5

② 病院（医療社会事業）					
区分	看護師	管理栄養士	事務職員	医療社会事業司	小計
常勤	2.0	0.0	10.0	5.0	17.0
非常勤	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	2.0	0.0	10.0	5.0	17.0

③ 訪問看護ステーション				
区分	事務職員	看護師	理学療法士	小計
常勤	0.0	7.0	1.0	8.0
非常勤	0.7	1.4	0.0	2.1
計	0.7	8.4	1.0	10.1

総合計	
区分	① + ② + ③
常勤	478.0
非常勤	47.6
計	525.6

4. 職種別・年齢別・職員構成表

（令和6年3月31日現在）

		30才未満	30才～ 40才未満	40才～ 50才未満	50才～ 55才未満	55才～ 60才未満	60才～ 62才未満	62才～ 65才未満	65才以上	計
一般職(一)	男	1	2	11	5	1	3	3	1	27
	女	4	8	14	11	3	1	1	1	43
一般職(二)	男	0	0	2	3	0	1	0	1	7
	女	1	0	6	10	9	3	3	2	34
医療職(一)	男	6	12	10	7	4	3	2	4	48
	女	4	8	4	1	0	0	1	1	19
医療職(二)	男	2	19	16	6	2	1	0	0	46
	女	6	17	10	4	3	0	1	1	42
医療職(三)	男	5	4	5	0	2	1	0	0	17
	女	30	50	80	42	33	7	6	4	252
計	男	14	37	44	21	9	9	5	6	145
	女	45	83	114	68	48	11	12	9	390
										535

5. 会議及び委員会

(令和6年3月31日現在)

◎ 会 議

4 役会議

病院連絡会議

◎ 委 員 会

救急委員会

ハラスメント防止委員会

総合品質管理（TQM）推進委員会

臨床検査適正化委員会

給食委員会

研修管理委員会

輸血療法委員会

広報委員会

がんセンターボード委員会

図書委員会

化学療法委員会

病床再編成検討・検証委員会

病院機能評価受審委員会

保険委員会

認知症ケアサポート委員会

地域医療支援病院運営委員会

ICT 委員会

病床管理運営委員会

医療事故院内検証委員会

医療ガス安全管理委員会

医の倫理委員会

臨床倫理委員会

情報システム管理委員会

手術室運営委員会

クリニカルパス委員会

購買委員会

HCU 運営委員会

教育・研修推進委員会

医療放射線管理委員会

NST 委員会

研修運営委員会

労働安全衛生委員会

訪問看護ステーション運営委員会

院内感染防止対策委員会

がん診療関連機能充実委員会

業務改善委員会

DPC・診療記録管理委員会

新病院新築移転構想検討委員会

血液浄化療法委員会

患者サービス向上委員会

治験審査委員会

患者支援センター運営委員会

AST 委員会

医療安全管理委員会

医事紛争処理委員会

個人情報保護委員会

防火防災・災害対策委員会

薬事委員会

褥瘡委員会

放射線安全委員会

SPD・診療材料購入審査委員会

IV 統計

1 令和5年度実績表

	入			院			外			来			合 計
	患者延数	1日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	患者延数	1日平均	通院日数	診療稼働額	診療単価	診療稼働額	診療単価	
内科	466	1.3	3.1	7,271,764	15,604.6	3,093	12.7	1.7	81,780,252	26,440.4	89,052,016		
糖・内・代	2	0.0	2.0	102,850	51,425.0	4,115	16.9	100.4	54,132,745	13,155.0	54,235,595		
血液内科	9,179	25.1	26.0	894,092,226	97,406.3	5,868	24.1	65.2	713,478,632	121,588.0	1,607,570,858		
腎臓内科	0	0.0		0	0.0	1,689	7.0	281.5	42,477,863	25,149.7	42,477,863		
消化器内科	16,406	44.8	7.4	937,834,299	57,164.1	14,967	61.6	16.4	388,821,980	25,978.6	1,326,656,279		
循環器内科	11,928	32.6	15.7	740,601,248	62,089.3	12,244	50.4	30.4	132,208,820	10,797.8	872,810,068		
脳神経内科	1,650	4.5	21.5	83,919,230	50,860.1	3,243	13.3	26.4	22,923,552	7,068.6	106,842,782		
呼吸器内科	15,358	42.0	14.2	796,277,171	51,847.7	12,631	52.0	19.6	486,929,647	38,550.4	1,283,206,818		
呼吸器外科	1,401	3.8	10.2	162,504,221	115,991.6	2,170	8.9	166.9	37,644,022	17,347.5	200,148,243		
外科	5,049	13.8	9.9	420,439,380	83,271.8	9,264	38.1	30.4	315,295,676	34,034.5	735,735,056		
脳神経外科	0	0.0		0	0.0	500	2.1	15.6	5,487,743	10,975.5	5,487,743		
整形外科	11,517	31.5	16.9	748,199,972	64,964.8	12,276	50.5	14.8	94,653,086	7,710.4	842,853,058		
産婦人科	177	0.5	4.7	17,203,530	97,195.1	2,376	9.8	21.4	17,239,340	7,255.6	34,442,870		
小児科	639	1.7	2.7	60,839,000	95,209.7	2,280	9.4	8.8	17,530,731	7,688.9	78,369,731		
眼科	741	2.0	0.9	99,325,940	134,043.1	7,929	32.6	23.6	95,329,678	12,022.9	194,655,618		
皮膚科	877	2.4	10.3	38,503,755	43,903.9	9,384	38.6	27.8	45,534,307	4,852.3	84,038,062		
形成外科	1,349	3.7	15.3	80,573,302	59,728.2	2,985	12.3	8.2	26,162,545	8,764.7	106,735,847		
耳鼻咽喉科	0	0.0		0	0.0	2,496	10.3	13.8	15,975,503	6,400.4	15,975,503		
リハビリテーション科	0	0.0		0	0.0	3,883	16.0		20,188,836	5,199.3	20,188,836		
泌尿器科	1,792	4.9	5.7	110,658,989	61,751.7	6,646	27.3	24.7	96,079,732	14,456.8	206,738,721		
緩和ケア	4,133	11.3	32.1	258,999,341	62,666.2	160	0.7	3.3	1,565,870	9,786.7	260,565,211		
放射線科	0	0.0		0	0.0	288	1.2	1.3	0	0.0	0		
その他	0	0.0		0	0.0	2,035	8.4	119.7	28,984,160	14,242.8	28,984,160		
合計	82,664	226.5	11.5	5,457,346,218	66,018.4	122,522	506.3	13.5	2,740,424,720	22,366.8	8,197,770,938		

前年度	83,626	229.1	11.5	5,888,527,083	70,415.0	134,238	554.7	13.5	2,704,808,247	20,149.3	8,593,335,330	
増減率	-1.2%	-1.1%	0.0%	-7.3%	-6.2%	-8.7%	-8.7%	0.0%	1.3%	11.0%	-4.6%	

※その他は、救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

2. 入院患者数

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	466	75	39	25	35	41	41	26	22	35	56	33	38
糖・内・代	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液内科	9,179	685	878	886	836	886	653	714	557	747	745	770	822
腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	16,406	1,325	1,435	1,464	1,320	1,326	1,273	1,086	1,077	1,434	1,495	1,559	1,612
循環器内科	11,928	929	868	920	711	881	942	1,077	982	1,252	1,326	1,024	1,016
脳神経内科	1,650	177	206	93	87	151	179	153	69	178	87	151	119
呼吸器内科	15,358	1,515	1,454	1,062	1,299	1,475	1,176	1,269	1,208	1,367	1,322	1,045	1,166
呼吸器外科	1,401	58	94	105	102	112	123	131	119	136	150	124	147
外科	5,049	323	399	386	455	512	477	424	424	436	450	372	391
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	11,517	1,047	1,007	879	851	1,023	933	955	754	1,079	1,116	946	927
産婦人科	177	2	19	15	28	9	8	2	19	16	25	23	11
小児科	639	17	40	61	76	70	71	54	53	58	35	55	49
眼科	741	36	78	64	72	62	67	74	72	51	43	71	51
皮膚科	877	51	60	79	102	70	73	149	78	63	34	45	73
形成外科	1,349	120	133	81	93	110	149	121	154	104	87	131	66
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	1,792	211	123	129	145	148	150	173	144	95	128	149	197
緩和ケア	4,133	353	355	341	309	330	341	345	353	367	322	346	371
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	82,664	6,926	7,188	6,590	6,521	7,206	6,656	6,753	6,085	7,418	7,421	6,844	7,056
1日平均	226.5	230.9	231.9	219.7	210.4	232.5	221.9	217.8	202.8	239.3	239.4	244.4	227.6

前年度	83,626	7,038	7,186	7,060	7,466	7,079	6,325	6,412	6,902	7,088	7,153	6,471	7,446
1日平均	229.1	234.6	231.8	235.3	240.8	228.4	210.8	206.8	230.1	228.6	230.7	231.1	240.2
増減率	-1.2%	-1.6%	0.0%	-6.7%	-12.7%	1.8%	5.2%	5.3%	-11.8%	4.7%	3.7%	5.8%	-5.2%

3. 入院稼働額

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	7,271,764	3,011,750	763,260	180,440	0	0	396,690	1,086,820	120,430	1,712,374	0	0	0
糖・内・代	102,850	102,850	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液内科	894,092,226	72,289,260	85,290,861	92,818,282	85,223,031	80,669,070	59,189,486	69,116,807	56,591,884	70,005,421	75,152,368	69,875,999	77,869,757
腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	937,834,299	75,642,335	81,562,752	81,656,351	80,176,651	79,533,680	69,169,584	63,511,823	68,436,143	79,775,224	84,437,505	86,457,552	87,474,699
循環器内科	740,601,248	54,361,562	60,126,135	55,514,921	45,590,234	58,852,337	63,338,179	65,897,961	62,298,168	83,022,533	74,708,349	59,479,310	57,411,559
脳神経内科	83,919,230	8,160,121	10,856,114	7,690,470	3,985,420	7,746,320	8,184,516	5,627,604	4,570,342	9,385,074	5,026,157	7,236,590	5,450,502
呼吸器内科	796,277,171	73,607,265	73,662,964	55,165,388	72,187,156	82,344,137	65,375,828	68,077,630	65,585,158	68,120,574	65,659,004	53,000,901	53,491,166
呼吸器外科	162,504,221	9,069,426	11,448,310	12,638,150	12,303,954	10,998,690	16,426,610	20,750,536	15,435,940	8,811,420	13,753,369	16,741,174	14,126,642
外科	420,439,380	26,159,112	33,710,639	34,988,313	36,151,421	40,676,284	38,579,020	37,295,291	33,693,647	37,589,095	36,905,349	30,351,524	34,339,685
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	748,199,972	67,879,950	67,424,472	61,653,129	52,436,805	64,978,263	60,131,725	68,828,860	51,137,881	68,990,678	64,585,745	56,695,786	63,456,678
産婦人科	17,203,530	135,370	841,020	1,605,600	2,748,470	958,670	801,360	136,280	1,259,950	1,481,740	3,987,200	2,442,010	805,860
小児科	60,839,000	790,380	2,027,490	2,969,430	3,692,010	7,376,040	4,637,390	6,996,360	6,391,370	7,641,840	6,474,150	7,081,240	4,761,300
眼科	99,325,940	4,643,704	9,486,104	8,686,146	9,016,922	7,373,210	8,390,036	8,918,622	10,166,762	7,189,662	6,298,434	12,579,510	6,576,828
皮膚科	38,503,755	2,115,484	2,560,839	3,240,572	3,953,677	3,778,081	3,730,968	6,838,538	2,822,574	2,666,240	1,343,450	2,129,030	3,324,302
形成外科	80,573,302	5,229,398	7,715,546	4,179,383	5,436,210	6,855,452	11,041,842	10,032,424	7,374,534	5,249,653	7,061,664	7,848,728	2,548,468
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	110,658,989	15,570,132	7,727,694	9,135,266	5,966,102	8,939,098	10,294,468	11,445,390	8,729,996	7,075,214	8,070,508	8,502,702	9,202,419
緩和ケア	258,999,341	20,816,395	24,087,391	21,381,540	20,583,428	20,072,255	25,075,977	22,336,509	19,263,415	21,368,005	19,133,928	21,055,844	23,824,654
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	5,457,346,218	439,584,494	479,291,591	453,503,381	439,451,491	481,151,587	444,763,679	466,897,455	413,878,194	480,084,747	472,597,180	441,477,900	444,664,519
前年度	5,888,527,083	476,812,515	479,679,468	474,809,932	506,340,143	508,073,871	451,036,631	451,008,032	500,416,978	534,771,251	524,518,129	459,873,980	521,186,153
増減率	-7.3%	-7.8%	-0.1%	-4.5%	-13.2%	-5.3%	-1.4%	3.5%	-17.3%	-10.2%	-9.9%	-4.0%	-14.7%

4. 入院単価

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	15,604.6	40,156.7	19,570.8	7,217.6	0.0	0.0	9,675.4	41,800.8	5,474.1	48,925.0	0.0	0.0	0.0
糖・内・代	51,425.0	51,425.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
血液内科	97,406.3	105,531.8	97,142.2	104,761.0	101,941.4	91,048.6	90,642.4	96,802.3	101,601.2	93,715.4	100,875.7	90,748.1	94,732.1
腎臓内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
消化器内科	57,164.1	57,088.6	56,838.2	55,776.2	60,739.9	59,980.2	54,335.9	58,482.3	63,543.3	55,631.3	56,479.9	55,457.1	54,264.7
循環器内科	62,089.3	58,516.2	69,269.7	60,342.3	64,121.3	66,801.7	67,238.0	61,186.6	63,440.1	66,311.9	56,341.1	58,085.3	56,507.4
脳神経内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼吸器内科	51,847.7	48,585.7	50,662.3	51,944.8	55,571.3	55,826.5	55,591.7	53,646.7	54,292.3	49,832.2	49,666.4	50,718.6	45,875.8
呼吸器外科	115,991.6	156,369.4	121,790.5	120,363.3	120,627.0	98,202.6	133,549.7	158,401.0	129,713.8	64,789.9	91,689.1	135,009.5	96,099.6
外科	83,271.8	80,988.0	84,487.8	90,643.3	79,453.7	79,445.9	80,878.4	87,960.6	79,466.1	86,213.5	82,011.9	81,590.1	87,825.3
脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科	64,964.8	64,832.8	66,955.8	70,140.1	61,617.9	63,517.4	64,449.9	72,072.1	67,822.1	63,939.5	57,872.5	59,932.1	68,453.8
産婦人科	97,195.1	67,685.0	44,264.2	107,040.0	98,159.6	106,518.9	100,170.0	68,140.0	66,313.2	92,608.8	159,488.0	106,174.3	73,260.0
小児科	95,209.7	46,492.9	50,687.3	48,679.2	48,579.1	105,372.0	65,315.4	129,562.2	120,591.9	131,755.9	184,975.7	128,749.8	97,169.4
眼科	134,043.1	128,991.8	121,616.7	135,721.0	125,235.0	118,922.7	125,224.4	120,521.9	141,205.0	140,973.8	146,475.2	177,176.2	128,957.4
皮膚科	43,903.9	41,480.1	42,680.7	41,019.9	38,761.5	53,972.6	51,109.2	45,896.2	36,186.8	42,321.3	39,513.2	47,311.8	45,538.4
形成外科	59,728.2	43,578.3	58,011.6	51,597.3	58,453.9	62,322.3	74,106.3	82,912.6	47,886.6	50,477.4	81,168.6	59,914.0	38,613.2
耳鼻咽喉科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リハビリテーション科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	61,751.7	73,792.1	62,826.8	70,816.0	41,145.5	60,399.3	68,629.8	66,158.3	60,625.0	74,475.9	63,050.8	57,065.1	46,712.8
緩和ケア	62,666.2	58,970.0	67,851.8	62,702.5	66,613.0	60,825.0	73,536.6	64,743.5	54,570.6	58,223.4	59,422.1	60,855.0	64,217.4
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	#DIV/0!	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	66,018.4	63,468.7	66,679.4	68,816.9	67,390.2	66,771.0	66,821.5	69,139.3	68,016.1	64,718.9	63,683.8	64,505.8	63,019.3
前年度	71,234.5	68,843.9	66,733.4	72,050.1	77,647.6	70,507.1	67,763.9	66,786.3	82,237.8	72,091.0	70,680.2	67,193.7	73,864.3
増減率	-7.3%	-7.8%	-0.1%	-4.5%	-13.2%	-5.3%	-1.4%	3.5%	-17.3%	-10.2%	-9.9%	-4.0%	-14.7%

5. 外来患者数

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	3,093	102	251	276	296	352	325	249	281	292	174	239	256
糖・内・代	4,115	386	317	364	362	375	329	373	309	350	322	304	324
血液内科	5,868	519	498	503	470	450	466	506	522	468	467	474	525
腎臓内科	1,689	136	137	131	150	145	141	149	159	138	138	126	139
消化器内科	14,967	1,196	1,173	1,361	1,284	1,286	1,166	1,258	1,325	1,289	1,129	1,238	1,262
循環器内科	12,244	1,052	953	1,151	1,017	971	992	1,062	945	1,064	998	957	1,082
脳神経内科	3,243	240	255	267	279	253	281	302	272	299	271	248	276
呼吸器科	12,631	950	1,017	1,123	1,091	1,159	1,085	1,061	979	1,098	1,055	977	1,036
呼吸器外科	2,170	163	185	165	193	208	171	189	203	162	172	189	170
外科	9,264	797	756	809	792	739	716	833	704	814	701	743	860
脳神経外科	500	51	52	46	39	37	38	46	42	49	38	30	32
整形外科	12,276	965	1,013	1,074	1,032	1,103	978	1,019	947	1,092	996	963	1,094
産婦人科	2,376	147	233	207	175	217	186	198	218	206	193	176	220
小児科	2,280	165	182	169	178	179	185	203	187	239	199	192	202
眼科	7,929	651	662	713	682	716	707	654	685	639	611	583	626
皮膚科	9,384	692	732	852	791	852	800	827	729	775	764	737	833
形成外科	2,985	213	238	239	239	247	256	282	279	249	250	243	250
耳鼻咽喉科	2,496	181	194	234	180	188	210	212	221	221	203	231	221
リハビリテーション科	3,883	319	343	380	345	329	329	338	326	314	296	279	285
泌尿器科	6,646	557	498	611	496	577	591	545	608	568	482	530	583
緩和ケア	160	8	5	13	16	13	13	14	16	10	13	23	16
放射線科	288	155	0	0	0	0	0	0	0	0	133	0	0
その他	2,035	153	190	159	177	184	150	169	184	183	173	156	157
合計	122,522	9,798	9,884	10,847	10,284	10,580	10,115	10,489	10,141	10,519	9,778	9,638	10,449
1日平均	504.2	489.9	520.2	493.0	514.2	480.9	505.8	524.5	507.1	526.0	514.6	507.3	475.0

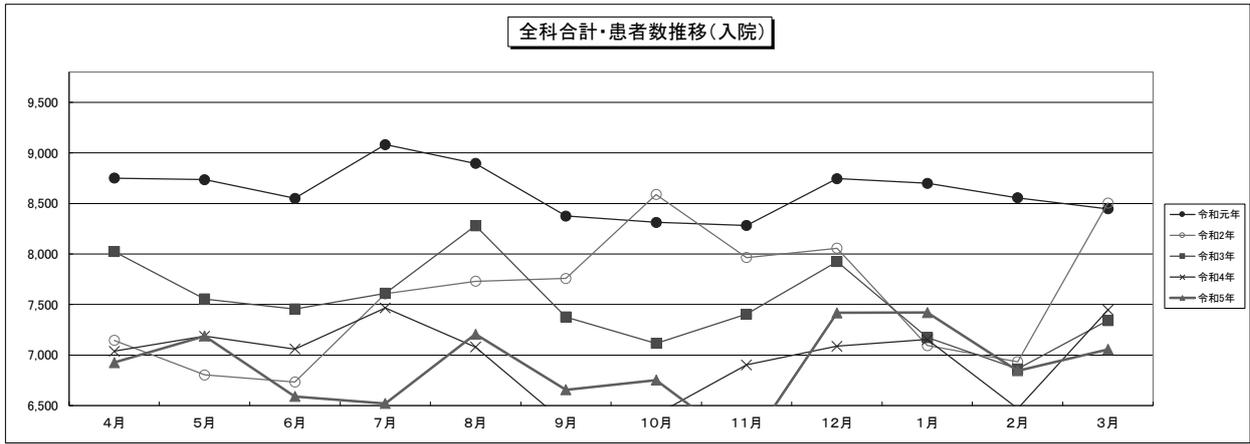
前年度	134,238	11,256	10,787	11,985	11,740	12,155	11,766	10,758	10,800	11,386	10,380	9,819	11,406
1日平均	551.9	543.4	558.9	500.1	548.5	531.7	567.3	533.3	542.1	563.8	586.2	595.4	565.2
増減率	-8.7%	-13.0%	-8.4%	-9.5%	-12.4%	-13.0%	-14.0%	-2.5%	-6.1%	-7.6%	-5.8%	-1.8%	-8.4%

6. 外来稼働額

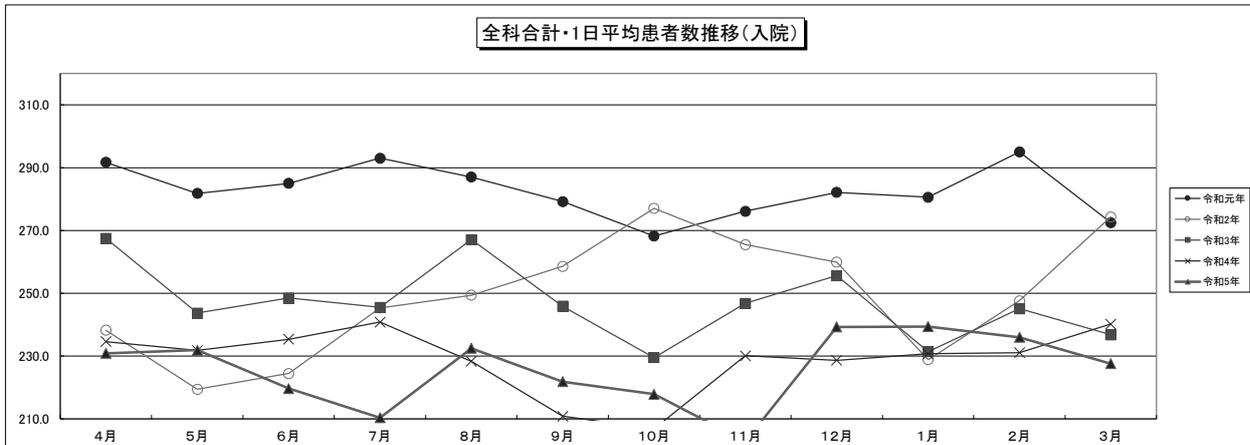
	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	81,780,252	7,028,186	5,834,170	6,831,655	7,735,801	8,650,430	7,236,385	5,633,336	6,321,307	7,393,507	6,717,820	5,992,955	6,404,700
糖・内・代	54,132,745	5,257,070	3,425,980	4,395,426	4,760,247	4,510,697	4,127,120	4,995,560	4,265,120	4,185,665	5,283,890	4,471,700	4,454,270
血液内科	713,478,632	66,144,794	58,904,990	56,651,587	45,462,550	57,159,570	55,560,780	60,778,345	59,141,774	59,519,182	71,141,850	52,145,087	70,868,123
腎臓内科	42,477,863	3,556,558	3,676,360	2,565,440	3,179,000	3,140,430	3,616,540	3,377,720	4,400,205	4,274,720	3,820,950	2,859,160	4,010,780
消化器内科	388,821,980	28,585,730	37,590,473	31,394,635	30,081,953	29,152,874	32,959,088	35,849,265	36,598,892	34,481,410	30,790,413	33,049,736	28,287,511
循環器科	132,208,820	12,140,642	10,525,737	12,031,840	9,736,247	9,486,547	10,033,544	11,067,986	9,836,354	11,805,670	10,988,457	10,433,205	14,122,591
脳神経内科	22,923,552	2,192,629	2,037,068	1,909,434	2,169,800	1,852,165	2,293,490	2,027,305	1,965,989	2,009,966	1,461,080	1,575,500	1,429,126
呼吸器科	486,929,647	38,981,024	42,942,376	45,255,722	41,925,949	40,851,049	40,390,275	40,243,442	38,748,204	40,117,333	41,698,167	39,285,260	36,490,846
呼吸器外科	37,644,022	2,621,188	3,306,200	2,492,160	2,753,347	3,224,840	2,768,310	3,559,790	4,049,387	2,837,570	3,459,780	3,565,320	3,006,130
外科	315,295,676	22,310,707	25,017,668	23,894,405	26,394,311	25,135,228	23,283,975	27,847,918	26,451,270	30,903,565	27,488,130	27,896,940	28,671,559
脳神経外科	5,487,743	611,740	689,074	509,068	366,810	489,890	379,308	483,640	556,170	434,920	327,769	298,304	341,050
整形外科	94,653,086	7,685,151	7,900,023	7,916,048	6,908,661	8,424,035	6,874,130	8,547,267	6,831,182	8,660,909	8,569,126	7,326,303	9,010,251
産婦人科	17,239,340	1,040,420	1,925,184	1,389,776	1,240,660	1,484,768	1,286,370	1,557,990	1,603,470	1,408,140	1,564,752	1,032,410	1,705,400
小児科	17,530,731	1,418,440	1,422,121	1,522,771	1,354,630	1,577,830	1,599,937	1,406,344	1,271,572	1,615,460	1,500,214	1,408,849	1,432,563
眼科	95,329,678	8,019,310	6,254,610	9,919,710	7,520,419	9,096,968	8,709,379	8,317,077	8,177,315	7,041,101	6,351,820	8,160,660	7,761,309
皮膚科	45,534,307	3,912,330	2,383,698	4,453,986	3,307,223	3,535,617	4,489,025	4,305,261	3,102,867	4,437,056	3,430,379	3,116,313	5,060,552
形成外科	26,162,545	1,608,499	1,790,962	2,197,130	1,717,628	2,840,523	2,483,590	2,457,810	2,402,695	1,961,960	1,939,104	2,248,847	2,513,797
耳鼻咽喉科	15,975,503	1,100,380	1,462,210	1,762,490	1,355,650	1,474,730	1,124,104	1,376,040	1,385,151	1,103,400	1,232,960	1,166,008	1,432,380
リハビリテーション科	20,188,836	1,517,006	1,894,469	1,977,271	1,747,307	1,665,413	1,834,698	1,785,509	1,775,365	1,621,901	1,550,572	1,405,481	1,413,844
泌尿器科	96,079,732	8,265,490	6,975,078	10,522,124	6,701,633	8,654,602	7,893,550	7,650,329	8,663,180	7,831,835	7,351,170	7,380,938	8,189,803
緩和ケア	1,565,870	114,270	115,810	115,340	162,180	116,310	149,700	129,850	151,380	120,700	113,020	167,970	109,340
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	28,984,160	2,058,090	2,342,170	2,110,540	2,473,550	2,546,880	2,136,180	2,453,230	2,882,610	2,890,630	2,494,870	2,303,950	2,291,460
合計	2,740,424,720	226,169,654	228,416,431	231,818,558	209,055,556	225,071,396	221,229,478	235,851,014	230,581,459	236,656,600	239,276,293	217,290,896	239,007,385
前年度	2,704,808,247	218,649,093	228,229,381	232,887,043	226,811,853	242,576,332	237,246,169	208,691,854	218,622,715	222,216,482	217,895,553	209,560,793	241,420,979
増減率	1.3%	3.4%	0.1%	-0.5%	-7.8%	-7.2%	-6.8%	13.0%	5.5%	6.5%	9.8%	3.7%	-1.0%

7. 外来単価

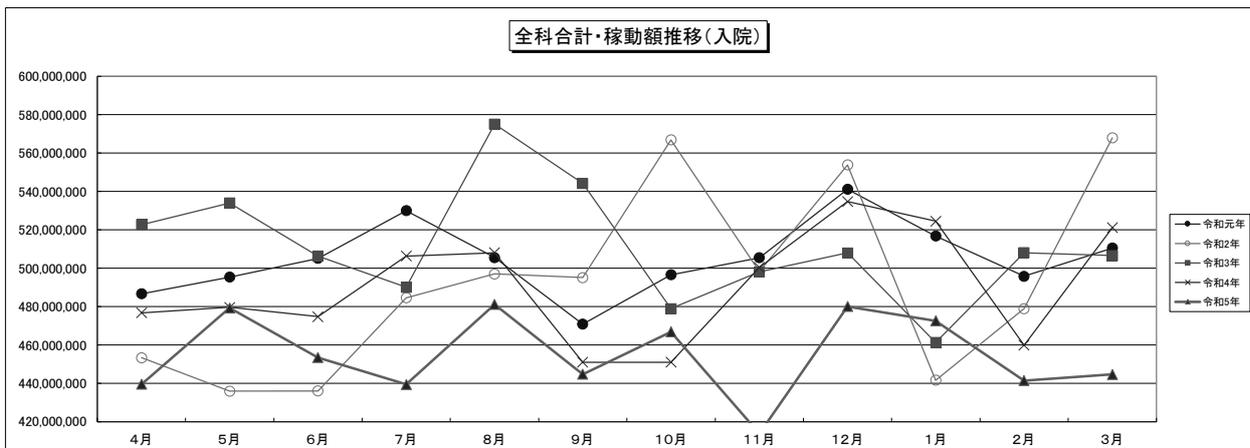
	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	26,440.4	68,903.8	23,243.7	24,752.4	26,134.5	24,575.1	22,265.8	22,623.8	22,495.8	25,320.2	38,608.2	25,075.1	25,018.4
糖・内・代	13,155.0	13,619.4	10,807.5	12,075.3	13,149.9	12,028.5	12,544.4	13,392.9	13,803.0	11,959.0	16,409.6	14,709.5	13,747.7
血液内科	121,588.0	127,446.6	118,283.1	112,627.4	96,728.8	127,021.3	119,229.1	120,115.3	113,298.4	127,177.7	152,338.0	110,010.7	134,986.9
腎臓内科	25,149.7	26,151.2	26,834.7	19,583.5	21,193.3	21,658.1	25,649.2	22,669.3	27,674.2	30,976.2	27,688.0	22,691.7	28,854.5
消化器科	25,978.6	23,901.1	32,046.4	23,067.3	23,428.3	22,669.4	28,266.8	28,497.0	27,621.8	26,750.5	27,272.3	26,696.1	22,414.8
循環器科	10,797.8	11,540.5	11,044.8	10,453.4	9,573.5	9,769.9	10,114.5	10,421.8	10,408.8	11,095.6	11,010.5	10,902.0	13,052.3
脳神経内科	7,068.6	9,136.0	7,988.5	7,151.4	7,777.1	7,320.8	8,161.9	6,712.9	7,227.9	6,722.3	5,391.4	6,352.8	5,178.0
呼吸器科	38,550.4	41,032.7	42,224.6	40,299.0	38,428.9	35,246.8	37,226.1	37,929.7	39,579.4	36,536.7	39,524.3	40,210.1	35,222.8
呼吸器外科	17,347.5	16,080.9	17,871.4	15,104.0	14,266.0	15,504.0	16,188.9	18,834.9	19,947.7	17,515.9	20,115.0	18,864.1	17,683.1
外科	34,034.5	27,993.4	33,092.2	29,535.7	33,326.2	34,012.5	32,519.5	33,430.9	37,572.8	37,965.1	39,212.7	37,546.4	33,339.0
脳神経外科	10,975.5	11,994.9	13,251.4	11,066.7	9,405.4	13,240.3	9,981.8	10,513.9	13,242.1	8,875.9	8,625.5	9,943.5	10,657.8
整形外科	7,710.4	7,963.9	7,798.6	7,370.6	6,694.4	7,637.4	7,028.8	8,387.9	7,213.5	7,931.2	8,603.5	7,607.8	8,236.1
産婦人科	7,255.6	7,077.7	8,262.6	6,713.9	7,089.5	6,842.2	6,916.0	7,868.6	7,355.4	6,835.6	8,107.5	5,866.0	7,751.8
小児科	7,688.9	8,596.6	7,813.9	9,010.5	7,610.3	8,814.7	8,648.3	6,927.8	6,799.9	6,759.2	7,538.8	7,337.8	7,091.9
眼科	12,022.9	12,318.4	9,448.1	13,912.6	11,027.0	12,705.3	12,318.8	12,717.2	11,937.7	11,018.9	10,395.8	13,997.7	12,398.3
皮膚科	4,852.3	5,653.7	3,256.4	5,227.7	4,181.1	4,149.8	5,611.3	5,205.9	4,256.3	5,725.2	4,490.0	4,228.4	6,075.1
形成外科	8,764.7	7,551.6	7,525.1	9,193.0	7,186.7	11,500.1	9,701.5	8,715.6	8,611.8	7,879.4	7,756.4	9,254.5	10,055.2
耳鼻咽喉科	6,400.4	6,079.4	7,537.2	7,532.0	7,531.4	7,844.3	5,352.9	6,490.8	6,267.7	4,992.8	6,073.7	5,047.7	6,481.4
リハビリテーション科	5,199.3	4,755.5	5,523.2	5,203.3	5,064.7	5,062.0	5,576.6	5,282.6	5,445.9	5,165.3	5,238.4	5,037.6	4,960.9
泌尿器科	14,456.8	14,839.3	14,006.2	17,221.2	13,511.4	14,999.3	13,356.3	14,037.3	14,248.7	13,788.4	15,251.4	13,926.3	14,047.7
緩和ケア	9,786.7	14,283.8	23,162.0	8,872.3	10,136.3	8,946.9	11,515.4	9,275.0	9,461.3	12,070.0	8,693.8	7,303.0	6,833.8
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0!	0.0	0.0!	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	14,242.8	13,451.6	12,327.2	13,273.8	13,974.9	13,841.7	14,241.2	14,516.2	15,666.4	15,795.8	14,421.2	14,768.9	14,595.3
合計	22,366.8	23,083.2	23,109.7	21,371.7	20,328.2	21,273.3	21,871.4	22,485.6	22,737.5	22,498.0	24,470.9	22,545.2	22,873.7
前年度	20,547.5	21,578.8	21,536.2	20,224.2	20,268.3	21,626.5	19,899.3	21,256.9	19,802.6	19,194.1	20,700.6	20,380.7	20,199.9
増減率	-1.9%	-10.0%	-1.8%	-3.9%	-4.7%	-7.7%	1.3%	-8.7%	2.2%	1.7%	1.4%	4.7%	4.8%



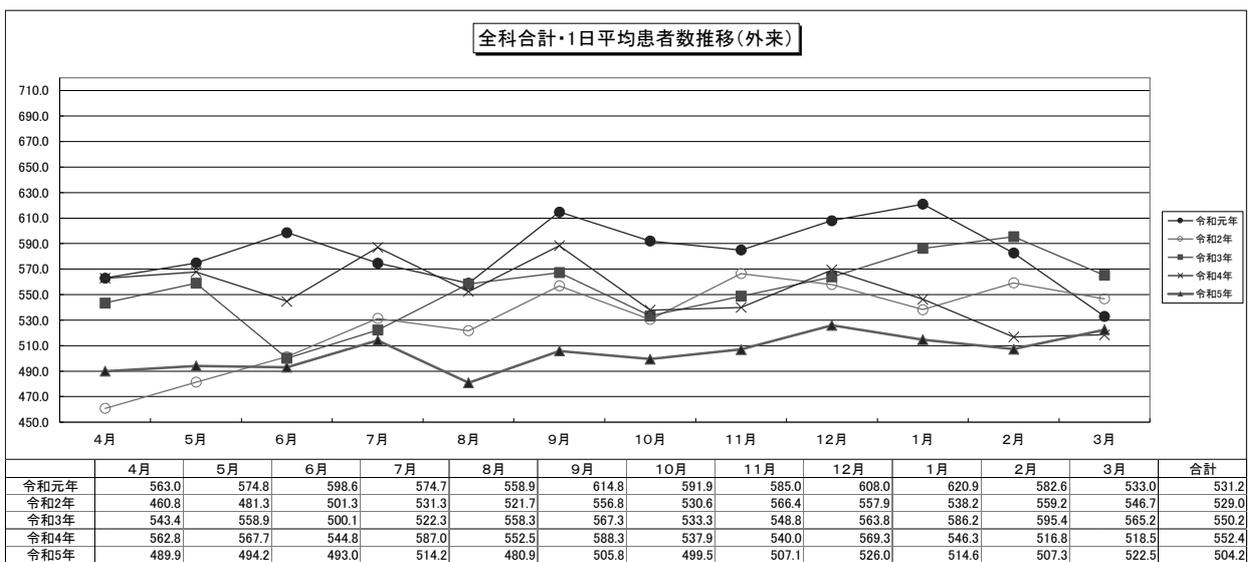
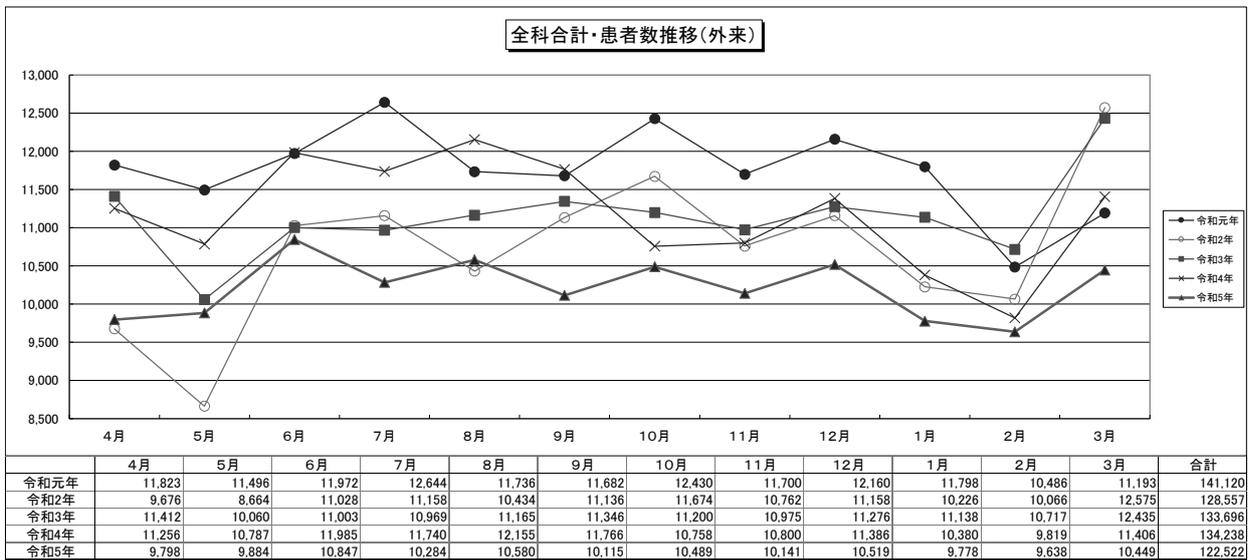
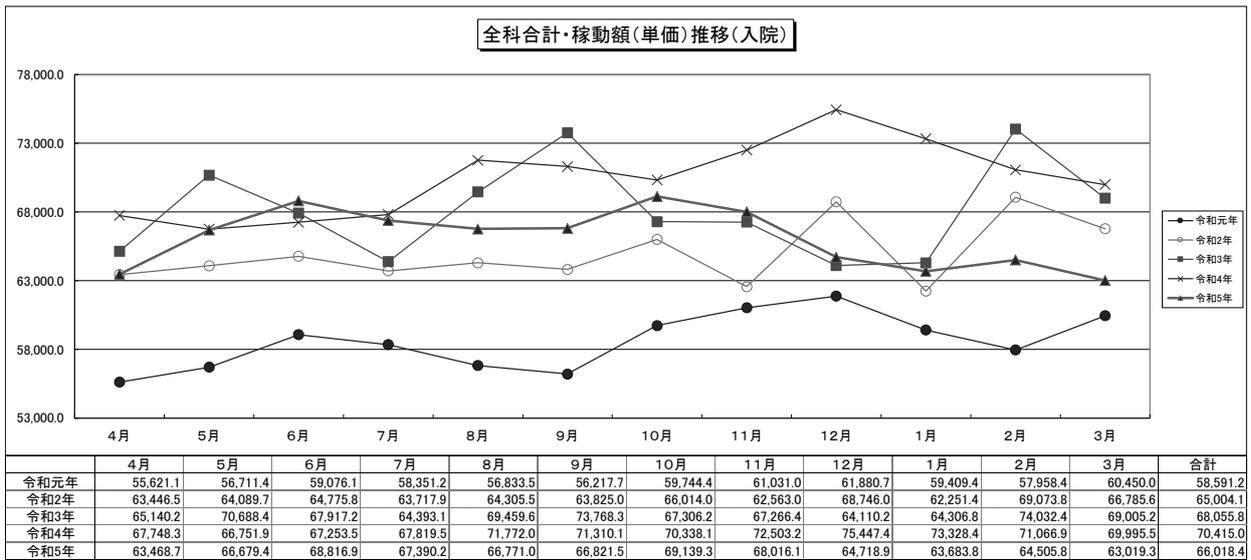
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年	8,750	8,736	8,550	9,083	8,896	8,376	8,313	8,282	8,745	8,699	8,555	8,446	103,431
令和2年	7,146	6,803	6,733	7,606	7,730	7,758	8,588	7,964	8,057	7,094	6,934	8,504	90,917
令和3年	8,024	7,555	7,456	7,611	8,280	7,377	7,116	7,405	7,924	7,174	6,863	7,342	90,127
令和4年	7,038	7,186	7,060	7,466	7,079	6,325	6,412	6,902	7,088	7,153	6,471	7,446	83,626
令和5年	6,926	7,188	6,590	6,521	7,206	6,656	6,753	6,085	7,418	7,421	6,844	7,056	82,664



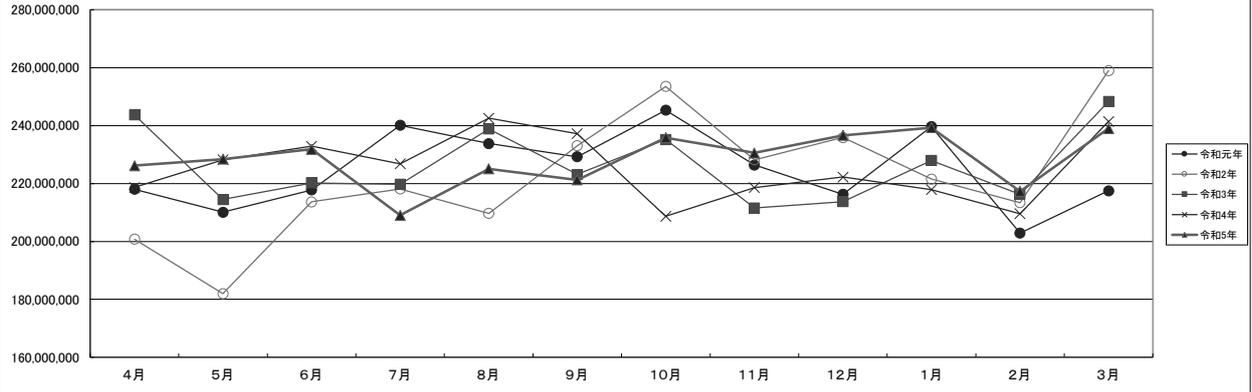
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年	291.7	281.8	285.0	293.0	287.0	279.2	268.2	276.1	282.1	280.6	295.0	272.5	248.4
令和2年	238.2	219.5	224.4	245.4	249.4	258.6	277.0	265.5	259.9	228.8	247.6	274.3	249.1
令和3年	267.5	243.7	248.5	245.5	267.1	245.9	229.5	246.8	255.6	231.4	245.1	236.8	246.9
令和4年	234.6	231.8	235.3	240.8	228.4	210.8	206.8	230.1	228.6	230.7	231.1	240.2	229.1
令和5年	230.9	231.9	219.7	210.4	232.5	221.9	217.8	202.8	239.3	239.4	236.0	227.6	225.9



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年	486,684,253	495,431,131	505,100,519	530,003,716	505,591,035	470,879,101	496,654,922	505,458,889	541,146,542	516,802,487	495,833,905	510,561,069	6,060,147,569
令和2年	453,389,026	436,002,217	436,135,365	484,638,308	497,081,683	495,154,044	566,927,979	498,251,985	553,886,832	441,611,592	478,957,620	567,944,476	5,909,981,127
令和3年	522,685,361	534,050,561	506,390,933	490,095,729	575,125,083	544,189,095	478,950,919	498,107,916	508,009,272	461,336,751	508,084,689	506,636,454	6,133,662,763
令和4年	476,812,515	479,679,468	474,809,932	506,340,143	508,073,871	451,036,631	451,008,032	500,416,978	534,771,251	524,518,129	459,873,980	521,186,153	5,888,527,083
令和5年	439,584,494	479,291,591	453,503,381	439,451,491	481,151,587	444,763,679	466,897,455	413,878,194	480,084,747	472,597,180	441,477,900	444,664,519	5,457,346,218

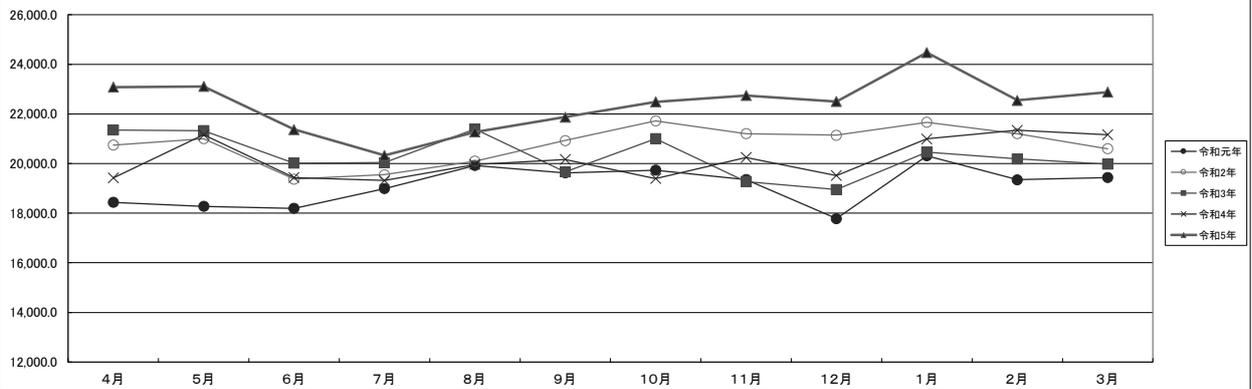


全科合計・稼動額推移(外来)



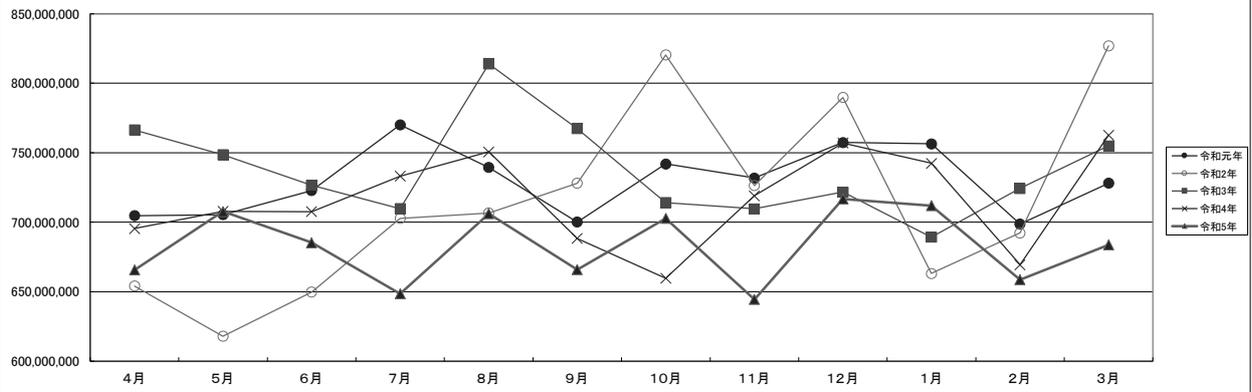
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年	217,977,959	210,094,280	217,766,251	240,096,952	233,803,863	229,232,810	245,304,301	228,390,704	216,254,071	239,615,368	202,878,376	217,492,405	2,696,907,340
令和2年	200,756,365	181,971,273	213,669,831	218,156,641	209,652,213	233,016,052	253,539,034	228,178,152	235,899,760	221,524,025	213,385,721	259,017,632	2,668,766,699
令和3年	243,671,640	214,499,652	220,242,779	219,757,551	238,803,486	223,155,360	235,183,502	211,559,830	213,717,946	227,930,077	216,297,370	248,337,642	2,713,156,835
令和4年	218,649,093	228,229,381	232,887,043	226,811,853	242,576,332	237,246,169	208,691,854	218,622,715	222,216,482	217,895,553	209,560,793	241,420,979	2,704,808,247
令和5年	226,169,654	228,416,431	231,818,558	209,055,556	225,071,396	221,229,478	235,851,014	230,581,459	236,656,600	239,276,293	217,290,896	239,007,385	2,740,424,720

全科合計・稼動額(単価)推移(外来)



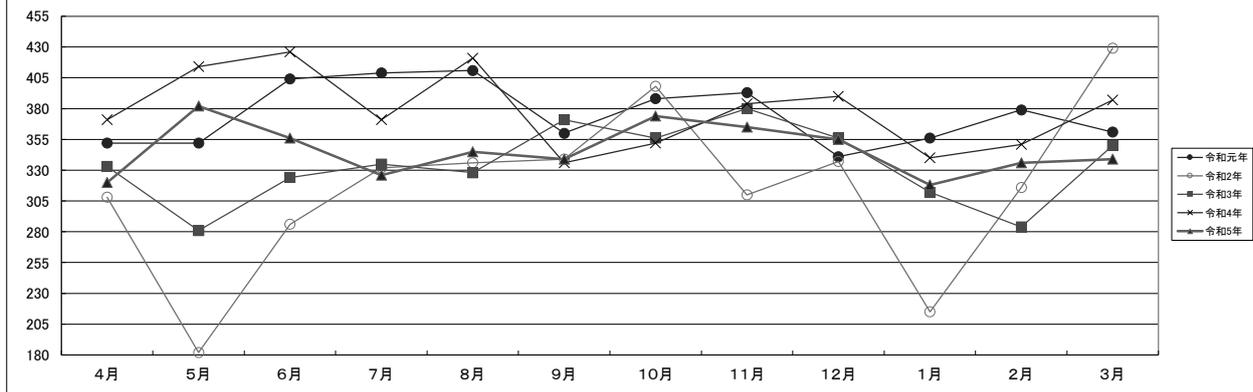
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年	18,436.8	18,275.4	18,189.6	18,989.0	19,921.9	19,622.7	19,734.9	19,349.6	17,784.1	20,309.8	19,347.5	19,431.1	19,110.7
令和2年	20,747.9	21,003.1	19,375.2	19,551.6	20,093.2	20,924.6	21,718.3	21,202.2	21,141.8	21,662.8	21,198.7	20,597.8	20,759.4
令和3年	21,352.2	21,322.0	20,016.6	20,034.4	21,388.6	19,668.2	20,998.5	19,276.5	18,953.3	20,464.2	20,182.6	19,970.9	20,293.5
令和4年	19,425.1	21,157.8	19,431.5	19,319.6	19,956.9	20,163.7	19,398.8	20,242.8	19,516.6	20,991.9	21,342.4	21,166.1	20,149.3
令和5年	23,083.2	23,109.7	21,371.7	20,328.2	21,273.3	21,871.4	22,485.6	22,737.5	22,498.0	24,470.9	22,545.2	22,873.7	22,368.8

全科合計・稼動額推移(入院・外来)



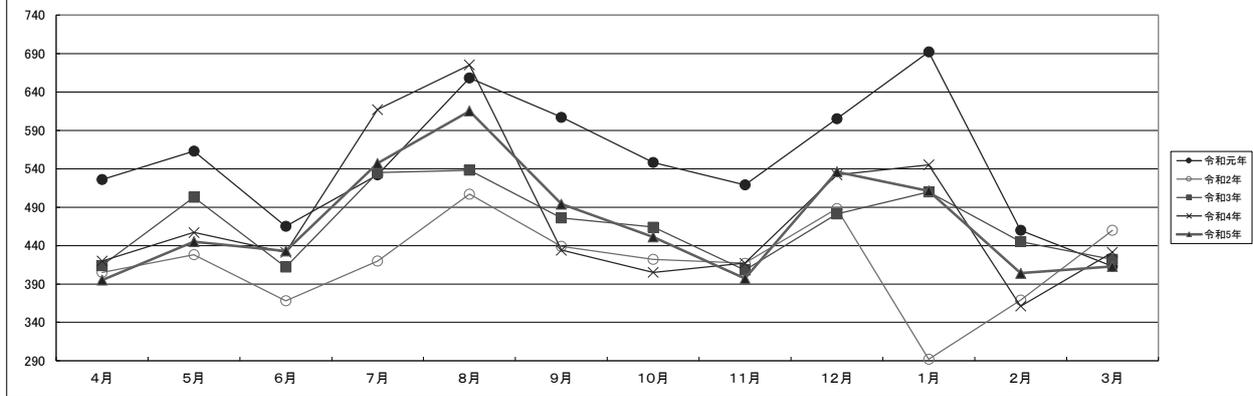
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年	704,662,212	705,525,411	722,866,770	770,100,668	739,394,898	700,111,911	741,959,223	731,849,593	757,400,613	756,417,855	698,712,281	728,053,474	8,757,054,909
令和2年	654,145,391	617,973,490	649,805,196	702,794,949	706,733,896	728,170,096	820,467,013	726,430,137	789,786,592	663,135,617	692,343,341	826,962,108	8,578,747,826
令和3年	766,357,001	748,550,213	726,633,712	709,853,280	813,928,569	767,344,455	714,134,421	709,667,746	721,727,218	689,266,828	724,382,059	754,974,096	8,846,819,598
令和4年	695,461,608	707,908,849	707,696,975	733,151,996	750,650,203	688,282,800	659,699,886	719,039,693	756,987,733	742,413,682	669,434,773	762,607,132	8,593,335,330
令和5年	665,754,148	707,708,022	685,321,939	648,507,047	706,222,983	665,993,157	702,748,469	644,459,653	716,741,347	711,873,473	658,768,796	683,671,904	8,197,770,938

全科合計・手術件数推移



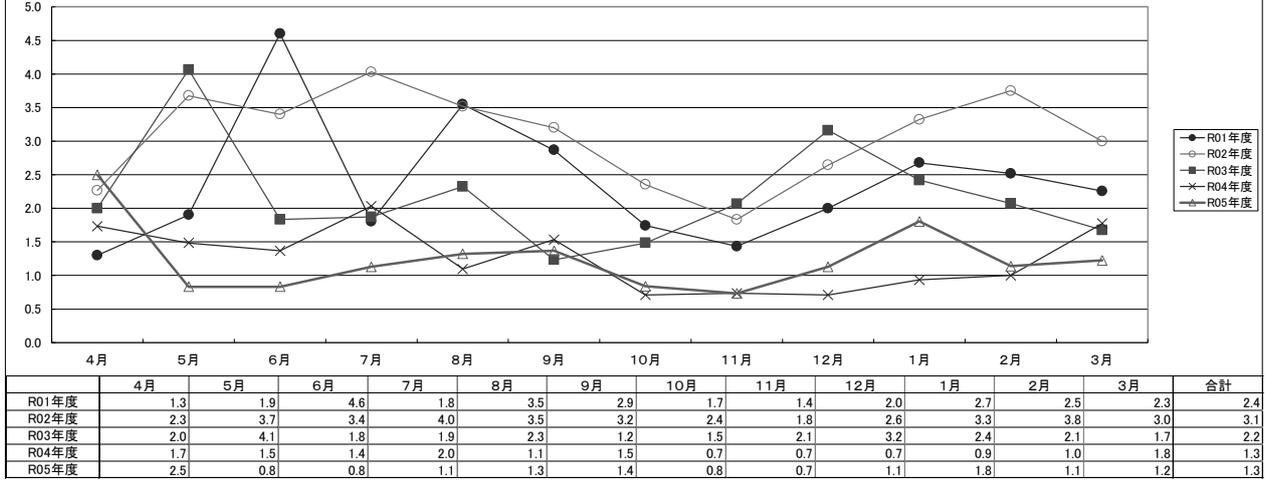
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年	352	352	404	409	411	360	388	393	341	356	379	361	4,506
令和2年	308	182	286	332	336	339	398	310	337	215	316	429	3,788
令和3年	333	281	324	335	328	371	356	380	356	312	284	350	4,010
令和4年	371	414	426	371	421	336	352	384	390	340	351	387	4,543
令和5年	320	382	356	326	345	339	374	365	355	318	336	339	4,155

全科合計・救急外来推移

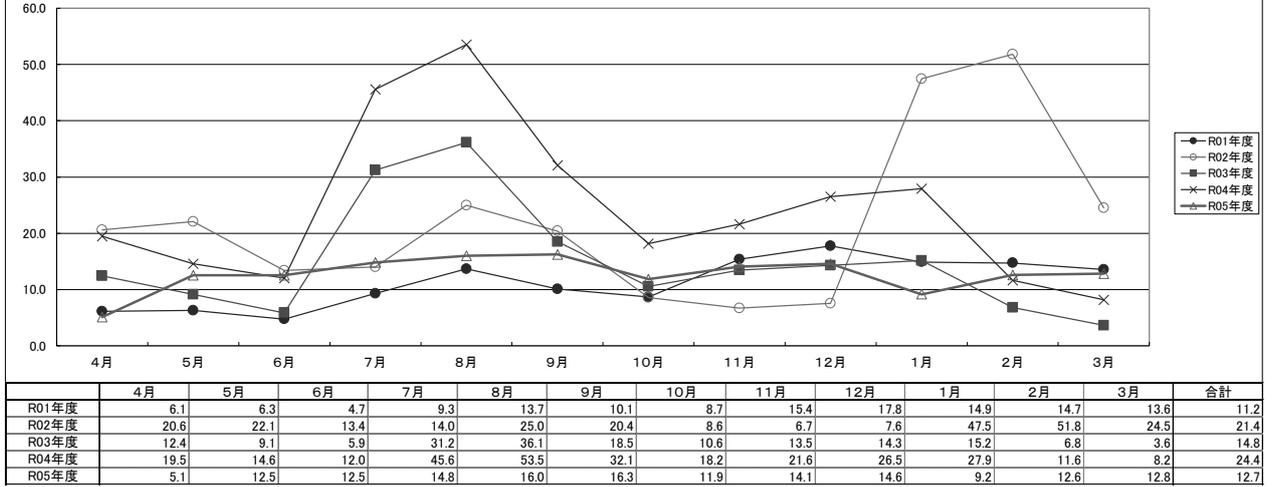


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和元年	526	563	465	532	658	607	548	519	605	692	460	413	6,588
令和2年	405	428	368	420	507	439	422	417	488	292	369	460	5,015
令和3年	414	503	412	535	538	476	464	408	481	510	445	422	5,608
令和4年	420	457	431	617	675	434	405	417	532	545	361	431	5,725
令和5年	395	445	433	547	615	494	451	397	536	511	404	413	5,641

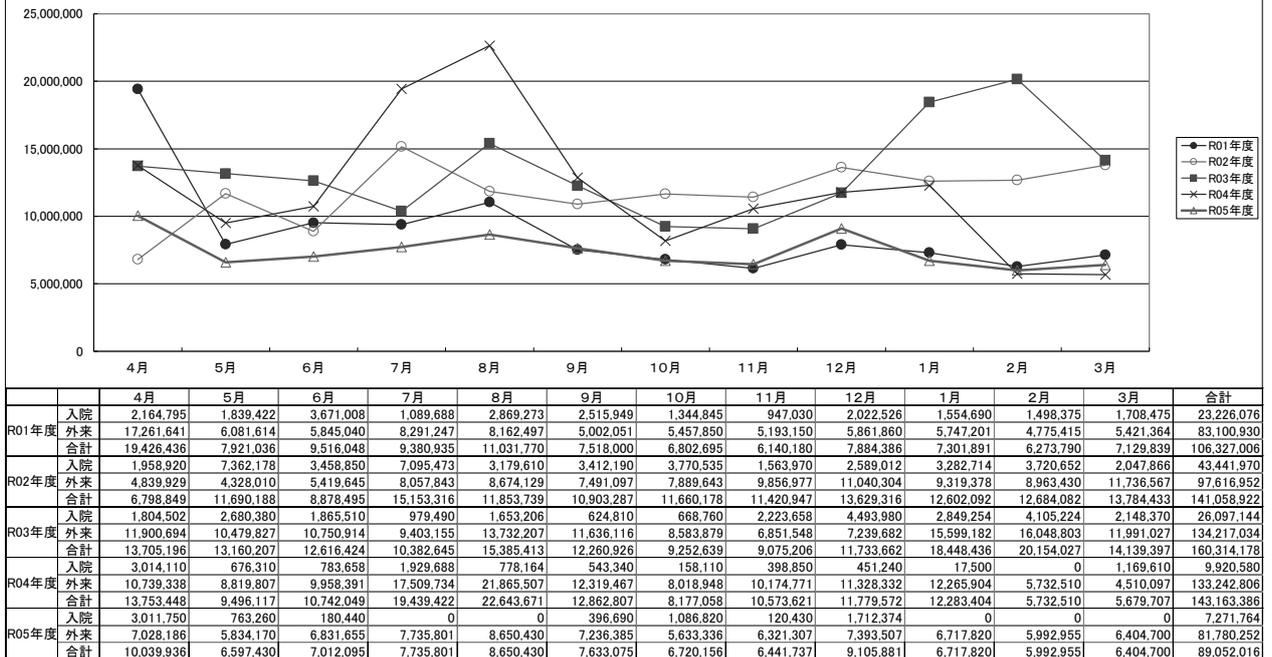
内科・1日平均入院患者数



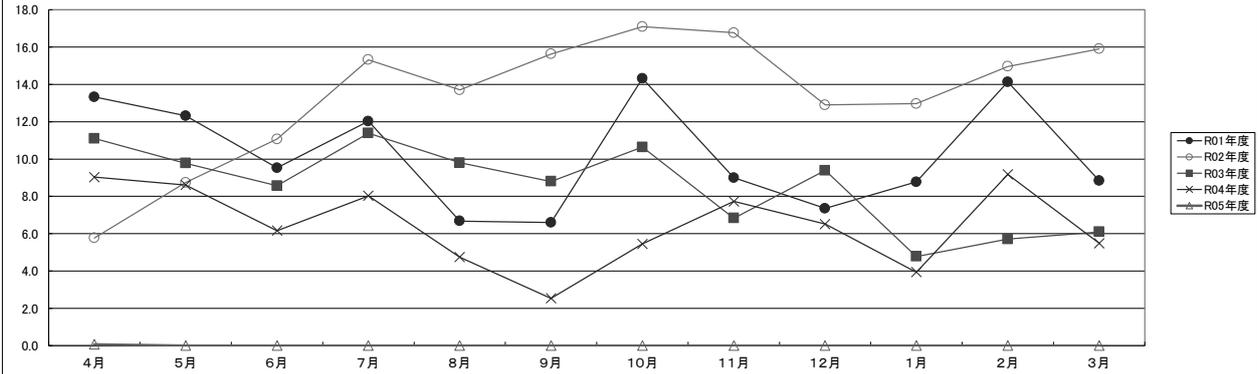
内科・1日平均外来患者数



内科・合計稼働額

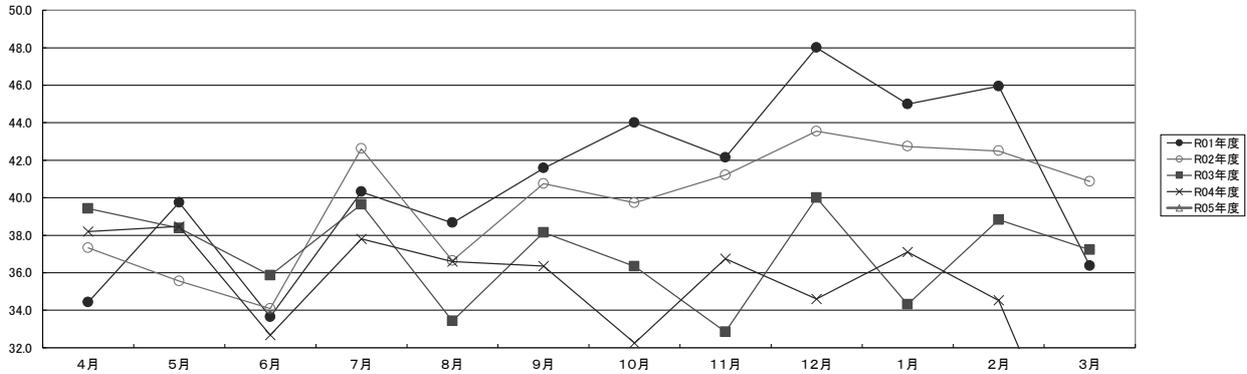


糖・内・代・1日平均入院患者数



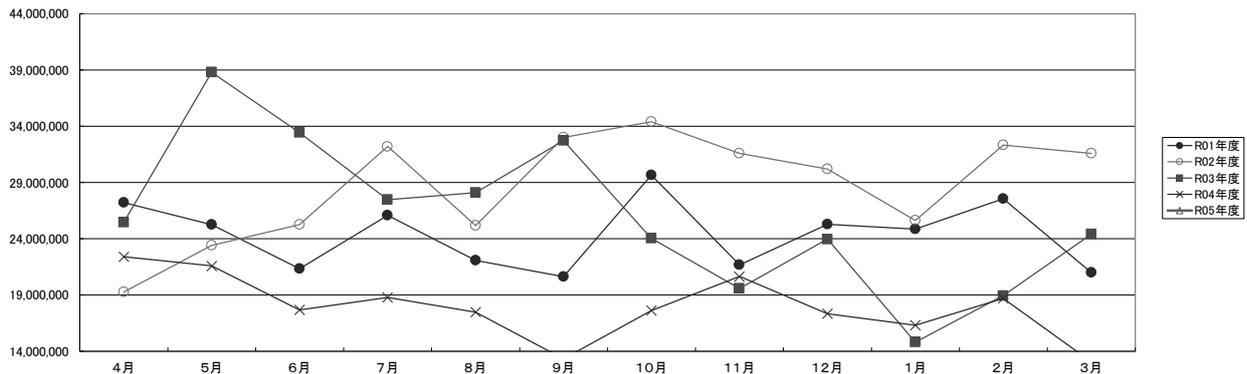
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	13.3	12.3	9.5	12.0	6.7	6.6	14.3	9.0	7.4	8.8	14.1	8.8	10.2
R02年度	5.8	8.7	11.1	15.3	13.7	15.6	17.1	16.8	12.9	13.0	15.0	15.9	13.4
R03年度	11.1	9.8	8.6	11.4	9.8	8.8	10.6	6.8	9.4	4.8	5.7	6.1	8.6
R04年度	9.0	8.6	6.2	8.0	4.7	2.5	5.5	7.7	6.5	3.9	9.2	5.5	6.4
R05年度	0.1			0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

糖・内・代・1日平均外来患者数



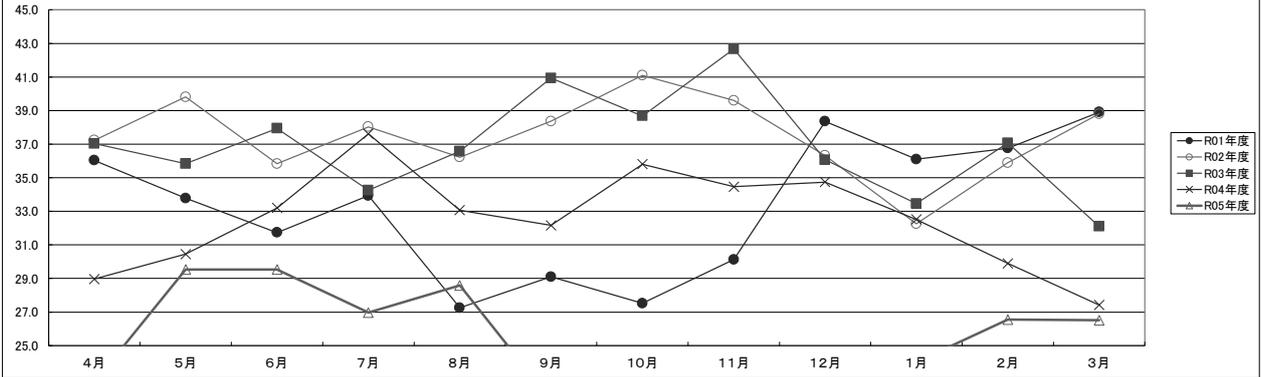
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	34.4	39.8	33.7	40.3	38.7	41.6	44.0	42.2	48.0	45.0	45.9	36.4	40.7
R02年度	37.3	35.6	34.1	42.6	36.7	40.8	39.7	41.2	43.6	42.7	42.5	40.9	39.8
R03年度	39.4	38.4	35.9	39.7	33.4	38.2	36.3	32.9	40.0	34.3	38.8	37.2	37.0
R04年度	38.2	38.5	32.7	37.8	36.6	36.4	32.3	36.8	34.6	37.1	34.5	23.1	34.7
R05年度	19.3	16.5	16.5	18.1	17.0	16.5	17.8	15.5	17.5	16.9	16.0	16.2	16.9

糖・内・代科・合計稼働額



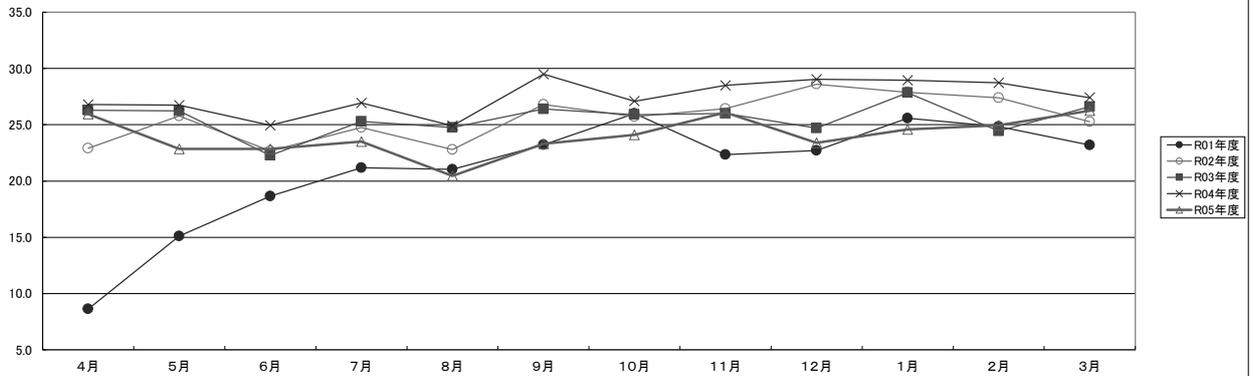
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
R01年度	入院	15,836,722	13,885,394	11,130,086	13,457,192	10,670,725	9,591,532	16,425,762	10,733,236	11,572,746	12,472,283	16,482,579	10,420,830	152,679,087
	外来	11,388,364	11,375,820	10,202,164	12,632,972	11,410,604	11,044,958	13,236,933	10,952,870	13,708,225	12,397,270	11,085,434	10,584,396	140,020,010
	合計	27,225,086	25,261,214	21,332,250	26,090,164	22,081,329	20,636,490	29,662,695	21,686,106	25,280,971	24,869,553	27,568,013	21,005,226	292,699,097
R02年度	入院	8,261,500	14,619,111	15,348,684	19,875,144	15,724,686	21,483,518	22,558,063	19,627,609	18,397,111	14,362,657	21,739,260	18,403,261	210,400,604
	外来	11,005,827	8,790,650	9,921,778	12,327,854	9,452,096	11,534,878	11,848,088	11,957,852	11,802,792	11,267,192	10,600,314	13,194,738	133,704,059
	合計	19,267,327	23,409,761	25,270,462	32,202,998	25,176,782	33,018,396	34,406,151	31,585,461	30,199,903	25,629,849	32,339,574	31,597,999	344,104,663
R03年度	入院	12,858,914	29,393,288	22,534,442	15,972,240	19,127,870	21,482,008	13,028,712	10,081,344	12,504,590	5,975,126	8,621,451	12,308,616	183,888,601
	外来	12,604,219	9,405,731	10,896,669	11,505,943	8,965,160	11,240,424	11,006,148	9,502,923	11,465,392	8,834,294	10,323,916	12,113,155	127,863,974
	合計	25,463,133	38,799,019	33,431,111	27,478,183	28,093,030	32,722,432	24,034,860	19,584,267	23,969,982	14,809,420	18,945,367	24,421,771	311,752,575
R04年度	入院	12,312,859	11,248,368	8,610,764	9,068,456	7,134,018	3,040,044	8,528,462	10,561,327	8,238,104	6,841,376	9,724,828	7,242,796	102,551,402
	外来	10,093,926	10,335,374	9,076,865	9,712,478	10,358,026	10,288,574	9,091,878	10,086,858	9,097,000	9,482,359	8,974,098	5,821,892	112,419,328
	合計	22,406,785	21,583,742	17,687,629	18,780,934	17,492,044	13,328,618	17,620,340	20,648,185	17,335,104	16,323,735	18,698,926	13,064,688	214,970,730
R05年度	入院	102,850	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102,850	
	外来	5,257,070	3,425,980	4,395,426	4,760,247	4,510,697	4,127,120	4,995,560	4,265,120	4,185,665	5,283,890	4,471,700	4,454,270	54,132,745
	合計	5,359,920	3,425,980	4,395,426	4,760,247	4,510,697	4,127,120	4,995,560	4,265,120	4,185,665	5,283,890	4,471,700	4,454,270	54,235,595

血液内科・1日平均入院患者数



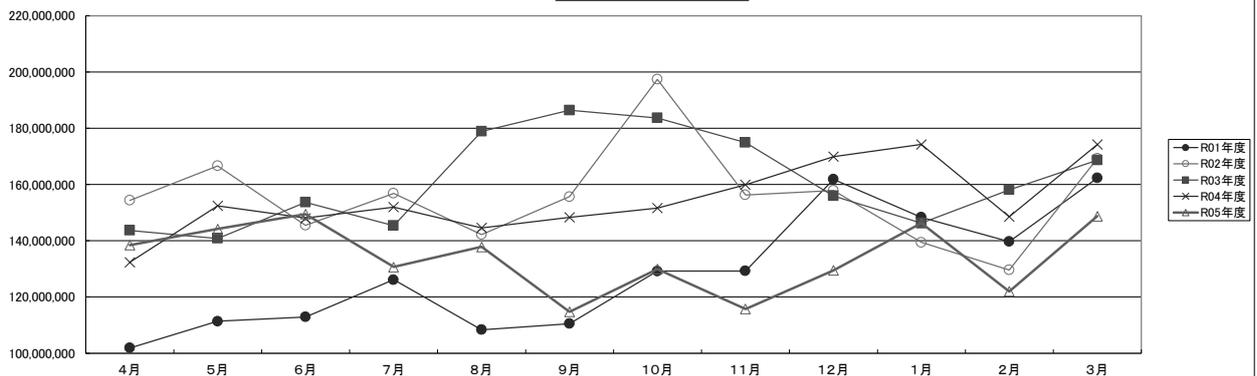
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	36.0	33.8	31.7	33.9	27.3	29.1	27.5	30.1	38.4	36.1	36.8	38.9	33.3
R02年度	37.2	39.8	35.8	38.0	36.2	38.4	41.1	39.6	36.3	32.3	35.9	38.8	37.5
R03年度	37.0	35.8	37.9	34.3	36.6	40.9	38.7	42.7	36.1	33.5	37.1	32.1	36.9
R04年度	29.0	30.5	33.2	37.6	33.1	32.2	35.8	34.5	34.7	32.5	29.9	27.4	32.6
R05年度	22.8	29.5	29.5	27.0	28.6	21.8	23.0	18.6	24.1	24.0	26.6	26.5	25.1

血液内科・1日平均外来患者数



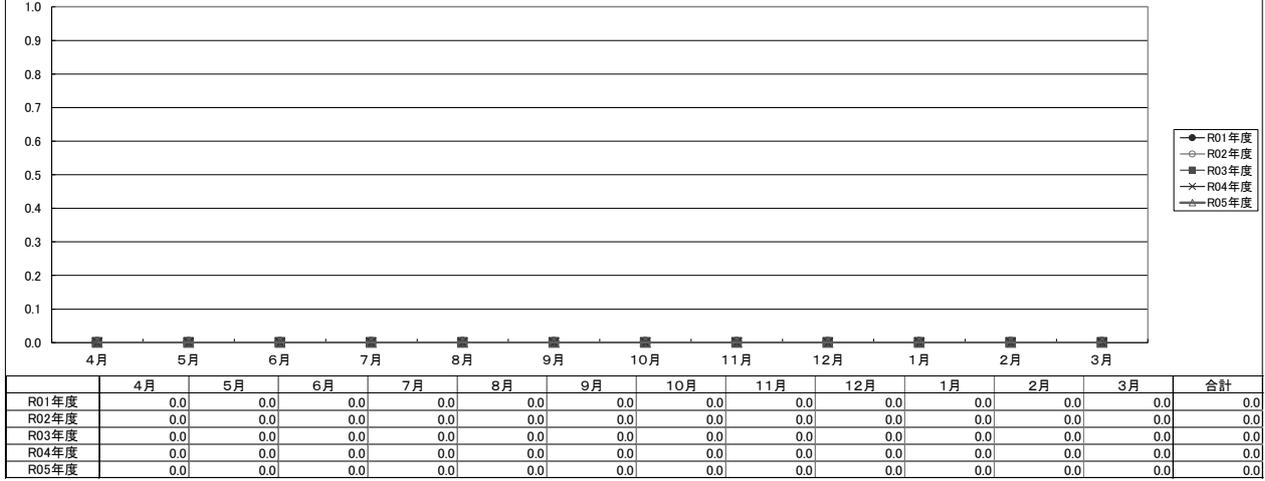
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	8.6	15.1	18.7	21.2	21.0	23.2	26.0	22.4	22.7	25.6	24.8	23.2	21.0
R02年度	22.9	25.8	22.7	24.8	22.8	26.8	25.7	26.4	28.6	27.9	27.4	25.3	25.5
R03年度	26.3	26.2	22.3	25.3	24.8	26.4	29.9	26.0	24.7	27.8	24.4	26.6	25.5
R04年度	26.8	26.7	25.0	27.0	24.9	29.5	27.1	28.5	29.1	28.9	28.7	27.4	27.4
R05年度	26.0	22.9	22.9	23.5	20.5	23.3	24.1	26.1	23.4	24.6	24.9	26.3	24.1

血液内科・合計稼働額

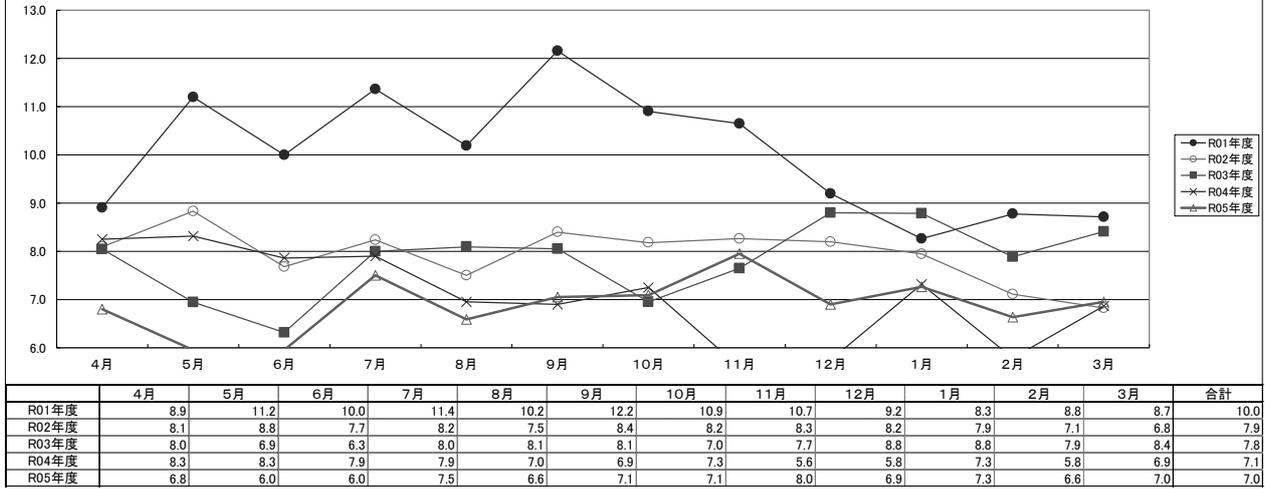


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	85,655,768	86,887,708	85,442,603	93,784,528	71,118,796	74,693,815	82,732,185	91,796,844	124,212,143	97,971,788	95,814,521	115,393,579	1,105,504,278
R01年度	16,209,930	24,477,650	27,474,540	32,358,116	37,243,740	35,874,400	46,470,655	37,455,043	37,666,407	50,415,695	43,850,634	46,903,083	436,399,893
R01年度	101,865,698	111,365,358	112,917,143	126,142,644	108,362,536	110,568,215	129,202,840	129,251,887	161,878,550	148,387,483	139,665,155	162,296,662	1,541,904,171
R02年度	112,971,337	124,291,312	100,028,629	113,010,442	104,275,869	99,122,539	132,401,634	98,597,874	105,642,989	82,918,406	82,907,722	111,256,895	1,267,425,648
R02年度	41,375,843	42,350,994	45,460,990	43,890,017	37,893,661	56,539,616	64,985,692	57,688,532	52,252,027	56,514,482	46,699,319	57,990,540	603,641,713
R02年度	154,347,180	166,642,306	145,489,619	156,900,459	142,169,530	155,662,155	197,387,326	156,286,406	157,895,016	139,432,888	129,607,041	169,247,435	1,871,067,361
R03年度	90,394,487	102,371,547	111,706,169	103,577,891	121,469,148	143,926,528	124,039,221	125,455,802	105,803,624	90,079,244	103,865,880	104,767,522	1,327,457,063
R03年度	53,259,894	36,428,704	41,958,938	41,852,294	57,421,839	42,501,792	59,652,608	49,439,951	50,162,605	56,247,362	54,275,131	63,865,352	609,066,470
R03年度	143,654,381	140,800,251	153,665,107	145,430,185	178,890,987	186,428,320	183,691,829	174,895,753	155,966,229	146,326,606	158,141,011	168,632,874	1,936,523,533
R04年度	79,139,763	87,831,872	88,603,633	92,876,010	86,415,723	83,237,586	99,498,362	102,142,404	115,435,830	114,657,833	88,168,232	100,861,808	1,138,869,056
R04年度	53,236,702	64,601,432	59,458,598	59,055,132	58,221,241	65,152,471	52,092,755	57,833,557	54,532,024	59,619,849	60,449,055	73,372,567	717,625,383
R04年度	132,376,465	152,433,304	148,062,231	151,931,142	144,636,964	148,390,057	151,591,117	159,975,961	169,967,854	174,277,682	148,617,287	174,234,375	1,856,494,439
R05年度	72,289,260	85,290,661	92,818,282	85,223,031	80,669,070	59,189,486	69,116,807	56,591,884	70,005,421	75,152,368	69,875,999	77,869,757	894,092,226
R05年度	66,144,794	58,904,990	56,651,587	45,462,550	57,159,570	55,560,780	60,778,345	59,141,774	59,519,182	71,141,850	52,145,087	70,868,123	713,478,632
R05年度	138,434,054	144,195,851	149,469,869	130,685,581	137,828,640	114,750,266	129,895,152	115,733,658	129,524,603	146,294,218	122,021,086	148,737,880	1,607,570,858

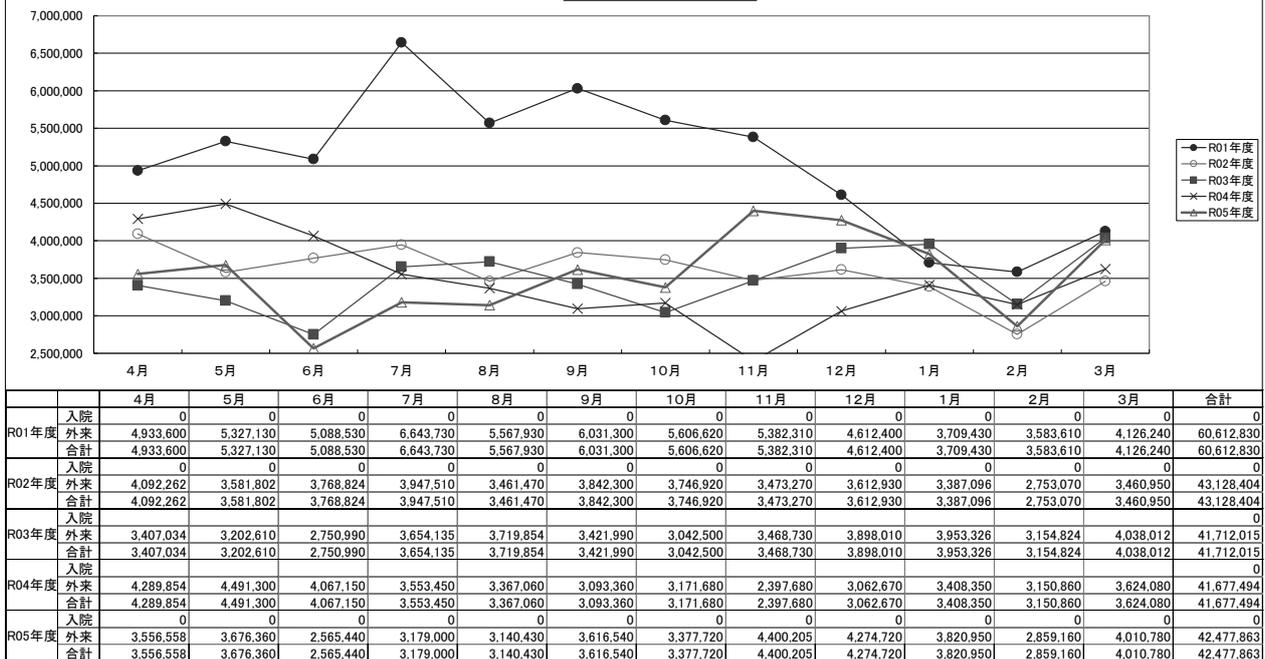
腎臓内科・1日平均入院患者数



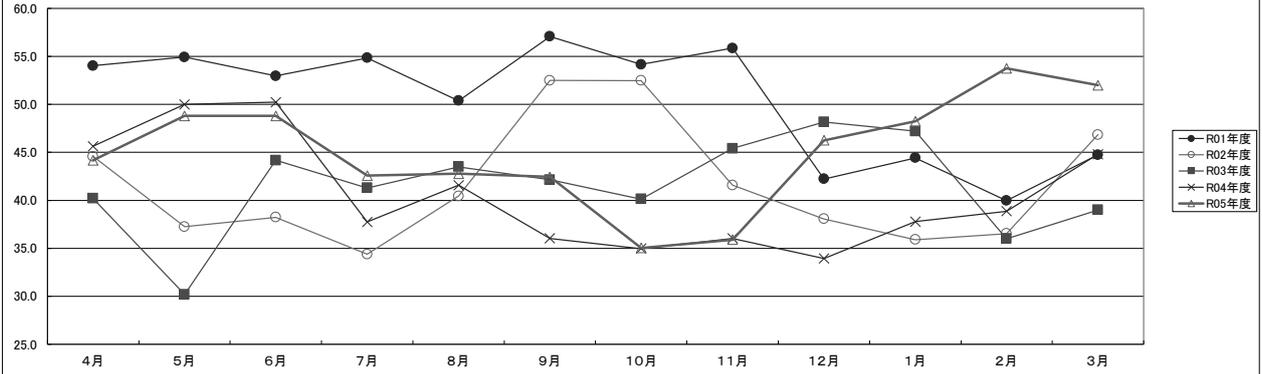
腎臓内科・1日平均外来患者数



腎臓内科・合計稼働額

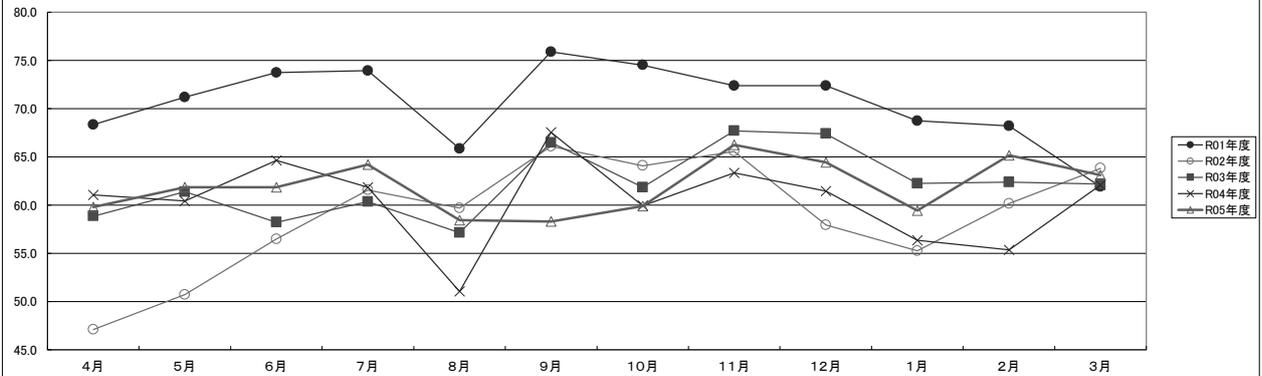


消化器内科・1日平均入院患者数



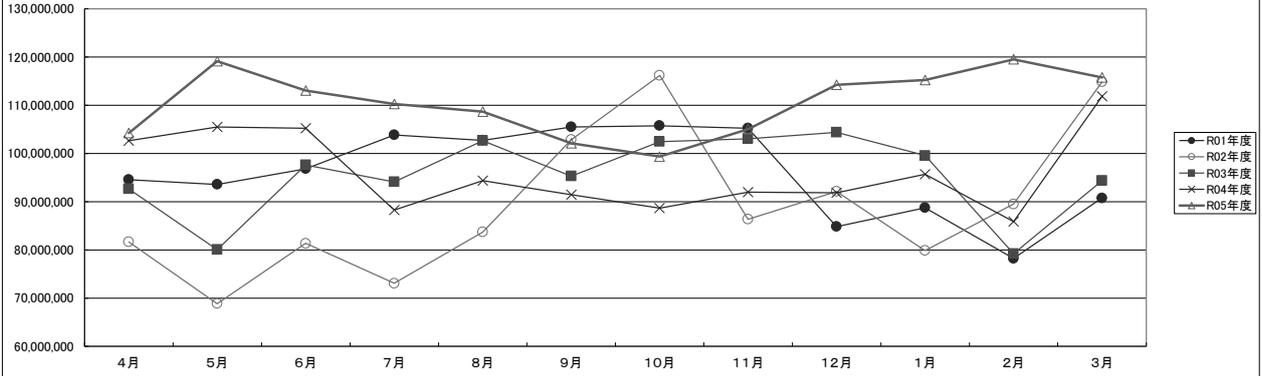
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	54.0	54.9	53.0	54.8	50.4	57.1	54.2	55.9	42.2	44.4	40.0	44.7	50.5
R02年度	44.6	37.3	38.2	34.4	40.5	52.5	52.5	41.6	38.1	35.9	36.5	46.8	41.6
R03年度	40.2	30.2	44.2	41.3	43.5	42.1	40.1	45.4	48.2	47.2	36.0	39.0	41.5
R04年度	45.6	50.0	50.2	37.7	41.6	36.0	35.0	36.0	33.9	37.8	38.9	44.8	40.6
R05年度	44.2	48.8	48.8	42.6	42.8	42.4	35.0	35.9	46.3	48.2	53.8	52.0	44.8

消化器内科・1日平均外来患者数



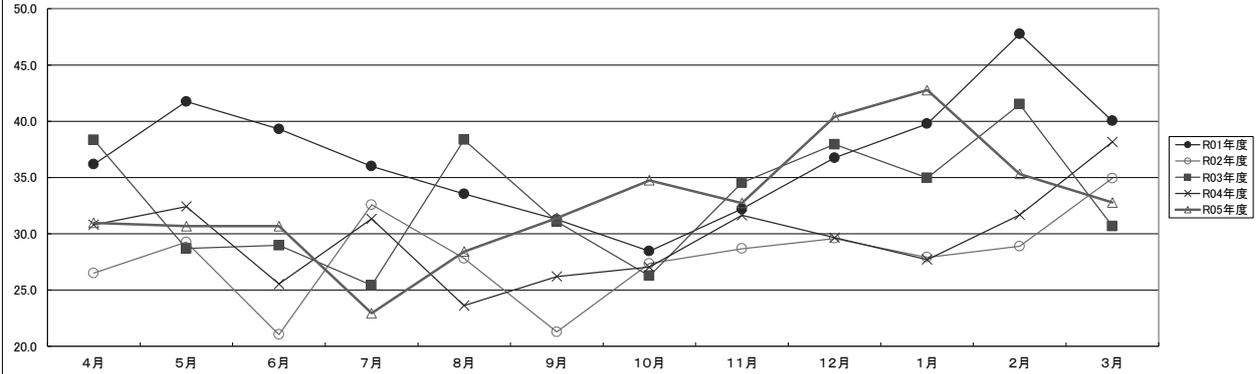
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	68.3	71.2	73.8	74.0	65.9	75.9	74.5	72.4	72.4	68.7	68.2	61.9	70.6
R02年度	47.1	50.7	56.5	61.6	59.7	66.1	64.1	65.6	58.0	55.3	60.2	63.8	59.1
R03年度	58.9	61.4	58.2	60.4	57.1	66.5	61.9	67.7	67.4	62.3	62.4	62.2	62.1
R04年度	61.1	60.4	64.6	61.9	51.0	67.6	60.0	63.4	61.5	56.4	55.4	62.1	60.4
R05年度	59.8	61.9	61.9	64.2	58.5	58.3	59.9	66.3	64.5	59.4	65.2	63.1	61.6

消化器内科・合計稼働額



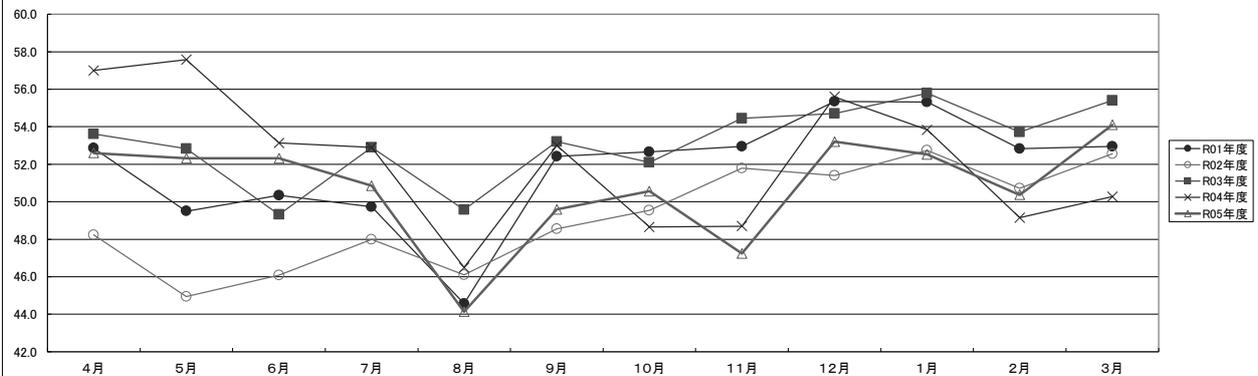
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	72,218,412	69,250,043	71,647,995	75,947,025	79,061,546	78,023,211	80,044,481	80,864,317	61,734,756	66,656,336	56,845,749	67,706,871	860,000,742
R01年度	22,334,011	24,336,098	25,174,599	27,864,455	23,656,280	27,469,982	25,687,706	24,348,818	23,083,307	22,063,428	21,385,367	23,039,322	290,443,373
R01年度	94,552,423	93,586,141	96,822,594	103,811,480	102,717,826	105,493,193	105,732,187	105,213,135	84,818,063	88,719,764	78,231,116	90,746,193	1,150,444,115
R02年度	63,871,655	52,344,850	58,719,391	50,808,649	61,883,450	78,207,127	91,169,016	62,019,993	65,003,953	54,902,851	61,254,244	81,833,136	782,018,315
R02年度	17,750,068	16,485,762	22,624,125	22,250,883	21,834,568	24,625,152	25,009,778	24,347,752	27,087,842	24,950,653	28,233,268	33,004,861	288,204,712
R02年度	81,621,723	68,830,612	81,343,516	73,059,532	83,718,018	102,832,279	116,178,794	86,367,745	92,091,795	79,853,504	89,487,512	114,837,997	1,070,223,027
R03年度	61,959,314	51,763,944	68,274,728	65,541,545	72,458,485	68,173,103	72,820,059	77,414,307	80,840,625	75,852,564	58,947,021	65,434,572	819,480,267
R03年度	30,691,374	28,269,279	29,357,878	28,572,772	30,211,902	27,104,187	29,611,959	25,654,845	23,532,559	23,711,577	20,263,116	28,930,386	325,911,834
R03年度	92,650,688	80,033,223	97,632,606	94,114,317	102,670,387	95,277,290	102,432,018	103,069,152	104,373,184	99,564,141	79,210,137	94,364,958	1,145,392,101
R04年度	79,259,243	84,050,946	80,720,181	63,985,329	73,228,714	64,893,103	64,613,397	66,028,656	67,895,911	70,698,944	62,444,217	80,442,416	858,261,057
R04年度	23,360,211	21,443,682	24,522,301	24,291,467	21,128,112	26,526,659	24,065,737	25,940,068	23,920,321	25,015,852	23,421,642	31,391,311	295,027,363
R04年度	102,619,454	105,494,628	105,242,482	88,276,796	94,356,826	91,419,762	88,679,134	91,968,724	91,816,232	95,714,796	85,865,859	111,833,727	1,153,288,420
R05年度	75,642,335	81,562,752	81,656,351	80,176,651	79,533,680	69,169,584	63,511,823	68,436,143	79,775,224	84,437,505	86,457,552	87,474,699	937,834,299
R05年度	28,585,730	37,590,473	31,394,635	30,081,953	29,152,874	32,959,088	35,849,265	36,598,892	34,481,410	30,790,413	33,049,736	28,287,511	388,821,980
R05年度	104,228,065	119,153,225	113,050,986	110,258,604	108,686,554	102,128,672	99,361,088	105,035,035	114,256,634	115,227,918	119,507,288	115,762,210	1,326,656,279

循環器科・1日平均入院患者数



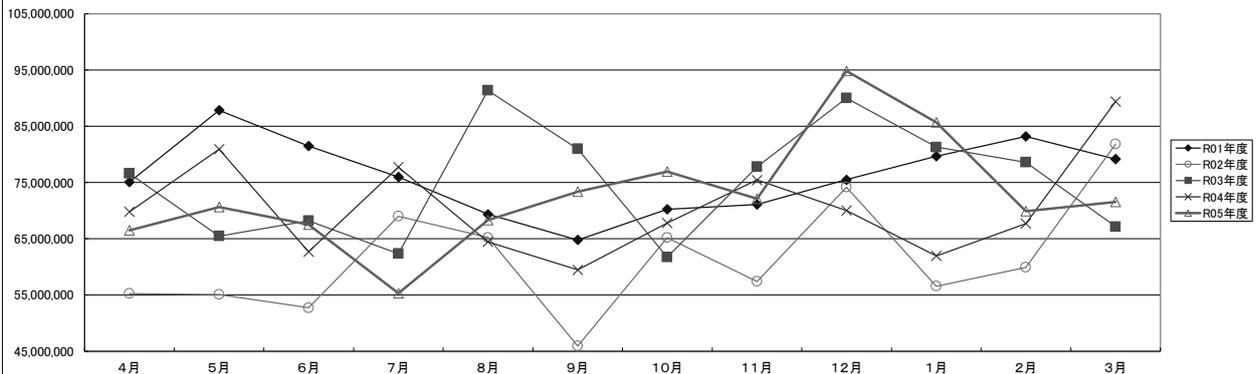
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	36.2	41.7	39.3	36.0	33.5	31.3	28.5	32.2	36.7	39.8	47.8	40.0	36.9
R02年度	26.5	29.3	21.0	32.6	27.8	21.3	27.4	28.7	29.6	27.9	28.9	34.9	28.0
R03年度	38.3	28.7	29.0	25.4	38.4	31.1	26.3	34.5	37.9	35.0	41.5	30.7	33.0
R04年度	30.8	32.4	25.5	31.3	23.6	26.2	27.0	31.6	29.6	27.7	31.7	38.2	29.6
R05年度	31.0	30.7	30.7	22.9	28.4	31.4	34.7	32.7	40.4	42.8	35.3	32.8	32.6

循環器科・1日平均外来患者数



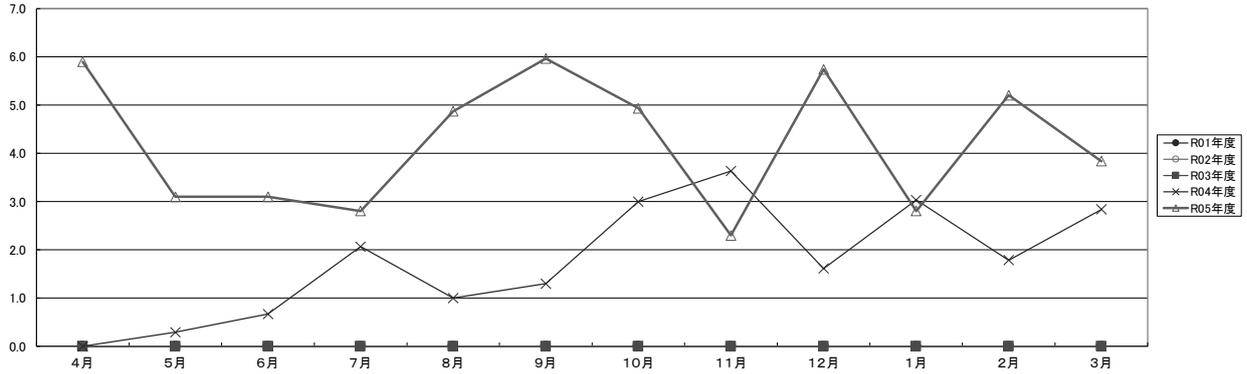
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	52.9	49.5	50.4	49.7	44.6	52.4	52.7	53.0	55.4	55.3	52.8	53.0	51.7
R02年度	48.2	44.9	46.1	48.0	46.1	48.6	49.5	51.8	51.4	52.7	50.7	52.6	49.2
R03年度	53.6	52.8	49.3	52.9	49.6	53.2	52.1	54.5	54.7	55.8	53.7	55.4	53.1
R04年度	57.0	57.6	53.1	52.9	46.5	53.0	48.7	48.7	55.6	53.8	49.2	50.3	52.1
R05年度	52.6	52.3	52.3	50.9	44.1	49.6	50.6	47.3	53.2	52.5	50.4	54.1	50.4

循環器科・合計稼働額



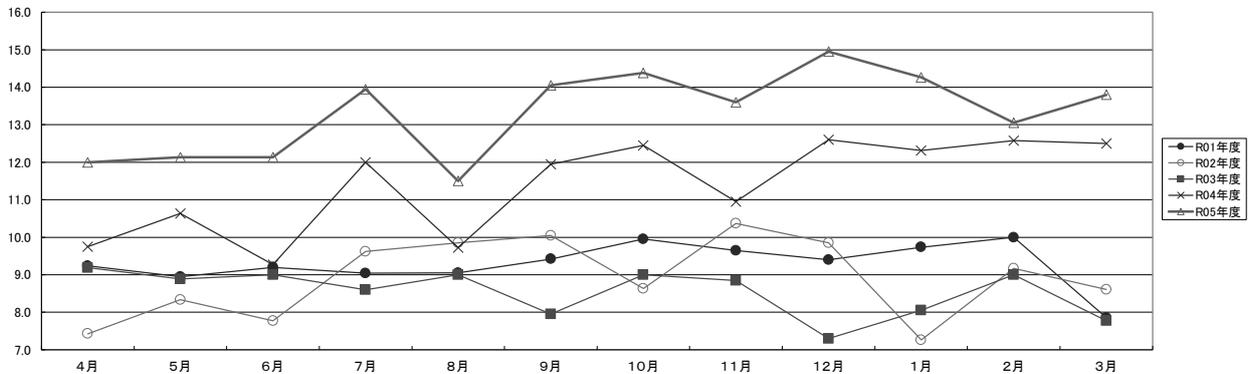
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	入院 63,626,161	77,674,250	71,531,328	64,734,863	60,159,020	54,538,334	58,907,946	59,333,798	65,347,043	69,348,162	73,608,541	68,446,304	787,255,750
R01年度	外来 11,468,721	10,161,990	9,969,646	11,255,653	9,207,842	10,238,456	11,341,186	11,772,281	10,157,340	10,340,761	9,571,602	10,702,669	126,188,147
R01年度	合計 75,094,882	87,836,240	81,500,974	75,990,516	69,366,862	64,776,790	70,249,132	71,106,079	75,504,383	79,688,923	83,180,143	79,148,973	913,443,897
R02年度	入院 45,945,600	47,410,578	42,568,235	59,480,162	55,899,921	36,792,085	54,831,115	47,492,842	64,040,848	47,125,229	50,818,603	68,699,146	621,104,364
R02年度	外来 9,292,006	7,675,581	10,161,638	9,529,418	9,325,649	9,149,266	10,351,650	9,928,482	10,140,188	9,415,478	9,109,577	13,129,324	117,208,255
R02年度	合計 55,237,606	55,086,159	52,729,873	69,009,579	65,225,570	45,941,351	65,182,765	57,421,324	74,181,036	56,540,707	59,928,180	81,828,470	738,312,619
R03年度	入院 66,402,903	55,517,981	58,439,194	52,646,096	81,680,286	70,653,439	51,063,856	66,461,790	79,697,292	70,106,745	69,213,318	55,216,718	777,099,618
R03年度	外来 10,208,184	9,942,390	9,787,787	9,701,733	9,674,068	10,321,463	10,676,602	11,359,764	10,333,747	11,185,998	9,369,854	11,936,010	124,497,620
R03年度	合計 76,611,087	65,460,371	68,226,981	62,347,829	91,354,354	80,974,922	61,740,458	77,821,554	90,031,039	81,292,743	78,583,172	67,152,728	901,597,238
R04年度	入院 56,874,261	69,121,685	50,353,176	67,679,986	54,297,417	49,654,381	57,849,892	64,764,733	59,050,609	51,483,682	57,876,479	77,957,589	716,963,890
R04年度	外来 12,920,798	11,805,782	12,338,540	10,053,237	10,170,636	9,832,929	9,968,382	10,680,642	10,966,606	10,495,377	9,841,721	11,447,475	130,522,125
R04年度	合計 69,795,059	80,927,467	62,691,716	77,733,223	64,468,053	59,487,310	67,818,274	75,445,375	70,017,215	61,979,059	67,718,200	89,405,064	847,486,015
R05年度	入院 54,361,562	60,126,135	55,514,921	45,590,234	58,852,337	63,338,179	65,897,961	62,298,168	83,022,533	74,708,349	59,479,310	57,411,559	740,601,248
R05年度	外来 12,140,642	10,525,737	12,031,840	9,736,247	9,486,547	10,033,544	11,067,986	9,836,354	11,805,670	10,988,457	10,433,205	14,122,591	132,208,820
R05年度	合計 66,502,204	70,651,872	67,546,761	55,326,481	68,338,884	73,371,723	76,965,947	72,134,522	94,828,203	85,696,806	69,912,515	71,534,150	872,810,068

脳神経内科・1日平均入院患者数



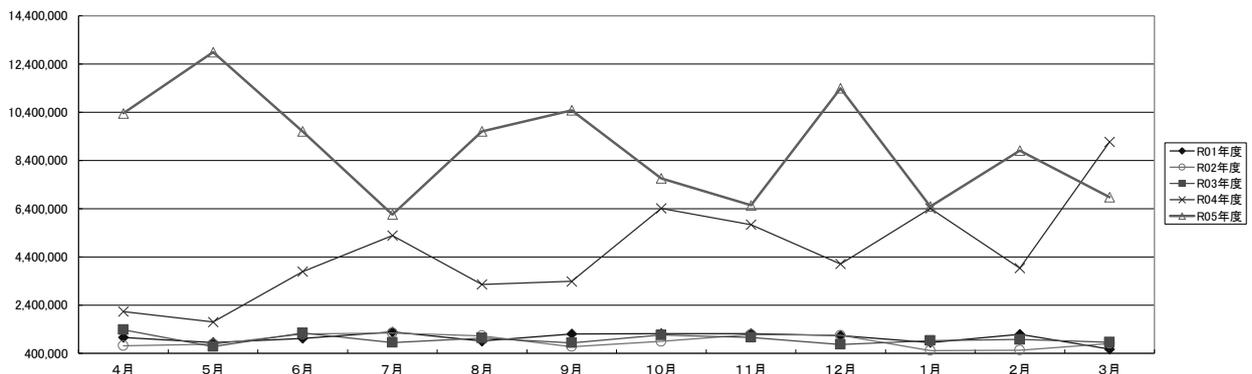
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.3	0.7	2.1	1.0	1.3	3.0	3.6	1.6	3.0	1.8	2.8	1.8
R05年度	5.9	3.1	3.1	2.8	4.9	6.0	4.9	2.3	5.7	2.8	5.2	3.8	4.5

脳神経内科・1日平均外来患者数

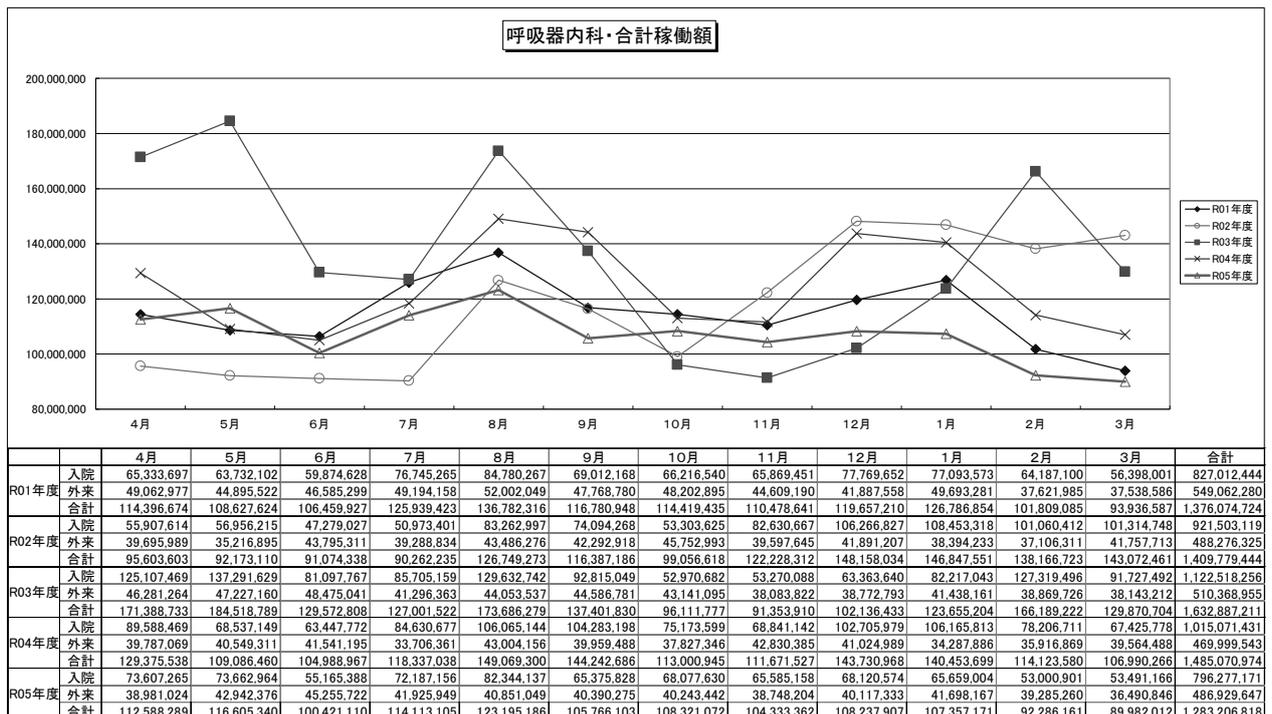
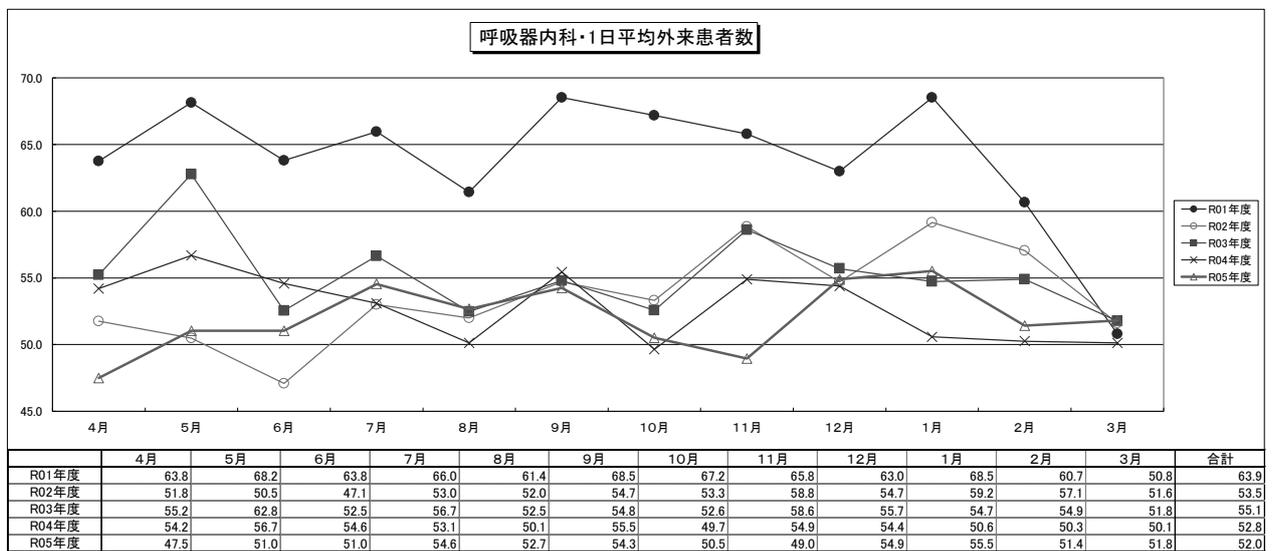
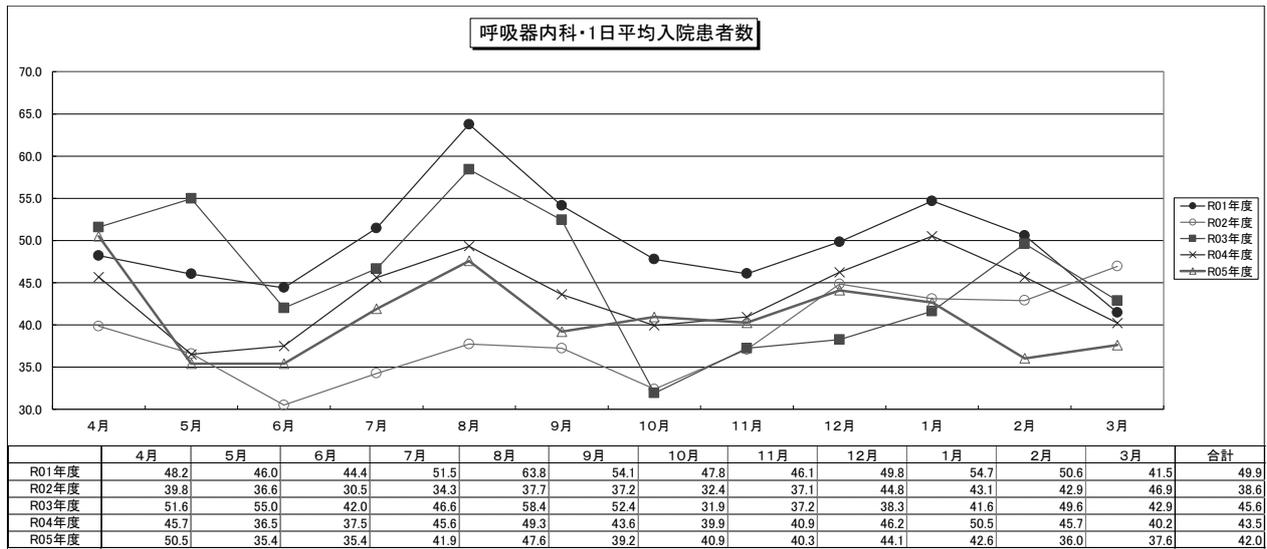


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	9.2	9.0	9.2	9.0	9.0	9.4	10.0	9.7	9.4	9.7	10.0	7.9	9.3
R02年度	7.4	8.3	7.8	9.6	9.9	10.1	8.6	10.4	9.9	7.3	9.2	8.6	8.9
R03年度	9.2	8.9	9.0	8.6	9.0	8.0	9.0	8.9	7.3	8.1	9.0	7.8	8.5
R04年度	9.8	10.6	9.3	12.0	9.7	12.0	12.5	11.0	12.6	12.3	12.6	12.5	11.4
R05年度	12.0	12.1	12.1	14.0	11.5	14.1	14.4	13.6	15.0	14.3	13.1	13.8	13.3

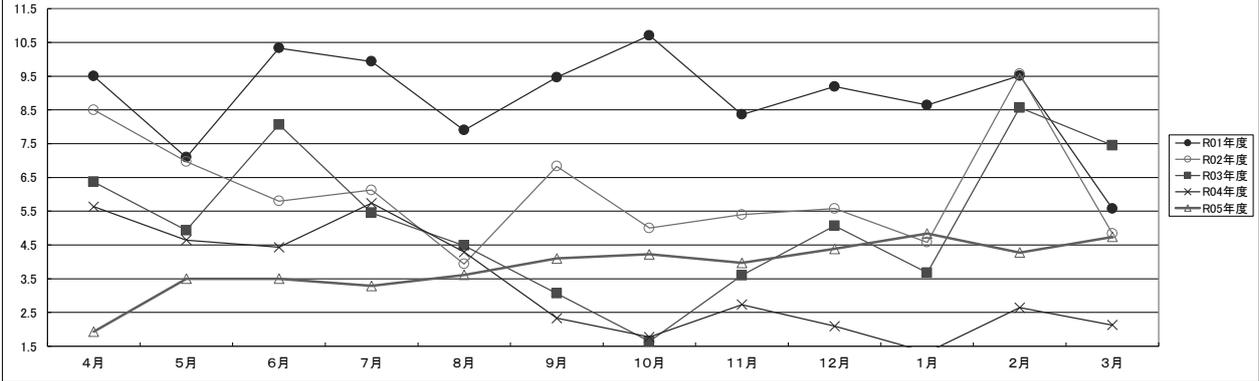
脳神経内科・合計稼働額



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R02年度	1,056,300	843,420	1,016,498	1,288,800	904,620	1,201,540	1,221,710	1,216,610	1,133,600	846,920	1,189,500	575,332	12,494,850
R03年度	1,376,120	677,844	1,244,688	848,007	1,027,594	835,248	1,158,020	1,055,610	770,759	926,824	971,916	863,988	11,756,618
R04年度	2,127,228	1,236,823	1,688,052	1,751,584	1,752,261	1,766,839	2,039,013	1,837,364	1,965,433	1,815,224	1,423,391	1,882,604	21,285,816
R05年度	10,352,750	12,893,182	9,599,904	6,155,220	9,598,485	10,478,006	7,654,909	6,536,331	11,395,040	6,487,237	8,812,090	6,879,628	106,842,782

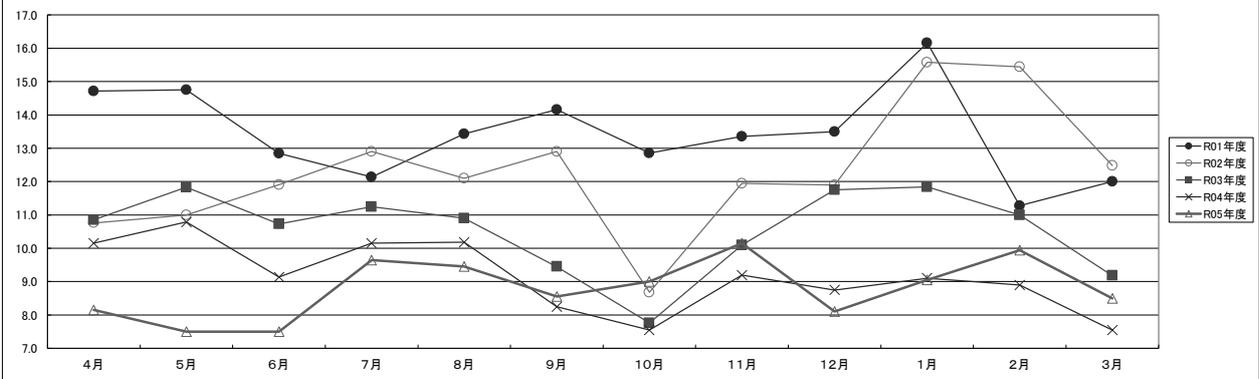


呼吸器外科・1日平均入院患者数



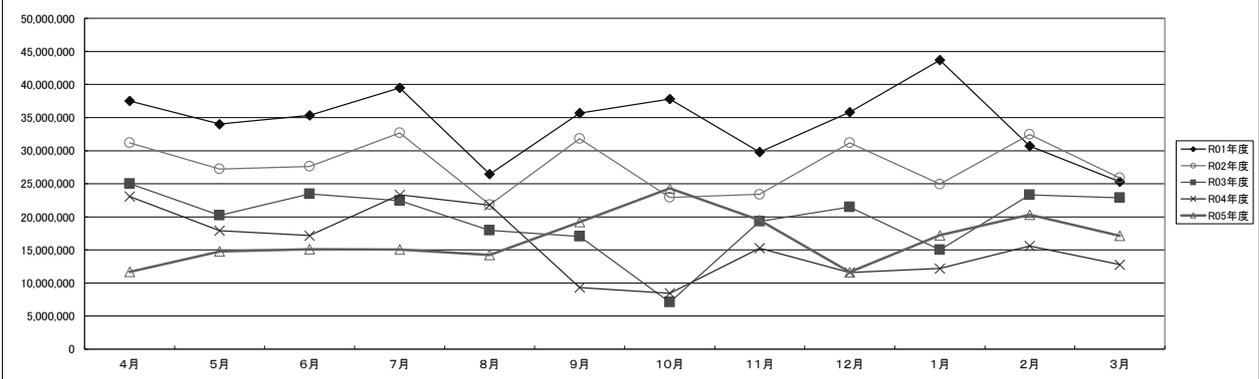
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	9.5	7.1	10.3	9.9	7.9	9.5	10.7	8.4	9.2	8.6	9.5	5.6	8.8
R02年度	8.5	7.0	5.8	6.1	3.9	6.8	5.0	5.4	5.6	4.6	9.6	4.8	6.1
R03年度	6.4	4.9	8.1	5.5	4.5	3.1	1.6	3.6	5.1	3.7	8.6	7.5	5.2
R04年度	5.6	4.6	4.4	5.7	4.3	2.3	1.8	2.7	2.1	1.3	2.6	2.1	3.3
R05年度	1.9	3.5	3.5	3.3	3.6	4.1	4.2	4.0	4.4	4.8	4.3	4.7	3.8

呼吸器外科・1日平均外来患者数



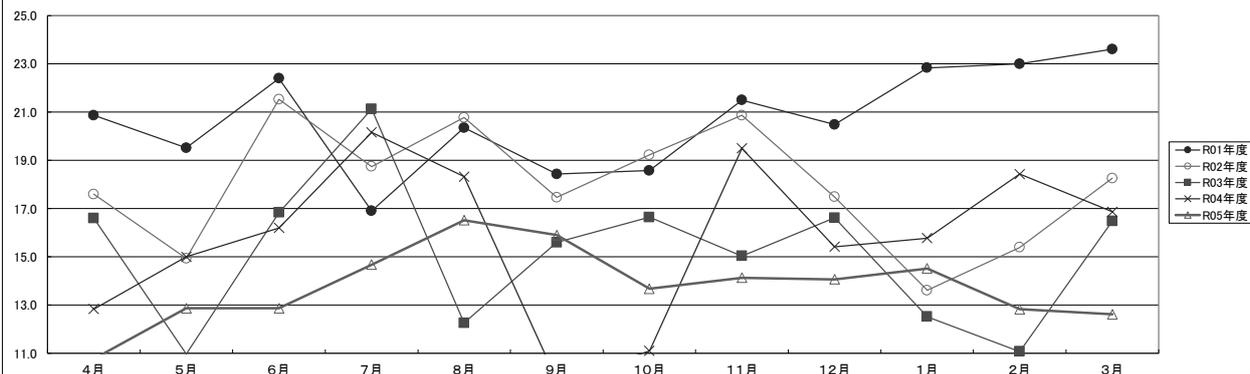
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	14.7	14.8	12.9	12.1	13.4	14.2	12.9	13.4	13.5	16.2	11.3	12.0	13.4
R02年度	10.8	11.0	11.9	12.9	12.1	12.9	8.7	11.9	11.9	15.6	15.4	12.5	12.2
R03年度	10.9	11.8	10.7	11.3	10.9	9.5	7.8	10.1	11.8	11.8	11.0	9.2	10.5
R04年度	10.2	10.8	9.1	10.2	10.2	8.3	7.6	9.2	8.8	9.1	8.9	7.5	9.1
R05年度	8.2	7.5	7.5	9.7	9.5	8.6	9.0	10.2	8.1	9.1	9.9	8.5	8.9

呼吸器外科・合計稼働額



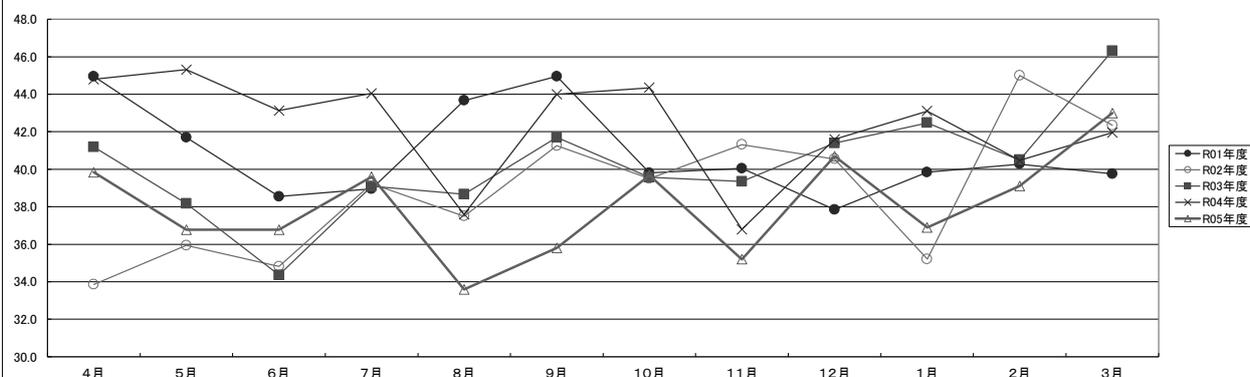
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	21,212,105	19,553,756	23,871,144	26,342,664	16,817,736	21,979,066	26,246,812	15,539,660	24,723,184	26,013,250	21,258,128	11,811,381	255,368,886
R01年度	16,289,644	14,458,820	11,486,456	13,138,250	9,648,030	13,680,918	11,556,440	14,262,348	11,113,562	17,666,750	9,443,820	13,488,980	156,234,018
R01年度	37,501,749	34,012,576	35,357,600	39,480,914	26,465,766	35,659,984	37,803,252	29,802,008	35,836,746	43,680,000	30,701,948	25,300,361	411,602,904
R02年度	20,438,107	19,090,956	16,864,836	22,582,602	10,198,980	20,568,454	9,698,085	14,014,334	19,683,342	12,425,926	20,871,806	14,699,972	201,137,400
R02年度	10,768,254	8,118,654	10,768,134	10,095,888	11,634,624	11,233,942	13,216,480	9,374,744	11,505,068	12,512,328	11,577,404	11,183,508	131,989,028
R02年度	31,206,361	27,209,610	27,632,970	32,678,490	21,833,604	31,802,396	22,914,565	23,389,078	31,188,410	24,938,254	32,449,210	25,883,480	333,126,428
R03年度	17,351,476	12,146,662	17,150,821	15,513,496	11,259,220	10,863,298	3,861,880	15,666,722	17,150,170	10,540,084	19,406,560	18,377,542	169,287,931
R03年度	7,677,625	6,095,674	6,329,904	6,944,883	6,682,230	6,171,994	3,227,060	3,636,310	4,326,770	4,459,080	3,927,220	4,490,450	65,969,200
R03年度	25,029,101	20,242,336	23,480,725	22,458,379	17,941,450	17,035,292	7,088,940	19,303,032	21,476,940	14,999,164	23,333,780	22,867,992	235,257,131
R04年度	18,962,932	14,044,402	13,529,637	19,931,198	17,424,818	6,516,860	6,290,670	12,499,510	8,651,612	9,155,570	13,122,876	10,526,564	150,656,649
R04年度	4,105,650	3,882,730	3,634,058	3,398,740	4,354,490	2,800,559	2,153,640	2,740,840	2,941,403	3,033,450	2,468,536	2,245,521	37,759,617
R04年度	23,068,582	17,927,132	17,163,695	23,329,938	21,779,308	9,317,419	8,444,310	15,240,350	11,593,015	12,189,020	15,591,412	12,772,085	188,416,266
R05年度	9,069,426	11,448,310	12,638,150	12,303,954	10,998,690	16,426,610	20,750,536	15,435,940	8,811,420	13,753,369	16,741,174	14,126,642	162,504,221
R05年度	2,621,188	3,306,200	2,492,160	2,753,347	3,224,840	2,768,310	3,559,790	4,049,387	2,837,570	3,459,780	3,565,320	3,006,130	37,644,022
R05年度	11,690,614	14,754,510	15,130,310	15,057,301	14,223,530	19,194,920	24,310,326	19,485,327	11,648,990	17,213,149	20,306,494	17,132,772	200,148,243

外科・1日平均入院患者数



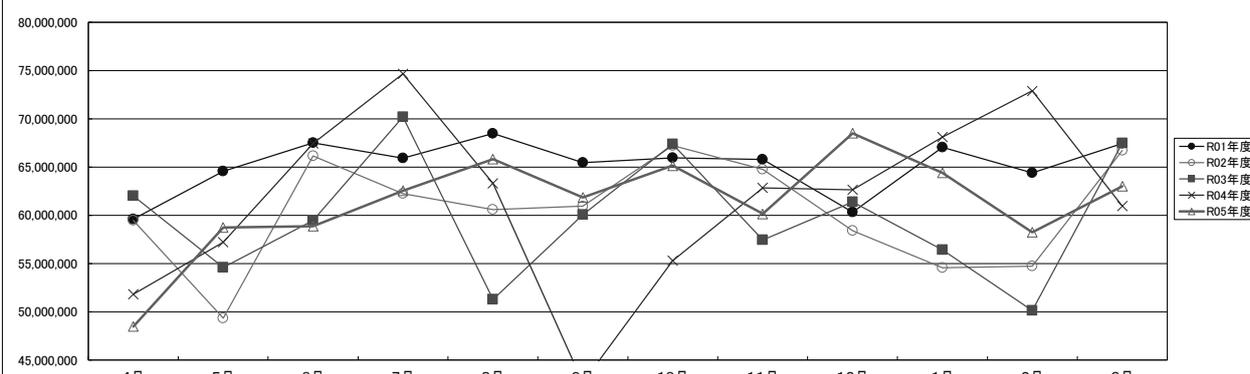
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	20.9	19.5	22.4	16.9	20.4	18.4	18.6	21.5	20.5	22.8	23.0	23.6	20.7
R02年度	17.6	14.9	21.5	18.7	20.8	17.5	19.2	20.9	17.5	13.6	15.4	18.3	18.0
R03年度	16.6	11.0	16.8	21.1	12.3	15.6	16.6	15.0	16.6	12.5	11.1	16.5	15.2
R04年度	12.8	15.0	16.2	20.2	18.3	9.9	11.1	19.5	15.4	15.8	18.4	16.9	15.8
R05年度	10.8	12.9	12.9	14.7	16.5	15.9	13.7	14.1	14.1	14.5	12.8	12.6	13.8

外科・1日平均外来患者数



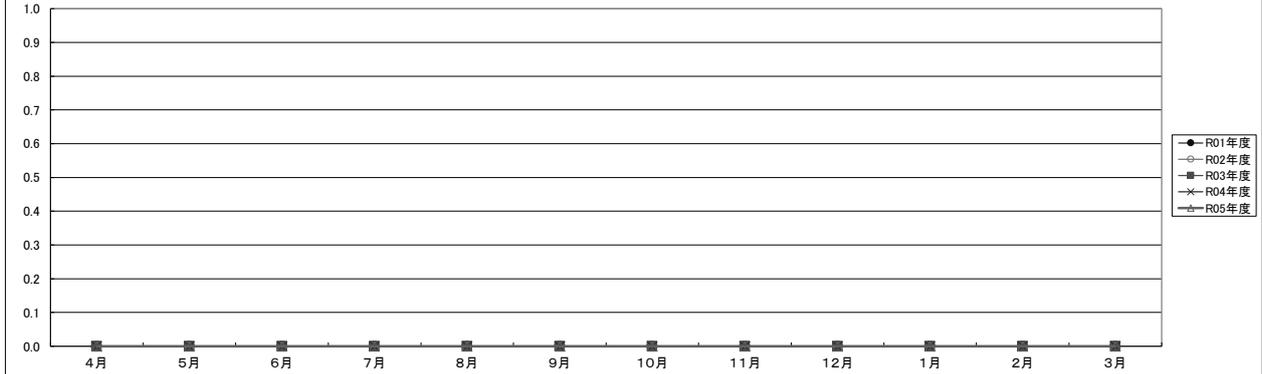
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	45.0	41.7	38.6	39.0	43.7	44.9	39.8	40.1	37.9	39.8	40.3	39.8	40.9
R02年度	33.9	35.9	34.8	39.2	37.5	41.3	39.5	41.3	40.6	35.2	45.0	42.3	38.9
R03年度	41.2	38.2	34.4	39.1	38.7	41.7	39.6	39.4	41.4	42.5	40.5	46.3	40.2
R04年度	44.8	45.3	43.1	44.1	37.6	44.0	44.4	36.8	41.6	43.1	40.5	42.0	42.2
R05年度	39.9	36.8	36.8	39.6	33.6	35.8	39.7	35.2	40.7	36.9	39.1	43.0	38.1

外科・合計稼働額



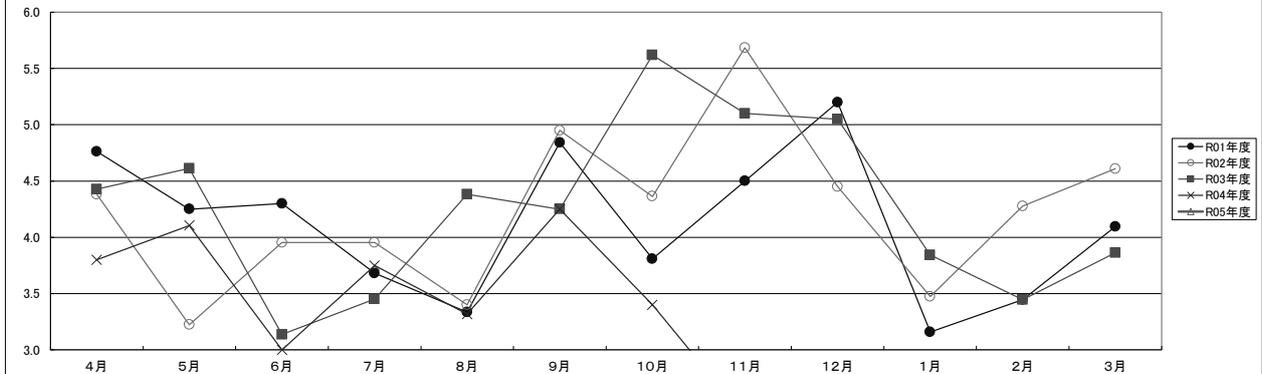
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
R01年度	入院	38,148,797	44,638,030	45,813,073	41,338,883	43,359,198	42,886,909	42,977,417	45,106,650	42,219,932	47,786,405	47,332,778	48,505,433	530,113,505
	外来	21,460,171	19,910,818	21,687,020	24,590,255	25,120,181	22,583,834	22,973,585	20,678,850	18,104,944	19,271,101	17,062,142	18,941,372	252,384,273
	合計	59,608,968	64,548,848	67,500,093	65,929,138	68,479,379	65,470,743	65,951,002	65,785,500	60,324,876	67,057,506	64,394,920	67,446,805	782,497,778
R02年度	入院	38,462,647	30,471,865	45,489,233	39,605,872	40,371,785	38,410,242	42,966,906	42,349,796	36,283,058	34,844,831	32,925,206	40,299,084	462,480,525
	外来	21,015,232	18,868,181	20,673,564	22,626,845	20,217,025	22,529,463	24,261,087	22,407,339	22,133,920	19,732,392	21,809,601	26,423,780	262,698,429
	合計	59,477,879	49,340,046	66,162,797	62,232,717	60,588,810	60,939,705	67,227,993	64,757,135	58,416,978	54,577,223	54,734,807	66,722,864	725,178,954
R03年度	入院	35,100,571	32,041,456	37,547,806	47,358,839	27,382,648	36,922,726	44,085,820	36,116,908	39,750,700	34,204,567	28,929,682	41,686,246	441,127,969
	外来	26,916,738	22,564,926	21,925,022	22,839,560	23,916,976	23,152,270	23,296,405	21,319,641	21,620,744	22,222,133	21,202,181	25,789,857	276,766,453
	合計	62,017,309	54,606,382	59,472,828	70,198,399	51,299,624	60,074,996	67,382,225	57,436,549	61,371,444	56,426,700	50,131,863	67,476,103	717,894,422
R04年度	入院	32,667,060	35,538,815	44,889,072	53,298,356	39,349,354	21,864,940	34,303,472	45,315,530	43,466,571	46,550,325	51,249,581	35,855,925	484,349,001
	外来	19,141,078	21,670,705	22,545,627	21,366,199	23,953,177	20,811,074	20,987,160	17,529,297	19,190,582	21,556,418	21,638,874	25,097,996	255,488,187
	合計	51,808,138	57,209,520	67,434,699	74,664,555	63,302,531	42,676,014	55,290,632	62,844,827	62,657,153	68,106,743	72,888,455	60,953,921	739,837,188
R05年度	入院	26,159,112	33,710,639	34,988,313	36,151,421	40,676,284	38,579,020	37,295,291	33,693,647	37,589,095	36,905,349	30,351,524	34,339,685	420,439,380
	外来	22,310,707	25,017,668	23,894,405	26,394,311	25,135,228	23,283,975	27,847,918	26,451,270	30,903,565	27,488,130	27,896,940	28,671,559	315,295,676
	合計	48,469,819	58,728,307	58,882,718	62,545,732	65,811,512	61,862,995	65,143,209	60,144,917	68,492,660	64,393,479	58,248,464	63,011,244	735,735,056

脳神経外科・1日平均入院患者数



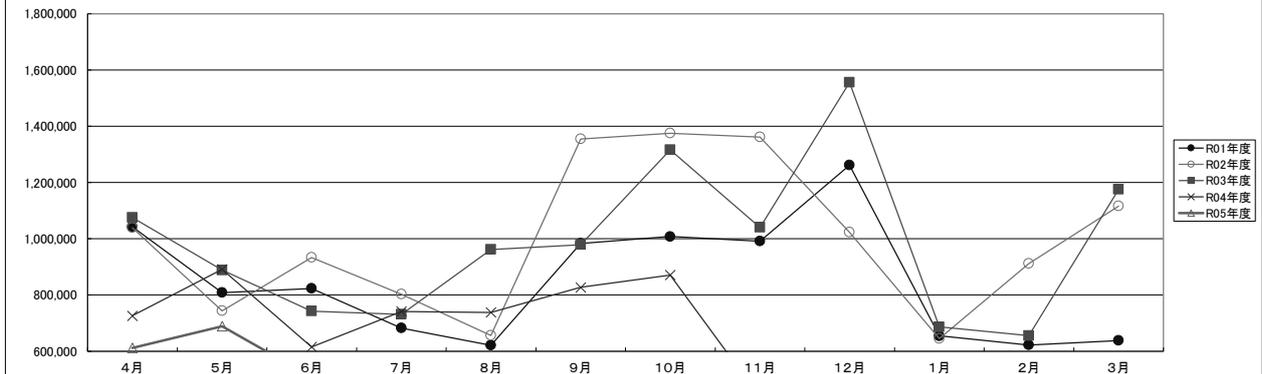
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R05年度				0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

脳神経外科・1日平均外来患者数



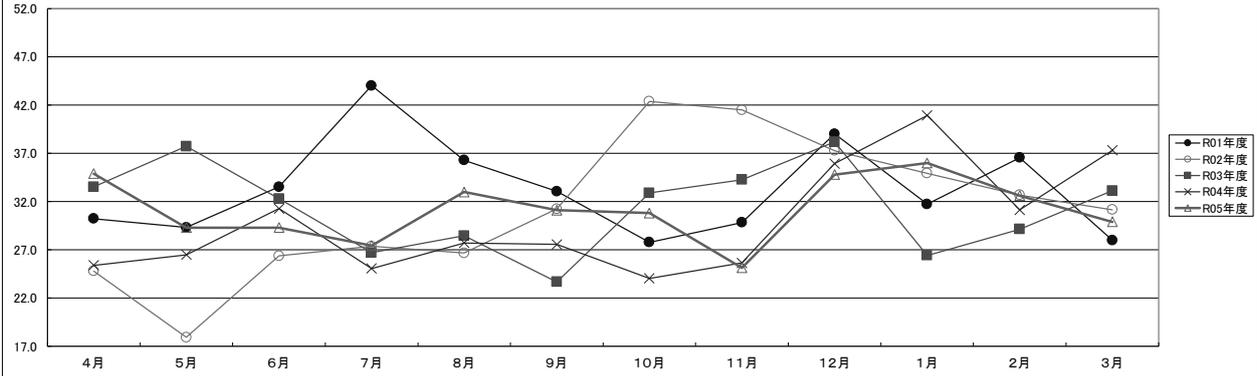
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	4.8	4.3	4.3	3.7	3.3	4.8	3.8	4.5	5.2	3.2	3.4	4.1	4.1
R02年度	4.4	3.2	4.0	4.0	3.4	5.0	4.4	5.7	4.5	3.5	4.3	4.6	4.2
R03年度	4.4	4.6	3.1	3.5	4.4	4.3	5.6	5.1	3.8	3.4	3.9	4.3	4.3
R04年度	3.8	4.1	3.0	3.8	3.3	4.3	3.4	2.4	2.8	2.2	1.8	1.4	3.0
R05年度	2.6	2.1	2.1	2.0	1.7	1.9	2.2	2.1	2.5	2.0	1.6	1.6	2.1

脳神経外科・合計稼働額



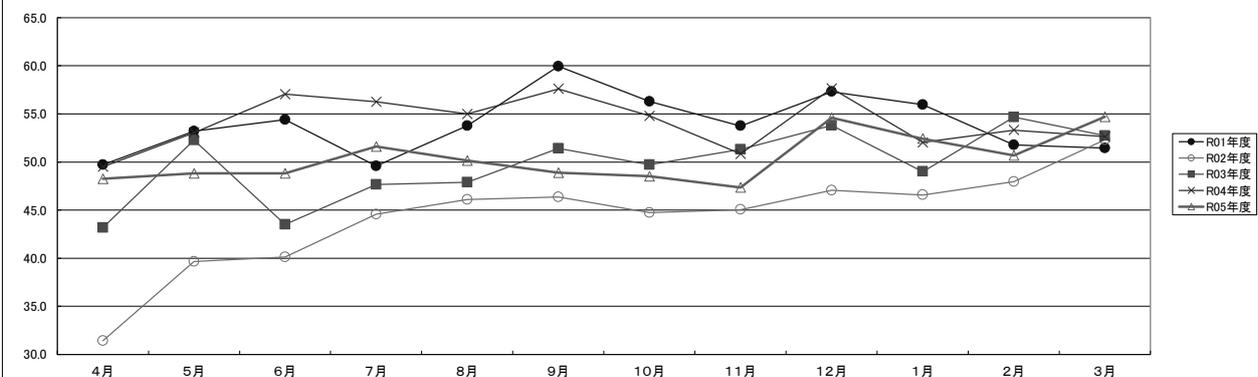
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R01年度	外来 1,042,540	808,760	823,795	682,590	621,363	983,792	1,007,958	991,551	1,261,651	654,600	622,064	638,290	10,138,954
R01年度	合計 1,042,540	808,760	823,795	682,590	621,363	983,792	1,007,958	991,551	1,261,651	654,600	622,064	638,290	10,138,954
R02年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R02年度	外来 1,039,076	743,428	933,700	802,766	656,840	1,355,025	1,375,159	1,361,763	1,023,659	645,234	911,984	1,116,370	11,965,004
R02年度	合計 1,039,076	743,428	933,700	802,766	656,840	1,355,025	1,375,159	1,361,763	1,023,659	645,234	911,984	1,116,370	11,965,004
R03年度	入院 0	25,390	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25,390
R03年度	外来 1,075,468	863,310	743,006	730,937	961,982	979,380	1,316,750	1,040,041	1,555,770	686,394	655,755	1,175,130	11,783,923
R03年度	合計 1,075,468	888,700	743,006	730,937	961,982	979,380	1,316,750	1,040,041	1,555,770	686,394	655,755	1,175,130	11,809,313
R04年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R04年度	外来 726,174	891,390	615,350	741,824	737,760	827,360	870,990	436,340	521,550	332,220	330,900	213,240	7,245,098
R04年度	合計 726,174	891,390	615,350	741,824	737,760	827,360	870,990	436,340	521,550	332,220	330,900	213,240	7,245,098
R05年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R05年度	外来 611,740	689,074	509,068	366,810	489,890	379,308	483,640	556,170	434,920	327,769	298,304	341,050	5,487,743
R05年度	合計 611,740	689,074	509,068	366,810	489,890	379,308	483,640	556,170	434,920	327,769	298,304	341,050	5,487,743

整形外科・1日平均入院患者数



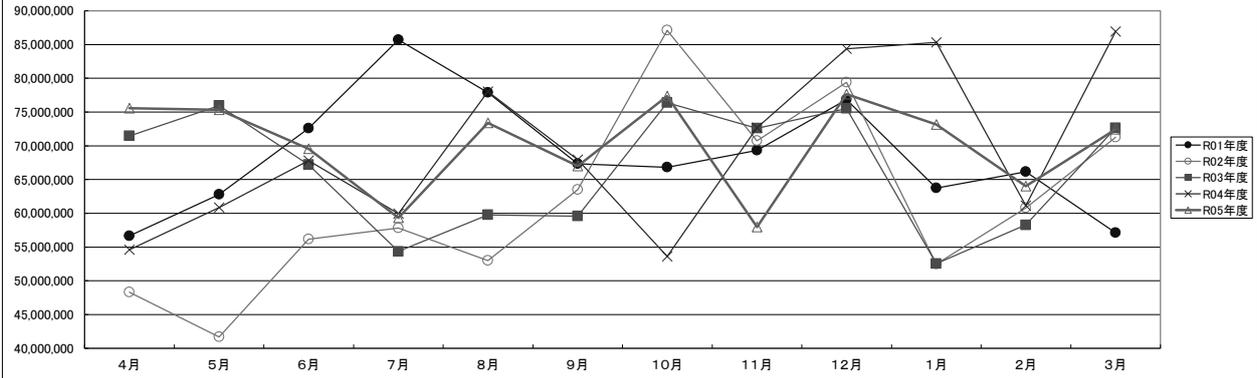
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	30.2	29.3	33.5	44.0	36.3	33.1	27.8	29.8	39.0	31.7	36.6	28.0	33.3
R02年度	24.8	17.9	26.4	27.4	26.7	31.2	42.4	41.5	37.3	34.9	32.7	31.2	31.2
R03年度	33.5	37.7	32.3	26.7	28.5	23.7	32.9	34.3	38.2	26.4	29.1	33.1	31.4
R04年度	25.4	26.5	31.3	25.1	27.7	27.6	24.0	25.6	35.9	40.9	31.1	37.3	29.9
R05年度	34.9	29.3	29.3	27.5	33.0	31.1	30.8	25.1	34.8	36.0	32.6	29.9	31.5

整形外科・1日平均外来患者数



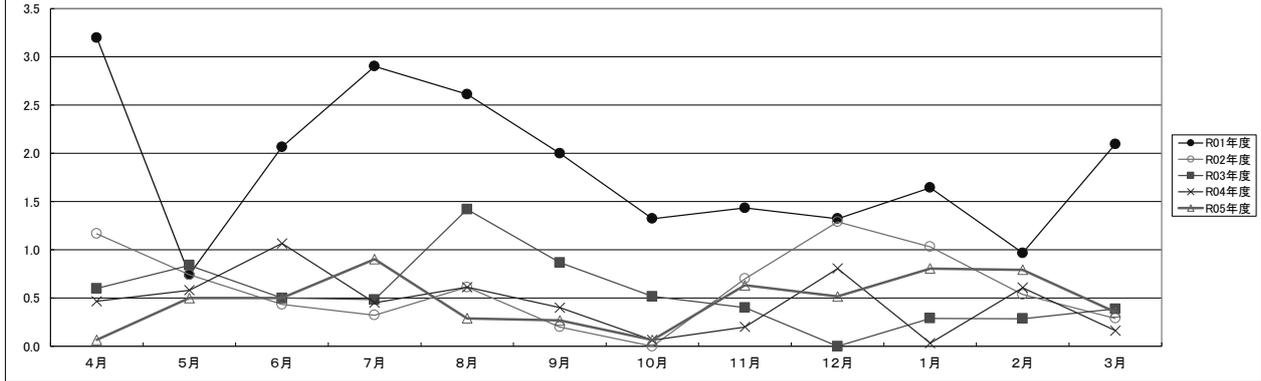
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	49.7	53.2	54.4	49.6	53.8	59.9	56.3	53.8	57.3	55.9	51.8	51.4	53.9
R02年度	31.4	39.7	40.1	44.6	46.1	46.4	44.7	45.1	47.1	46.6	47.9	52.3	44.3
R03年度	43.2	52.3	43.5	47.7	47.9	51.4	49.7	51.3	53.8	49.0	54.7	52.7	49.6
R04年度	49.5	53.1	57.0	56.3	55.0	57.6	54.8	50.9	57.7	52.1	53.3	52.6	54.2
R05年度	48.3	48.8	48.8	51.6	50.1	48.9	48.5	47.4	54.6	52.4	50.7	54.7	50.5

整形外科・合計稼働額



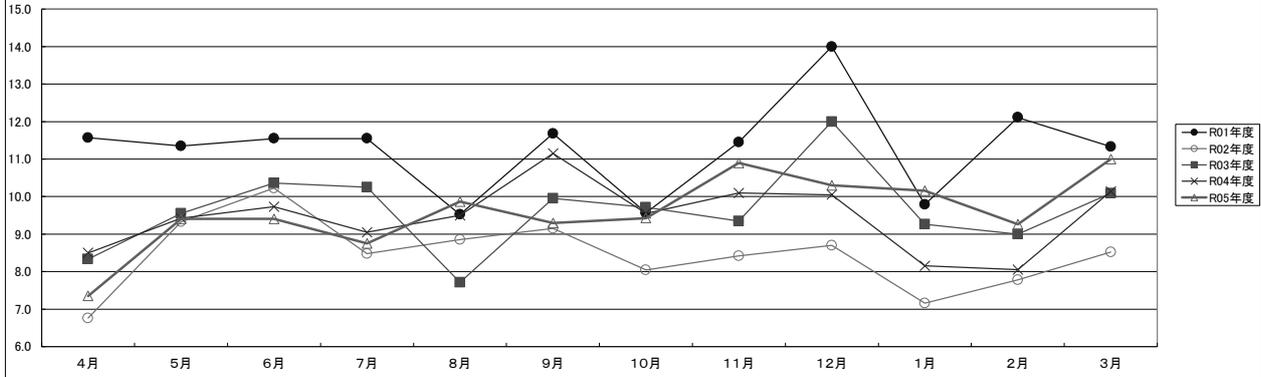
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	入院 43,870,322	48,625,572	57,685,475	71,895,928	62,646,934	53,546,404	51,108,028	56,548,872	64,546,069	52,717,874	57,682,397	46,793,771	667,667,646
R01年度	外来 12,788,427	14,174,984	14,919,711	13,802,934	15,220,489	13,807,632	15,697,498	12,784,266	12,296,379	11,006,793	8,463,388	10,316,600	155,279,101
R01年度	合計 56,658,749	62,800,556	72,605,186	85,698,862	77,867,423	67,354,036	66,805,526	69,333,138	76,842,448	63,724,667	66,145,785	57,110,371	822,946,747
R02年度	入院 43,679,422	36,267,092	49,716,790	51,134,399	45,877,639	56,957,457	79,572,863	64,543,340	71,871,404	45,554,952	54,569,875	61,962,342	661,707,575
R02年度	外来 4,642,765	5,415,210	6,453,988	6,680,945	7,114,879	6,535,298	7,522,596	6,197,383	7,531,103	6,905,890	6,232,632	9,298,612	80,531,301
R02年度	合計 48,322,187	41,682,302	56,170,778	57,815,344	52,992,518	63,492,755	87,095,459	70,740,723	79,402,507	52,460,842	60,802,507	71,260,954	742,238,876
R03年度	入院 63,856,899	68,411,709	60,010,458	46,796,171	52,100,169	52,025,872	67,697,433	64,824,410	67,829,383	45,730,032	50,581,772	64,187,229	704,051,537
R03年度	外来 7,575,724	7,555,282	7,166,528	7,547,035	7,676,364	7,565,321	8,683,254	7,762,155	7,703,762	6,816,274	7,694,545	8,431,546	92,177,790
R03年度	合計 71,432,623	75,966,991	67,176,986	54,343,206	59,776,533	59,591,193	76,380,687	72,586,565	75,533,145	52,546,306	58,276,317	72,618,775	796,229,327
R04年度	入院 46,935,757	53,755,021	58,339,912	51,764,669	68,863,819	60,291,884	45,496,340	66,022,786	76,645,595	78,322,238	54,224,480	79,794,896	740,457,397
R04年度	外来 7,653,546	7,101,844	9,488,432	8,183,649	9,145,017	7,678,165	8,117,890	6,670,000	7,717,050	6,989,757	6,899,072	7,124,724	92,769,146
R04年度	合計 54,589,303	60,856,865	67,828,344	59,948,318	78,008,836	67,970,049	53,614,230	72,692,786	84,362,645	85,311,995	61,123,552	86,919,620	833,226,543
R05年度	入院 67,879,950	67,424,472	61,653,129	52,436,805	64,978,263	60,131,725	68,828,860	51,137,881	68,990,678	64,585,745	56,695,786	63,456,678	748,199,972
R05年度	外来 7,685,151	7,900,223	7,916,048	6,908,661	8,424,035	6,874,130	8,547,267	6,831,182	8,660,909	8,569,126	7,326,303	9,010,251	94,653,086
R05年度	合計 75,565,101	75,324,695	69,569,177	59,345,466	73,402,298	67,005,855	77,376,127	57,969,063	77,651,587	73,154,871	64,022,089	72,466,929	842,853,058

産婦人科・1日平均入院患者数



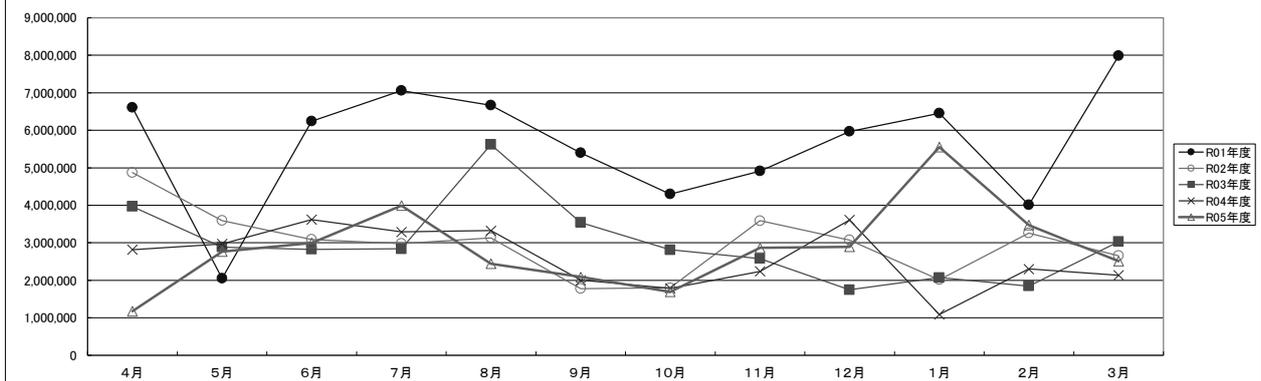
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	3.2	0.7	2.1	2.9	2.6	2.0	1.3	1.4	1.3	1.6	1.0	2.1	1.9
R02年度	1.2	0.7	0.4	0.3	0.6	0.2	0.0	0.7	1.3	1.0	0.5	0.3	0.6
R03年度	0.6	0.8	0.5	0.5	1.4	0.9	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.6
R04年度	0.5	0.6	1.1	0.5	0.6	0.4	0.1	0.2	0.8	0.0	0.6	0.2	0.5
R05年度	0.1	0.5	0.5	0.9	0.3	0.3	0.1	0.6	0.5	0.8	0.8	0.4	0.5

産婦人科・1日平均外来患者数



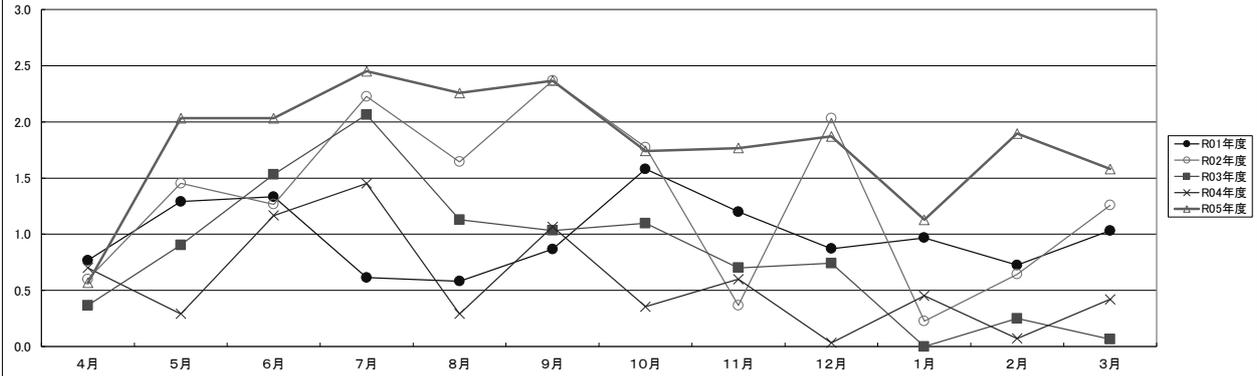
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	11.6	11.4	11.6	11.6	11.6	9.5	11.7	9.6	11.5	14.0	9.8	12.1	11.3
R02年度	6.8	9.3	10.2	8.5	8.9	9.2	8.0	8.4	8.7	7.2	7.8	8.5	8.5
R03年度	8.3	9.6	10.4	10.3	7.7	10.0	9.7	9.4	12.0	9.3	8.0	10.1	9.6
R04年度	8.5	9.4	9.7	9.1	9.5	11.2	9.6	10.1	10.1	8.2	8.1	10.1	9.5
R05年度	7.4	9.4	9.4	8.8	9.9	9.3	9.4	10.9	10.3	10.2	9.3	11.0	9.8

産婦人科・合計稼働額



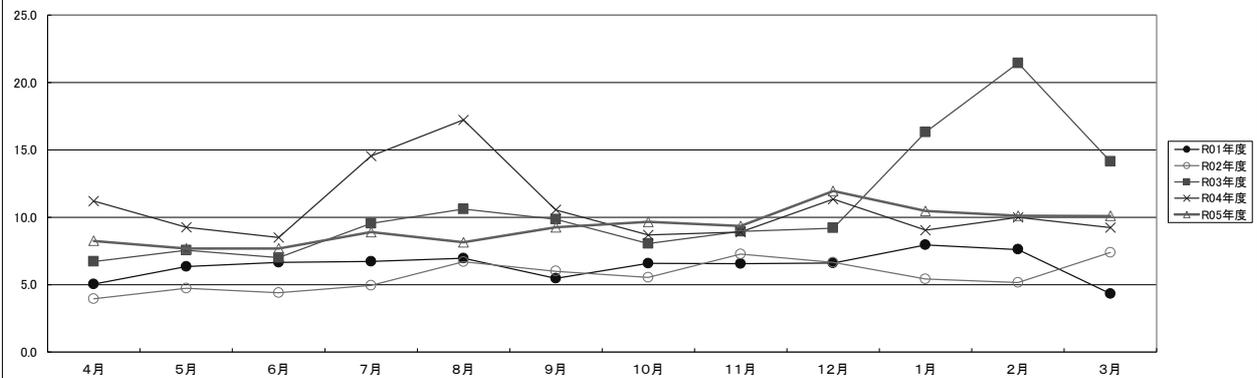
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	4,731,316	419,160	4,357,055	5,234,695	5,175,628	3,641,873	2,866,610	3,062,945	3,677,219	5,060,158	2,365,138	6,044,753	46,636,550
R01年度	1,878,554	1,632,158	1,879,872	1,824,174	1,486,968	1,753,122	1,431,496	1,848,233	2,294,552	1,390,699	1,645,644	1,941,190	21,006,662
R01年度	6,609,870	2,051,318	6,236,927	7,058,869	6,662,596	5,394,995	4,298,106	4,911,178	5,971,771	6,450,857	4,010,782	7,985,943	67,643,212
R02年度	3,636,270	2,383,610	1,289,510	1,455,860	1,687,020	271,080	0	2,310,430	0	947,650	1,934,420	1,163,240	18,879,240
R02年度	1,236,240	1,209,172	1,800,915	1,523,675	1,447,109	1,505,504	1,798,464	1,276,571	1,268,150	1,068,318	1,321,880	1,492,968	16,948,966
R02年度	4,872,510	3,592,782	3,090,425	2,979,535	3,134,129	1,776,584	1,798,464	3,587,001	3,068,300	2,015,968	3,256,300	2,656,208	35,828,206
R03年度	2,448,590	1,516,020	1,298,616	1,084,776	4,464,760	1,927,440	1,442,670	1,119,300	0	701,190	824,060	1,357,340	18,184,762
R03年度	1,516,446	1,370,018	1,522,687	1,753,340	1,154,070	1,616,244	1,369,252	1,458,374	1,747,992	1,370,199	1,023,628	1,672,806	17,575,056
R03年度	3,965,036	2,886,038	2,821,303	2,838,116	5,618,830	3,543,684	2,811,922	2,577,674	1,747,992	2,071,389	1,847,688	3,030,146	35,759,818
R04年度	1,658,430	1,603,510	2,112,165	1,696,638	1,757,330	665,910	145,800	683,810	2,252,940	75,500	1,191,840	560,230	14,404,103
R04年度	1,156,640	1,366,052	1,506,140	1,592,220	1,565,768	1,337,170	1,642,000	1,556,262	1,358,748	1,013,690	1,109,844	1,573,860	16,778,394
R04年度	2,815,070	2,969,562	3,618,305	3,288,858	3,323,098	2,003,080	1,787,800	2,240,072	3,611,688	1,089,190	2,301,684	2,134,090	31,182,497
R05年度	135,370	841,020	1,605,600	2,748,470	958,670	801,360	136,280	1,259,950	1,481,740	3,987,200	2,442,010	805,860	17,203,530
R05年度	1,040,420	1,925,184	1,389,776	1,240,660	1,484,768	1,286,370	1,557,990	1,603,470	1,408,140	1,564,752	1,032,410	1,705,400	17,239,340
R05年度	1,175,790	2,766,204	2,995,376	3,989,130	2,443,438	2,087,730	1,694,270	2,863,420	2,889,880	5,551,952	3,474,420	2,511,260	34,442,870

小児科・1日平均入院患者数



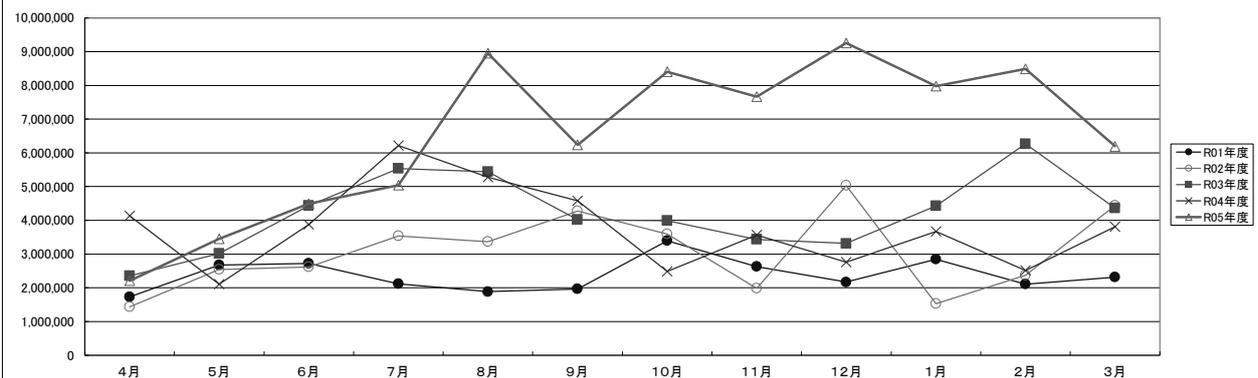
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	0.8	1.3	1.3	0.6	0.6	0.9	1.6	1.2	0.9	1.0	0.7	1.0	0.7
R02年度	0.6	1.5	1.3	2.2	1.6	2.4	1.8	0.4	2.0	0.2	0.6	1.3	1.0
R03年度	0.4	0.9	1.5	2.1	1.1	1.0	1.1	0.7	0.7	0.3	0.3	0.1	0.8
R04年度	0.7	0.3	1.2	1.5	0.3	1.1	0.4	0.6	0.0	0.5	0.1	0.4	0.6
R05年度	0.6	2.0	2.0	2.5	2.3	2.4	1.7	1.8	1.9	1.1	1.9	1.6	1.7

小児科・1日平均外来患者数



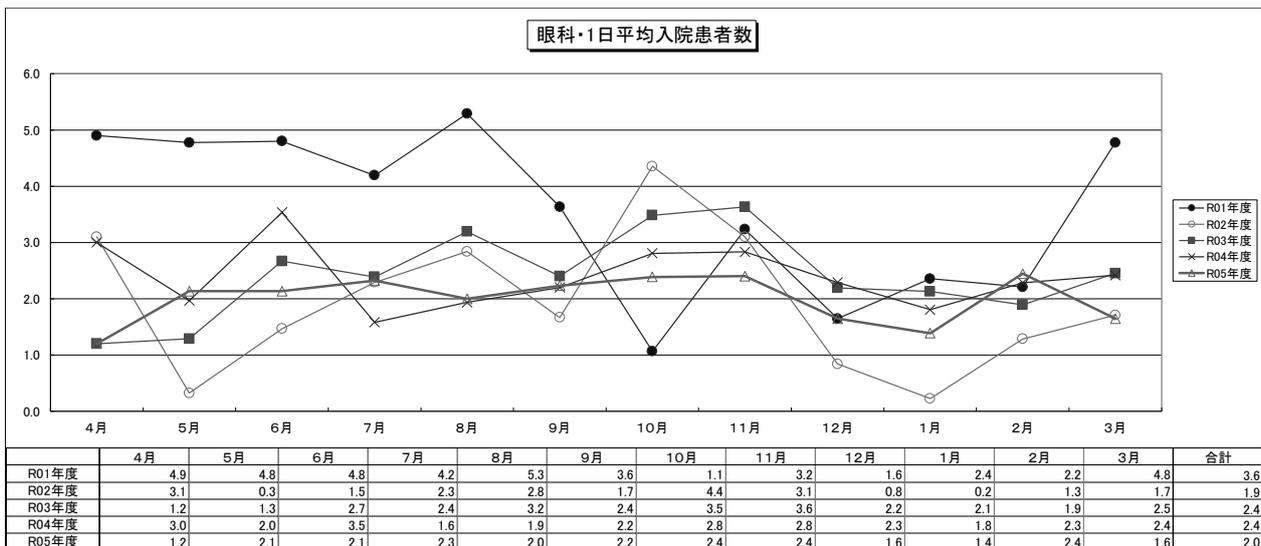
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	5.0	6.4	6.7	6.7	7.0	5.5	6.6	6.6	6.6	7.9	7.6	4.3	6.4
R02年度	4.0	4.7	4.4	5.0	6.7	6.0	5.5	7.3	6.7	5.4	5.2	7.4	5.7
R03年度	6.7	7.6	7.0	9.6	10.6	9.9	8.0	9.0	9.2	16.3	21.4	14.1	10.7
R04年度	11.2	9.3	8.5	14.6	17.2	10.6	8.7	8.9	11.4	9.1	10.0	9.2	10.7
R05年度	8.3	7.7	7.7	8.9	8.1	9.3	9.7	9.4	12.0	10.5	10.1	10.1	9.4

小児科・合計稼働額

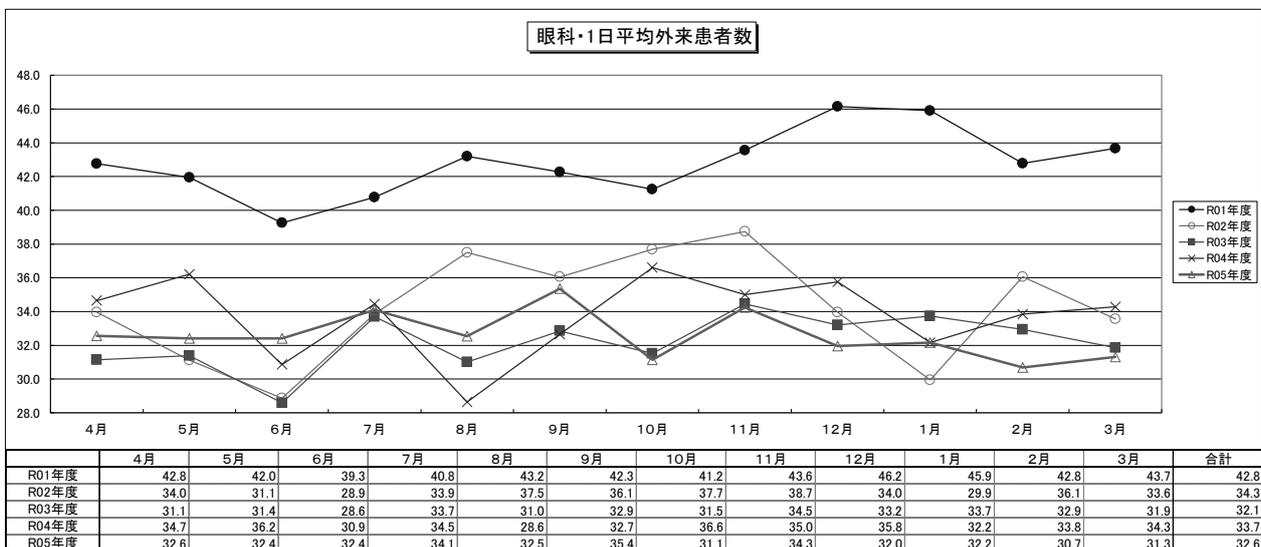


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
R01年度	入院	1,183,992	1,974,402	2,049,952	1,147,828	859,875	1,333,422	2,647,440	1,981,450	1,283,650	1,888,990	1,143,530	1,535,590	19,030,121
	外来	548,510	703,712	674,742	965,830	1,025,927	636,244	747,398	647,970	885,366	957,475	965,943	781,038	9,540,155
	合計	1,732,502	2,678,114	2,724,694	2,113,658	1,885,802	1,969,666	3,394,838	2,629,420	2,169,016	2,846,465	2,109,473	2,316,628	28,570,276
R02年度	入院	948,620	2,022,195	2,014,065	2,818,635	1,956,045	2,982,230	2,313,715	394,570	3,497,480	283,560	1,108,190	2,286,900	22,626,205
	外来	487,479	525,095	602,883	714,968	1,412,628	1,289,923	1,281,884	1,589,100	1,533,062	1,246,183	1,260,882	2,147,418	14,091,505
	合計	1,436,099	2,547,290	2,616,948	3,533,603	3,368,673	4,272,153	3,595,599	1,983,670	5,030,542	1,529,743	2,369,072	4,434,318	36,717,710
R03年度	入院	663,460	1,629,690	2,621,650	3,028,280	2,272,560	1,121,540	1,943,600	1,230,630	1,157,280	0	381,600	111,420	16,161,710
	外来	1,691,121	1,390,397	1,816,709	2,509,680	3,166,860	2,897,370	2,049,778	2,201,563	2,158,472	4,424,533	5,886,175	4,246,749	34,439,407
	合計	2,354,581	3,020,087	4,438,359	5,537,960	5,439,420	4,018,910	3,993,378	3,432,193	3,315,752	4,424,533	6,267,775	4,358,169	50,801,117
R04年度	入院	1,802,180	500,860	2,043,760	2,520,560	504,800	1,876,230	626,040	1,311,290	98,140	1,158,920	148,430	1,715,670	14,306,880
	外来	2,335,902	1,606,957	1,833,936	3,697,211	4,779,113	2,701,314	1,856,787	2,252,381	2,666,847	2,515,288	2,363,448	2,093,663	30,702,847
	合計	4,138,082	2,107,817	3,877,696	6,217,771	5,283,913	4,577,544	2,482,827	3,563,671	2,764,987	3,674,208	2,511,878	3,809,333	45,009,727
R05年度	入院	790,380	2,027,490	2,969,430	3,692,010	7,376,040	4,637,390	6,996,360	6,391,370	7,641,840	6,474,150	7,081,240	4,761,300	60,839,000
	外来	1,418,440	1,422,121	1,522,771	1,354,630	1,577,830	1,599,937	1,406,344	1,271,572	1,615,460	1,500,214	1,408,849	1,432,563	17,530,731
	合計	2,208,820	3,449,611	4,492,201	5,046,640	8,953,870	6,237,327	8,402,704	7,662,942	9,257,300	7,974,364	8,490,089	6,193,863	78,369,731

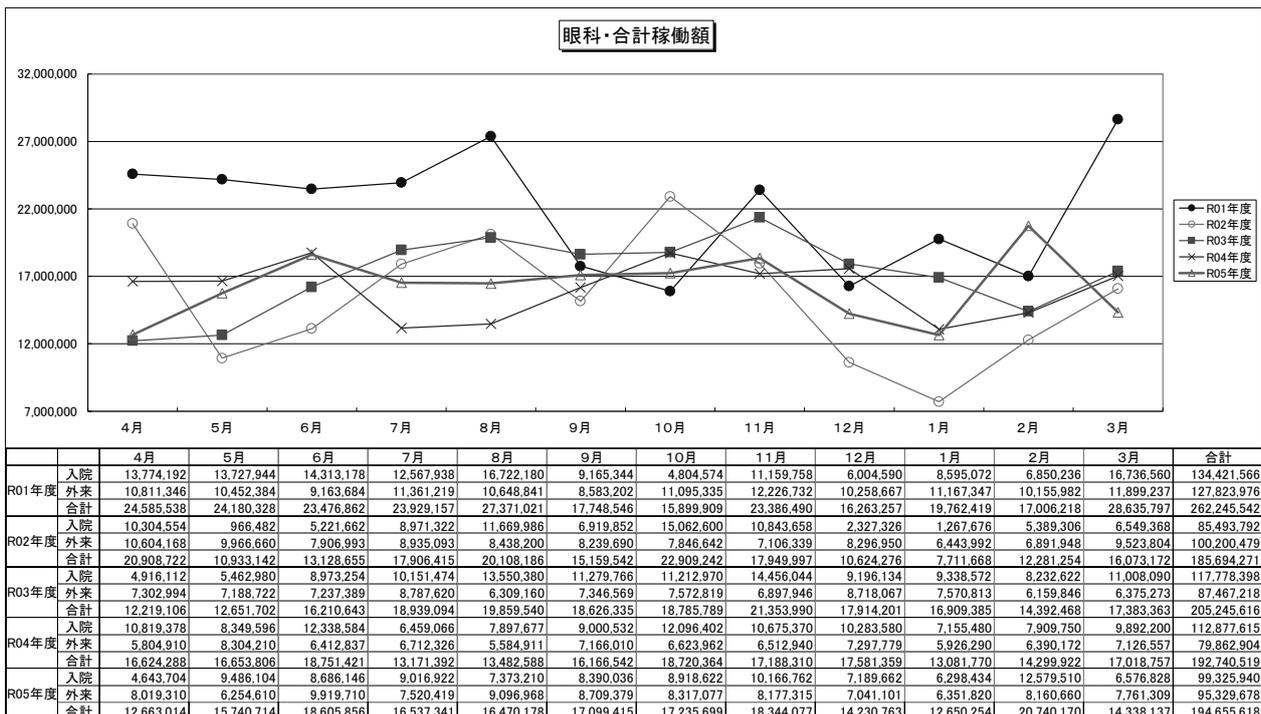
眼科・1日平均入院患者数



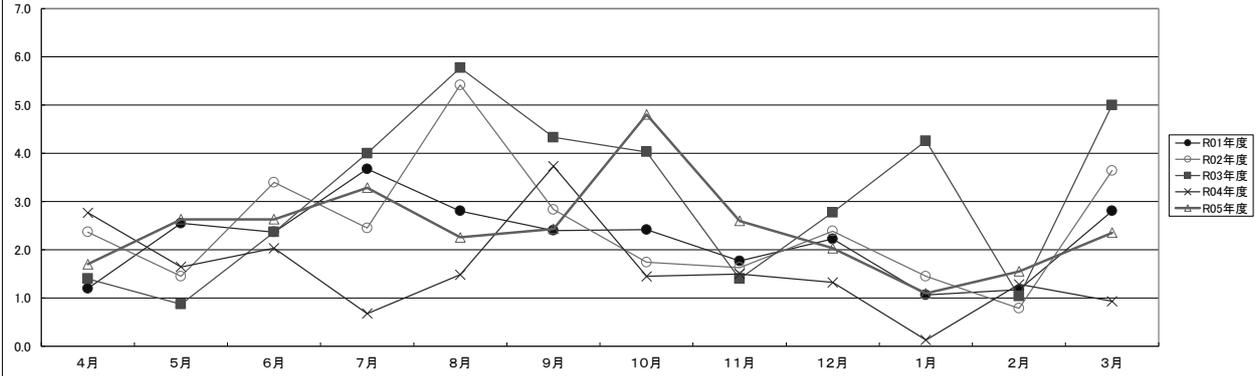
眼科・1日平均外来患者数



眼科・合計稼働額

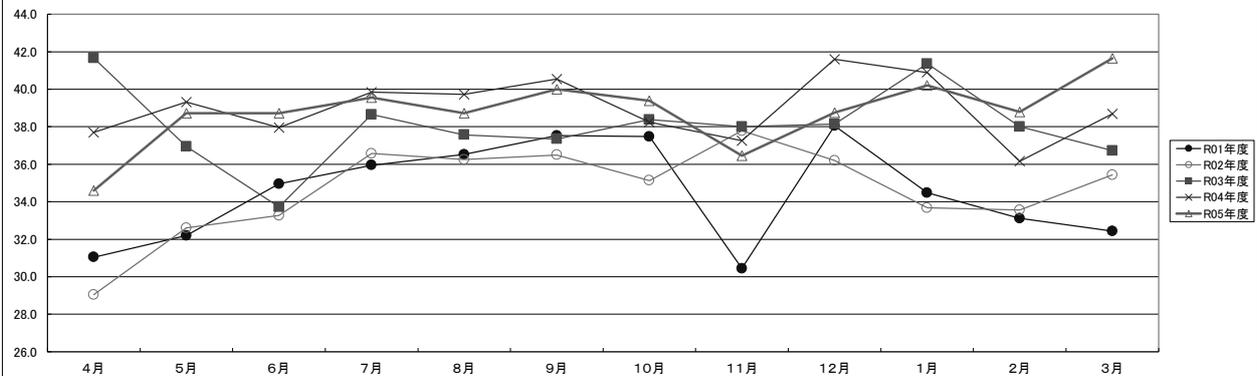


皮膚科・1日平均入院患者数



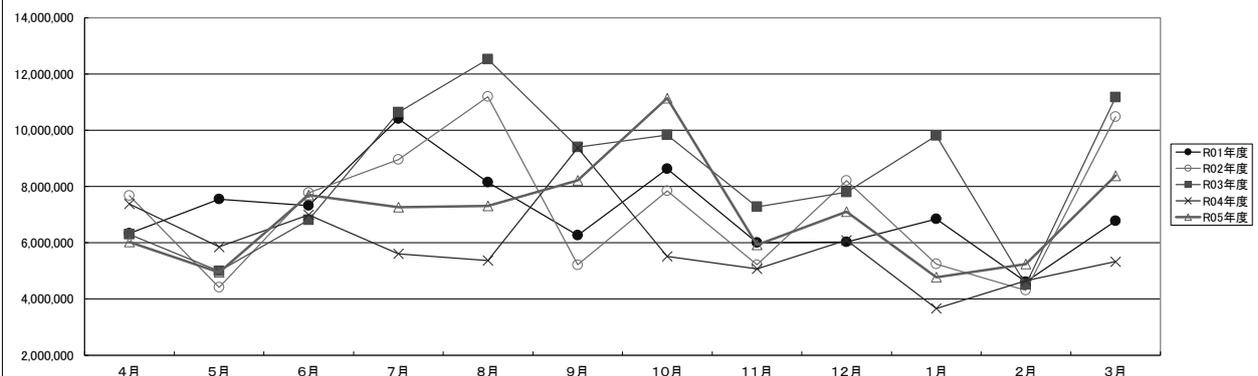
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	1.2	2.5	2.4	3.7	2.8	2.4	2.4	1.8	2.2	1.1	1.2	2.8	2.2
R02年度	2.4	1.5	3.4	2.5	5.4	2.8	1.7	1.6	2.4	1.5	0.8	3.6	2.5
R03年度	1.4	0.9	2.4	4.0	5.8	4.3	4.0	1.4	2.8	4.3	1.0	5.0	3.1
R04年度	2.8	1.6	2.0	0.7	1.5	3.7	1.5	1.5	1.3	0.1	1.3	0.9	1.6
R05年度	1.7	2.6	2.6	3.3	2.3	2.4	4.8	2.6	2.0	1.1	1.6	2.4	2.4

皮膚科・1日平均外来患者数



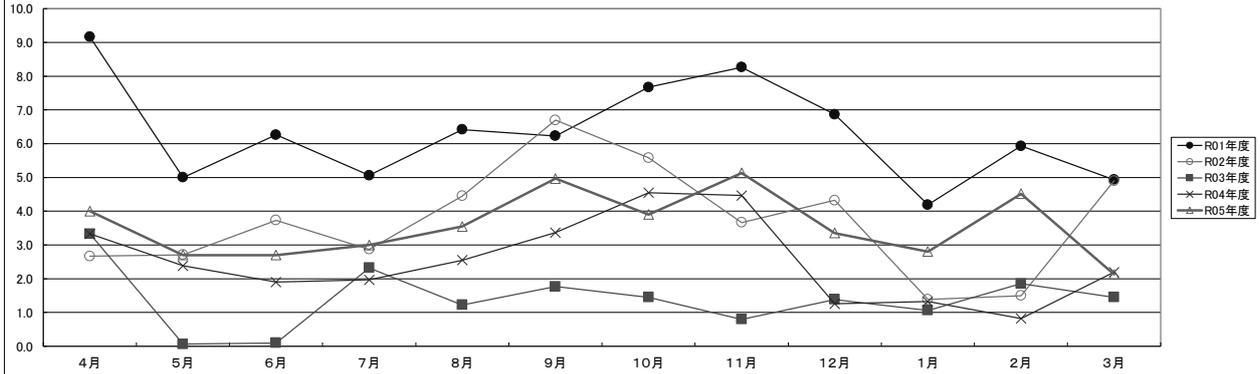
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	31.0	32.2	35.0	36.0	36.5	37.5	37.5	30.5	38.1	34.5	33.1	32.4	34.5
R02年度	29.0	32.6	33.3	36.6	36.3	36.5	35.1	37.8	36.2	33.7	33.6	35.4	34.0
R03年度	41.7	36.9	33.7	38.7	37.6	37.4	38.4	38.0	38.2	41.4	38.0	36.7	38.7
R04年度	37.7	39.3	38.0	39.9	39.7	40.6	38.3	37.3	41.6	40.9	36.2	38.7	39.0
R05年度	34.6	38.7	38.7	39.6	38.7	40.0	39.4	36.5	38.8	40.2	38.8	41.7	38.6

皮膚科・合計稼働額



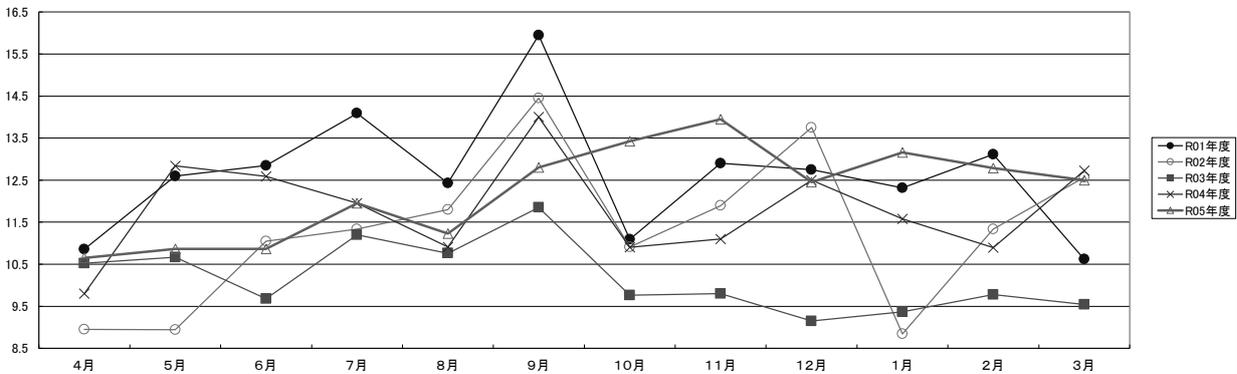
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	入院 2,639,415 外来 3,693,950 合計 6,333,365	入院 3,212,986 外来 4,336,944 合計 7,549,930	入院 3,512,808 外来 3,808,345 合計 7,321,153	入院 6,065,559 外来 4,345,872 合計 10,411,431	入院 3,455,364 外来 4,699,209 合計 8,154,573	入院 2,611,640 外来 3,650,749 合計 6,262,389	入院 2,960,456 外来 5,667,781 合計 8,628,237	入院 2,430,820 外来 3,570,232 合計 6,001,052	入院 2,504,941 外来 3,521,320 合計 6,026,261	入院 1,162,838 外来 5,679,816 合計 6,842,654	入院 1,525,160 外来 3,086,831 合計 4,611,991	入院 3,544,392 外来 3,234,080 合計 6,778,472	入院 35,626,379 外来 49,295,129 合計 84,921,508
R02年度	入院 2,871,120 外来 4,805,880 合計 7,677,000	入院 1,998,650 外来 2,415,668 合計 4,414,318	入院 4,376,832 外来 3,400,871 合計 7,777,703	入院 3,303,008 外来 5,659,130 合計 8,962,138	入院 7,210,687 外来 3,983,276 合計 11,193,963	入院 2,798,093 外来 2,417,105 合計 5,215,198	入院 1,878,950 外来 5,970,763 合計 7,849,713	入院 2,334,160 外来 2,881,651 合計 5,215,811	入院 4,049,370 外来 4,155,484 合計 8,204,854	入院 1,578,094 外来 3,665,607 合計 5,243,701	入院 972,900 外来 3,335,430 合計 4,308,330	入院 5,580,056 外来 4,902,311 合計 10,482,367	入院 38,951,920 外来 47,593,176 合計 86,545,096
R03年度	入院 1,763,580 外来 4,532,186 合計 6,295,766	入院 1,332,270 外来 3,665,692 合計 4,997,962	入院 3,349,458 外来 3,458,641 合計 6,808,099	入院 6,026,466 外来 4,607,407 合計 10,633,873	入院 7,856,480 外来 4,671,292 合計 12,527,772	入院 9,373,020 外来 4,026,052 合計 13,399,072	入院 5,314,596 外来 4,512,727 合計 9,827,323	入院 2,019,810 外来 5,262,049 合計 7,281,859	入院 4,324,656 外来 3,478,608 合計 7,803,264	入院 4,892,254 外来 4,921,690 合計 9,813,944	入院 1,334,088 外来 3,180,271 合計 4,514,359	入院 6,635,484 外来 4,538,882 合計 11,174,366	入院 50,222,162 外来 50,855,497 合計 101,077,659
R04年度	入院 3,825,444 外来 3,553,211 合計 7,378,655	入院 2,131,890 外来 2,131,890 合計 4,263,780	入院 2,508,661 外来 4,479,558 合計 6,988,219	入院 1,444,108 外来 4,161,566 合計 5,605,674	入院 1,311,550 外来 4,059,006 合計 5,370,556	入院 5,042,876 外来 4,331,611 合計 9,374,487	入院 2,034,272 外来 3,486,111 合計 5,520,383	入院 2,158,026 外来 2,912,939 合計 5,070,965	入院 1,763,122 外来 4,326,754 合計 6,089,876	入院 259,584 外来 3,403,786 合計 3,663,370	入院 1,640,802 外来 3,008,566 合計 4,649,368	入院 1,236,452 外来 4,092,612 合計 5,329,064	入院 25,356,787 外来 45,536,125 合計 70,892,912
R05年度	入院 2,115,484 外来 3,912,330 合計 6,027,814	入院 2,560,839 外来 2,383,698 合計 4,944,537	入院 3,240,572 外来 4,453,986 合計 7,694,558	入院 3,953,677 外来 3,307,223 合計 7,260,900	入院 3,778,081 外来 3,535,617 合計 7,313,698	入院 3,730,968 外来 4,489,025 合計 8,219,993	入院 6,838,538 外来 4,305,261 合計 11,143,799	入院 2,822,574 外来 3,102,867 合計 5,925,441	入院 2,666,240 外来 4,437,056 合計 7,103,296	入院 1,343,450 外来 3,430,379 合計 4,773,829	入院 2,129,030 外来 3,116,313 合計 5,245,343	入院 3,324,302 外来 5,060,552 合計 8,384,854	入院 38,503,755 外来 45,534,307 合計 84,038,062

形成外科・1日平均入院患者数



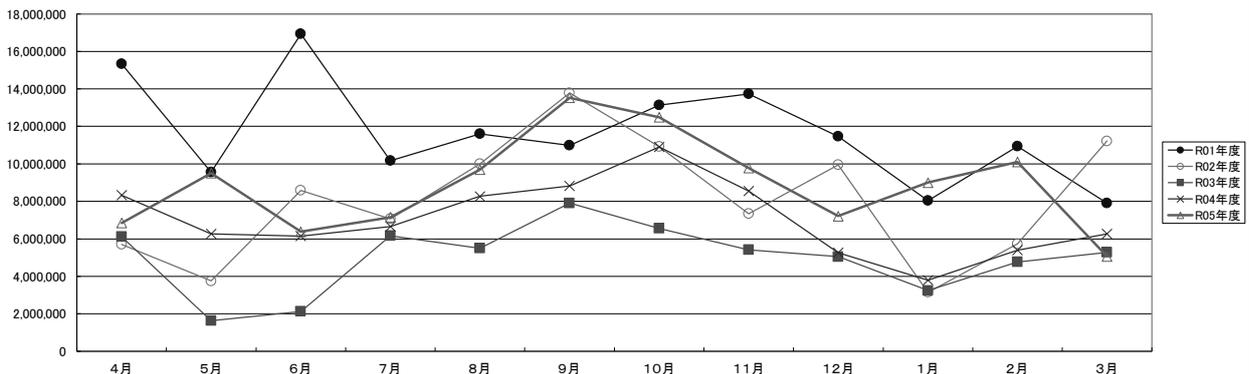
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	9.2	5.0	6.3	5.1	6.4	6.2	7.7	8.3	6.9	4.2	5.9	4.9	6.3
R02年度	2.7	2.7	3.7	2.9	4.5	6.7	5.6	3.7	4.3	1.4	1.5	4.9	3.7
R03年度	3.3	0.1	0.1	2.3	1.2	1.8	1.5	0.8	1.4	1.1	1.9	1.5	1.4
R04年度	3.3	2.4	1.9	2.0	2.5	3.4	4.5	4.5	1.3	1.3	0.8	2.2	2.5
R05年度	4.0	2.7	2.7	3.0	3.5	5.0	3.9	5.1	3.4	2.8	4.5	2.1	3.7

形成外科・1日平均外来患者数



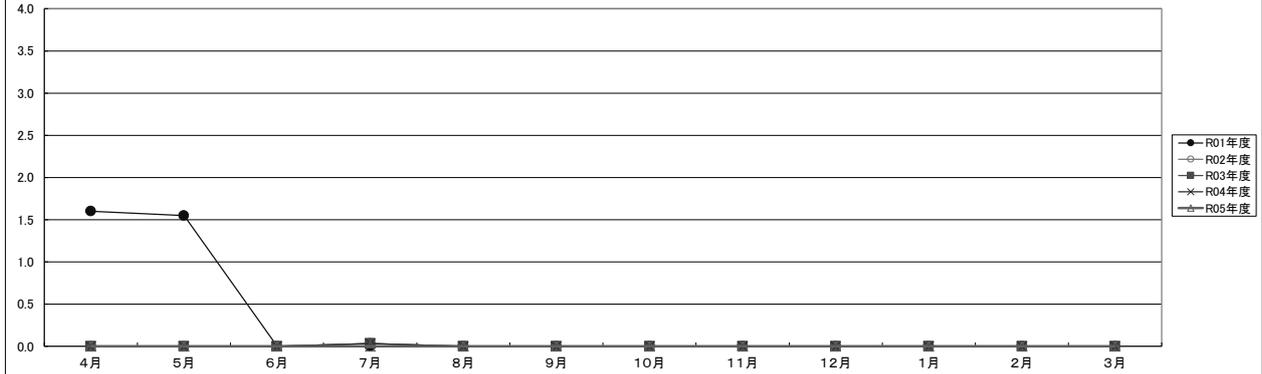
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	10.9	12.6	12.9	14.1	12.4	15.9	11.1	12.9	12.8	12.3	13.1	10.6	12.6
R02年度	9.0	8.9	11.0	11.3	11.8	14.5	10.9	11.9	13.8	8.8	11.3	12.6	11.3
R03年度	10.5	10.7	9.7	11.2	10.8	11.9	9.8	9.8	9.2	9.4	9.8	9.5	10.2
R04年度	9.8	12.8	12.6	12.0	10.9	14.0	10.9	11.1	12.5	11.6	10.9	12.7	11.8
R05年度	10.7	10.9	10.9	12.0	11.2	12.8	13.4	14.0	12.5	13.2	12.8	12.5	12.3

形成外科・合計稼働額



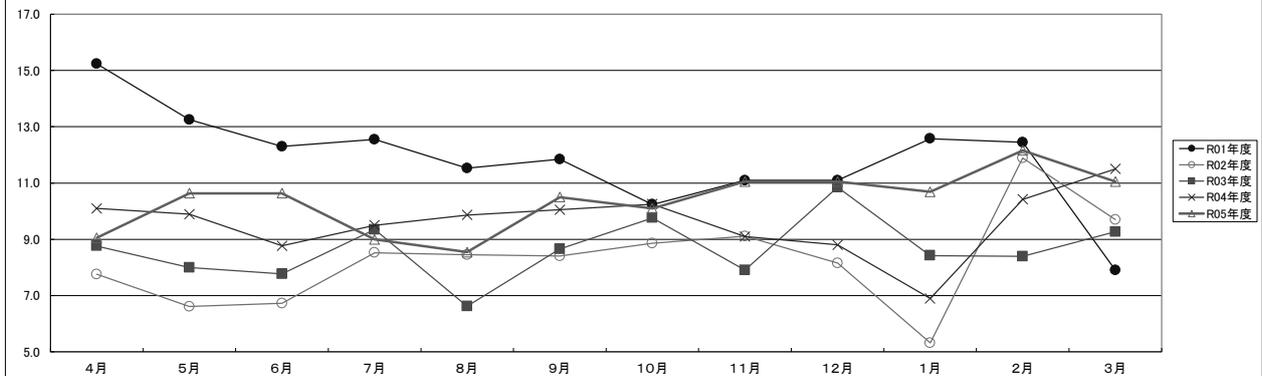
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
R01年度	入院	13,829,392	7,864,374	14,569,946	7,610,359	9,225,647	8,363,634	11,152,399	11,563,418	9,331,855	6,437,739	8,744,818	6,085,372	114,778,953
	外来	1,498,332	1,686,336	2,357,953	2,553,449	2,380,928	2,624,181	1,982,578	2,170,621	2,137,189	1,596,478	2,192,304	1,819,193	24,999,542
	合計	15,327,724	9,550,710	16,927,899	10,163,808	11,606,575	10,987,815	13,134,977	13,734,039	11,469,044	8,034,217	10,937,122	7,904,565	139,778,495
R02年度	入院	4,462,971	2,742,070	6,578,639	4,571,076	7,686,134	10,717,357	9,045,440	5,519,483	7,516,280	1,650,210	3,614,026	8,904,328	73,008,014
	外来	1,243,017	1,010,282	1,999,446	2,501,654	2,312,017	3,066,655	1,879,632	1,824,598	2,423,795	1,492,052	2,114,125	2,311,712	24,178,985
	合計	5,705,988	3,752,352	8,578,085	7,072,730	9,998,151	13,784,012	10,925,072	7,344,081	9,940,075	3,142,262	5,728,151	11,216,040	97,186,999
R03年度	入院	4,413,876	32,240	271,930	3,980,852	2,929,018	5,208,325	3,704,019	2,750,560	3,309,650	1,721,992	2,781,014	3,299,290	34,402,766
	外来	1,702,660	1,599,653	1,852,792	2,187,254	2,571,458	2,700,209	2,853,472	2,669,830	1,737,958	1,518,551	1,983,376	1,974,444	25,351,657
	合計	6,116,536	1,631,893	2,124,722	6,168,106	5,500,476	7,908,534	6,557,491	5,420,390	5,047,608	3,240,543	4,764,390	5,273,734	59,754,423
R04年度	入院	5,885,077	4,165,208	3,081,284	4,674,852	5,584,750	5,434,178	8,934,575	6,063,290	2,641,838	2,130,916	2,963,938	3,797,964	55,357,870
	外来	2,437,245	2,098,760	3,057,832	1,984,248	2,682,382	3,382,327	1,966,769	2,484,780	2,614,393	1,660,312	2,435,846	2,470,720	29,275,614
	合計	8,322,322	6,263,968	6,139,116	6,659,100	8,267,132	8,816,505	10,901,344	8,548,070	5,256,231	3,791,228	5,399,784	6,268,684	84,633,484
R05年度	入院	5,229,398	7,715,546	4,179,383	5,436,210	6,855,452	11,041,842	10,032,424	7,374,534	5,249,653	7,061,664	7,848,728	2,548,468	80,573,302
	外来	1,608,499	1,790,962	2,197,130	1,717,628	2,840,523	2,483,590	2,457,810	2,402,695	1,961,960	1,939,104	2,248,847	2,513,797	26,162,545
	合計	6,837,897	9,506,508	6,376,513	7,153,838	9,695,975	13,525,432	12,490,234	9,777,229	7,211,613	9,000,768	10,097,575	5,062,265	106,735,847

耳鼻咽喉科・1日平均入院患者数



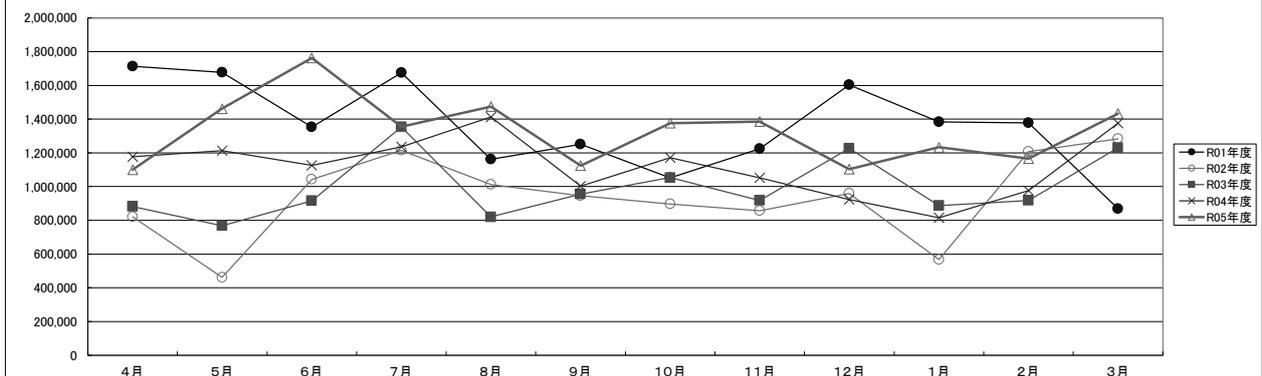
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	1.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R05年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

耳鼻咽喉科・1日平均外来患者数



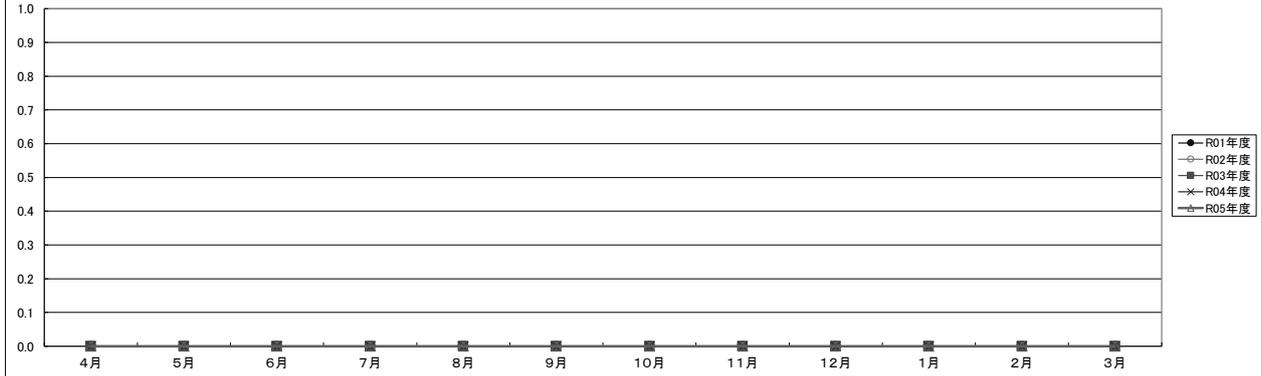
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	15.2	13.3	12.3	12.5	11.5	11.8	10.2	11.1	11.1	12.6	12.4	7.9	11.9
R02年度	7.8	6.6	6.7	8.5	8.5	8.4	8.9	9.1	8.2	5.3	11.9	9.7	8.3
R03年度	8.8	8.0	7.8	9.4	6.6	8.7	9.8	7.9	10.9	8.4	8.4	9.3	8.6
R04年度	10.1	9.9	8.8	9.5	9.9	10.1	10.3	9.1	8.8	6.9	10.4	11.5	9.6
R05年度	9.1	10.6	10.6	9.0	8.5	10.5	10.1	11.1	11.1	10.7	12.2	11.1	10.3

耳鼻咽喉科・合計稼働額



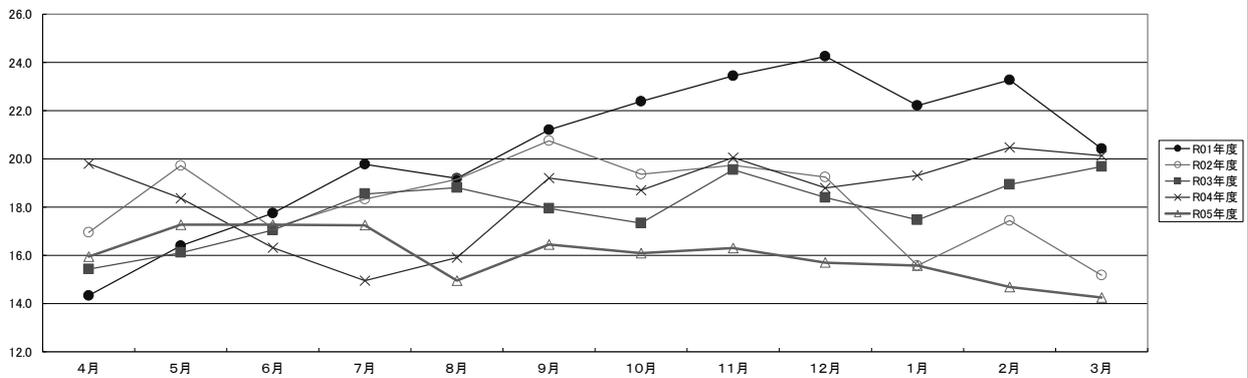
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R01年度	外来 1,713,588	1,677,840	1,353,946	1,676,050	1,161,220	1,251,746	1,051,777	1,224,407	1,603,860	1,383,868	1,377,863	869,186	16,345,351
R01年度	合計 1,713,588	1,677,840	1,353,946	1,676,050	1,161,220	1,251,746	1,051,777	1,224,407	1,603,860	1,383,868	1,377,863	869,186	16,345,351
R02年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R02年度	外来 821,268	462,214	1,042,185	1,215,867	1,012,100	945,588	897,404	857,694	958,915	567,536	1,208,144	1,283,246	11,272,161
R02年度	合計 821,268	462,214	1,042,185	1,215,867	1,012,100	945,588	897,404	857,694	958,915	567,536	1,208,144	1,283,246	11,272,161
R03年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R03年度	外来 882,080	768,024	915,965	1,353,422	820,100	956,084	1,053,067	917,820	1,226,177	887,808	918,174	1,230,061	11,928,782
R03年度	合計 882,080	768,024	915,965	1,353,422	820,100	956,084	1,053,067	917,820	1,226,177	887,808	918,174	1,230,061	11,928,782
R04年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R04年度	外来 1,176,569	1,213,295	1,125,529	1,235,304	1,412,752	1,002,194	1,171,456	1,052,709	923,274	815,350	977,200	1,375,688	13,481,320
R04年度	合計 1,176,569	1,213,295	1,125,529	1,235,304	1,412,752	1,002,194	1,171,456	1,052,709	923,274	815,350	977,200	1,375,688	13,481,320
R05年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R05年度	外来 1,100,380	1,462,210	1,762,490	1,355,650	1,474,730	1,124,104	1,376,040	1,385,151	1,103,400	1,232,960	1,166,008	1,432,380	15,975,503
R05年度	合計 1,100,380	1,462,210	1,762,490	1,355,650	1,474,730	1,124,104	1,376,040	1,385,151	1,103,400	1,232,960	1,166,008	1,432,380	15,975,503

リハビリテーション科・1日平均入院患者数



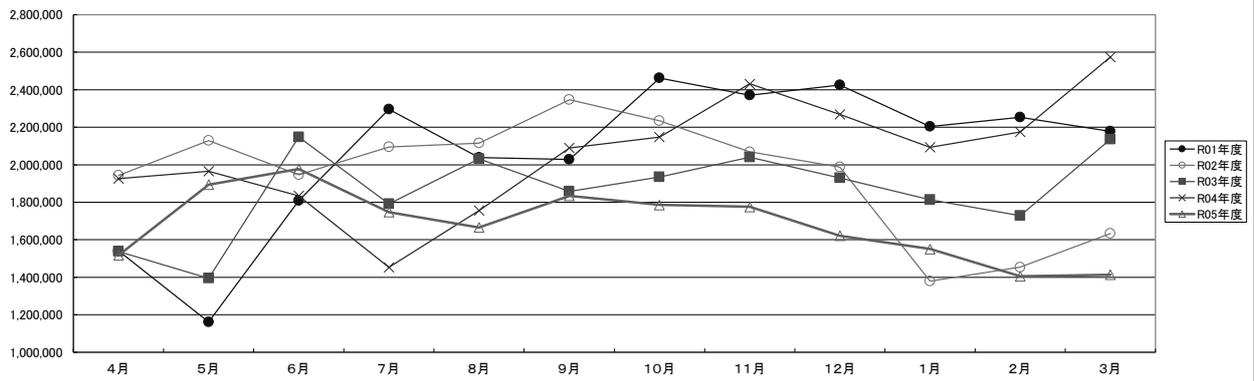
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R02年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R03年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R04年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
R05年度				0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

リハビリテーション科・1日平均外来患者数



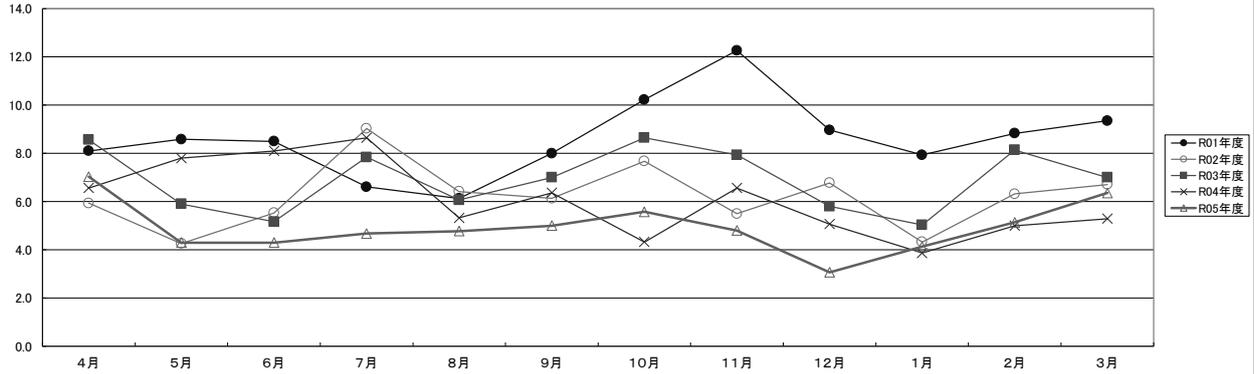
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	14.3	16.4	17.8	19.8	19.2	21.2	22.4	23.5	24.3	22.2	23.3	20.4	20.3
R02年度	17.0	19.7	17.1	18.3	19.2	20.8	19.4	19.7	19.3	15.6	17.4	15.2	18.2
R03年度	15.4	16.1	17.0	18.6	18.8	18.0	17.3	19.6	18.4	17.5	18.9	19.7	17.9
R04年度	19.8	18.4	16.3	15.0	15.9	19.2	18.7	20.1	18.8	19.3	20.5	20.1	18.5
R05年度	16.0	17.3	17.3	17.3	15.0	16.5	16.1	16.3	15.7	15.6	14.7	14.3	16.0

リハビリテーション科・合計稼働額



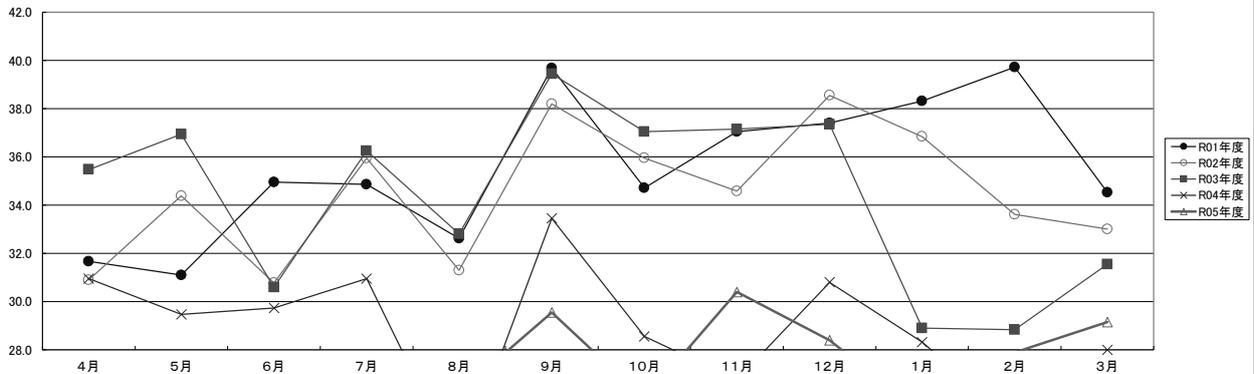
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R01年度	外来 1,540,180	1,161,610	1,808,966	2,295,979	2,038,022	2,027,829	2,462,080	2,370,700	2,424,635	2,204,607	2,253,864	2,177,617	24,766,089
R01年度	合計 1,540,180	1,161,610	1,808,966	2,295,979	2,038,022	2,027,829	2,462,080	2,370,700	2,424,635	2,204,607	2,253,864	2,177,617	24,766,089
R02年度	入院 0	79,523	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	79,523
R02年度	外来 1,943,887	2,048,651	1,946,312	2,094,537	2,114,637	2,346,993	2,234,591	2,068,376	1,987,259	1,379,299	1,453,520	1,633,048	23,251,110
R02年度	合計 1,943,887	2,128,174	1,946,312	2,094,537	2,114,637	2,346,993	2,234,591	2,068,376	1,987,259	1,379,299	1,453,520	1,633,048	23,330,633
R03年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R03年度	外来 1,538,433	1,394,281	2,147,914	1,792,281	2,031,085	1,857,696	1,934,939	2,040,208	1,929,248	1,813,342	1,729,127	2,136,237	22,344,791
R03年度	合計 1,538,433	1,394,281	2,147,914	1,792,281	2,031,085	1,857,696	1,934,939	2,040,208	1,929,248	1,813,342	1,729,127	2,136,237	22,344,791
R04年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R04年度	外来 1,925,871	1,965,252	1,833,749	1,453,056	1,755,645	2,088,945	2,147,470	2,431,288	2,268,767	2,092,472	2,175,068	2,574,344	24,711,927
R04年度	合計 1,925,871	1,965,252	1,833,749	1,453,056	1,755,645	2,088,945	2,147,470	2,431,288	2,268,767	2,092,472	2,175,068	2,574,344	24,711,927
R05年度	入院 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R05年度	外来 1,517,006	1,894,469	1,977,271	1,747,307	1,665,413	1,834,698	1,785,509	1,775,365	1,621,901	1,550,572	1,405,481	1,413,844	20,188,836
R05年度	合計 1,517,006	1,894,469	1,977,271	1,747,307	1,665,413	1,834,698	1,785,509	1,775,365	1,621,901	1,550,572	1,405,481	1,413,844	20,188,836

泌尿器科・1日平均入院患者数



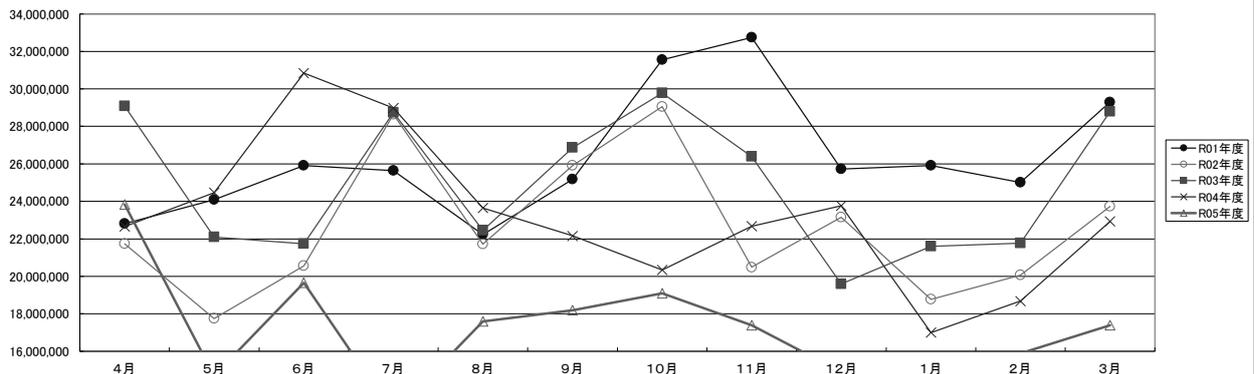
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	8.1	8.6	8.5	6.6	6.1	8.0	10.2	12.3	9.0	7.9	8.8	9.4	8.6
R02年度	5.9	4.3	5.5	9.0	6.4	6.1	7.7	5.5	6.8	4.3	6.3	6.7	6.2
R03年度	8.6	5.9	5.2	7.8	6.1	7.0	8.6	7.9	5.8	5.0	8.1	7.0	6.9
R04年度	6.6	7.8	8.1	8.6	5.3	6.4	4.3	6.6	5.1	3.9	5.0	5.3	6.1
R05年度	7.0	4.3	4.3	4.7	4.8	5.0	5.6	4.8	3.1	4.1	5.1	6.4	4.9

泌尿器科・1日平均外来患者数



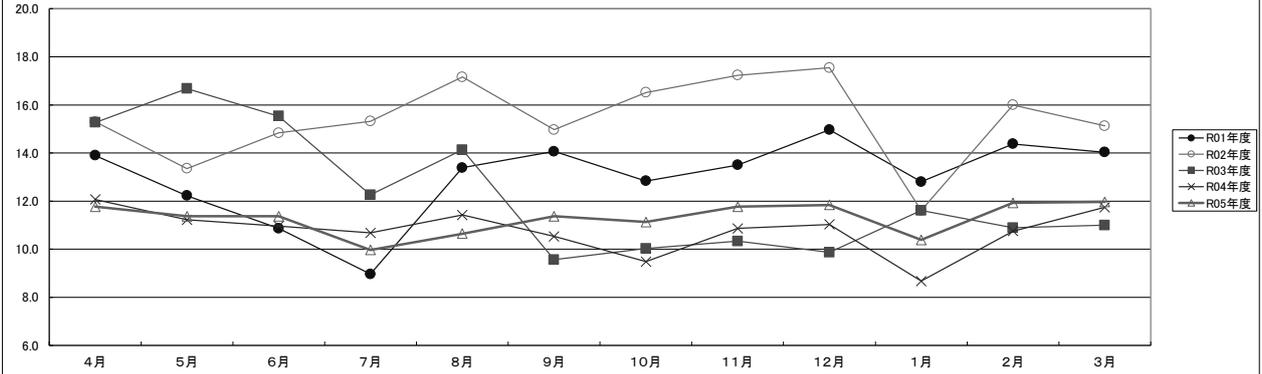
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	31.7	31.1	35.0	34.9	32.6	39.7	34.7	37.1	37.4	38.3	39.7	34.5	35.4
R02年度	30.9	34.4	30.8	36.0	31.3	38.2	36.0	34.6	38.6	36.8	33.6	33.0	34.5
R03年度	35.5	36.9	30.6	36.3	32.8	39.5	37.0	37.2	37.4	28.9	28.8	31.5	34.4
R04年度	31.0	29.5	29.7	31.0	23.1	33.5	28.6	26.8	30.8	28.3	25.0	28.0	28.7
R05年度	27.9	27.8	27.8	24.8	26.2	29.6	26.0	30.4	28.4	25.4	27.9	29.2	27.3

泌尿器科・合計稼働額



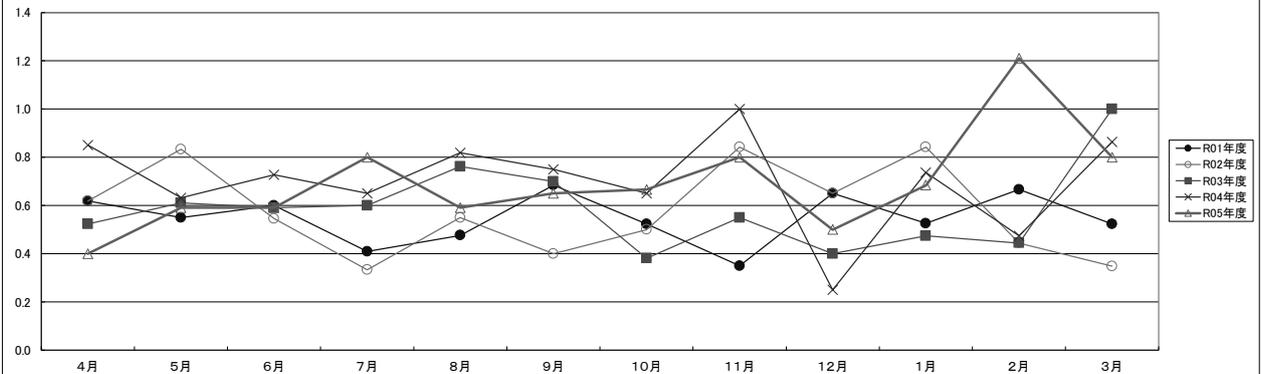
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
R01年度	入院	14,631,921	16,881,312	15,059,790	14,571,122	12,196,404	13,655,852	20,818,644	21,638,470	15,317,776	15,798,754	14,226,344	18,527,462	193,323,851
	外来	8,179,273	7,203,960	10,856,688	11,064,116	10,029,109	11,530,200	10,735,858	11,106,047	10,406,468	10,112,490	10,789,960	10,768,017	122,782,186
	合計	22,811,194	24,085,272	25,916,478	25,635,238	22,225,513	25,186,052	31,554,502	32,744,517	25,724,244	25,911,244	25,016,304	29,295,479	316,106,037
R02年度	入院	10,173,080	7,208,336	9,057,240	15,888,554	10,068,630	13,203,968	16,369,926	10,026,900	11,478,490	8,393,724	11,626,608	13,718,826	137,214,282
	外来	11,557,939	10,535,451	11,501,390	12,749,936	11,654,258	12,705,924	12,685,620	10,457,790	11,672,145	10,381,992	8,433,222	10,010,090	134,345,757
	合計	21,731,019	17,743,787	20,558,630	28,638,490	21,722,888	25,909,892	29,055,546	20,484,690	23,150,635	18,775,716	20,059,830	23,728,916	271,560,039
R03年度	入院	17,563,936	11,728,210	12,463,202	16,648,246	12,553,388	15,033,578	18,973,070	14,772,492	8,531,596	12,323,588	13,282,622	15,444,856	169,318,784
	外来	11,513,257	10,362,810	9,274,936	12,093,686	9,897,667	11,827,520	10,803,144	11,617,060	11,062,185	9,273,477	8,493,030	13,351,348	129,570,120
	合計	29,077,193	22,091,020	21,738,138	28,741,932	22,451,055	26,861,098	29,776,214	26,389,552	19,593,781	21,597,065	21,775,652	28,796,204	298,888,904
R04年度	入院	13,197,452	15,786,758	20,073,943	18,740,260	14,433,915	10,654,148	11,771,444	15,256,554	11,679,193	7,042,922	10,297,126	11,793,848	160,727,563
	外来	9,463,007	8,671,062	10,771,843	10,236,813	9,211,344	11,500,515	8,566,210	7,415,934	12,085,060	9,952,989	8,379,857	11,139,890	117,394,524
	合計	22,660,459	24,457,820	30,845,786	28,977,073	23,645,259	22,154,663	20,337,654	22,672,488	23,764,253	16,995,911	18,676,983	22,933,738	278,122,087
R05年度	入院	15,570,132	7,727,694	9,135,266	5,966,102	8,939,098	10,294,468	11,445,390	8,729,996	7,075,214	8,070,508	8,502,702	9,202,419	110,658,989
	外来	8,265,490	6,975,078	10,522,124	6,701,633	8,654,602	7,893,550	7,650,329	8,663,180	7,831,835	7,351,170	7,380,938	8,189,803	96,079,732
	合計	23,835,622	14,702,772	19,657,390	12,667,735	17,593,700	18,188,018	19,095,719	17,393,176	14,907,049	15,421,678	15,883,640	17,392,222	206,738,721

緩和ケア科・1日平均入院患者数



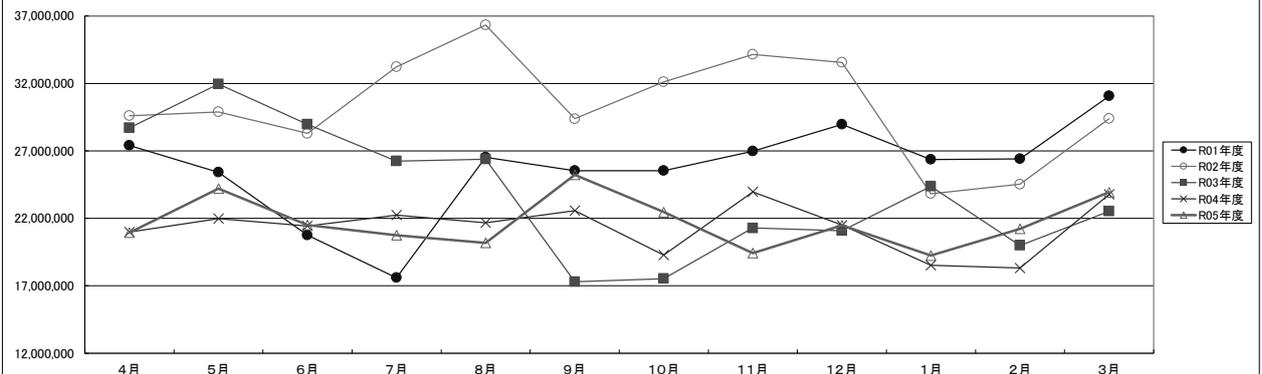
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	13.9	12.2	10.9	9.0	13.4	14.1	12.8	13.5	15.0	12.8	14.4	14.0	13.0
R02年度	15.3	13.4	14.8	15.3	17.2	15.0	16.5	17.2	17.5	11.6	16.0	15.1	15.4
R03年度	15.3	16.7	15.5	12.3	14.1	9.6	10.0	10.3	9.9	11.6	10.9	11.0	12.3
R04年度	12.1	11.2	11.0	10.7	11.4	10.5	9.5	10.9	11.0	8.7	10.8	11.7	10.8
R05年度	11.8	11.4	11.4	10.0	10.6	11.4	11.1	11.8	11.8	10.4	11.9	12.0	11.3

緩和ケア科・1日平均外来患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R01年度	0.6	0.6	0.6	0.4	0.5	0.7	0.5	0.4	0.7	0.5	0.7	0.5	0.5
R02年度	0.6	0.8	0.5	0.3	0.6	0.4	0.5	0.8	0.7	0.8	0.4	0.3	0.6
R03年度	0.5	0.6	0.6	0.6	0.8	0.7	0.4	0.6	0.4	0.5	0.4	1.0	0.6
R04年度	0.9	0.6	0.7	0.7	0.8	0.8	0.7	1.0	0.3	0.7	0.5	0.9	0.7
R05年度	0.4	0.6	0.6	0.8	0.6	0.7	0.7	0.8	0.5	0.7	1.2	0.8	0.7

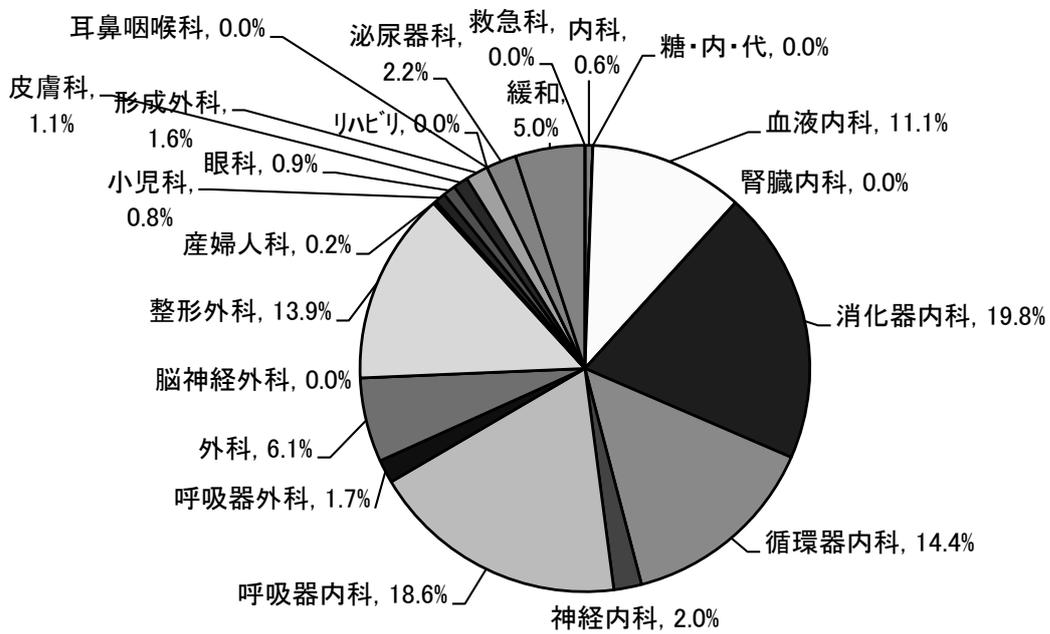
緩和ケア科・合計稼働額



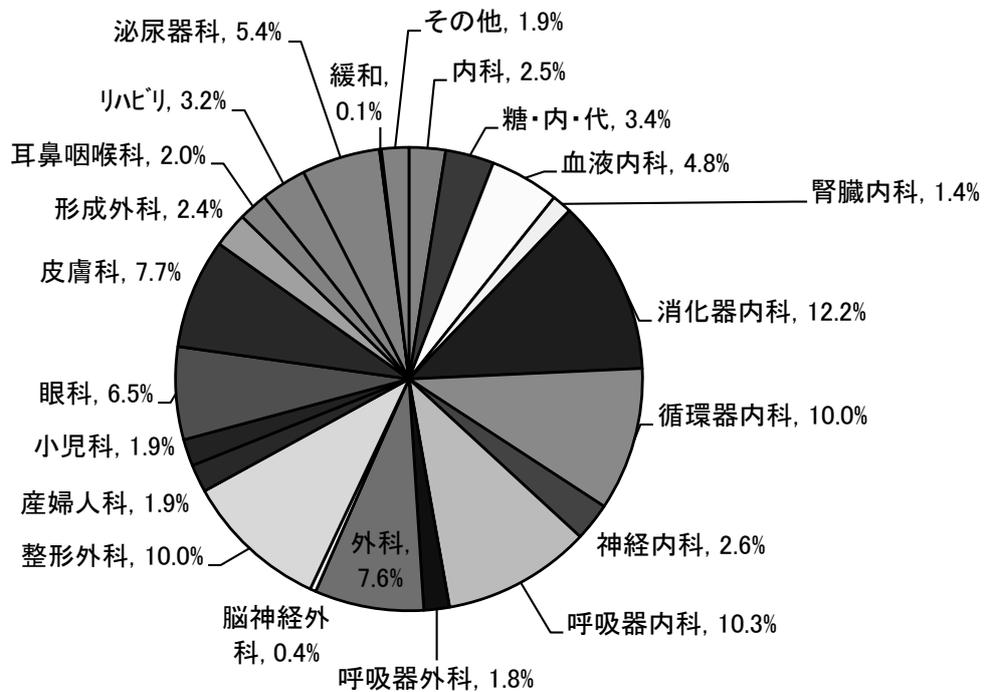
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
R01年度	入院	27,299,806	25,264,676	20,570,450	17,470,179	26,372,958	25,319,948	25,400,783	26,882,170	28,878,460	26,244,575	26,268,511	30,902,295	306,874,811
	外来	99,970	137,990	188,460	125,787	147,424	208,454	123,560	94,400	93,700	108,400	145,214	157,260	1,630,619
	合計	27,399,776	25,402,666	20,758,910	17,595,966	26,520,382	25,528,402	25,524,343	26,976,570	28,972,160	26,352,975	26,413,725	31,059,555	308,505,430
R02年度	入院	29,435,945	29,777,220	28,123,742	33,063,709	36,128,244	29,213,584	31,985,506	33,982,359	33,439,192	23,619,794	24,444,390	29,225,308	362,438,993
	外来	170,804	117,484	164,314	159,900	198,034	163,630	116,788	172,844	117,510	199,940	79,880	164,754	1,825,882
	合計	29,606,749	29,894,704	28,288,056	33,223,609	36,326,278	29,377,214	32,102,294	34,155,203	33,556,702	23,819,734	24,524,270	29,390,062	364,264,875
R03年度	入院	28,551,896	31,865,960	28,818,496	26,046,412	26,248,779	17,136,455	17,420,660	21,135,295	20,928,539	24,214,258	19,874,538	22,309,524	284,550,812
	外来	140,450	89,250	138,170	204,020	142,010	165,060	118,960	147,134	147,100	151,840	109,260	209,260	1,762,514
	合計	28,692,346	31,955,210	28,956,666	26,250,432	26,390,789	17,301,515	17,539,620	21,282,429	21,075,639	24,366,098	19,983,798	22,518,784	286,313,326
R04年度	入院	20,870,100	21,872,708	21,271,850	22,112,740	21,521,193	22,421,971	19,119,645	23,795,518	21,369,745	18,203,170	18,200,070	23,622,435	254,381,145
	外来	108,890	114,630	167,450	121,600	153,960	143,418	163,920	163,430	124,980	312,004	121,320	163,610	1,859,212
	合計	20,978,990	21,987,338	21,439,300	22,234,340	21,675,153	22,565,389	19,283,565	23,958,948	21,494,725	18,515,174	18,321,390	23,786,045	256,240,357
R05年度	入院	20,816,395	24,087,391	21,381,540	20,583,428	20,072,255	25,075,977	22,336,509	19,263,415	21,368,005	19,133,928	21,055,844	23,824,654	258,999,341
	外来	114,270	115,810	115,340	162,180	116,310	149,700	129,850	151,380	120,700	113,020	167,970	109,340	1,565,870
	合計	20,930,665	24,203,201	21,496,880	20,745,608	20,188,565	25,225,677	22,466,359	19,414,795	21,488,705	19,246,948	21,223,814	23,933,994	260,565,211

8. 科別患者構成比

入院患者数



外来患者数



※その他は、放射線科と救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

9. 診療科年齢別構成表

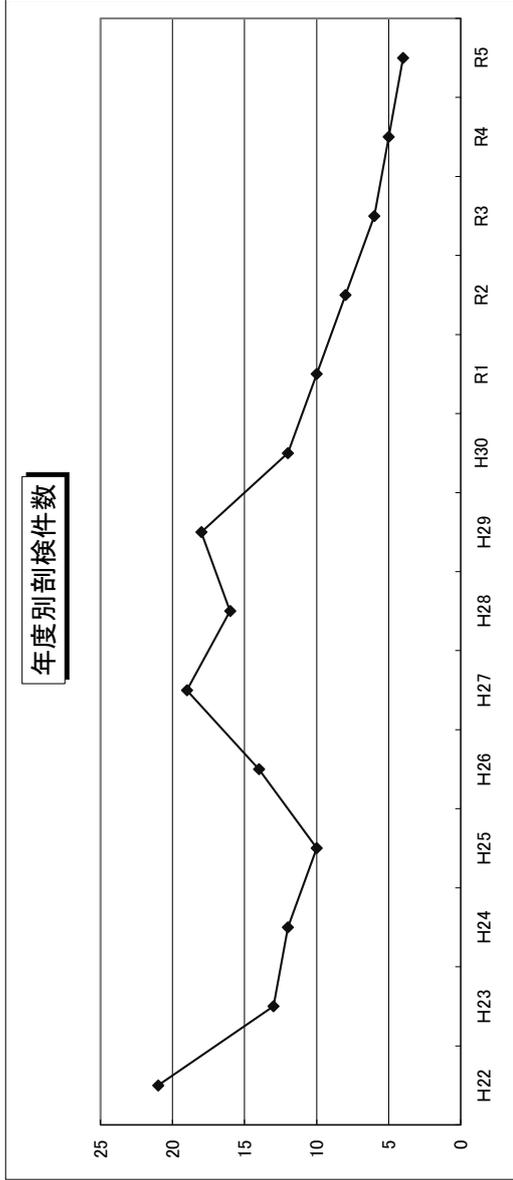
診療科	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	100-	合計
小児科	407	194	22	14	0	0	0	1	1	0	0	639
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	9	0	10	0	5	32	98	348	227	12	0	741
整形外科	0	60	98	125	366	901	858	2,800	4,798	1,401	110	11,517
外科	4	13	64	101	228	399	746	2,021	1,206	267	0	5,049
糖尿病・内分泌・代謝内科	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
血液内科	0	0	53	0	117	154	1,791	3,410	2,757	897	0	9,179
消化器内科	0	53	116	199	457	896	1,543	5,350	5,743	2,003	46	16,406
循環器内科	0	8	23	31	225	491	559	2,294	5,419	2,584	294	11,928
内科	0	5	11	3	8	22	25	79	206	104	3	466
呼吸器内科	0	22	61	113	287	476	1,703	5,115	5,964	1,524	93	15,358
呼吸器外科	0	16	50	10	11	57	295	605	322	35	0	1,401
泌尿器科	0	10	3	36	46	97	200	794	549	57	0	1,792
皮膚科	0	8	17	47	17	45	109	184	338	112	0	877
形成外科	0	3	33	12	54	179	124	477	425	42	0	1,349
産婦人科	0	12	8	29	38	9	9	27	25	20	0	177
緩和ケア科	0	0	0	0	57	114	1,131	1,206	1,377	248	0	4,133
救急科												0
合計	420	404	569	720	1,916	3,872	9,191	24,711	29,359	9,306	546	81,014
構成率	0.5%	0.5%	0.7%	0.9%	2.4%	4.8%	11.3%	30.5%	36.2%	11.5%	0.7%	100.0%

10. 令和5年度救急患者数

	内科	糖・内・代	血内	消化器	循環器	神経内	呼吸器	呼吸外	外科	脳神経	整形	産婦人	小児科	眼科	皮膚科	形成	耳鼻科	リハビリティ	泌尿器	緩和	放射線科	救急科	合計	交通事故		
																								救急車	その他	
救急患者数	時間内	461	1	28	294	250	35	260	8	62	13	253	7	12	1	22	30	25	0	45	8	4	0	1,819	43	1
	時間外	1,007	3	21	369	181	29	346	9	205	11	451	3	56	10	114	51	49	0	108	2	2	0	3,027	54	9
	深夜	257	0	3	142	55	3	78	2	48	3	98	1	12	3	28	8	14	0	40	0	0	0	795	7	5
	合計	1,725	4	52	805	486	67	684	19	315	27	802	11	80	14	164	89	88	0	193	10	6	0	5,641	104	15
(再掲) 救急患者数のうち 入院患者数	時間内	95	0	24	204	170	18	216	6	39	0	125	1	2	0	6	5	2	0	17	8	0	0	938		
	時間外	229	1	13	170	106	14	186	5	57	0	127	1	10	0	14	5	3	0	31	2	0	0	974		
	深夜	76	0	3	92	37	1	54	1	12	0	35	0	1	0	10	1	2	0	7	0	0	0	332		
	合計	400	1	40	466	313	33	456	12	108	0	287	2	13	0	30	11	7	0	55	10	0	0	2,244		
(再掲) 救急患者数のうち 救急車	入院率	23%	25%	77%	58%	64%	49%	67%	34%	0%	36%	18%	16%	0%	18%	12%	8%	0%	28%	100%	0%	0%	0%	40%		
	時間内	258	0	16	164	153	26	174	7	35	11	223	3	8	1	12	24	17	0	21	8	0	0	1,161		
	時間外	318	0	5	127	111	15	146	4	53	4	218	0	4	3	14	11	21	0	44	2	0	0	1,100		
	深夜	158	0	1	85	46	3	63	2	20	2	62	0	3	1	10	2	7	0	24	0	0	0	489		
(再掲②) 救急車のうち 入院患者	合計	734	0	22	376	310	44	383	13	108	17	503	3	15	5	36	37	45	0	89	10	0	0	2,750		
	時間内	72	0	16	131	114	15	153	6	29	0	113	1	2	0	5	5	2	0	10	8	0	0	682		
	時間外	154	0	5	82	82	8	119	2	28	0	102	0	2	0	5	3	3	0	23	2	0	0	620		
	深夜	65	0	1	63	32	1	48	1	9	0	33	0	1	0	6	1	2	0	7	0	0	0	270		
入院患者	合計	291	0	22	276	228	24	320	9	66	0	248	1	5	0	16	9	7	0	40	10	0	0	1,572		
	入院率	40%	0%	100%	73%	74%	55%	84%	61%	0%	49%	33%	33%	0%	44%	24%	16%	0%	45%	100%	0%	0%	0%	57%		

	1系	2系	小児科	産婦人	緩和
時間外	1,956	1,008	56	3	2
深夜	538	244	12	1	0
合計	3,823	1,711	80	11	10
時間内	727	200	2	1	8
時間外	719	242	10	1	2
深夜	263	68	1	0	0
合計	1,709	510	13	2	10
時間内	4	2	0	0	1
時間外	791	351	8	3	8
深夜	722	372	4	0	2
合計	356	130	3	0	0
時間内	1,869	853	15	3	10
時間外	501	170	2	1	8
深夜	450	166	2	0	2
合計	210	59	1	0	0

11. 剖検件数



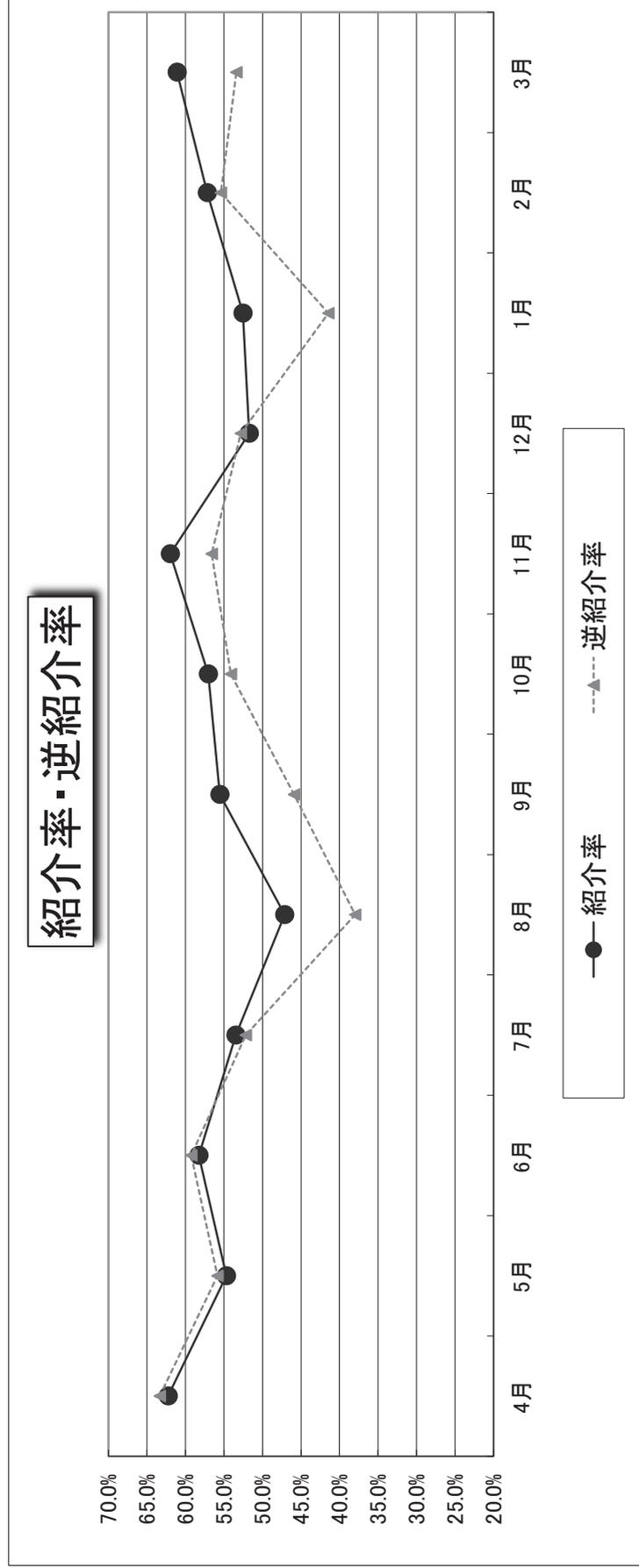
年度	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R1	R2	R3	R4	R5
件数	21	13	12	10	14	19	16	18	12	10	8	6	5	4

令和3年度科別剖検数

	内科	糖・内・代	血内	消化器	循環器	神経内	呼内	呼外	外科	脳神経	整形	産婦	小児	眼	皮膚	形成	耳鼻	リハビリテーション科	泌尿器	緩和	救急	合計	
剖検数			1		2	1																	4
死亡数	1	0	23	37	37	2	65	1	5	0	3	0	0	0	0	1	0	0	3	128	0	306	
剖検率	0.0%		4.3%	0.0%	5.4%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%							0.0%	0.0%	0.0%		1.3%	

12. 紹介率・逆紹介率

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診患者数	742	702	822	780	885	758	719	705	729	801	675	753	9,071
紹介患者数	462	384	479	417	417	421	410	437	377	421	386	460	5,071
逆紹介患者	470	392	487	407	336	348	389	399	385	332	374	402	4,721
紹介率	62.3%	54.7%	58.3%	53.5%	47.1%	55.5%	57.0%	62.0%	51.7%	52.6%	57.2%	61.1%	55.9%
逆紹介率	63.3%	55.8%	59.2%	52.2%	38.0%	45.9%	54.1%	56.6%	52.8%	41.4%	55.4%	53.4%	52.0%



13. 食事別給食数（令和5年度）

食事別給食数

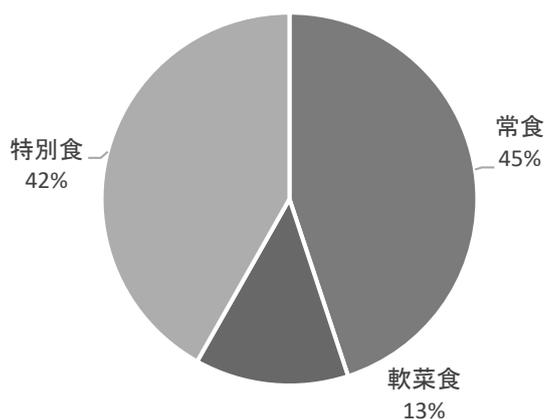
	常食	軟菜食	特別食	濃厚流動食	合計
延食数	73,071	21,508	67,992	6,707	169,278
一日平均	200	59	186	18	464

特別食内訳

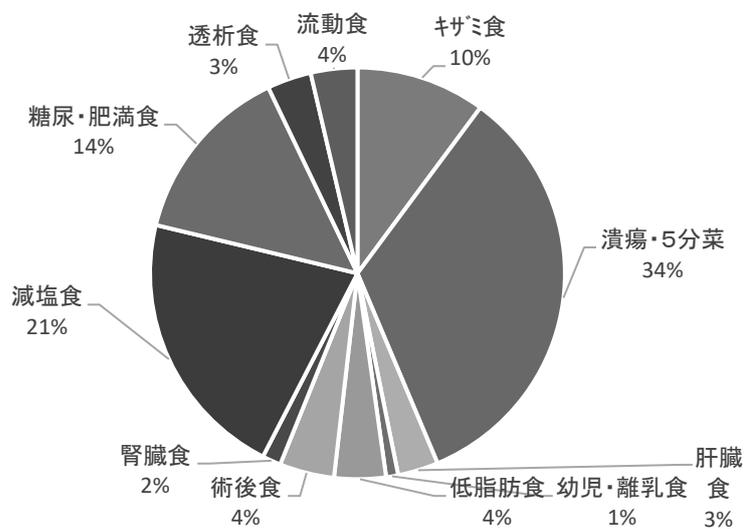
	キザミ食	潰瘍・5分菜	肝臓食	幼児・離乳食	低脂肪食	術後食	腎臓食	減塩食	糖尿・肥満食	透析食	流動食
延食数	6,864	22,843	2,148	638	2,736	2,901	990	14,441	9,621	2,342	2,468
一日平均	19	63	6	2	7	8	3	40	26	6	7

	糖尿・肥満食	透析食	流動食	その他	合計
延食数	9,621	2,342	2,468	0	67,992
一日平均	26	6	7	0	186

食事別給食数



特別食内訳

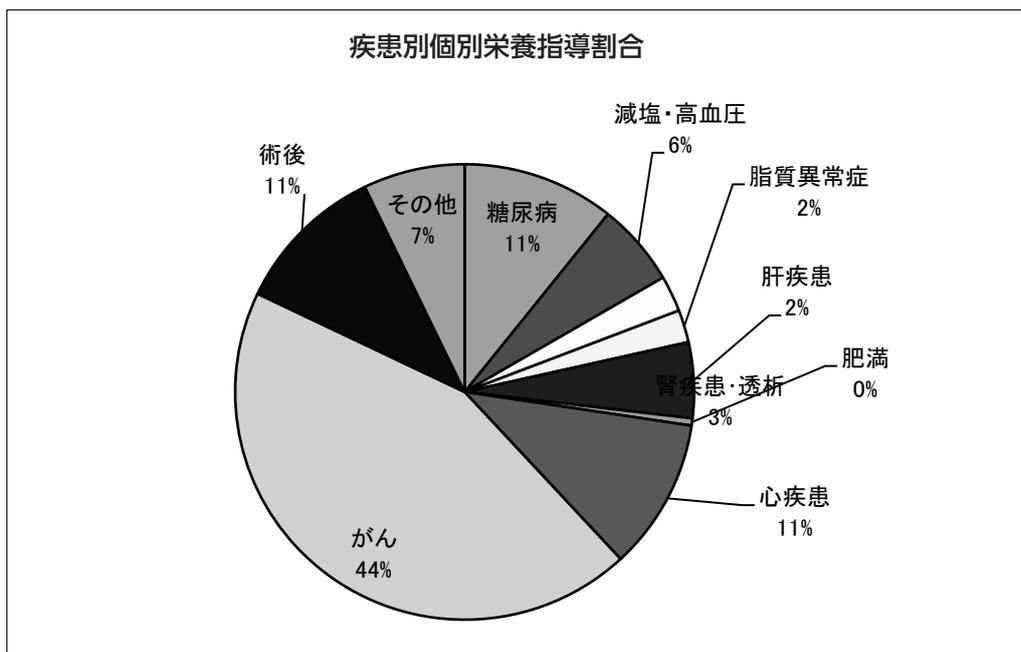


14. 栄養指導件数（令和5年度）

指導月	入院		外来		合計	
	算定	非算定	算定	非算定	算定計	非算定計
4月	19	2	9		28	2
5月	24	2	7		31	2
6月	23	8	6		29	8
7月	23	7	10		33	7
8月	22	4	7		29	4
9月	16	6	1		17	6
10月	18	3	18		36	3
11月	24	1	4		28	1
12月	16	3	10		26	3
1月	15	3	8		23	3
2月	17	1	15	2	32	3
3月	22	1	15		37	1
合計	239	41	110	2	349	43
月平均	19.9	3.4	9.2	2.0	29.1	3.6

疾患別個別栄養指導件数（複数の制限の指示は主指示事項をカウントする）

	糖尿病	減塩・ 高血圧	腎疾患・ 透析	脂質異 常症	肝疾患	肥満	心疾患	がん	術後	その他	合計
延数	42	23	10	9	21	2	42	172	42	28	391
月平均	4	2	1	1	2	0	4	14	4	2	33



15. 手術件数

	内科	糖・内・代	血液内科	腎臓内科	消化器内科	循環器内科	呼吸器内科	呼吸器外科	外科	脳神経外科	整形外科	産婦人科	小児科	眼科	皮膚科	形成外科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	その他	合計
平成30年度	2	4	5	25	972	268	2	102	570	10	576	93	2	923	23	542	33	309	45	4,506
令和元年度	3		10	15	946	212	5	81	457	1	550	36	1	673	25	484	16	252	21	3,788
令和2年度	5	2	2	43	990	219		89	450	7	635	40		787	47	391	12	290	1	4,010
令和3年度	2	2	4	61	1,177	216	15	106	556	4	661	39	0	768	26	551	24	329	2	4,543
令和4年度	1		4	75	1,139	167	6	104	506	3	660	41	2	635	16	571	18	206	1	4,155

※その他は、リハビリテーション科と救急科を足したものです。

16. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について

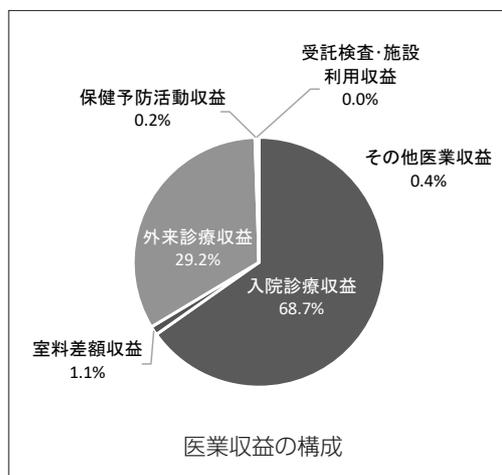
(令和5年度医療施設特別会計決算額より)

医業収益の構成

損益計算書収益の部より、医業収益科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
入院診療収益	5,350,384,144	65.5%
室料差額収益	93,855,896	1.1%
外来診療収益	2,719,905,944	33.3%
保健予防活動収益	16,170,405	0.2%
受託検査・施設利用収益	1,058,200	0.0%
その他の医業収益	25,484,529	0.3%
保険等査定減(※入院+外来診療収益比)	-33,535,721	(-0.3%)
合計	8,173,323,397	

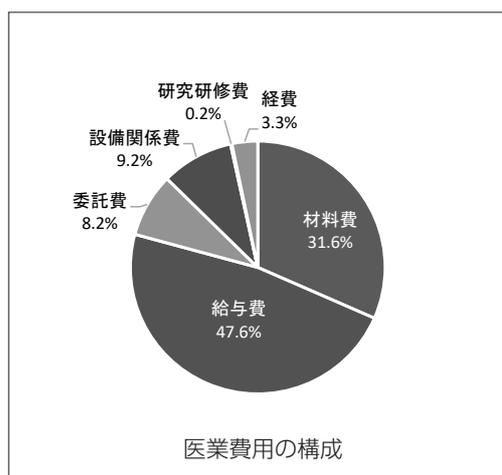


医業費用の構成

損益計算書費用の部より、医業費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
材料費	2,858,643,273	31.6%
給与費	4,313,033,319	47.6%
委託費	738,075,932	8.2%
設備関係費	831,332,697	9.2%
研究研修費	15,636,536	0.2%
経費	295,466,714	3.3%
合計	9,052,188,471	

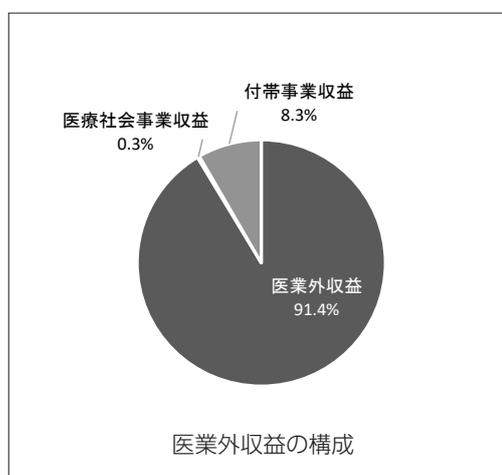


医業外収益の構成

損益計算書収益の部より、医業外収益科目の構成比率

(単位：円)

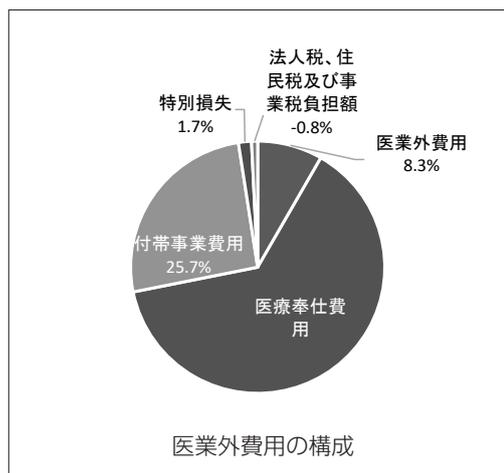
項目	金額	構成比率
医業外収益	480,431,407	91.4%
医療社会事業収益	1,550,787	0.3%
付帯事業収益	43,690,523	8.3%
特別利益	0	0.0%
合計	525,672,717	



医業外費用の構成
 損益計算書費用の部より、医業外費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外費用	16,324,043	8.4%
医療奉仕費用	125,203,441	64.6%
付帯事業費用	50,658,885	26.1%
特別損失	3,258,396	1.7%
法人税、住民税及び事業税負担額	-1,531,449	-0.8%
合計	193,913,316	



17. 病院利益（損失）

(単位：円)

総利益	8,698,996,114
総費用	9,246,101,787
病院利益（損失）	-547,105,673

18. 令和5年度 年間購入雑誌一覧

洋 雑 誌	
(冊子)	
1	Journal of Orthopaedic Science

(電子ジャーナル)	
1	Anesthesiology
2	Anesthesia and Analgesia
3	Annals of Surgery
4	Circulation
5	Critical Care Medicine
6	Diseases of the Colon and Rectum
7	European Respiratory Journal
8	Hypertension
9	Journal of the American College of Cardiology
10	The American Journal of Surgical Pathology
11	The Journal of Bone and Joint Surgery (American Volume)
12	The Journal of Urology
13	The Lancet Respiratory Medicine
14	New England Journal of Medicine
15	Plastic and Reconstructive Surgery

和 雑 誌	
(冊子)	
1	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION
2	LISA
3	胃と腸
4	Exprt Nurse
5	看護
6	看護研究
7	看護展望
8	呼吸器ジャーナル
9	作業療法ジャーナル
10	消化器内視鏡
11	総合リハビリテーション
12	Nursing BUSINESS
13	保険診療
14	みんなの呼吸器 Respica
15	薬局
16	薬事
17	理学療法ジャーナル
18	臨床消化器内科

新着図書リスト

年月日	雑誌名	部署
2023. 6.21	医療事故 ペイシエントハラ メント 紛争予防・解決の 実践的手法	総務管理課
2023. 8. 2	膵癌取扱い規約第8版	検査部病理
2023. 9. 7	透析患者への投薬ガイド ブック改定3版	臨床工学 技術科
2023.12.18	腫瘍病理鑑別アトラス腎 盂・尿管・膀胱癌第2版	検査部病理

文献検索・データベース

MEDLINE with Full Text (EBSCO)
CINAHL with Full Text (EBSCO)
The Cochrane Library
Dyna Med
医学中央雑誌 Web 版
メディカルオンライン

19. 医療社会事業年報（令和5年度）

ア. 取扱件数

区 分		延件数
年度実件数		1,595
継続実件数		48
新規実件数	入院	1,284
	外来	263

イ. 年度延件数

区 分	延件数
年度延件数	7,109

ウ. 新規ケースの紹介経路

区 分	延件数
医師	429
看護師	771
リハビリ職	4
その他院内職員	17
本人	66
家族・親戚縁者	104
院外関係機関	144
近隣者・知人	0
医療チーム	11
ソーシャルワーカー	1

エ. 介入の時期

区 分	延件数
受診前	1
外来	236
入院前	13
入院中	1,275
その他	19

オ. 社会的背景

区 分	延件数
独居	227
経済困窮	15
家族疎遠・身寄りなし	32
ハイリスク妊産婦	0
精神疾患	32
認知症	247
家庭内暴力・虐待	3
自殺企図	0
無保険	1
身元不明	0
ホームレス	1
外国人	0

カ. 援助内容

区 分	延件数
受診・受療	203
経済的問題	40
制度活用	362
入院療養生活	68
退院支援	6,375
在宅療養・介護	936
医療者との関係	8
家族関係	47
日常生活	59
就労・就学	0
身元保証・権利擁護	34
死後対応	11
その他	62

キ. 援助方法

区 分		延件数
面談	本人	1,541
	家族	1,494
	知人・友人	35
電話	本人	27
	家族	2,072
	知人・友人	37
訪問	家庭	0
	その他	20
同行・同伴・代行		9
連絡調整・院内		5,411
連絡調整・院外：面会		86
連絡調整・院外：電話		5,702
連絡調整・院外：文書他 メール他		2,095
カンファレンス（院内職種のみ）		177
カンファレンス（院外職種含む）		124
合同カンファレンス（院内職種のみ）		32
合同カンファレンス（院外職種含む）		114

ク. チーム医療

区 分	延件数
退院支援チーム	5,248
認知症ケアチーム	1,182
患者サポートチーム	0
リエゾンチーム	0
緩和ケアチーム	0
虐待対応チーム	0
倫理コンサルテーションチーム	0
その他	1,676

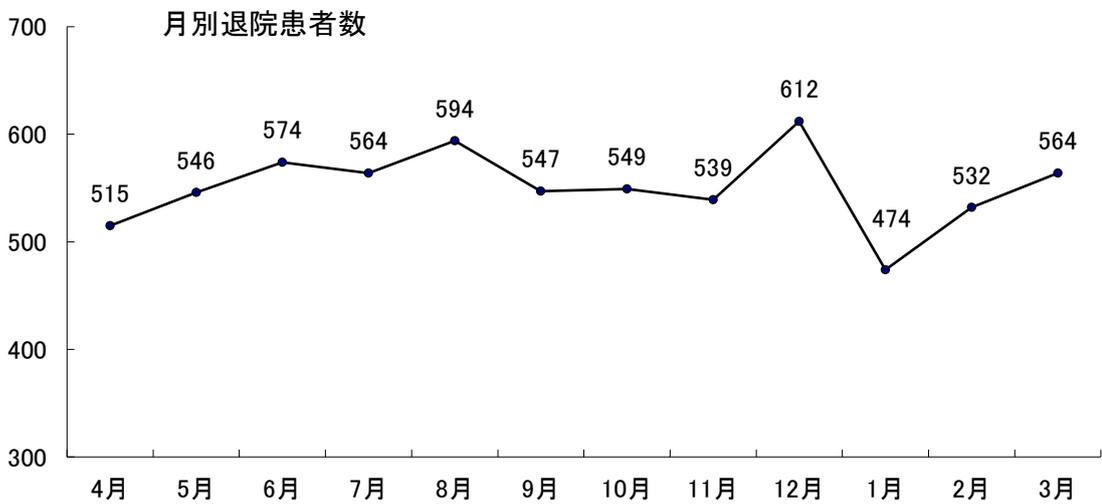
V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数

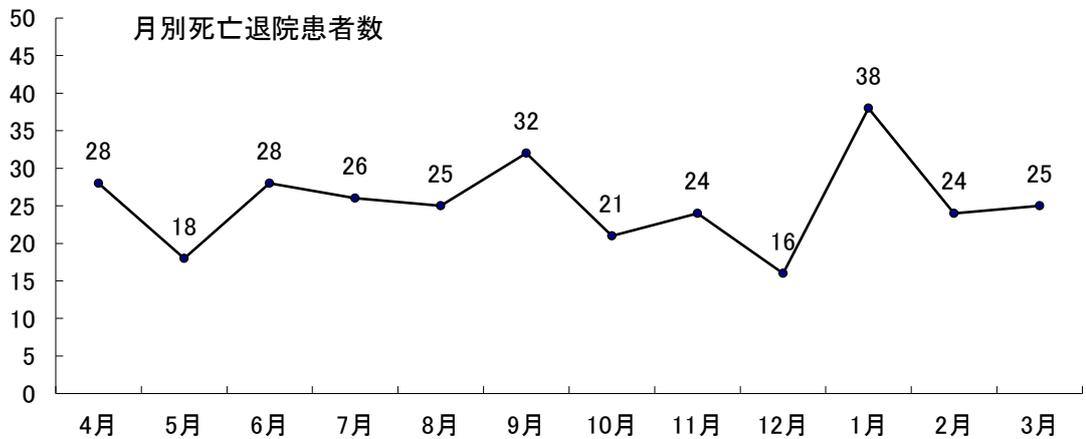
(人)

性別 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	304	294	332	317	333	308	317	305	345	267	286	309	3,717
女	211	252	242	247	261	239	232	234	267	207	246	255	2,893
合計	515	546	574	564	594	547	549	539	612	474	532	564	6,610

(人)



(人)



2. 科別・月別退院患者数

(人)

診療科名 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
血液・腫瘍内科	26	23	29	30	26	31	32	32	41	24	30	32	356
緩和科	13	15	15	11	11	16	11	10	10	16	11	17	156
消化器科	164	155	189	176	166	149	139	143	178	130	169	207	1,965
循環器科	60	62	60	47	62	53	71	62	78	58	65	59	737
呼吸器科	83	88	98	100	115	95	83	92	92	85	60	63	1,054
呼吸器外科	5	10	10	10	15	12	15	9	11	9	12	10	128
外科	44	40	31	32	47	45	35	42	44	34	37	32	463
整形外科	55	66	46	58	52	46	59	49	65	41	65	53	655
産婦人科	1	2	3	5	2	2	1	3	3	4	2	3	31
小児科	4	9	14	18	20	12	17	16	21	14	13	13	171
眼科	17	34	34	32	36	37	37	38	28	24	32	32	381
皮膚科	3	6	5	11	7	8	12	6	6	5	5	4	78
形成外科	6	9	9	8	1	9	10	8	6	3	10	4	83
神経内科	8	8	6	6	8	7	6	3	13	6	5	8	84
泌尿器科	25	19	25	20	26	25	21	26	16	21	16	27	267
合計	515	546	574	564	594	547	549	539	612	474	532	564	6,610

3. 科別・転帰別退院患者数

(人)

診療科名 \ 転 帰	治 癒	軽 快	不 変	悪 化	死 亡	検 査	転 医	そ の 他	合 計
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科	0	1	0	0	0	0	0	0	1
血 液 ・ 腫 瘍 内 科	6	311	1	0	24	0	13	1	356
緩 和 科	0	22	2	0	128	0	3	1	156
消 化 器 科	101	1,717	8	0	37	38	63	1	1,965
循 環 器 科	46	586	1	0	37	15	51	1	737
呼 吸 器 科	80	668	8	0	65	173	59	1	1,054
呼 吸 器 外 科	0	125	0	0	1	0	2	0	128
外 科	4	445	2	0	5	1	6	0	463
整 形 外 科	11	501	1	0	3	1	138	0	655
産 婦 人 科	0	30	1	0	0	0	0	0	31
小 児 科	0	131	40	0	0	0	0	0	171
眼 科	0	381	0	0	0	0	0	0	381
皮 膚 科	0	75	0	0	0	0	3	0	78
形 成 外 科	1	79	0	0	1	0	2	0	83
神 経 内 科	7	67	0	0	2	0	8	0	84
泌 尿 器 科	1	181	1	0	2	80	1	1	267
合 計	257	5,320	65	0	305	308	349	6	6,610

4. 疾病大分類別・性別退院患者数

疾病大分類		性別		患者数(人)			比率(%)	平均在院日数(日)
		男	女	合計				
I	感染症および寄生虫症	114	122	236	3.6%	16.0		
II	新生物	1,394	845	2,239	33.9%	10.7		
III	血液および造血器並びに免疫障害	47	40	87	1.3%	23.2		
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	60	71	131	2.0%	10.5		
V	精神および行動の障害	6	4	10	0.2%	4.9		
VI	神経系の疾患	83	36	119	1.8%	8.0		
VII	眼および付属器の疾患	179	211	390	5.9%	2.0		
VIII	耳および乳様突起の疾患	11	38	49	0.7%	3.9		
IX	循環器系の疾患	320	228	548	8.3%	16.5		
X	呼吸器系の疾患	470	306	776	11.7%	18.1		
X I	消化器系の疾患	451	343	794	12.0%	9.9		
X II	皮膚および皮下組織の疾患	46	36	82	1.2%	18.9		
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	112	92	204	3.1%	19.5		
X IV	尿路性器系の疾患	113	107	220	3.3%	12.0		
X V	妊娠、分娩および産褥	0	0	0	0.0%	0.0		
X VI	周産期に発生した病態	0	0	0	0.0%	0.0		
X VII	先天奇形、変形および染色体異常	4	2	6	0.1%	2.8		
X VIII	症状、徴候および異常所見	4	5	9	0.1%	4.6		
X IX	損傷および中毒	220	335	555	8.4%	15.3		
XX I	保健サービス	0	1	1	0.0%	4.0		
XX II	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	83	71	154	2.3%	14.6		
合計		3,717	2,893	6,610	100.0%	12.6		

5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数

(人)

疾病大分類	科名	糖内	血内	緩和	消化	循環	呼吸	呼・外	外科	整形	産婦	小児	眼科	皮膚	形成	神内	泌尿	合計
I	感染症および寄生虫症	0	10	1	87	31	45	0	12	5	0	15	0	25	1	0	4	236
II	新生物	0	266	149	1,023	3	302	86	198	5	20	0	0	1	17	1	168	2,239
III	血液および造血器並びに免疫障害	0	28	1	17	10	2	0	4	0	1	22	0	0	0	0	2	87
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	1	3	0	51	19	11	0	5	0	1	37	0	0	2	1	0	131
V	精神および行動の障害	0	0	0	5	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	10
VI	神経系の疾患	0	0	0	7	12	65	0	0	2	0	0	0	0	0	33	0	119
VII	眼および付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	365	0	25	0	0	390
VIII	耳および乳様突起の疾患	0	1	0	15	8	9	0	1	0	0	2	0	0	0	13	0	49
IX	循環器系の疾患	0	1	0	20	489	11	0	5	2	0	1	0	1	0	18	0	548
X	呼吸器系の疾患	0	17	4	66	75	490	34	2	6	0	75	0	0	0	7	0	776
XI	消化器系の疾患	0	2	1	563	3	0	0	217	0	0	6	0	0	0	0	2	794
XII	皮膚および皮下組織の疾患	0	2	0	4	3	2	0	4	2	0	8	0	39	18	0	0	82
XIII	筋骨格系および結合組織の疾患	0	0	0	9	3	12	0	2	169	0	2	0	0	2	5	0	204
XIV	泌尿器系の疾患	0	5	0	43	42	19	0	7	4	8	0	0	1	1	1	89	220
XV	妊娠、分娩および産褥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
XVI	周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
XVII	先天奇形、変形および染色体異常	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	6
XVIII	症状、徴候および異常所見	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9
XIX	損傷および中毒	0	7	0	10	17	8	8	3	457	0	3	11	11	17	2	1	555
XXI	保健サービス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
XXII	特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	0	13	0	44	21	69	0	2	3	0	0	0	0	0	2	0	154
合計		1	356	156	1,965	737	1,054	128	463	655	31	171	381	78	83	84	267	6,610

6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数

疾病大分類	治癒		軽快		不快		変化		死亡		検査		転医		その他		合計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
I 感染症および寄生虫症	26	11.0%	155	65.7%	1	0.4%	0	0.0%	20	8.5%	12	5.1%	22	9.3%	0	0.0%	236
II 新生物	20	0.9%	1,788	79.9%	19	0.8%	0	0.0%	164	7.3%	212	9.5%	34	1.5%	2	0.1%	2,239
III 血液および造血器並びに免疫障害	0	0.0%	54	62.1%	15	17.2%	0	0.0%	13	14.9%	0	0.0%	5	5.7%	0	0.0%	87
IV 内分泌、栄養および代謝疾患	10	7.6%	87	66.4%	25	19.1%	0	0.0%	2	1.5%	1	0.8%	6	4.6%	0	0.0%	131
V 精神および行動の障害	4	40.0%	6	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10
VI 神経系の疾患	6	5.0%	62	52.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.5%	45	37.8%	3	2.5%	0	0.0%	119
VII 眼および付属器の疾患	0	0.0%	390	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	390
VIII 耳および乳様突起の疾患	12	24.5%	37	75.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	49
IX 循環器系の疾患	13	2.4%	457	83.4%	1	0.2%	0	0.0%	24	4.4%	15	2.7%	37	6.8%	1	0.2%	548
X 呼吸器系の疾患	53	6.8%	588	75.8%	1	0.1%	0	0.0%	60	7.7%	6	0.8%	67	8.6%	1	0.1%	776
X I 消化器系の疾患	13	1.6%	737	92.8%	1	0.1%	0	0.0%	8	1.0%	14	1.8%	21	2.6%	0	0.0%	794
X II 皮膚および皮下組織の疾患	1	1.2%	78	95.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.7%	0	0.0%	82
X III 筋骨格系および結合組織の疾患	8	3.9%	170	83.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	24	11.8%	0	0.0%	204
X IV 泌尿器系の疾患	19	8.6%	188	85.5%	1	0.5%	0	0.0%	4	1.8%	0	0.0%	7	3.2%	1	0.5%	220
X V 妊娠、分娩および産褥	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
X VI 周産期に発生した病態	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
X VII 先天奇形、変形および染色体異常	0	0.0%	6	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6
X VIII 症状、徴候および異常所見	0	0.0%	7	77.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	22.2%	0	0.0%	0	0.0%	9
X IX 損傷および中毒	12	2.2%	427	76.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%	0	0.0%	114	20.5%	0	0.0%	555
XX I 保健サービス	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1
XX II 特殊目的用コード (原因不明の新たな疾患の暫定分類)	60	39.0%	83	53.9%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.2%	0	0.0%	6	3.9%	0	0.0%	154
合計	257	3.9%	5,320	80.5%	65	1.0%	0	0.0%	305	4.6%	308	4.7%	349	5.3%	6	0.1%	6,610

7. 科別死亡数および剖検数

科名	死亡数(人)	剖検数(人)	剖検率(%)
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	0	0	0.0%
血液・腫瘍内科	24	1	4.2%
緩和科	127	0	0.0%
消化器科	37	0	0.0%
循環器科	37	2	5.4%
呼吸器科	66	0	0.0%
呼吸器外科	1	0	0.0%
外科	5	0	0.0%
整形外科	3	0	0.0%
産婦人科	0	0	0.0%
小児科	0	0	0.0%
眼科	0	0	0.0%
皮膚科	0	0	0.0%
形成外科	1	0	0.0%
神経内科	2	1	50.0%
泌尿器科	2	0	0.0%
救急外来	10	0	0.0%
合計	315	4	1.3%

* 救急外来患者を含む為、退院患者死亡数（転帰）とは異なる

VI 診療科・部門別活動実績

総合診療科

<スタッフ>

大中 玄彦（部長）：総合診療科

（認定内科医・指導医、循環器専門医、老年病専門医・指導医）

● 総合診療科の役割

この診療科の役割は紹介状を持たずに初めて当院を受診され、受診すべき診療科がわからない患者さんや、総合診療科あての紹介状をお持ちの患者さんを診療する外来です。診察の結果、専門診療科の受診が必要と判断されれば適切な診療科へご紹介いたします。紹介状を持参された患者さんの場合でも、受診科を特定できない場合には、当科を受診した上で受診科を決めさせていただきます。

● 総合診療科の特色

高槻赤十字病院には20を超える診療科があり、高度の専門知識、診療技術を備えた医師が多数在籍しております。当院の実力を十分に活用していただけますよう、それらの医師への橋渡しを行うための診療科と御理解ください。

なお、当科では診療科の性質上、原則として外来での継続診療や入院による診療はおこなっておりません。これらが必要な場合は、院内外の適切な診療科をご紹介いたします。

緩和ケア科

<スタッフ>

橋本 典夫（緩和ケア科部長）

金村 誠哲（緩和ケア科副部長）

スタッフに関しては平成30年9月より2名体制となっている。

<令和5年度活動実績>

日本ホスピス緩和ケア協会による「ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組み認証制度」に認定されており継続的に施設評価されている。また日本緩和医療学会の認定研修施設にも引き続き認定され研修教育活動も継続している。

看護スタッフ欠員のため令和3年9月より20床運用から10床運用に減少し、現在は12床、在宅医からの緊急入院依頼時は一時的に13床での運用となっている。そのため令和5年度は令和3年度と比較し60%しか提供病床がない状態であった。

当院緩和ケア病棟は独立型であり全室個室の特徴を生かし、時間や人数制限はあるが面会可能としており患者さんご家族さんのケア向上に役立った。

学会・研究会活動としては、地域の緩和ケアネットワークの勉強会として、「緩和ケアを語る会」の世話人として参加し、地域での在宅医との「顔の見える関係づくり」に努めた。また大阪府指定がん診療連携拠点病院として三島圏域がん研究会の幹事としての活動を行った。

<令和6年度活動目標>

できるだけ多くの患者に良質な緩和ケアを提供するため、

1. 緩和ケア病棟の病床稼働率を維持する
2. 待機患者、待機日数を短縮する
3. 地域の医師と連携を図り、バックアップの役割を担う
4. 学会・研究活動の充実
5. 緩和ケア研修会の開催

血液腫瘍内科

<スタッフ>

田嶋 政郎（名誉院長）	：血液内科
前迫 善智（副部長）	：血液内科
岡田 睦実（副部長）	：血液内科
安齋 尚之（非常勤医師）	：血液内科

<令和5年活動実績>

病床数	49床
入院症例数	163例（新患93例）
悪性リンパ腫	46例（新患26例）
急性白血病	24例（新患11例）
多発性骨髄腫	24例（新患6例）
骨髄異形成症候群	15例（新患8例）
再生不良性貧血	9例（新患5例）
特発性血小板減少性紫斑病	10例（新患9例）
その他	8例（新患6例）
造血幹細胞移植件数	3件
自家移植	2件
同種移植	1件（臍帯血1件、血縁0件）

当科では、白血病・リンパ腫・骨髄腫などの造血器腫瘍の他、貧血・血小板減少症などの診療を行っており、血液内科医に加え、がん化学療法認定看護師をはじめとした看護スタッフ、がん専門薬剤師、臨床工学技士、理学療法士、臨床心理士等がチームとなり安心して治療に専念できる環境を整えています。

造血器疾患の中には同種造血幹細胞移植以外に根治の方法が無い方も多く可能な範囲での移植治療を提供できるよう考慮しています。当院の特色としてGVL効果と生着面の安全性から主に臍帯血移植治療を施行しています。一般には移植不適応とされる70歳以上の高齢者の方にも全身状態が移植に耐えうると判断すれば移植治療を実施しています。高齢者の臍帯血移植に関しては全国的にも有数の症例数になります。他院で移植治療を断念された患者さんが紹介されるようにもなっています（2024年度は休止中です）。

難治性悪性リンパ腫への根治治療となりうるCAR-T治療や二重特異性抗体治療の適応の判断と、CAR-T実施施設への紹介（主に京大病院）症例も徐々に増加してきています。

また、積極的な治療の対象とにくい患者さんには、個々の症例に基づいて、初期の段階から緩和的治療を含めてきめ細やかな対応を心掛けています。

循環器科

<スタッフ>

- 大中 玄彦 (部長) : 循環器内科 (認定内科医、循環器専門医、心臓リハビリ指導士、老年病専門医)
- 木澤 隼 (副部長) : 循環器内科 (認定内科医、循環器専門医)
- 土居 裕幸 (医師) : 循環器内科 (認定内科医)
- 平野 玄起 (医師) : 循環器内科 (認定内科医)
- 森 京子 (医師) : 循環器内科 (認定内科医)
- 沼田ありさ (医師) : 循環器内科 (認定内科医)
- 町田 尚央 (医師) : 循環器内科

循環器疾患全体を扱い、高血圧、脂質代謝異常症などの生活習慣病から急性心筋梗塞、急性心不全、致死性不整脈疾患、心筋炎などの急性疾患まで幅広い疾患を診療し、一般的な生理検査機器や造影検査はもちろんのこと非侵襲的に冠動脈疾患や心筋疾患の評価が可能な RI 検査、80 列 CT 検査、MRI 検査機器を揃えている。さらに心筋梗塞や急性心不全などの緊急を要する患者の治療に対してはコメディカルスタッフの協力のもと 24 時間・365 日体制で診療にあたっている。また、当院は心臓リハビリテーション実施施設であり、年間 429 症例の心臓リハビリを紹介し、病気の再増悪で再入院の予防に努めている。外科領域においても大阪医科大学心臓血管外科との合同カンファレンスを行い重症患者の治療方針につき検討し、患者さんにとっての最適な治療を提供している。

<令和 5 年度活動実績>

令和 5 年度実績

外来患者延数	12,244 人	入院患者延数	11,191 人
心臓カテーテル検査・処置総数	: 105 件		
冠動脈インターベンション治療	: 127 件		
ペースメーカー植込み術	: 22 件		
末梢血管形成術 (含む透析シャント PTA)	: 8 件		
IABP 施行件数	: 1 件		
PCPS	: 0 件		
心臓リハビリテーション	: 429 件		

消化器科・消化器内視鏡センター

<部長>

神田 直樹 (消化器内科部長・消化器内視鏡センター長) (副院長)

<スタッフ>

玉田 尚 (院長)

吉岡 拓人 (副部長)

松村大志郎

中森 翔平

矢倉 伊織

奥野 岳

高木 理沙

山本 悠生

平井 美帆

森 英亜

<異動>

令和5年4月 平井 美帆 (着任)

令和5年4月 森 英亜 (着任)

令和6年3月 山本 悠生 (退任)

<令和5年度活動実績>

当院消化器内科は、日本消化器病学会指導医3名・専門医7名、日本消化器内視鏡学会指導医3名、日本肝臓病学会専門医4名を含む医師10名で、救急含めほとんどの処置に対応できる体制となっています。

当科ではESDを数多く施行しており、施行数は令和6年3月までに胃・大腸・食道を合わせて1550例(胃953、大腸474、食道123、十二指腸6)となっています。これは北摂屈指の施行数で、10cmを超える病変や、食道の全周性病変などのESDも行っています。最新の内視鏡システム Olympus X1を導入し、拡大内視鏡、NBI、TXI、超音波内視鏡などでの確な診断を行い、処置用にマルチバンドスコープや短彎曲細径大腸内視鏡290TIなども有し、安全かつ迅速にESDなどが施行できる設備が整っています。

当科では大腸ESDは特に得意としており、迅速に施行できる体制であるため、EMRで切除可能か迷う病変に対しては、ESDスタンバイでEMRを試みて、EMRが困難な場合にはESDに移行するなど、常に患者様に最適な治療を施行することが可能となっています。

膵胆管の癌に対しては、内視鏡下の擦過細胞診やステント留置を積極的に行っており、EUS下の穿刺細胞診も可能です。また、EUS-FNAによる膵炎後の仮性嚢胞のドレナージなど先端治療も行っています。

肝臓がんの治療では、TACE(Transcatheter Arterial Chemo-Embolization=肝動脈化学塞栓術)、Beads TACE、RFA(radiofrequency ablation=ラジオ波焼灼術)、免疫チェック

ポイント阻害薬を含む抗がん剤治療を症例に応じて適切に治療を行っています。また、人工胸水・腹水下 RFA を導入し、これまで RFA が困難であった横隔膜下直下や、腸管に接した肝臓がんに対しても RFA が可能になっており、令和 5 年は人工胸腹水 RFA を 8 例行っています。

消化器癌の化学療法は、日進月歩で、様々な薬剤、レジメンが開発されており、切除不能消化器癌の平均生存期間も飛躍的に延長しています。当科では、外来化学療法室と協力し、免疫チェックポイント阻害薬を含め消化器癌の化学療法を積極的かつ安全に施行しています。さらにはがん遺伝子検査が必要な場合は、がんゲノム医療中核拠点病院とも連携しています。

また、近年増加している消化器疾患として炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）があり、生物学製剤の使用が急増するなど治療法が著しく発展している分野です。当科では、従来の 5-ASA、ステロイド、免疫調整薬に加えて、さまざまな生物学的製剤、顆粒球除去療法などの治療を、専門医が安全かつ効果的に行っています。

また、当院は教育基幹病院ですが、侵襲的処置には必ずその分野のスペシャリストが立ち会うことで医療の質を担保しています。

<令和 5 年度患者数>

新規入院患者数 1,942 人、入院患者延数 14,441 人、外来患者延数 14,121 人、

<令和 5 年度検査・処置症例数>

	令和 5 年度	開始からの累計
上部消化管内視鏡検査	3339	
下部消化管内視鏡検査	1614	
胃の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	71	953
大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	38	474
食道の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	8	123
大腸ポリープ切除 (polypectomy/EMR)	627	
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)/ 内視鏡的総胆管結石除去 / 内視鏡的胆管ドレナージ・ステント留置	131	
超音波内視鏡	103	
内視鏡的止血術	117	
カプセル内視鏡	20	
ダブルバルーン内視鏡	13	
腹部超音波検査	1950	
腹部造影超音波検査	28	
肝動脈化学塞栓療法	7	
肝がんのラジオ波焼却療法	13	

< 令和6年度活動目標 >

新規入院患者数・検査・処置数・化学療法数の増加を図り、それぞれの領域について質の高い医療を目標とする。当院はESDを積極的に行っており、特に実施施設基準の必要な大腸ESDも施行可能基準を満たしており、ますます症例数の増加を図っていく。また、消化管では、最先端のOlympus Lucera Eliteシリーズ内視鏡により、精緻な診断・治療を行い、胆道系処置についても、超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診（EUS-FNA）が施行可能となり、症例数の増加を図っていく。また、導入が決まった最新の経鼻内視鏡290Nにより「楽にうけられる上部消化管内視鏡」をアピールし、健診など含め上部消化管内視鏡の症例数も増加させるよう努める。一方、最近導入したカプセル内視鏡・バルーン小腸内視鏡の症例数の充実も図っていく。さらに、近年ニーズが高く、下部消化管内視鏡検査のオープン検査を増やしていく予定である。

また、消化器癌の化学療法の分野でも、様々な薬剤、レジメンが開発されており、それらを積極的かつ安全に施行していく。肝臓の分野においても、26年度には genotype 1型に対し、C型肝炎のインターフェロンを使わない治療が保険適応になったが、27年度には genotype 2型に対する薬剤も保険適応となり、これらも積極的に施行していく。肝臓癌治療においても、TACEだけでなくRFA症例の増加も目標としており、また新規抗癌剤のレンバチニブの使用も開始するなど、放射線科や超音波

検査室と連携して肝臓癌の早期発見に努めていく。

神 経 内 科

<スタッフ>

中川 朋一（部長）

小松 研一（非常勤医師）

<令和5年度活動実績>

<臨 床>

令和5年度の入院症例数は84例で、入院延べ患者数は1722日です。また外来延べ患者数は3293人です。

脳梗塞症例については、緊急の血栓溶解療法の適応でない症例について入院加療を行った。また地域連携パスの一環として、脳梗塞パスも行い地域医療にもたずさわり、地域医療に貢献している。

その他、パーキンソン病の精査や薬剤調整入院、てんかんの緊急入院などに対応している。

<研 修>

高齢化社会に向けて、近い将来脳梗塞は神経内科専門医のみならず内科系一般医も診療にあたる必要が出てくるため研修の一環として若手医師に担当としていただくシステムをとっている。

<令和6年度活動目標>

入院症例数のさらなる増加のため、外来や救急から積極的に入院を勧める方針です。パーキンソン病の持続皮下注療法も可能となっており、パーキンソン病診療の充実を図っていく予定です。

呼吸器外科

<スタッフ>

進藤 友喜：緩和ケア講習会修了、Certificate of da VinciSystem Training As a First Assistant、認定 ICLS コース修了

<特 色>

呼吸器センターとして呼吸器内科と協力しながら診断から治療までを包括的にかつ迅速に行っています。手術症例ではクリニカルパスを導入し、医療安全の向上や業務の効率化を図っています。手術は肺癌症例を含め完全胸腔鏡下手術を基本としています。また手術時の縦隔鏡検査や胸腔洗浄細胞診により、正確な病期診断・適切な治療方針の決定に努めています。術前～術後にはリハビリ科に呼吸リハビリを行って頂き、呼吸機能の改善・術後合併症の予防に努めています。当院は呼吸器外科専門医制度の関連施設、大阪府癌拠点病院であり、肺癌の治療では手術はもとより術前導入化学放射線治療や術後補助化学療法、再発癌に対する集学的治療も積極的に行い、治療成績の向上に努めています。

<令和5年度活動実績>

令和5年度はCOVID-19の影響は少し落ち着いた印象で、院内全体で見ても活気が戻ってきました。手術は大阪医科薬科大学から応援に来ていただいております。全体の80%以上を完全胸腔鏡下で行うことが出来ました。全手術件数は99件（前年度103件）、全麻が99件でした。手術の内訳は肺癌44件、縦隔腫瘍6件、気胸24件などでした。

<令和6年度の目標>

令和4年6月からは大阪医大胸部外科より新たに呼吸器外科医師が赴任いたしました。当科は少数精鋭ではありますが、地域医療機関との連携を強化し呼吸器内科と協力しながら地域の呼吸器（特に肺癌）診療のニーズに答えていきたいと思っております。手術は引き続き完全胸腔鏡下手術を積極的に行い、より低侵襲で安全な術式を追求します。新しいデバイスの導入や更なる術式の改良に取り組みたいと思っております。呼吸器外科診療も急速に進歩していますので、EBMを基本としながらも最新の知見を速やかに導入し、患者さんに最適な医療を提供していきます。

呼吸器科

<スタッフ>

北 英夫（呼吸器センター長）S62 卒

京都大学臨床教授。京都大学医学博士

日本内科学会認定内科専門医・指導医・代議員

日本呼吸器学会専門医・指導医・代議員

日本アレルギー学会専門医・指導医

日本喘息学会専門医

日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医

日本癌治療認定機構がん治療認定医・

日本呼吸ケアリハビリテーション学会評議員

日本結核病学会 代議員

中村 保清（副部長）

日本内科学会認定内科専門医 日本呼吸器学会専門医

日本アレルギー学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会指導医 ICD

深田 寛子（副部長）

日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医

日本癌治療認定機構がん治療認定医、ICD

野村奈都子（副部長）

日本内科学会認定内科専門医 呼吸器学会専門医、

山本 晴香（後期研修医）

日本内科学会専門医

三崎裕美子（後期研修医）

日詰健太郎（後期研修医）

<非常勤医>

野溝 岳（京都大学腫瘍内科助教）

京都大学医学博士 日本内科学会認定医 日本呼吸器学会専門医

<令和5年活動実績>

令和2年3月に出現した新型コロナウイルス感染症がその後5類に分類されたのちも、外来においてはコロナ罹患後症状いわゆる後遺症が問題となっており、呼吸器症状を中心に対応してきた。遷延性咳嗽、喘息発症等であるが、同時に倦怠感やブレインフォグ、内分泌障害、循環系の異常等々多彩な兆候を認めることもあり、他科や大阪医科薬科大との連携も含め、対応している。

一方、Pandemic 期においては COPD, 喘息などの気道疾患を中心に従来の呼吸器疾患患者の減少が報告されており、ここ2-3年当院でもその影響がみられた。このことは当科の村山が筆頭著者となり感染症学会誌に論文報告している。

外来は月曜から金曜までで、気管支鏡検査は火曜日、金曜日の午後2時から行っており、CTガイド下生検も月曜日の午後3時から行っている。月に1回、火曜日に近隣の医師と合同で公開カンファレンスを実施している。

・呼吸器科における外来患者数（前年）

1日当たり平均 52.0 人/日 (55.1) ×外来診察日：週5日日間

・呼吸器科入院病床数・患者数・平均在院日数（前年）

呼吸器科入院病床数（定数） 38 床

実際の入院患者数（平均） 42.1 人/日 (35.7)

平均在院日数 14.2 日 (13.2) COVID を除く

新入院 957 (730)

・気管支鏡検査数 200 件 (190)

呼吸器外科とともに呼吸器センターとして外科と内科の垣根をなくして診療にあたり、常に呼吸器内科全般の最新の治療を行えるように研鑽を積んでいる。

肺癌診療については、大阪府がん診療拠点病院として他科や他職種と連携しながら治療効果と生活の質（QOL）の両立にも取り組んでいる。近年、PD-1 阻害薬、各種分子標的薬などの次々と新規薬剤が上市され、この分野の進歩は著しい。これらの薬剤を確実に安全に使用するため、副作用マネージメントを含めた院内クリニカルパスや薬剤師外来など他職種や他科とも連携して副作用対策にあたっている。また、遺伝子パネル検査についても、京都大学の野溝助教（当院非常勤医）との連携によりよりスムーズにスピーディに対応可能となった。組織検体を用いての他、血液によるパネル検査が可能となっており precision medicine を実践している。その他、気道閉塞を生じた手術不能の肺癌や食道がんに対して金属ステントの留置により QOL の改善を図っている。また、高槻市の肺癌検診の読影会への参加や多施設共同臨床研究にも積極的に参加をしている。

肺癌治療において早期からの緩和ケアが必須のものとなっている。がん診療に携わる医師のため緩和ケアの教育プログラムは全国で実施され、当科スタッフも全員修得済みである。診断時よりがん相談センター、院内緩和ケアチームと連携し、疼痛管理を中心とした支持療法のみならず、全人的苦痛に対応すべく取り組んでいる。また、患者さんのご希望に応じて、緩和ケア病棟の利用は言うまでもなく、社会ケースワーカーや退院調整看護師、地域医療連携室、訪問看護ステーション等と、地域の診療所と連携した在宅管理も行っており、終末期への体制も整備されてきている。

その他の多彩な呼吸器内科疾患についても確立された Up to date な治療を心がけている。気管支喘息患者には吸入ステロイドを中心とした治療を行い、入院の必要な例にはクリニカルパスを用いた教育指導を行い、自己管理を目指している。外来では当院独自の外来喘息教育プログラムを作成し、看護師による吸入指導とピークフローメータを用いた自己管理の指導を行い、更に吸入指導については近隣の薬局とも連携して行っている。また、H 24 年度よりは

アレルギー性気道炎症の指標としての呼気NO測定を用いて症状だけに頼らず、客観的指標のよる喘息コントロール状態の評価に努めている。また、従来の吸入薬でコントロール不良の重症喘息に対しては積極的にomalizumabや抗IL5抗体薬や抗IL4/13抗体薬、抗TSLP抗体などの分子標的薬を使用している。近年の治療目標とされる臨床的緩解はこれらバイオ製剤を用いる難治例に対して約1/3が達成している。

外来初診で多い遷延性咳そうには診断のアルゴリズムを作成し、咳喘息の他、逆流性食道炎、百日咳などの早期発見に留意している。また、先述したように咳嗽、呼吸困難、胸痛などを呈するコロナ罹患後症状についても各科の協力を得ながら、積極的に対応している。また、新規の鎮咳薬P2X3受容体拮抗薬の使用例も増えている。

COPDを中心とした、慢性呼吸器疾患には肺機能検査やCTによる早期発見と禁煙外来との連携による、禁煙指導、気管支拡張薬を中心とした治療を行っている。進展期にはリハビリテーション科、栄養科、薬剤部等とのチーム医療による、包括的リハビリテーションプログラム入院を行い、さらに、地域の診療所との連携による継続を図っている。慢性呼吸不全における在宅酸素療法は80例程度、在宅人工呼吸療法26例（NPPVを含む）、気管支喘息クリニカルパス入院例、慢性呼吸不全患者に対する包括的呼吸トレーニングプログラム入院等を行っているが、

また、H26年4月より慢性疾患専門看護師によるHOT患者を中心とした看護外来、ほととひといき外来を開始し、慢性呼吸器疾患患者に対する、より包括的できめ細かな対応が可能になった。HOT患者会であるHOTいきいき教室はパンデミックにより中断しているが、今後再開を検討している。

また、ハイフローネーザルセラピー（HFNC）の慢性II型呼吸不全を呈するCOPDに対する在宅長期使用の多施設共同RCT（FLOCOP試験）に当院も2016より参加し、この結果をもとに令和4年4月より在宅ハイフローセラピーが保険収載された。また、在宅ハイフローセラピーの使用症例も数例経験している。

睡眠時無呼吸症候群に対しては、個室使用によるPSG検査、簡易睡眠モニターを実施しCPAP治療、大阪大学及び大阪医科薬科大学口腔外科と連携の上口腔内装具による治療を行っている。また、循環器科と協力して心不全に伴う睡眠呼吸障害に対し、ASV(assisted-servo ventilation)による最新の呼吸管理を行っている。睡眠時無呼吸症候群の夜間睡眠ポリグラフ検査（PSG）年間80例、鼻CPAP年間20例程度導入している。CPAPの管理においては遠隔モニタリング加算を積極的に算定しており、遠隔管理により2-3か月毎の受診と受診のない月には遠隔モニタリングにより使用状況をチェックし、アドヒランス悪化時には電話連絡にて指導を行っており、受診間隔を伸ばしながら良好なアドヒランスを維持するように努めている。また、登録医への逆紹介も積極的に行っている。

そのほか、あらゆる呼吸器感染症について対応している。肺結核についてはパンデミック中は受け入れていなかったが、5類移行にともないモデル病床（3床）による受け入れを再開し

ている。また、近年著増している非結核性抗酸菌症については従来の薬物治療のみならず、栄養や環境に留意した管理、適応のある症例については手術治療も併用している。また、ALIS（吸入アミカシンリポゾーム製剤）についてもトレーニングパスを作成し使用している。

また、間質性肺炎についてはHRCTや気管支鏡検査により、原因検索に努め、膠原病内科とも連携して診断治療にあっている。新たにクライオ生検の導入が決定し、今年度より導入予定で、他施設への見学やハンズオントレーニングに受講するなど準備を進めている。これは三島医療圏では最初の導入病院となる。肺線維症を中心とした進行性の慢性線維性肺臓炎についてはpirfenidoneやnintedanibなどの抗線維化薬を積極的に使用している。

急性呼吸不全、急性肺障害、慢性呼吸不全の急性増悪等に対しては、HCUにおいて集中的な呼吸管理を行っており、挿管人工呼吸管理においては肺保護を考慮した低換気量による人工呼吸管理やリクルートメント手技などを行っている。また、問題となっているVAP（人工呼吸関連肺炎）対策としてNPPV（non-invasive positive pressure ventilation）による呼吸管理のみならず、陰圧式の人工呼吸器を用いての管理などを試みている。また、最新の酸素療法であるNasal High Flow therapyもいち早く導入し、QOLに留意した酸素化の改善が可能となった。また、敗血症などともなう急性肺障害や肺線維症などの間質性肺炎の急性増悪にたいしては、従来の薬物治療のみならず、血液濾過によるエンドトキシン吸着療法（PMX-DHP）やECMOを行い、救命率の向上を目指している。

市中肺炎、院内肺炎については診療ガイドラインを踏まえながらも地域の病院として個々の症例に応じた診療と当院での薬剤感受性を考慮した適切な抗菌剤の使用に努めている。

また、当科は京都大学の学生臨床実習の協力科であり、年間数名の学生実習とその他希望により他大学からの実習を数名受け入れている。

当科は研修医にとっては非常に実践的な環境であると考えられる。豊富な症例に対応していただき、基本的な診療技術と基本的治療を経験してもらい、多彩な呼吸器疾患に対応しなくてはならない呼吸器内科医として成長できる環境を提供できると考えている。また、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本内科学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設として総会、地方会での症例報告、研究発表等を行っている。大阪府内、北摂地域を中心とした多くの研究会や講演会での世話人、座長、講演などを務めている。

<令和6年度活動目標>

新型コロナ感染パンデミックが5類に変更された以降も感染流行は続いており、同時にコロナ以前の感染症の再流行、慢性呼吸器疾患の増悪の再増加などの、後遺症を含めたコロナ関連への対応と、肺癌、喘息、非結核性抗酸菌症、間質性肺疾患、慢性呼吸不全など新たな診断治療に対してもしっかりと取り組んでいきたい。

小児科

<スタッフ>

河上 千尋	常勤・部長
江口 英希	常勤・副部長兼集中治療担当副部長
古川 福実	名誉院長・皮膚科
玉井 浩	非常勤・神経外来
尾崎 智康	非常勤・循環器外来
中村 道子	非常勤・アレルギー外来

<異動>

令和5年1月1日：河上 千尋医師 着任
令和5年3月31日：中村 道子医師 退職

<令和5年活動実績>

こどもたちのからだところの健康を支援することをモットーに、北摂三島地域の基幹病院として小児科全般の診療に当たっています。三島地区小児救急医療機関として、救急車の受入れと二次救急待機（毎水曜日）を行っています。実績は下記の通りです。

- ① 一般外来：月～金曜日午前
- ② 専門外来：予約制。
 - 乳幼児健診 月曜日午後
 - 神経発達 第4月曜日午後
 - 予防接種 火曜日午後
 - アレルギー 水曜日午後
 - 循環器 第2・4水曜日午後
 - アトピー 第2・4金曜日午後

外来患者数：2,280人（1日平均9.4人）

入院患者数：639人（新入院：172人、退院：171人） 平均在院日数：2.7日

救急患者数：107人（時間内：24人、時間外：73人、深夜：13人）

<論文>

河上千尋、新田雅彦、芦田 明 『こどもへのナッジー行動変容を促す環境のデザイン』
小児科 2023：64：751-757 金原出版

<活動目標>

地域の中核病院として、

- ① 急性疾患：紹介と救急に応え入院患者数を増やす。年間 170 件の入院を維持。
- ② 慢性疾患：全人医療の向上を目指し連携を図る。難病支援の継続実施。
- ③ 移行支援：就学就業支援や移行医療に取り組む。血友病患者の包括診療等。
- ④ 診療研究：経験をまとめ有益な情報を発信する。鋭意論文作成中。
- ⑤ 教育指導：学部学生・初期研修医・その他研修来院時の教育・指導を行う。

(河上千尋 記)

外科

消化器外科

<スタッフ>

- 平松 昌子 (医監) 大阪医科大学臨床教育教授・非常勤講師
日本外科学会理事・専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本臨床外科学会幹事、評議員
日本消化器内視鏡学会専門医
日本食道学会 評議員・食道科認定医・食道外科専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医
日本腹部救急医学会評議員・教育医・認定医
日本胸部外科学会専門医
ISDE(International Society of Disease of Esophagus)member
OESO member
ICD 制度協議会 ICD(感染制御ドクター) 他
- 小林 稔弘 (副院長) 日本外科学会 専門医
日本乳癌学会乳腺専門医
日本臨床外科学会会員
日本消化器外科学会会員
日本癌治療学会会員
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
検診マンモグラフィ読影認定医
- 恒松 一郎 (消化器外科部長)
日本外科学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本外傷診療研究機構 JATEC 修了
ICD 制度協議会 ICD (感染制御ドクター)
- 沼本 諒 (医 師)
園村 純 (医 師)
河合 俊哉 (医 師)
太田紅仁香 (医 師)

< 令和 5 年度活動実績 >

当院では、上部・下部消化管の悪性疾患に対して腹腔鏡下手術を主に行っています。良性疾患である胆石症、鼠径ヘルニア、虫垂炎などには単孔式腹腔鏡下手術を標準術式としています。

食道がん治療

食道外科専門医による腹臥位での完全胸腔鏡・腹腔鏡下食道切除再建術を実施しています。この手法は北摂地域では数少ない高度な技術です。食道胃接合部のがんに対しても低侵襲かつ根治性の高い手術が可能となっています。

胃がん治療

早期胃がんに対しては、幽門側胃切除・噴門側胃切除・胃全摘を問わず、切除・郭清から再建までを完全腹腔鏡下で行っています。高度進行胃がんには積極的な拡大手術や術前補助療法を併用し、根治性の向上を目指しています。

大腸がん治療

大腸がんの多くを腹腔鏡下手術で行うことで、入院期間の短縮を実現しています。ストマ外来では、専門医と皮膚・排泄ケア認定看護師が連携してケアを提供しています。

その他の治療

- ・ 肝がんに対して積極的に肝切除を実施
- ・ 胆石症や鼠径ヘルニアでは単孔式腹腔鏡手術を採用し、ほとんど傷のない治療を提供

最新技術の導入

4K/3D/IR(赤外光)内視鏡*などの最新技術を導入し、質の高い医療を提供しています。化学療法においても、最新のエビデンスに基づいた治療を外来化学療法室と連携して実施しています。

鼠径ヘルニア治療の特徴

単孔式 TEP 法(腹膜前到達法)を採用し、腹壁の損傷を最小限に抑えています。5mm ビデオスコープによる腹腔内観察で、ヘルニアの分類、対側のヘルニアの有無、メッシュの展開を確認し、再発防止に努めています。セルフグリップ機能を持つメッシュの導入により、術後の疼痛軽減も図っています。

がん診療への取り組み

大阪府がん診療拠点病院として、ガイドラインに沿った標準治療に加え、個々の患者のニーズに応じたオーダーメイド治療を提供しています。外来化学療法室を完備し、専門看護師や薬剤師を配置することで、外来での化学療法実施を可能にしています。かかりつけ医との連携のもと、がん診療の検査・診断から手術、化学療法、終末期医療まで、多職種チームによる患者中心の治療を行っています。

* 令和 6 年度より導入

(主な手術件数)

食道切除再建術	0 件 (うち鏡視下手術 0 件)
胃切除	18 件 (うち鏡視下手術 12 件)
胃全摘	3 件 (うち鏡視下手術 0 件)

結腸切除	32 件（うち鏡視下手術 26 件）
直腸切除	16 件（うち鏡視下手術 13 件）
肝切除	5 件（うち鏡視下手術 0 件）
膵切除	4 件（うち鏡視下手術 2 件）
胆のう摘出術	59 件（うち鏡視下手術 51 件）
虫垂切除	27 件（うち鏡視下手術 26 件）
鼠径ヘルニア	47 件（うち鏡視下手術 35 件）

< 令和 6 年度活動目標 >

当院では、個々の患者さまのニーズや病態を十分に理解し、これまでに導入してきた新しい手技や最新の知見を活用して、質の高い外科治療を提供してまいります。また、院内では横断的な多診療科カンファレンスや多職種による勉強会を定期的を開催しています。これらの取り組みを通じて、医療スタッフの専門性を高めるとともに、病院全体の医療の質の向上を図ってまいります。さらに、学会や研究会活動にも積極的に参加し、最新の医療情報を収集するとともに、当院からも新たな知見や治療法の情報発信を目指しています。

乳腺外科

<スタッフ>

小林 稔弘（部長）：乳腺外科

太田紅仁香 ：乳腺外科

<令和5年度活動実績>

乳房に関する良性（腫瘍、乳腺炎、女性化乳房症）から悪性（癌、肉腫）の疾患に対して診断、治療を行っている。

太田紅仁香医師が4月に着任し、2名体制で診療を行ってきた。コロナ禍鎮まりきらぬ状況においても例年通りの乳腺手術件数をこなすとともに転移再発患者の受け入れもスムーズに行った。

乳腺疾患に対応する検査手段としてMMG、US、CT、MRIなどの画像診断装置を完備している。特にMMGは検診で問題になる高濃度乳腺にも有効なトモシンセシス付きの最新鋭の機材の運用も手馴れてきたことにより、通常画像に加え、デジタル断層像を加えての診断が可能となり、不明瞭な病変の発見はもちろん、過剰な追加検査を減らし、患者の負担を軽減することにも役立っている。令和6年には保険点数も付加されることになり、一層の活用を考えている。

乳腺手術は55例を行い、乳癌症例の6割に温存手術を選択し、乳房切除術を選択する場合も形成外科と乳房再建術を行っている。良性疾患は観察可能な症例に無用な手術は行わないようにする一方、血性乳汁分泌に対する乳管腺葉区域切除の様な特殊手術も手掛けている。

薬物治療は乳癌分野も進歩が著しいが、化学療法、ホルモン療法、分子標的療法、免疫チェックポイント阻害剤などの本邦で適応のある薬剤は全て導入している。さらに遺伝子医療の進歩も取り入れ、再発乳癌の治療選択のため、加えて家族性乳癌卵巣癌（HBOC）の被疑例にも積極的に遺伝子検査を行っている。

当院は外来化学療法室を有し、化学療法専門看護師、専門薬剤師とのチームで患者を支えるようにしている。特に乳腺外科は新しい試みのモデルケースになり、薬剤師外来を活用して点滴治療のみならず、内服抗がん剤における指導、チェックなどの業務をさらに拡大し他科の診療にも寄与している。

温存手術後や再発時に欠かせない放射線治療も完備し、放射線治療専門医や専任技師、看護師とも連携して行うことを可能としている。

病理医の協力で、術中迅速病理検査でリンパ節転移の有無、断端診断を素早く行える体制を整えている。手術標本の検鏡も病理医のレクチャーを得て行い、自らの学習、臨床へのフィードバックを心がけている。希少例の発見は今年度もあり、治療に役立てるとともに、学会発表、論文作成など外部発信にも努めている。

緩和科医師、看護師、臨床心理士とも連携し、癌告知の日からでも、がん相談、心理的サポートが受けられる体制を構築し運用している。大病院では取りこぼされがちな、進行再発乳癌で厳しい状況に置かれている方も受け入れている。

地域との連携も初診受け入れはもちろん、術後フォローも補助療法、観察をかりつけ医に

お願いしての病診連携にも取り組んでいる。

<学術業績>

小林 稔弘

乳腺 solid papillary carcinoma の 6 例
第 31 回日本乳癌学会学術総会

川口佳奈子

乳頭異常分泌症例における乳管造影所見と病理診断の相関性の検討
第 31 回日本乳癌学会学術総会

矢子 昌美

乳腺原発 MALT 型リンパ腫の 1 例
第 31 回日本乳癌学会学術総会

太田紅仁香

多職種連携による精神疾患を伴う終末期乳癌患者への介入～遅発パラフレニーを合併した両側乳癌術後再発の 1 例を通して～
第 21 回日本乳癌学会近畿地方会

<令和 6 年度活動目標>

地域がん拠点病院にふさわしい診断、治療体制を維持する。令和 5 年に赴任した太田紅仁香医師は、経験を積んでさらに実力を増してきており、さらなる活躍と温かな人柄から患者さんへ安心を与えることを期待している。

がん医療の進歩は目覚ましく、ことにゲノム関連の進歩は臨床病理学的な手法を過去のものとし、実地医療の現場に活用されつつある。当院も遺伝子、免疫関連に対応できる体制を各科横断的に整えることに加え、高次医療機関との連携拡充を図っていきたい。

臨床治療を強化していくのに加えて、学会活動、論文発表や地域と連携した公開講座なども行い、活動を内外に告知するべく努力する。

最新医療を積極的に導入しつつ、赤十字精神に基づく誰もが取りこぼされない医療を提供することにより、登録医先生方に安心して紹介をいただき、患者さんに喜ばれ安心してもらえる診療科としての信頼を得られるように努力するつもりである。

脳 神 経 外 科

<スタッフ>

小林 稔弘（副院長 兼 脳神経外科部長）

柏木 秀基（非常勤医師：4月～9月）

福尾 祐介（非常勤医師：10月～3月）

<令和5年度活動実績>

脳外科は現在、常勤医師不在のため、非常勤医師による週1回（月曜日）の診療を行っている。週1回ではあるが、年間500件の外来診察に加えて入院病床での診察を行った。

一般診療に加え、救急外来患者、入院中患者のコンサルテーションを積極的に受け入れて、総合病院としての充実に応えている。

<令和6年度活動目標>

非常勤体制ではあるが、当院の脳神経分野を支えていく体制を維持していく。

整形外科

<スタッフ> *：日本専門医機構認定整形外科専門医、
+：日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医
#：日本リウマチ学会専門医

徳山 文人*+（部長）：脊椎外科、外傷および整形外科一般
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

伊丹 康夫*（副部長）：肩・肘関節外科、外傷および整形外科一般

田中 敬（医師）：整形外科一般

松下 拓歩（医師）：整形外科一般

岸本 郁男*#（非常勤医師）：大阪医科大学非常勤講師、股・膝関節外科、関節リウマチ

市場 厚志*（非常勤医師）

吉村柚木子*（非常勤医師）

安達 史哉*（非常勤医師）

<異 動>

安達 史哉 令和5年4月着任、令和6年3月退任

山本 茉奈 令和5年4月着任、令和6年3月退任

<専門外来>

脊椎外来、肩・肘関節外来、股・膝関節外来、リウマチ外来、エコー外来、

<令和5年度活動実績>

6年度入院患者延べ数 10,862人（1日平均29.8人）

6年度外来患者延べ数 12,275人（1日平均50.5人）

令和5年度の手術手技件数 計634件

当科は三島地区の地域基幹病院としての役割の一翼を担っており、救急外傷などに対する急性期治療、つまりは骨折を中心とする外傷疾患や一般整形外科疾患を多く扱っており、救急搬送要請には24時間対応している。スタッフは各症例に応じて高いレベルで非常にきめ細やかな診療を行っている。

Subspecialtyとしては当科数十年の歴史と伝統を持つ股・膝関節疾患に対する治療を継続しており、また脊椎脊髄病疾患、肩・肘関節を中心とする上肢の変性疾患やスポーツ外傷に対する治療など、専門性に富んだ医療を幅広い領域で行っている。各分野において経験豊富なエキスパートが揃っており、地域基幹病院として開業医の先生方からも多くのご紹介をいただいている。

脊椎脊髄病疾患に対しては、頸・胸・腰椎の各疾患による主に神経圧迫病変による疼痛や運動機能障害などを改善させる治療を行っており良好な成績をあげている。腰椎椎間板ヘルニアに対して

は小侵襲手術である内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術（MED）を行っており、2cm 弱の小切開で数日～1週間程度の短期間で退院を可能にしており、腰部脊柱管狭窄症に対しても同様に内視鏡下椎弓切除術（MEL）を行っている。脊柱変形や不安定性の強い脊椎変性疾患に対する脊椎固定術も安定した成績を出している。近年増加傾向にある骨粗鬆性椎体圧迫骨折後偽関節症例に対しても、人工骨による椎体形成を加えた脊椎固定術を行い、下肢麻痺により起立歩行が不可能となっていた患者が再び歩行可能となるなど良好な治療成績を得ている。しかしながら当科ではこれらの疾患に対しては保存治療を第一としており、MRI や造影検査、動態撮影などの検査にて評価を行い、その結果や症状により、また患者のニーズに応じて各種薬物治療、硬膜外ブロック、神経根ブロックなどを行っている。前述の様々な手術療法はこれらの治療が奏功しない場合に行うものであり、患者立脚型の治療を行うということで高い満足度を得ている。

肩関節、肘関節を中心とする上肢疾患については、アメリカ留学での研究で上肢の解剖やバイオメカニクスを熟知した伊丹副部長が担当をしている。こちらでも投薬やブロック療法、リハビリ治療などでの保存治療を第一としているが、それらが奏功しない場合には、腱板断裂に対しては関節鏡視下腱板修復術を行い、断裂のシビアな症例に対しては筋膜移植による関節鏡視下上方関節包再建術やリバーstype人工関節置換術も行っている。スポーツ外傷などによる反復性肩関節脱臼に対しては関節鏡視下関節唇修復術を行い、肩関節拘縮に対しては関節鏡視下関節受動術を行っている。さらに肘関節疾患に対しても上腕骨外上顆炎に対する関節鏡視下滑膜切除術を、肘関節拘縮に対して関節鏡視下関節受動術も行っている。いずれも小侵襲手術による高度な技術により良好な手術治療成績を収めている。

人工関節外科の手術において膝ではより高いQOLをめざした人工関節の導入、股関節では低侵襲人工股関節置換術（MIS-THA）を適応症例に施行し、筋肉や腱の切離が少ないこと、あるいは全く行わないことで患者の術後の疼痛コントロールや運動回復が早くなり、また術後リハビリ期間の短縮により早期の社会復帰や退院を可能にしている。

膝靭帯、半月板損傷などのスポーツ整形外科治療では、靭帯の解剖学的再建を行い、トップアスリートの膝損傷のスポーツ復帰を可能にしている。

三島地区は超高齢者の人口比率が高いという背景があり、救急患者の多くを占める大腿骨近位部骨折の患者に対しては他科との密な院内連携を図り、術後はチーム医療によりクリニカルパスの導入を行っている。

骨粗鬆症に対しては骨塩定量や採血検査を行い、その結果により各種薬物療法を行い骨折が生じないための予防治療を積極的に行っている。また度重なる脊椎圧迫骨折などをはじめとする重症骨粗鬆症に対しては強力な薬物治療であるロモソズマブやPTH製剤、デノスマブの投与を行うなど、骨粗鬆症治療にも重点を置いている。

当科は急性期病院として新患者や救急患者、開業医の先生方からの紹介患者を積極的に受け入れている。諸先生方のご協力のもと地域連携を強化して手術対象になる患者紹介を増やし、また先生方への逆紹介にも力を注いでおり、地域に密着し、より地域の役に立つ病院であるための努力を行っている。

形成外科

<スタッフ・専門分野>

櫛田 哲史（副部長）：日本形成外科学会領域指導医、日本形成外科専門医、臨床研修指導医、
日本創傷外科学会専門医、再建・マイクロサージャリー分野指導医
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、レーザー分野指導医

尾崎 里沙（常勤医師）

國枝 桜子（非常勤）：日本形成外科学会専門医

田辺 敦子（非常勤）：日本形成外科学会領域指導医、日本形成外科専門医、臨床研修指導医、
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医、
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、
日本美容外科専門医、日本抗加齢医学会専門医、日本認定産業医

<令和5年度活動実績>

令和5年度 形成外科新患数	372 名
令和5年度 手術件数	473 件（手術室使用件数 288 件）

<令和6年度活動目標>

当院形成外科は、日本形成外科学会認定施設であり、近隣施設から多数の患者様のご紹介を頂いています。

手術治療としては皮膚・皮下腫瘍摘出術、悪性腫瘍の切除とその後の再建をはじめとして、眼瞼下垂症、顔面外傷・顔面骨骨折、傷跡の修正等を中心に多く行っていますが、シミのレーザー治療などの自費診療も行っています。今年度も地域医療に重点を置いた質の高い形成外科診療を行うよう努めます。

皮膚科

<スタッフ>

- 皮膚科・美容皮膚科部長：玉田 尚（院長兼務）
皮膚・形成外科センター長：古川福実（現名誉院長・顧問・マスター）
皮膚科副部長：島本純子（大阪医科薬科大学皮膚科より）
皮膚科医師：西田美央（大阪医科薬科大学皮膚科より）
皮膚科アドバイザー：山本有紀（和歌山県立医科大病院教授）
皮膚科アドバイザー：立花隆夫（星ヶ丘医療センター皮膚科部長）

<令和5年度活動実績>

- 令和5年度入院患者延べ数： 799人
令和5年度外来患者延べ数： 9384人

- ・2023年度の当院皮膚科は、皮膚・形成外科センター長 古川福実名誉院長、皮膚科副部長 島本純子、同医師 西田美央の3人体制で外来診療、入院治療を行いました。
- ・美容皮膚科のアドバイザーとして山本有紀先生、アレルギー診療のアドバイザーとして立花隆夫先生に協力をいただいております。
- ・月曜日から金曜日はそれぞれ2診体制で外来診療を行っており、1日あたり平均40～50人程度の外来患者を診察しております。一般外来では近隣の医院からのご紹介も多く、皮膚生検やアレルギー検査も適宜行っております。水曜日には古川福実センター長による外来を行っており、一般外来で難渋している症例や難治な症例の相談や、県外を含めた他院での難渋している症例のご紹介も数多くあり、様々な症例を学ぶ機会が整っています。
- ・古川福実センター長は偶数週の午後に小児科外来でアトピー性皮膚炎外来を小児科医師と合同で行っております。
- ・形成外科との連携も密にとっており、切除が必要な腫瘍性病変や、皮膚科では難しい外科的処置などは形成外科への紹介を行っております。また形成外科に通院中の患者の皮膚症状や外用治療について相談いただくこともあり、両科の得意分野を治療に生かすように連携しています。2021年から皮膚・形成外科センターを設立いたしました。
- ・近隣の基幹施設である大阪医科薬科大学皮膚科とも連携しており、化学療法が必要な皮膚腫瘍や光線過敏症（疑い含め）等の紹介を行っています。
- ・京都大学や近畿大学皮膚科との連携も行っております。
- ・褥瘡回診・褥瘡外来を毎週月曜日に行っており、入院中の褥瘡患者の回診、外来通院中の褥瘡患者の処置を、皮膚科医、形成外科医、緩和ケア医、皮膚・排泄ケア認定看護師、栄養士で行い、症例それぞれに合った治療、予防、ケアができるように努めています。
- ・フットケア外来との連携も密にとっており、皮膚科外来通院中でフットケアが必要と考えられる患者の紹介を行っています。また、フットケア外来通院中の患者で投薬治療が必要となった場合は皮膚科へ紹介をいただいたりしております。

- ・乾癬に対して、外用剤での治療、オテズラ内服や紫外線（エキシマ）治療に加え、生物学的製剤治療の認証施設となっています。乾癬性関節炎、膿疱性乾癬、難治の尋常性乾癬の症例に対して適切な抗体製剤を使用しています。また乾癬性関節炎についてはリウマチ膠原病内科とも連携して診察しています。
- ・アトピー性皮膚炎に対しては、基本的な外用治療で難治な症例には生物学的製剤や JAK 阻害薬などの導入を積極的に行っています。また毎週金曜日には小児科で小児アトピー性皮膚炎外来を共観で行っております。
- ・日本アレルギー学会の専門医教育研修施設の認定施設です。
- ・大阪府アレルギー疾患医療連携協力病院の指定を受けています。呼吸器内科、小児科など関連した診療科とも連携し、診察・治療を行います。
- ・自費治療も行っており、美容診察として老人性色素斑や雀卵斑などに対する IPL 治療、老人性色素斑や後天性真皮メラノサイトーシスに対する Q スイッチレーザー治療（現在は形成外科で施行）・脱毛などを、肌画像カウンセリングシステム「re-Beau2」も使用し、治療前後の経過を比較しながら診察・治療しております。また男性型脱毛に対する内服治療（フェナステリド、デュタステリド）、巻き爪に対するワイヤー矯正治療（マチワイヤー、巻き爪マイスター）、帯状疱疹ワクチンの接種なども随時行っています。
- ・2022 年 4 月から皮膚科・形成外科で生検や切除をした病理組織について、両科合同で病理組織カンファレンスを行っております。毎週火曜日夕方に、古川名誉院長と病理部医師の指導のもと、病理組織の診断や、今後の治療方針について積極的に討論しています。
- ・皮膚ループスを対象とした臨床治験が、2023 年の秋より開始しております。
- ・2023 年 4 月より園村真美医師から西田美央医師に交代となり、新メンバー体制となりました。



皮膚科・美容皮膚科スタッフ
（左より 島本、古川、西田）



病理カンファレンス風景

泌尿器科

<スタッフ>

部長 六車 光英

医師 天野 賢士 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

<異動>

令和4年4月1日から勤務していた清田翔医師が令和5年3月31日で退職し、令和5年4月1日から天野賢士医師が着任した。

<令和5年度活動実績>

令和5年度の外来患者数は延患者数6646人、1日平均患者数27.3人で、前年度に比べ減少傾向であった。入院患者数も延患者数1792人、新入院患者数270人で、前年度に比べ減少傾向であった。平均在院日数は5.7日で前年度に比べ短縮傾向であった。

令和5年度の手術件数は132件で、前年度の190例に比べ大幅に減少していた。令和5年度の手術室で行った手術および検査の内訳は下記の通りで、TULが前年度の54件から22件に減少したのが目立つが、これは前年度末でESWLの稼働を終了したため、結石患者の紹介が減ったためと思われた。また今年度も泌尿器科において5年以上の経験を有する常勤医が1名しか配置されていないため腹腔鏡下前立腺全摘除術は行う事が出来なかった。

副腎・後腹膜	経皮的後腹膜腫瘍生検術	1
	経皮的後腹膜膿瘍ドレナージ術	1
腎・尿管	経皮的腎腫瘍生検術	1
	腹腔鏡下腎摘除術	1
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	5
	経皮的腎瘻造設術	3
	経皮的腎瘻拡張術	3
	経皮的腎碎石術 (PNL)	2
	経尿道的腎尿管碎石術 (TUL)	22
	尿管鏡	5 (内2例はTURBTと同時施行)
膀胱	尿管ステント留置術	5
	経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT)	53
	経尿道的膀胱碎石術	7
	経尿道的電気凝固術	2
前立腺	回腸導管造設術	1
	前立腺生検	84
	経尿道的前立腺切除術 (TURP)	6
	経尿道的前立腺核出術 (TUEB)	1

尿道・陰茎	尿道狭窄内視鏡手術	1
	包茎背面切開術	1
	包皮環状切除術	4
陰囊	高位精巣摘除術	1
	陰嚢水腫根治術	4
	精索水腫根治術	1
腎不全	内シャント造設術	4

<令和6年度活動目標>

令和6年度は今年度減少した手術件数の回復を最重要課題とし、年間手術件数200件以上を目標としたい。またこれにより入院患者数を増やし、1か月の新入院患者数30人以上を目標としたい。また令和6年度は泌尿器科において5年以上の経験を有する常勤医が2名となるので腹腔鏡下前立腺全摘除術を再開し、将来的には年間20例以上行って手術支援ロボット導入につなげたい。

産婦人科

<スタッフ>

中村 路彦 (部長)

藤原 聡枝 (非常勤)

寺田 信一 (非常勤)

<異動>

松岡 理沙 退職

<特色>

婦人科全般にわたり診療を行っている

外来では通常の診察に加え、拡大鏡検査、日帰りでの子宮鏡検査を行っている。

治療は、悪性疾患については大学病院に依頼を行っており、良性疾患を主に行っている。

付属器疾患については腹腔鏡下手術、子宮疾患については症例により腹腔鏡下手術、開腹手術を検討している。

また1泊入院で子宮頸部円錐切除術を行っている。

眼 科

<スタッフ>

小林 稔弘（副院長 兼 眼科部長）

奥村 峻大（副部長）

岡 雅美（医 師）

植木 麻理（非常勤医師）

佐藤 孝樹（非常勤医師）

藤田 恭史（非常勤医師）

<令和5年度活動実績>

眼科疾患全般に対応しており、白内障、緑内障、網膜硝子体疾患、眼形成、涙道疾患に対する手術治療を積極的に行っている。

5年度の診療実績は外来7929件、入院382件、手術598件を行った。

白内障手術は日帰りから入院まで患者様の希望に応じて対応している。また乱視矯正眼内レンズや多焦点眼内レンズを用いた手術も行っている。

緑内障、硝子体についても専門医が最新の手術器械を用いて行っている。

常勤医2人体制で外来から入院まで、きめの細かい治療が出来るよう努力している。

<令和6年度活動目標>

病診連携を重視し、地域の診療所さまからの紹介を切れ目なく頂き、期待に違わぬ水準の治療を遂行することを目標とする。そして患者様が安心して、当院での加療を受けられる体制を維持する。

放射線科部 及び 核医学科部

<スタッフ>

◆医師

後藤 公男 (部長)	:	画像診断
山室 正樹 (部長)	:	核医学診断 + 画像診断
的場 直樹 (副部長)	:	画像診断
今井 雅夫 (非常勤)	:	画像診断
坂中 克行 (非常勤)	:	放射線治療
宇藤 恵 (非常勤)	:	放射線治療

◆診療放射線技師

松原 健夫 (課長)
大嶋 浩嗣 (MRI 係長)
中村 義隆 (放射線係長)
関本 淑徳 (CT 係長)
涌田 哲成 (放射線治療係長)
西村 大樹 (核医学係長)
林 恵理子・松山 佳央・渡邊 良彦・石寄 伸也・松下 あゆみ
柳田 泰祐・原 祥太郎・木戸口 堯史・村上 慎哉・中村 仁美

◆事務員

植松 恵美子

<施設認定、資格>

◆マンモグラフィ検診施設画像認定

◆検診マンモグラフィ撮影技術認定

林 恵理子 ・ 松下 あゆみ ・ 中村 仁美

◆第 1 種放射線取扱主任者

西村 大樹

◆肺がん CT 検診認定技師

関本 淑徳

◆X 線 CT 認定技師

関本 淑徳 ・ 松山 佳央 ・ 原 祥太郎 ・ 木戸口 堯史

◆放射線治療専門放射線技師

涌田 哲成 ・ 渡邊 良彦 ・ 石寄 伸也

◆放射線管理士

放射線治療品質管理士、臨床実習指導教員

涌田 哲成 ・ 渡邊 良彦 ・ 石寄 伸也

◆救急撮影認定技師

松山 佳央 ・ 原 祥太郎

◆放射線管理士

松原 健夫 ・ 西村 大樹 ・ 渡邊 良彦

◆臨床実習指導教員

西村 大樹 ・ 渡邊 良彦

◆放射線機器管理士、医療画像情報精度管理士、

渡邊 良彦

<令和5年度活動実績>

◆研究発表、研修会開催実績

【院外】

※第59回 日本赤十字社医学会総会

柳田 泰祐

【院内】

※医療安全研修

(被ばくの最適化・正当性・MRIの安全管理・報告書管理)

後藤 公男 ・ 松原 健夫 ・ 関本 淑徳 ・ 木戸口 堯史

※5/31・6/1 アンギオ装置選定勉強会

松原 健夫 各メーカー

※8/23 アミロイドーシスDPC算定について

西村 大樹 放射性医薬品メーカー

※11/15 VS BONE Ver3について

西村 大樹 放射性医薬品メーカー

※1/26 骨密度検査説明会

松原 健夫 装置メーカー

※3/4 放射線課QCサークル活動

西村 大樹

※3/14 JCLガイドラインフォーカスアップデート

西村 大樹 放射性医薬品メーカー

※3/21 最新RIトピックス アミロイドPET

西村 大樹 放射性医薬品メーカー

【課内】

※能登災害救護主事の役割

中村 義隆

※6/21 脳血流SPECT解析ソフト最新論文

西村 大樹 放射性医薬品メーカー

※10/18 タスクシフト・シェア

西村 大樹 放射性医薬品メーカー

※ 1/17 IMP GraphPlot について

西村 大樹 放射性医薬品メーカー

◆院外研修会・講習会・学会等への参加

※ 69 名 / 59 会 Web 開催及び対面開催（診療放射線技師のみ）

◆その他活動

※地域連携推進活動（周辺医療施設訪問）

※タスクシシェア推進

※学生実習生の受け入れ

◆機器整備更新

※骨密度装置

◆放射線科部 + 核医学科部 検査件数

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般撮影	29,526	29,002	28,940
ポータブル	8,468	8,212	8,541
造影検査	742	912	870
マンモ	1,032	1,023	1,090
CT	10,577	10,461	11,002
MRI	4,045	3,548	4,408
RI	753	731	646
血管造影	362	335	335
放射線治療	131	99	113
骨密度	495	533	495

◆放射線科部 + 核医学科部 紹介検査件数

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
CT	332	353	401	415	539
MRI	723	833	877	760	920
RI	163	219	123	184	120

<令和 6 年度活動目標、計画>

◆放射線科部 + 核医学科部

※放射線業務従事者への教育訓練開催（RI 法）

※ MRI 安全管理講習開催

※医療被ばく正当性、最適化講習開催

※報告書管理体制強化

※職業被ばく管理強化（電離放射線障害防止規則）

※放射線治療件数増加活動

※アンギオ装置更新に向けて勉強会開催

※骨密度装置更新における検査推進活動

※タスクシフト・シェア実行

※緊急時対応 WG 結成し緊急対応スキル強化

※各モダリティのスペシャリスト育成

リハビリテーション科

<スタッフ>

医師：玉田 尚 部長
馬止 裕 常勤
服部 智 非常勤

理学療法士：野村 省二（リハビリテーション課長）
新地 史章（第一理学療法係長）
倉繁 浩一（第二理学療法係長）
吉田 綾梨 産休育休 2023/2/12 ~ 2024/4/5
育児時短 2024/4/6 ~ 2025/4/5
菊池優理子 産休育休 2023/3/3 ~ 2024/4/21
育児時短 2024/4/26 ~ 2025/4/25
他7名（欠員1名）

作業療法士：山崎 孝子
石塚 威
大下 綾華

言語聴覚士：椎葉 佳子
大路 かほる

<特 色>

当科は、1993年9月にリハビリテーション（以後リハと略す）総合承認施設（理学療法Ⅰ・作業療法Ⅰ）を、2002年8月に言語聴覚療法Ⅱの認可を受け、包括的なリハ活動を展開してきた。2016年4月の診療報酬改定に対応して、全ての施設基準（運動器Ⅰ・脳血管疾患等Ⅰ・廃用症候群Ⅰ・呼吸器Ⅰ・心大血管疾患Ⅰ・がんのリハ）の認可を受けた。急性期病院としてのリハ機能を遂行するために、リハ対象疾患患者に対して早期に介入し、早期退院を図っている。さらに終末期における緩和ケア病棟で緩和医療にも力を注いでいる。

理学療法部門において、運動器リハでは人工関節置換術・関節損傷・脊椎外科・大腿骨頸部骨折（地域連携パス使用）等の整形外科疾患、脳血管疾患等リハの件数は少ないが脳血管疾患・パーキンソン病等の中枢神経系疾患、廃用症候群では外科術後の方や多種多様な運動器廃用の方を対象に早期の日常生活動作の自立とQOLの向上を目差したアプローチを進めている。

呼吸器リハでは、1972年に着手した呼吸理学療法を発展させ、今日では呼吸器外科は勿論、一般外科患者に対しHCUから理学療法を行っている。慢性呼吸不全患者に対しても、包括的呼吸リハプロジェクトを組み患者の早期社会復帰への働きかけを行っている。

2014年7月に施設基準を取得した心大血管疾患リハでは、心不全・狭心症・心筋梗塞等の入院患者を中心に多職種による包括的アプローチ実施している。今年度4月より外来心臓リハビリテーション（集団療法）を開始し、心臓疾患のパンデミックに備える。

がんのリハビリについては、施設基準取得以前からリハ介入しており、がんの診療資格を所有

しているスタッフが緩和ケアまで一貫した多職種での取り組みを図っている。

作業療法部門では、理学療法部門と同様に多様な患者様を対象に、入院中より家庭復帰、職場復帰を想定したアプローチを行っている。手の外科手術後のハンドセラピーには積極的に取組んでおり、装具も開発している。

言語聴覚療法部門では、NST 専門療法士として NST 委員会メンバーに加わり摂食嚥下障害(栄養障害含む)の治療やケアに効果を上げている。がん患者においても 2017 年 1 月より算定資格を得て緩和まで介入させている。それ以外に失語症・構音障害・言語発達遅延へのアプローチも実施可能である。

また、2017 年 11 月より認知症ケア専門士として認知症ケアサポートチームの活動に加わっている。

<診療実績：令和 5 年（2023 年）>

理学療法延件数：37,840 人（前年度 -254）

	外 来	入 院	比率%
運動器	2,732 (3,426)	6,573 (6,733)	25 (23)
脳血管疾患	0 (23)	690 (494)	2 (2)
廃用症候群	0 (0)	6,087 (5,270)	16 (21)
呼吸器	1 (0)	6,313 (6,080)	17 (22)
心大血管	299 (12)	3,433 (3,205)	10 (12)
が ん		3,917 (5,884)	10 (14)
その他	191 (211)	7,604 (6,756)	21 (6)
小 計	3,223 (3,672)	34,617 (34,222)	

作業療法患者延件数：9,871 件（前年度 -307）

	外 来	入 院	比率%
運動器	846 (1,167)	537 (747)	14 (19)
脳血管疾患	0 (1)	419 (355)	4 (4)
廃用症候群	0 (0)	1250 (1,231)	13 (12)
呼吸器	0 (0)	3120 (2,795)	32 (27)
心大血管	0 (0)	60 (206)	1 (2)
が ん		799 (1,129)	8 (11)
その他	42 (21)	2798 (2,440)	29 (25)
小 計	888 (1275)	8983 (8903)	

言語聴覚療法患者延件数：5,889 件（前年度 +812）

	外 来	入 院	比率%
脳血管疾患	0 (0)	236 (200)	4 (4)
廃用症候群	0 (0)	987 (1,025)	17 (20)
呼吸器	0 (0)	1,916 (1,897)	33 (37)
が ん		279 (389)	5 (8)
集団コミュニケーション療法	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	0 (0)	2,471 (1,566)	42 (31)
小 計	0 (0)	5,889 (5077)	

<令和5年度の活動実績・成果>

当科の最重要目標である『全てのリハビリ対象者を選出し、リハビリ専門職1人あたりの月平均延件数及び延単位数を増加させる。』を達成させるために、適切な人員配置を施した上で、リハビリ専門職一人一人の就業時間内で最大限に患者の治療時間を確保していくことを念頭に業務を遂行した。加えて令和6年度病院機能評価受審の準備のため、部署内及び部署外の業務体制の見直しと関連マニュアルの改訂を実施行うことになった。準備の中で病院の方針として当科の外来心臓リハビリテーションの強化を図り、地域支援病院の柱の一つとして事業を展開することになった。

大阪部支部からの繰入金による設備投資がなされ主に老朽化した理学療法機器の更新と心臓リハビリテーションの管理システムが配備された。

全対象者数は前年と比較して作業療法は激減し言語聴覚療法（主に嚥下訓練）は激増した。理学療法の外来心臓リハビリテーションは微増であったが、2名の欠員補充のないままりハビリテーション業務の質・量を共に落とさないために、下記に示す通り業務を遂行した。

- I. リハビリ対象患者数の確保：①病棟カンファレンス・回診でのDPCを考慮した退院支援・HCU離床リハ対象患者の週末での選出強化②リハ実施率（病棟別・診療科別）の検討及びイントラを利用した対象患者の医師への周知と選出③院内広報：広報誌やホームページのリニューアル④クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保と早期退院⑤作業療法士の心臓リハビリ（CAG/PCI）介入は専任看護師の確保があり減少⑥5月より5類となった新型コロナウイルス感染者への介入制限解除（言語聴覚士以外）となり飛沫感染患者としてリハビリを実施する。
- II. リハビリ専門職1人あたりの算定件数増加：①業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③リハ専門職休暇時における代行患者数及び単位数確保④退院時リハビリテーション指導料の算定漏れ抑制（指導冊子とシステムでのチェック体制強化）
- III. 時間外勤務時間の抑制：①対象患者数が激増した言語聴覚士と欠員補充がされなかった理学療法士に関しては治療遂行のため増加②コロナ患者の担当制解除し通常業務（飛沫感染対応）で治療にあたる③電子カルテ及びリハ管理システムによるコストパフォーマンスの是正（リハビリ書類作成・事務員の専門性向上も含む）：QC活動にてカンファレンスのコストパフォーマンス向上を達成し功績を認められた。
- IV. 材料費の最大限の削減：繰入金により老朽化した医療消耗器具備品費などはほぼ充足した。また外来心臓リハビリテーション（集団療法）に必要な関連機器を全てそろえることができた。その他の医療関連機器の購入は節約（老朽した物から購入リストになって順次購入）。作業療法のADLの備品は財務課と交渉の上購入となる。
- V. 教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格獲得援助（学会大会・研修会・心臓リハビリテーション指導士認定・摂食嚥下リハビリテーション認定士認定）②卒前教育の臨床実習施設として2校からの臨床実習生（PT各1名）を受け入れた。また、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として高槻市理学療法士会の新人教育部にPT1名が部員として参加することになった。高槻市理学療法士協会からの呼吸勉強会は開催中止。③学会発表援助：日本赤十字医

学会総会で不破賢太郎・井上 環がそれぞれ発表。④ R プラン（勤務評定）からの自己研鑽励行。⑤関連資格取得：大下綾華 急性期ケア専門士（日本急性期協会）。

VI. その他：①令和 6 年度病院機能評価受審の準備：業務マニュアル及び治療マニュアル改訂・リハ医業務の是正（診療内容の充実・カンファレンスの充実）②摂食機能療法の施設基準取得の検討はペンディング③令和 6 年度診療報酬改定における情報収集及び対応準備（急性期リハビリテーション加算の導入）④救護員の育成及び救護活動の参加推進：能登地震発生時の当課の派遣なし⑤繰入金により、理学療法室の医療設備機器更新と心臓リハビリテーションの管理システムが配備された。

<令和 6 年度の活動目標>

令和 6 年 5 月 21・22 日に実施される病院機能評価受審の準備を通して、当課の業務上の問題点を抽出して適切なリハビリテーションをしていくための組織づくりを他職種と共同して実現することが、地域支援病院（急性期リハ）としての役割を果たすと考える。

よって、下記の 3 つをスローガンとして前年度と同様に実務にあたる。

- リハビリ専門職 1 人あたりの月平均単位数（治療時間）を増加する
- 病院機能評価受審へ向けてリハビリのニーズに対応できる質の向上を図る
- 心臓リハビリテーションの外来業務拡大

その他

- 嚥下障害患者数が激増しており言語聴覚士 2 名で賅うことは難しくなっており、通常の病院の対応として多職種で嚥下チームを立ち上げて摂食機能療法の施設基準取得を実現するように申請していく。
- 令和 6 年度診療報酬改定における情報収集及び対応準備（急性期リハビリテーション加算の導入・地域包括医療病棟の病棟配置などの検討）
- 救護員の育成及び救護活動の参加推進・年 1 回以上の BLS の勉強会推進

麻 醉 科

<スタッフ>

常勤：宇田るみ子（部長）平成31年4月1日から

澤井 俊幸（麻酔科・手術部長）令和2年1月1日から

< 麻酔科の活動実績 >

「令和2年8月から毎週水曜日午後二時から三時までペインクリニック外来で帯状疱疹後神経痛や術後慢性痛などを主に（院内紹介患者のみ）受け付けております。

帯状疱疹後神経痛や術後慢性痛などを主に（院内紹介患者のみ）受け付けております。」

< 令和5年度（2023/1/1-2023/12/31） >

【合計】

手術件数	1051（うち手術室内 1051、手術室外 0）
------	--------------------------

【性別】

男性	女性	合計
560	491	1051

旧分類【麻酔法】

A. 全身麻酔（吸入）	899
B. 全身麻酔（TIVA）	12
C. 全身麻酔（吸入）＋硬・脊、伝麻	139
D. 全身麻酔（TIVA）＋硬・脊、伝麻	1
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	0
F. 硬膜外麻酔	0
G. 脊髄くも膜下麻酔	0
H. 伝達麻酔	0
X. その他	0
合計	1051

【ASA PS】

予定 1	75	緊急 1E	17
2	699	2E	69
3	135	3E	55
4	0	4E	1
5	0	5E	0
6 （臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	0	6E （臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	0
小計	909	小計	142
合計		合計	1051

【手術部位】

a.脳神経・脳血管	0
b.胸腔・縦隔	95
c.心臓・血管	0
d.胸腔+腹部	3
e.上腹部内蔵	118
f.下腹部内蔵	219
g.分娩	0
h.頭頸部・咽喉部	25
k.胸壁・腹壁・会陰	106
m.脊椎	56
n.股関節・四肢（含：末梢神経）	407
p.検査	1
q.MAC	0
r.ECT	0
x.その他	6
合計	1051

【体位】

1.仰臥位	478
2.腹臥位	75
3.側臥位	248
4.切石位	244
5.坐位	0
6.その他	6
合計	1051

旧分類【年齢構成】

	男性	女性	合計
A.～1ヶ月	0	0	0
B.～12ヶ月	0	0	0
C.～5歳	0	1	1
D.～18歳	23	5	28
E.～65歳	170	150	320
F.～85歳	327	269	596
G.86歳～	40	66	106
合計	560	491	1051

【偶発症例】

A.危機的偶発症	0
B.神経系偶発症（脳・脊髄）	0
C.その他の神経系偶発症	0
D.その他	0
合計	0

救 急 部

<令和5年度活動実績>

令和5年度は、令和元年度の終わり頃から蔓延し始めた COVID-19 禍によって、大きな影響を受けた1年でした。例年になく対応を迫られた業務も多ければ、例年できた事ができなかったという両面があり、前者としては多数の発熱者受診への対応が必要となり、元々狭い救急外来に空気清浄機や簡易テントなどを所狭しと配置、さらにスペースが足りずコンビニのイーフトコーナーもお借りし続けています。コロナを見落とさないような注意も必要ですし、コロナを疑いすぎるあまり重篤な一般疾患を見落とさないようにも神経を遣う1年でした。数値的な実績は救急車搬入 2750 症例（うち入院率 56%）、ウォークイン含め 5849 症例の診療実績は、昨年（救急車 2358 症例、ウォークイン合わせ 5730 症例）と比べて若干増加しました。

COVID-19 のために、地道に継続してきた、地域連携機関や救急隊への営業活動、各種勉強会や親睦会、外部での災害救護訓練などは例年ほど活発に実施できませんでした。それでも ICLS（二次救命救急処置講習会）や院内の災害訓練などは感染対策を施して開催致しました。今後もウィズ～ポストコロナ時代へ柔軟に対応しながら、当院の生き残り～再生を目指して尽力したいと考えております。

医療技術部

栄養課

<スタッフ>

- ◆管理栄養士：桑田 由起江（栄養課長・NST 専門療法士・病態栄養専門管理栄養士
がん病態栄養専門管理栄養士）
藤本 智子（栄養係長 糖尿病療養指導士）
西岡 美穂（糖尿病療養指導士・NST 専門療法士）
- ◆調理師：藤原 崇義（調理第一係長）、堀 隆二、小川 辰夫、櫻井 葉子、
下田 剛史、野方 晴美
- ◆主事：五百井 栄実

<令和5年活動実績>

給食管理においては、食品価格が高騰している中、給食の質を保てるよう食材の検討を行い安全で美味しい食事の提供を目標にしています。自然災害が日本中で相次いでいるなか、災害時に即座に対応できるよう災害マニュアルの見直しを行いました。災害時に対応するスタッフの為に職員用の備蓄食の整備を行いました。

<統計>

栄養指導件数 算定 447 件／年 給食数 169,278 食／年
NST 加算件数 736 件／年
心臓リハビリテーションカンファレンス参加件数 588 件／年

<令和6年度活動目標>

患者の状態に応じた栄養管理が実施できるよう個々の状態把握と必要な栄養指導が実施できるようにする。GLIM 基準等のアセスメントツールを導入して栄養状態を評価する。また食欲不振や低栄養患者に対して速やかに栄養介入を行える体制を整備する。転院、退院後の生活を見据えた栄養管理を目指す。また、安全でなおかつおいしい食事提供ができるよう衛生面での環境整備を行い、治療に貢献できる食事提供を目指す。

臨床工学技術課

<スタッフ>

医師

玉田 尚 (医療技術部長)

臨床工学技士

竹下 勇一 (臨床工学技術課課長)

吉村 忠 (臨床工学技術課主任) 2024年2月退職

澤井 綾太 (臨床工学技術課主任) 2024年2月入職

福谷 伶芳

森地 裕子

杉本 健太

西 祐樹 2023年3月退職

土井 日来 2023年4月入職

主事

兼田 泰子

臨床工学技術課は血液浄化装置、人工呼吸器、人工心肺装置などの『生命維持管理装置』を医師の指示のもと操作として治療のサポートをするほか、院内にある医療機器が安全に正しく使用できるように保守点検を行うなどの業務を担っています。医学的知識はもちろん、医療技術の進歩に伴い、高度化する様々な医療機器の知識、技能を持ち、スムーズな治療や検査が行えるように対応しています。

<令和5年度活動実績>

1. 血液浄化療法領域

- 血液透析…47症例、1442回
- 持続緩徐式血液透析濾過…16症例、106回
- 血漿交換療法…3症例、27回
- エンドトキシン吸着療法…1症例、36回
- GCAP、LCAP…0回
- 腹水濾過濃縮再静注法…10症例、27回

2. 血液疾患領域

- 末梢血幹細胞採取…1症例、1回
- 白血球除去療法…0回
- 顆粒球/リンパ球採取…0回
- 骨髄濃縮…0回

3. 循環器領域

- CAG…80件

- PCI…141 件
- IVUS…118 件
- FFR…4 件
- シェント PTA…15 件
- 下肢 PTA…2 件
- IVC フィルター…0 件
- IABP…2 件
- PCPS…0 件
- ペースメーカー新規植え込み…15 件
- ペースメーカー交換…12 件
- ペースメーカー交換…8 件
- Pacemaker 外来（月 2 回）…延 131 回
- 遠隔モニタリング登録患者数…147 名

4. 腎生検施術補助

- 0 件

5. 医療機器管理領域

- 人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ、AED、ポータブルエコー、フットポンプなどの医療機器管理台数…1544 台
- 医療機器修理業務 院内・院外修理…351 件に対応
- 医療機器、消耗品に関する研修会の開催…15 件
- 新規納品機器に関する研修会…13 件

6. 手術室業務

- 麻酔器の使用前点検
- 医療機器などのトラブル対応
- 除細動器・無影灯点検

7. 内視鏡関連業務

- カプセル内視鏡（小腸）…15 件
- カプセル内視鏡（大腸）… 0 件

8. その他

- RFA…9 件

< 令和6年度活動目標 >

各々が領域にかかわらず医療機器管理や、生命維持管理装置技術を習得し、患者の状態に合った治療が行えるよう努める。

医療安全への意識を強く持ち、安全・安心・安楽な治療が行えるよう努める。

薬 剤 部

<スタッフ> (役職・担当・資格は令和6年3月31日現在)

小島 一晃 (薬剤部長)：麻薬管理者・治験薬管理者・医療安全推進室員・医薬品安全管理責任者・薬事委員会副委員長・治験審査委員会副委員長・化学療法委員会副委員長・大阪府病院薬剤師会理事・大阪府病院薬剤師会会員委員長・日赤薬剤師会理事

- ・日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 がん指導薬剤師

美和 孝之 (薬剤副部長／医薬品情報係長)：放射性医薬品管理者・医薬品情報業務責任者・薬事委員会事務局 (幹事)

大阪府病院薬剤師会代議員

- ・日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
- ・日本栄養治療学会 NST 専門療法士

仲 忠士 (臨床業務課長)：病棟薬剤業務責任者・外来化学療法業務責任者・治験管理業務責任者・治験審査委員会事務局 (幹事)

大阪府病院薬剤師会財務委員

- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本栄養治療学会 NST 専門療法士
- ・日本医療情報学会 医療情報技師

松本 弘誠 (調剤業務課長)：調剤業務責任者・実務実習指導責任者・新人教育責任者・感染管理室員・ICT/AST 業務・AST 委員会副委員長

- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

中西 輝 (調剤係長／製剤・薬品管理係長)：実務実習指導担当・手術室業務責任者・ICT/AST 業務・NST 業務・病棟薬剤業務・調剤業務・薬事委員会事務局 【8/1 配置転換】

- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

- ・日本栄養治療学会 NST 専門療法士
- 瀧武 清範 (化学療法係長)：調剤業務・化学療法業務・レジメン管理担当・薬事委員会事務局
- 大阪府病院薬剤師会公衆衛生委員
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師
- 岩井真里絵 (病棟薬剤業務係長)：病棟薬剤業務・調剤業務・緩和サポートチーム業務・薬事委員会事務局 【8/1 昇任】
- 大阪府病院薬剤師会薬事制度委員
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師
- 山村裕佳子 (薬剤師)：注射業務専任
- 安達 美里 (薬剤師)：調剤業務専任 【時短勤務】
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- 森川 智子 (薬剤師)：病棟薬剤業務 (緩和ケア病棟・HCU 専任)・調剤業務
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士
- 奥村 優介 (薬剤師)：病棟薬剤業務 (9 病棟専従)・ICT/AST 業務
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
- 奥村 有香 (薬剤師)：外来化学療法業務・調剤業務 【時短勤務】
- ・日本循環器学会 心不全療養指導士
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- 松田ちひろ (薬剤師)：【育休中】
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師
- 福井 美礼 (薬剤師)：病棟薬剤業務 (8 病棟専従)
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師
- 橋本 仁美 (薬剤師)：外来化学療法業務・調剤業務 【時短勤務】
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士
- 宮西 将之 (薬剤師)：病棟薬剤業務 (6 病棟専従)
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- 野間 敏也 (薬剤師)：外来化学療法業務・調剤業務
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師
- 兼行 佑奈 (薬剤師)：病棟薬剤業務 (7 病棟専従)
- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師

田中 慎子（薬剤師）：病棟薬剤業務（5 病棟専従）
・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

小西 史子 【7/31 退職】

徳田 悦美（主 事）：治験管理業務・調剤支援業務・治験審査委員会事務局

松本 明子（主 事）：治験管理業務・調剤支援業務・治験審査委員会事務局

山地 祥恵（業務員）：調剤補助業務・発注業務

竹内 邦子（業務員）：調剤補助業務・発注業務

中元真紀子（業務員）：調剤補助業務

<薬剤関連施設認定>

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師研修施設

日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設

日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設

薬学教育協議会 実習生実務実習受入施設

<令和 5 年度活動実績>

【調剤室】

ダウンサイジングによる人員減少に対応するため、調剤室人員配置・業務内容の細部見直しを昨年度から引き続き実施した。

薬剤師数減少に対応するため、糖尿病・内分泌・代謝内科の治験縮小に伴い、治験事務担当者を午前 2 名、午後 1 名調剤室シフトとして配置。調剤室業務のタスクシフトを進めることで、病棟・外来の薬剤師配置数を極力減らさずに指導件数が維持できる体制を構築した。

【病 棟】

薬剤管理指導料について、患者指導率 97.2%に達し全国日赤病院で 3 位と、薬剤師による患者指導・処方提案・薬剤管理をより充実させることができた。加えて、薬剤管理サマリーを経由した調剤薬局等の後方施設との連携を強化し、退院時薬剤情報連携加算の算定を継続中である。

【外 来】

時短勤務薬剤師が従事しやすいよう、業務スケジュールの見直しを実施。3 名の時短勤務者が外来化学療法業務に配置できる体制を構築した。

患者指導率はほぼ 100%を達成。治療計画書の共有をベースに調剤薬局との連携を強化し、連携充実加算算定件数の増加（約 200 件増加）に繋がった。

人員減少が進む中、各診療科からリクエストが強まりつつある内服抗癌剤の患者指導をどのように展開してゆくかを、今後の課題として捉えている。

【医薬品情報】

昨年度に引き続き、医薬品の供給不安定に東奔西走した1年間であった。治療への影響を最小限に抑えるべく医薬品確保に尽力した。COVID-19が第5類に移行したことを受け、様子を見ながらではあるが薬剤部内勉強会・症例検討会などの集合研修を再開した。

【治験管理】

糖尿病・内分泌・代謝内科の治験が順次終了し、治験事務担当者の調剤室業務への業務移管など、業務内容に大きな動きがあった1年間であった。

最先端医療を担う部門として、新規治験をコンスタントに受託できる体制を作りたい。

【学生実習】

1期(3ヶ月)×3期で年間7人の薬学実習生を受け入れ、人員減少が進む中全部員総動員で指導に当たった。前年度に引き続き、COVID-19の状況も勘案しながらも、可能な限り体験型実習が実践できるよう努めた。

COVID-19の第5類への移行に伴い、学校等の外部からの体験プログラムも少しずつ再開されつつあった。引き続き、病院薬剤師業務の魅力を学生らに啓蒙してゆきたい。

【統計】令和5年度実績／()は令和4年度実績

1. 処方箋

<入院処方箋枚数>

入院投薬：通常処方 30743枚 (32490枚)

退院処方 5165枚 (5435枚)

異常時処方 18370枚 (18965枚)

入院注射：通常処方 72922枚 (73704枚)

化学療法 2165枚 (2639枚)

T P N処方 12549枚 (12802枚)

異常時処方 57911枚 (65452枚)

<外来処方箋枚数>

外来投薬：院内処方 5079枚 (7492枚)

院外処方 67057枚 (70995枚)

院外発行率 92.4% (90.5%※) ※発熱外来の影響あり

一般名処方 48201枚 (50193枚)

外来注射：通常処方 10106枚 (9986枚)

化学療法 3923枚 (3909枚)

2. 注射薬無菌調製

<調製本数>

抗癌剤 : 6442本 (7114本)

TPN・移植・その他 : 3370本 (4845本)

3. 入院患者指導（薬剤管理指導料）

訪問件数	: 15892 件・1324.3 件 / 月 (15031 件・1252.6 件 / 月)
本体請求件数	: 11150 件・929.2 件 / 月 (10485 件・873.8 件 / 月)
退院指導請求件数	: 3343 件・278.6 件 / 月 (3134 件・261.2 件 / 月)
退院連携加算請求件数	: 1123 件・93.6 件 / 月 (1235 件・102.9 件 / 月)
患者指導率	: 97.2% (93.9%)
病棟薬剤業務 (HCU)	: 1543 件 (1585 件)

4. 外来患者指導（がん患者指導管理料・連携充実加算）

訪問件数	: 2293 件 (2424 件)
がん患者指導管理料	: 71 件 (107 件)
連携充実加算	: 1317 件 (1127 件)

5. 持参薬鑑別

鑑別登録件数	: 6126 件 (6019 件)
--------	-------------------

6. 疑義照会・プレアボイド報告

院外処方疑義照会	: 1949 件・簡素化プロトコル 1038 件 (2196 件・簡素化プロトコル 1086 件)
入院処方疑義照会	: 497 件・変更率 80.3%・簡素化プロトコル 178 件 (518 件・変更率 84.9%・簡素化プロトコル 36 件)
化学療法疑義照会	: 337 件・変更率 72.9%・簡素化プロトコル 231 件 (282 件・変更率 76.1%・簡素化プロトコル 158 件)
プレアボイド報告	: 調剤担当者 29 件 (26 件) 病棟担当者 47 件 (69 件)

7. インシデント報告

ポジティブレポート	: レベル 0	28 件 (46 件)
	レベル 1	24 件 (5 件)
	レベル 2 以上	8 件 (4 件)
	その他	9 件 (4 件)

8. 治験業務

<新規受託件数>

治験	: 2 件 (2 件)
製造販売後調査	: 8 件 (8 件)
副作用報告	: 2 件 (5 件)

<収益>

治 験	: 46,638,615 円 (53,787,233 円)
製造販売後調査	: 1,372,800 円 (2,388,100 円)
副作用報告	: 57,200 円 (143,000 円)

9. 薬品管理

<採用薬品数>

投薬・その他	: 608 品目・後発 36.2% (607 品目・後発 36.7%)
注射薬	: 483 品目・後発 29.8% (478 品目・後発 30.1%)
合 計	: 1091 品目・後発 33.4% (1085 品目・後発 33.8%)

10. 薬剤関連 DPC 係数

病棟薬剤業務	: 0.0079 (0.0079)
後発医薬品使用体制	: 0.0014 ※ (0.0014) ※最高値 (90%以上)

11. 薬学生実務実習

実務実習 (11 週間)	: 7 名※ (8 名)
外部体験学習・実習	: 1 名※ (3 名)

<令和 6 年度の主な活動目標>

- ・チーム医療の一員として良質で安全な薬物治療を提供する。
- ・急性期医療に必要な医薬品に関する知識を身に付ける。
- ・医薬品の安全管理・安定供給に努める
- ・情報提供・研修会を通して調剤薬局・地域医療機関との連携を深める。
- ・診療報酬との関連を意識しながら業務を進める。

検査部

<スタッフ>

医師

神田 直樹（副院長兼検査部長）

山中 雄介（検査副部長）

臨床検査技師

荒木孝一郎（技師長兼生理機能検査課長）

吉田 桂（臨床検査課長）

今井翔太郎（臨床検査課 化学免疫検査係長）

大西美穂子（臨床検査課 血液一般検査係長）

佐藤 裕司（臨床検査課 輸血管理係長）

扇田 裕允（臨床検査課 微生物検査係長）

中村 直実（生理機能検査課 生理機能検査係長）

坂口 絵美（生理機能検査課 主任）

村上 浩子 奥洞 智太 亀山 雅貴 古川 理奈 町田 統麻

三野 葵衣 平岩 理雅 石谷 育代 松田 尚子

視能訓練士

玉木 真世 高橋絵里子

検査部付看護師

宮地真奈美 木野 洋子 赤石美智子 仙頭美恵子 宇田 彩華

大原 真由 谷口 敬子 中西 知香 浅田 綾

検査アシスタント

田辺 智美 富木 貴子

<異動、昇任>

佐藤 裕司 令和5年4月1日 臨床検査課 輸血管理係長に異動

中村 直実 令和5年4月1日 生理機能検査課 生理機能検査係長に異動

<認定資格>

認定超音波検査士：吉田 桂 佐藤 裕司 坂口 絵美 村上 浩子

亀山 雅貴 古川 理奈 荒木孝一郎

認定血液検査技師：大西 美穂子

認定骨髄検査技師：大西 美穂子

認定輸血検査技師：中村 直実
 認定臨床微生物検査技師：扇田 裕允
 感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）：扇田 裕允
 医用質量分析認定士：扇田 裕允
 認定救急検査技師：今井翔太郎 奥洞 智太 佐藤 裕司
 緊急臨床検査士：奥洞 智太 町田 統麻

<令和4年度活動実績>

令和5年4月～令和6年3月	人（延べ）
生化学・免疫検査	65,650
末梢血算定	63,651
末梢血液像 目視	19,646
骨髄検査	193
尿一般	20,764

血液型	1,899
交差試験	1,885
不規則抗体	2,005
間接クームス	29
直接クームス	38

一般細菌検査	9,741
抗酸菌検査	1,796

心電図	7,134
心臓超音波	2,886
腹部、血管、表在超音波	4,855

- ・ SARS-CoV-2 PCR 検査数
 令和5年度 PCR 件数：425 件 抗原定量検査件数：4,069 件
- ・ 令和5年度 日臨技臨床検査精度管理調査
 A+B 評価 255 個 98.4% C 評価 1 個 0.4% D 評価 3 個 1.2%
- ・ 令和5年度 日本医師会 臨床検査精度管理調査
 評価 98.0 A 評価 113 個 B 評価 4 個 C 評価 2 個 D 評価 0 個
- ・ 臨床検査部門の機器システムを7年ぶりに更新。
- ・ 中央採血室の呼び出し、照合システムを導入。
- ・ 臨床検査の標準作業書とマニュアルを更新。

<学会発表、講演>

亀山 雅貴 日本心エコー学会第34回学術集会 令和5年4月21日
「多量の心嚢液を契機に診断し得た心臓脂肪肉腫の一例」

古川 理奈 日本心エコー学会第34回学術集会 令和5年4月21日
「短期間で劇的な縮小傾向を示した多形癌の心腔内浸潤の1例」

扇田 裕允 第35回日本赤十字社臨床検査技師会近畿ブロック研修会 令和5年9月2日
「質量分析装置 MALDI Biotyper を使用してきて」

坂口 絵美 第59回日本赤十字社医学会総会 令和5年11月10日
「乳腺腺様嚢胞癌の一例」

<令和6年度活動目標>

- ・病院機能評価受審に向けての準備。
- ・各部署マニュアル、標準作業書の更新、整備。
- ・臨床検査技師新人教育マニュアルの更新、整備。
- ・検査セット、項目を見直し、過剰な検査を削減。
- ・ポジティブレポート提出率の向上。
- ・業務終了時間の個人差を解消し、時間外業務を削減する。
- ・部内ローテーションを行い、各自が検査できる範囲を拡大、部署間のサポート体制を強化。
- ・各種、認定資格を各自の目標通りに取得。
- ・勉強会や学会、セミナーへの積極的参加。
- ・精度管理向上、日臨技、日本医師会の外部サーベイ参加、医師会サーベイは目標オール A 評価。
- ・他部署へのサポート、連携強化。
- ・学会発表 目標として検査・病理診断部で年5回以上
- ・検査部内勉強会開催 目標として年5回以上。
- ・年最低10日以上の年次有給休暇取得。

病 理 診 断 科 部

<スタッフ>

医 師

神田 直樹：副院長兼病理診断部長

渡邊 千尋：病理専門医、細胞診専門医

山田 義博〔非常勤〕 白瀬 智之〔非常勤〕 奥野 知子〔非常勤〕

千葉 渉〔非常勤〕

臨床検査技師

荒木孝一郎〔技師長兼病理検査課長〕：細胞検査士、国際細胞検査士、

廣田 智美〔病理検査係長〕：細胞検査士

後呂 純平：細胞検査士

山本 翔：細胞検査士

山田 桂実：細胞検査士、認定病理検査技師、有機溶剤作業主任者

特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、化学物質管理者

<令和5年度活動実績>

- ・統計：組織診件数 3727 件 細胞診件数 2451 件 剖検件数 4 件
- ・症例検討会（CPC）
 - ① 壊死性筋膜炎、進行胃癌：7月26日
 - ② 全身性アミロイドーシス（ATTR）、感染性心内膜炎：9月27日
 - ③ 全身性強皮症、うっ血性心不全：1月24日
- ・学会発表
 - 山田 桂実 荒木孝一郎
 - 第35回 日本赤十字社臨床検査技師会近畿ブロック研修会：9月2日
 - 「認定資格取得に向けてのアドバイス 認定病理検査技師、細胞検査士」
- ・日本臨床衛生検査技師会コントロールサーベイに参加
- ・日本臨床細胞学会施設認定制度コントロールサーベイに参加

<令和5年度活動目標>

- ・学会発表、研修会への参加
- ・ホルマリン、キシレン等の有機溶剤、劇物の管理
- ・病理標準作業書の作成、マニュアル整備
- ・細胞検査士認定資格取得技師の育成
- ・検査部業務のサポート（検体検査、生理検査、細菌検査）

看護部

<スタッフ>

- 看護部長：岸 恵美（認定看護管理者）
看護副部長：西 ひろみ・高橋 晶子（兼）
看護師長：有持 由江（5病棟）・依藤 里香（6病棟）・南波 広美（7病棟）
高田 佳織（8病棟）・川崎 知子（9病棟）
秋山 由依（緩和ケア病棟）・門脇 寛子（手術室／中央材料室）
原田 香織・石黒 早苗（外来）・高橋 晶子（HCU）
西浦 美香（看護部／患者支援センター・病床管理室）
奥田 唱子（看護部）
看護係長：鹿野 瑠美（HCU）辻 佳恵子（HCU）・小笠原 舞（6病棟 認知症看護認定看護師 特定行為研修終了）・福場久美子（7病棟）・亀岡さつき 吉田 一真（8病棟）・森下かおり 武内 綾香（9病棟）・田中 智美（緩和ケア）・前田 敦子（外来）松下めぐみ（外来 感染管理認定看護師）・伊藤 勝也 山内 洋平（OP室） 佐賀 明子（感染管理認定看護師）
看護部職員：佐賀 昭子（感染室／感染管理認定看護師）
今戸美奈子（看護部／慢性疾患看護専門看護師）
西川亜紀子（看護部／がん看護専門看護師）
藤原 和子（看護部／緩和ケア認定看護師／緩和ケアサポートチーム専従）
北田 千世（看護部／皮膚・排泄ケア認定看護師／褥瘡管理者）
工藤ゆかり（看護部 看護係長／退院調整看護師）
矢野原綾香（看護部／退院調整看護師）
北村 弥生（看護部／入退院支援看護師）
中川真奈美（看護部／入退院支援看護師）
大西 桂子（看護部／主事）

<令和5年度看護部活動実績>

1. 学会参加
 - 1) 日本看護系学会等参加人数：36名
 - 2) 大阪府看護協会研修参加人数：28名
2. 大阪府看護協会長期研修
 - 1) ファーストレベル修了者：田中 智美 里村 裕史 永田 奈月
 - 2) 実習指導者講習会：武貞 美咲
3. 看護学生臨地実習受け入れ
 - 1) 大学
 - 梅花女子大学看護保健学部看護学科
 - 大阪医科大学看護学部看護学科
 - 藍野大学

2) 専門学校

□ 学校法人日本教育財団 大阪医専

4. 講師派遣

- ・ 今戸美奈子 大阪府立大学大学院 看護学研究科 臨床准教授
福井大学 非常勤講師
大阪医科薬科大学大学院 看護学研究科 非常勤講師

令和5年度（2023年度）看護部・各看護単位の活動

【看護部の活動総括】 岸 恵美

令和5年本部管理病院の指定が解除されたものの経営改善に関しては本社との連携を密にしながら経営の健全化に看護部としても取り組んだ。しかしながら看護師確保には難渋し応援看護師の採用を取り入れるなど急性期一般入院料1の確保に努めた。

1. 看護の専門性を発揮し経営の健全化に貢献

専門看護師や認定看護師の活動により指導管理料については同規模病院と比べても遜色のない件数に対応することができた。また DiNQL を活用し月ごとに各病棟師長が評価をすることによって改善策を立案し対応することができた

2. 安心・安全で信頼されるケアの提供

地域医療連携課と看護部の連携については配属している師長、係長が部門を超えた連携を強化し、地域に信頼され必要とされる病院になれるよう活動した。院内の職員満足度は総体的評価は昨年度より下がっているものの、人間関係や上司への信頼などの項目では評価が上がっていた。看護部の「働きやすさアンケート」では昨年と比べ大きな差はなかった。患者満足度調査では残念ながら看護師の評価が全国平均より低い値になっていた。

3. 医療安全、感染管理の強化

9月以降コロナが5類に引き下げられた事、病棟改修のため9病棟が移動したことなどにより一般病棟でコロナの患者を診ることになった。感染防止に留意しているもののコロナの院内発生もあり入院制限を余儀なくされた。職員も感染するなど各部署で欠員が相次ぐなどの状況があった。ICNを中心に各部署の環境チェックなどを行い感染拡大防止に努めた。病院機能評価受診を前に各部署との連携は強化された。また記録に関しては看護部内に情報管理師長を置くことによって電子カルテを効率的に活用することにつながった。

今年度から取り組んだ QC 活動は業務改善につながっており、成功体験の一つとなってスタッフのモチベーションにもつながっている。

4. 看護実践能力、看護管理能力の向上

ラダーの取得に関しては全体として 43.4%であった。近畿ブロックの平均は 67.5%であり当院の結果は平均を大きく下げる結果となった。新人教育、継続教育、赤十字研修については予定

通り開催。高齢者看護の育成は今年度も各部署からリーダーシップをとることができる人材を選出。研修最後の発表会では自分の行った看護を深掘し自信につながっていた。令和6年1月に発災した能登半島では救護班2班、病院支援看護師1名を派遣した。看護管理能力の向上に関しては昨年度同様に師長への研修に加え今年は係長も同様の研修を開催した。研修では自らの管理実践を語りリフレクションすることで今まで気づけなかった自分に気が付くことができていた

診療報酬の改定を前に急性期病院として収益をあげることにつながる実践力を持った看護師の育成が今後の課題である。

HCU：高橋 晶子

令和5年度は、「安全で質の高い急性期医療・看護を提供する～何でも相談し合えるチームを目指す～」を目標に取り組んだ。

財務の視点では、年間の平均稼働率は70.9%と昨年度を下回る結果となった。週末にかけての稼働率の低下が課題として残った。アンギオ件数は269件、救急車は2,750台であり前年度を上回った。

顧客の視点では、倫理カンファレンスを実施し、インフォームドコンセントの時には看護師が同席し、出来る限り本人の意思を確認し、意思表示ができない場合には家族への支援を行い、院内共通のテンプレートを使用して記録することも定着してきた。スタッフの思いを聴くように心がけキャリア支援に努め、スタッフのピアサポートもあり離職防止に繋がっている。

業務プロセスの視点では、環境整備や内服確認についてKYTを実施。レベル3b以上のインシデントの発生はなく、医療安全への意識も高まったと考えられる。HCU部門・救急外来部門において多職種を巻き込んでQC活動に取り組んでいる。次年度にはQC完成を目指したい。

学習と成長の視点では、看護管理者教育課程ファーストレベル1名修了、院内外のICLSインストラクターとして6名参加。急性期ケア専門士認定試験に5名合格。部署内の計画的な勉強会や院内外の研修・学会に多数参加し自己研鑽に努めている。赤十字看護師として新規3名が登録準備完了。高槻市医師会災害訓練トリアージに講師のサポートとして2名が参加、能登半島地震での救護班として1名が派遣、病院支援に1名が派遣され、派遣後に部署内でも伝達講習が行われ災害医療・救護への意識も高まった。キャリア開発ラダーレベルⅢ1名、レベルⅡ1名取得あり、次年度も目標管理面接での目指すラダーレベルを確認し、無ラダー者のラダー取得支援にも力を注いでいきたい。また、急変時の振り返りについては積極的に医師も交えて行ったが、今後は日々の実践場面においてリフレクションを行い、自己の学びを深め共有し部署の実践力向上に努めていきたい。

5病棟：有持 由江

<財務の視点>

2023年度（令和5年度）、5病棟は循環器内科、泌尿器科、形成外科の混合病棟としてスタートした。病床稼働率は78%、DPCⅡ期以内退院患者率は67%だった。10月にコロナのクラスターが発生し、稼働率低下したが、以後80%以上を維持した。泌尿器科はDPCⅡ期内の

退院を90%以上すすめ、退院調整においても医師からの患者説明が徹底され、退院促進、病床の効果的運用に繋がった。循環器科と連携をはかり外来心臓リハビリテーションが開始となり、外来と病棟の連携強化、病棟看護師が外来へ降りて退院後の患者さんの様子を評価することに繋がった。

<顧客の視点>

家族とのコミュニケーションやICの同席が十分にできていない現状があり、IC時には看護師やケースワーカーも入り退院への働きかけを行った。DPCⅢ期内の退院促進カンファレンスも病床管理と退院調整看護師、医事課、看護師長で共有し、病棟看護師へ情報共有し、患者・家族とのやり取りを密にして納得のいく療養先へ働きかけるように努めた。病棟の専門性を上げる為、心電図モニター管理の重要性を投げかけ、アラームの認識の改革、異常波形の学習会などを呼びかけ、対応できるようになっている。また急変対応力向上にむけBLS、ALSの全員実施、急変症例の振り返りでは経験した看護師のみで終わるのではなく、経験ない看護師と情報を共有し、自身だったらどうするかを考える働きかけを行った。看護実践力向上に加え、知識面も共有し、患者へ安心安全な看護提供に努め、看護師は看護実践への自信につながった。

<業務の視点>

褥瘡発生率が上昇し、夜勤と日勤の引継ぎにおいて体位変換ができない現状が分かった。また時間外業務時間が増加傾向にあり、QC活動として取り組んだ。夜勤の業務の引き継ぎを行い、日勤が体位変換やおむつ交換などを行う業務改善に努めた。病棟では看護師のペアでの連携や不在時の業務の補填などコミュニケーションを徹底し、業務を個人の裁量に任せるのではなく、チームや病棟全体でサポートしていく風土になりつつある。

<学習と成長の視点>

看護師のキャリア開発においては看護実践者ラダーレベルⅠ1名、レベルⅡ3名、ラダーⅢ1名が取得に至った。ラダー取得者が、評価会後の感想として「承認してもらってうれしかった、モチベーションアップにつながった」など発言があり、承認の場となり、認定看護師を目指したいなどさらなるキャリアアップにつながっていった。継続教育研修においてリーダーシップ研修では、リーダー業務を始めた既卒看護師の参加や4年目看護師の参加を促し、病棟のリーダーシップを学ぶ機会を作った。褥瘡関連の研修にも参加し、褥瘡予防への意識向上に繋がった。

6 病棟：依藤 里香

財務の視点では、病院全体の入院患者の減少があった月もあったが、12～1月にかけてコロナ感染拡大にて入院制限があったため、稼働率は82.8%と前年度に比較しても低下し目標の90%に届かなかった。DPC2期以内の退院についても、コロナ感染拡大中は、退院や転院が延期となったことも影響し66.9%となった。コロナ感染が発生しても早く終息できるよう、適切な感染対策ができるよう徹底していく必要がある。

顧客の視点では、コロナ感染拡大のため退院や転院が延期となった時期もあったが、患者・家族の希望に沿った療養の場所に意向できるよう、退院調整部門と連携し入院初期から介入を行った。また、治療の方向が変更するタイミングでのICには必ず同席し、がん看護専門看護

師や認定看護師と情報共有を行い、患者がより良い療養の場を選定できるよう支援している。他には、ナースコールに対し出来る限り早く対応するために、ブロック制を導入したことやナースコール PHS を必ず携帯し活用するように努めた。患者満足度調査では、70 歳以上の高齢者が昨年度 59%から今年度は 80%に増加しているが、ナースコールを押した際にすぐに援助が受けられたかの質問に対して、64%から 79%に増加していたことから、取り組みが結果に繋がっていると言える。

業務の視点では、転倒によるインシデントレベル 3b 事例が 2 件発生した。患者の ADL を把握した上で判断したことだが、入院当日であったため不慣れな環境が影響した可能性がある。入院初日は特に転倒リスクが高くなることを共有し、今後の転倒対策に活かしていく。

学習と成長の視点では、高齢者看護のシリーズ研修に参加したスタッフが学んだことをスタッフと共有し一緒に取り組んだことで、個別性を持った看護をチームで継続して行うことができ、看護師ももっとできることがあるとやりがいを感じながら看護を提供することができた。また、高齢者看護の実践報告を行ったことで、アセスメントの視点を共有することができ、高齢者看護実践力の向上につなげることができた。

7 病棟：南波 広美

血液内科、眼科、脳神経内科混合病棟 49 床（クリーンルーム 12 床含む）を有している。財務の視点では、診療科の異動があり造血幹細胞移植が提供できない環境にあったため、無菌治療室稼働率が前年度より 16%減少した。医師と都度相談しながら、患者の安全を担保しつつ柔軟に総室無菌治療室利用の運用を行ってきた。社会的にも高齢化が進み血液内科治療を受ける患者の年齢も高齢になり ADL の低下など総室クリーンルームでの療養生活が難しい対象が増えている。

顧客の視点では、ADL 低下により増加すると予測される転倒に対して、入院時に転倒予防カンファレンスを行い環境調整を行った。離床センサー使用時はカンファレンスを行い、また、認知症ケア認定看護師への相談やリハビリとの環境調整カンファレンスなど多職種で患者個人を支える活動をした。病棟内では実践の力となるよう看護師勉強会が行われ、疾患・治療に関する内容から介護保険に関する勉強会などが行われた。高齢化により退院後、患者を支える家族もそれぞれ身体的問題を抱えている現状があり社会的介入の必要性などを、退院調整看護師・MSW に IC 同席してもらい、多職種で患者とその家族を支える環境が提供できるよう調整している。また、スタッフのワークライフバランスの調和がとれるよう、時間外業務の減少に取り組んだ。一日の一定時間に残務の共有を行い振り分けること、医師と院内ルールの共有を行い再確認する場を設けた。特に、デイリーダーの時間外業務が多かったが前年度より約 33%の時間外業務減少に繋がった。

業務プロセスの視点では、患者個人に多剤が使用されるため、輸液・看護師管理の内服薬に関するインシデントを防ぐため確認行動を強化した。治療に伴うハイリスク薬を扱うことが多いためインシデントが防げるよう病棟薬剤師とコミュニケーションをとり決まり事の共通認識を提示した。

学習の視点では、卒後 3 年目看護師が、赤十字キャリアラダーⅡを申請し、取得できた。看

護研究では、看護体制について支援する環境であるのか実態調査が行われた。治療に関することや看護技術に関して看護師同士支援し合えるという結果であった。引き続き、看護師同士が刺激し合い成長できる環境を考えていきたい。

8 病棟：高田 佳織

2023 年度 8 病棟の病床稼働率は 82.4% で昨年度 (89.9%) より減少した。DPC II 期以内退院率は目標の 70% を達成できなかったが、67.3% で昨年度より微増した。退院調整カンファレンスを有効に活用しながら、入院早期から退院調整ができるようになってきている。平均在院日数は 11.3 日で昨年度 (12.9 日) より短縮した。全身麻酔の全手術件数は 1002 件で、当該診療科 (整形外科、外科、産婦人科) は 778 件で 77.6% を占め、整形外科が 453 件 (45.2%) で、最も手術件数が多かった。一方、整形外科のクリニカルパス (以下、パス) 適応率は、昨年度より上昇しているが 17.9% (病院全体 42.4%) で低値であった。患者の適時退院を目指し、DPC II 期以内退院率を目標 70% 以上にするためにもパスの適応率を向上させていく必要があり、パスを改定しながら次年度は効果的に運用していく。

感染管理については、部所内の 2 部屋の総室で COVID-19 感染者が計 7 名発生した。感染管理認定看護師の助言を得て、感染拡大は同室者のみであった。ESBL、CD 等、保菌している患者も散見されるため標準予防策を引き続き周知徹底していく必要がある。インシデントについてはレベル III b が 3 件発生し、いずれも転倒であった。対策は実施していたが理学療法士等、多職種間でのカンファレンスが十分できていなかったため次年度は実施し転倒・転落防止対策に努め、レベル III 0 件を目指す。

先取り看護等の看護ケアの充実を検討するためにナースコールの実態を 8 月に 10 日間調査した。ナースコールが多い項目は日勤、夜勤とも順に①トイレ移送、②ポンプアラーム③トイレ歩行見守り④コールマット患者⑤排泄直接介助であった。ポンプアラームを減らす工夫や患者の排泄パターンを把握し事前にトイレに誘導するなど対策を実施している。

実践者ラダーはレベル III : 1 名が認定された。次年度は管理者ラダーの認定を目指す。赤十字救急法は 3 名受講した。

9 病棟：川崎 知子

<財務の視点>

令和 2 年 4 月より、COVID-19 受け入れ病棟として運用し、令和 5 年 5 月よりコロナは 5 類移行となった。病床構造上、引き続きコロナ患者を受け入れ、各病棟で発生したコロナ患者については、各部署対応となった。秋頃までコロナ入院は減少することはなかったが、PPE 着用品が簡易化し、ゾーニングは入室患者の配置に応じて変更することで、一般病床・一般感染病床・コロナ病床・疑似症病室としてフレキシブルに対応を行い最大限近くまで稼働した (1 月稼働 68.7%)。コロナ専用対応としての備品 (人工呼吸器・エコー・救急カート・アイソレーター) などの配置も解消し、一般病床の受け入れを促進した。

退院支援も多職種と連携し、入退院支援加算は前年比増で 25.5%、DPC II 期以内 70.3%、平均在院日数 13 日以内であった。

<顧客の視点>

一般病床が増えることで、退院支援連携・療養指導・HOT 指導対象が増加し在宅へ向けて認定・専門看護師と連携をとることが増えた。退院調整困難事例も多職種での倫理カンファレンスや退院前カンファレンスで外部関係職種と連携を取り、転退院に繋げた。業務や看護の変遷が多く、思いを語る場を設定し、特に朝礼後のケアカンファレンスを充実して実施、同時に申し送り短縮に向けて QC 活動とした。

<業務の視点>

感染対応病棟として PPE の適性使用、基本ケア時の感染対策の徹底を行っていたが 1 月に CD 拡大 (6 名) があり、病床周囲の環境整備、病床稼働増加時の感染対策励行と 1 チームでの看護実践による業務改善が課題となった。応援の夜勤専従看護師、夜間補助者の導入により夜勤業務調整が行えた。2 月から病床改装のため 3 病棟に移動し、業務の日常動線や、急変時対応 (リカバリー室や処置室が無いことなど) の工夫を日々試行している。

<学習の視点>

コロナ対応が 5 類移行となり、呼吸器病棟としての治療・検査入院に対応できるよう専門・認定看護師と協働して、包括リハや HOT 勉強会・肺癌化学療法の勉強会を開催した。ラダー評価会は I、II、各 1 名ずつ実施。次年度早々に II 評価会を開催出来る準備者を 2 名控えている。赤十字研修も受講を重ねており、来年度に登録を目指せる予定としている。学生の実習受け入れが再開し、指導を通じて学びの機会となっている。

緩和ケア病棟：秋山 由衣

財務の視点では、病床稼働率 (12 床) は 93.0%、年間平均在院日数は 29.7 日であり、院内外からの患者の受け入れを積極的に行った。空室があれば、地域からの緊急受け入れや、院内救急外来経由の緊急受け入れも積極的に行った。長期入院患者に対しては、退院調整カンファレンスや、多職種カンファレンスで、療養先の検討を行い、12 名 / 年、自宅退院することが出来た。退院困難な患者にも、一時的な外出や外泊の検討を行い実施し、患者の望む療養先を検討した。

顧客の視点では、転倒カンファレンスを定期的に開催し、患者の個別性に応じた対応策を検討することが定着化出来ていた。転倒件数は年間 15 件発生したが、レベルⅢ以上はなく経過することが出来た。また、今年度の QC 活動で、昨年度に患者誤認が数件発生した事態を振り返り、安全係を中心に、患者誤認 0 を目指した活動を実践し、患者誤認 0 件の目標を達成することが出来た。その一方で、麻薬に関するインシデントは、薬液の取違いなど重大なインシデントへと繋がる事象も発生した。オピオイド換算の知識の活用や、確認行動の徹底は、次年度の課題である。

業務の視点では、既卒採用者の教育マニュアルの改訂を係長中心に作成し、緩和ケア病棟独自のマニュアルの改訂も、マニュアル係を中心に実施し業務改善を行った。次年度は、改訂したものを実際に活用し、業務の効率化に繋げていきたい。

学習と成長の視点では、日々の看護師のもやもやは、毎日のケアカンファレンスを開催し、デスカンファレンスで振り返り、出来ている部分にも視点を当てつつ、今後の看護実践の

方向性を検討することが出来た。デスカンファレンスや、ケーススタディのまとめは、院内 ZOOM 会議システムを活用することで、全体の半数以上の参加を得る事が出来た。少人数の部署でも、参加しやすい学習会のスタイルであったため、次年度も継続していきたい。緩和ケア特有の自己学習については、院内研修への積極的な参加もあり、終末期ケア専門士の資格取得者も 1 名あり、ELNEC 受講者も 1 名参加し、自己成長のための努力が出来ていた。

手術室中央材料室：門脇 寛子

財務の視点は、手術件数が昨年度に比べ減っているが、2022 年 11 月より、術後疼痛管理加算の算定開始し、増加している。多職種で関わっており、疼痛スケールなどつけてないため、今後周知していく必要がある。

顧客の視点は、術前訪問では全身麻酔を中心に 80.1%（昨年度 63.8%）と増加した。術後訪問に関しても、術後訪問のマニュアルを作成し、対象を決めて 11 月から 153 件実施することができた。次年度は術前・術後訪問の事例検討をして共有する予定である。

業務プロセスの視点は、医療安全、医師、外来や病棟と連携し、「安全に手術を受けるための身の回りの準備」を作成することができた。患者も巻き込み、外来病棟と手術室でのチェックをすることで、入れ歯やウィッグの外し忘れがなくなった。MDRPU に関するインシデントが発生した。OP 前のベッドの準備や腹臥位の被覆材やテープ固定の見直しを行った。質改善に向けて医療安全や WOC に介入してもらい、手術体位マニュアルを改訂している。次年度は、特殊体位（クッション・被覆材など）勉強会を予定している。

手術室業務手順は、経験豊富な看護師が多いことや長い間改訂がなされていなかった。機能評価ワーキンググループが主体となって、全員が手術看護学会の業務手順、WHO 安全な手術のためのガイドラインなど、ナースングスキルを活用し、手順の改訂ができた。

学習と成長の視点は、キャリア開発ラダーレベルⅢ 1 名取得した。赤十字関連では救急法指導員が 2 名おり、毎年赤十字看護師養成に携わっている。能登半島地震により災害救護に手術室から 2 名看護師を派遣した。災害ワーキンググループが手術室のアクションカード・報告書を作成し、次年度災害訓練で使用する予定である。

外来：原田 香織 石黒 早苗

外来では慢性疾患看護専門看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線治療法看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、また、禁煙認定指導者、糖尿病療養指導士が勤務し、それぞれに専門性を発揮し活動している。

看護専門外来は、看護師主体の外来で、その療育で認定されている看護師が医師の指示のもとで、患者の自己管理能力の向上や、家族を含めた患者の QOL の支援に努めている。

看護専門外来での療養指導料の算定などは病院経営に貢献している。

外来における診療報酬算定件数（令和 5 年度）

- ・禁煙外来：初回 19 件 2-4 回 53 件 5 回目 16 件
- ・在宅自己腹膜灌流指導管理：13 件

- ・在宅療養指導：619 件
- ・移植後患者指導管理：184 件
- ・在宅自己注射指導管理（月 27 回以下）：874 件
- ・在宅自己注射指導管理（月 28 回以上）：1236 件
- ・がん患者指導管理イ：118 件
- ・がん患者指導管理ロ：376 件

看護記録・監査委員会：川崎 知子

委員会ビジョンに「患者のための看護記録」「看護記録の標準化と簡素化」を掲げ、BSC のもと実施した。

「顧客の視点」では、令和 4 年度から導入の転棟時サマリーは問題なく活用され、転棟時看護サマリーの作成に係る看護師負担は軽減されている。転院時サマリーは改定したサマリー項目の活用を進めたが、看護協会で作成されている様式 50 の項目チェックが見やすいという意見があり、後半は様式 50 を数事例試行し、従来の上マリーの比較検討と様式 50 項目の微調整を行った。

「業務プロセスの視点」として、①クリニカルパスの看護計画立案時に観察項目を検索せずとも経過表へ追加表示できるように設定した。②令和 4 年度に形式監査と質監査を区別した新監査表を作成し、看護記録監査の実施率向上、6 日目監査と連動した看護計画評価修正の実施率向上を目指して後半から毎月定点調査を行い、意識付けや実施率が大幅に向上した。継続しての働きかけは必要と考える。③令和 4 年度に実施した「看護記録時間調査」の結果から経過表の活用として「ドレーン一般」の観察項目セットを作成した。処置指示セットの活用は次年度に継続して取り組む。

「学習と成長の視点」では、令和 4 年度に実施した「看護記録時間調査」を元に看護展望へ誌上投稿を行った。看護記録の標準化による時短や患者状態の評価記録の充実が望まれる。

看護教育委員会：依藤 里香

今年度も集合研修と WEB 研修を組み合わせた研修スタイルで企画した。研修企画の工夫としては、急性期看護の向上のため「急変時の予兆」と「急変時の対応」を新たに企画した。「急変時の予兆」については多くのスタッフが参加できるよう WEB 研修を行い、「急変時の対応」については、BLS や ALS をじっくり学べる研修とするために少人数で 2 回シリーズを 2 回開催した。また、昨年度に引き続き、高齢者看護の強化のため 5 回シリーズとして研修企画を行った。今年度は、各部署でスタッフを巻き込み実践を行えるスタッフを各部署から 1 名ずつ選出してもらった。実際に、最終の看護実践報告では自部署のスタッフを巻き込んだ看護実践を行うことがわかり、個人の学びだけでなく自部署の高齢者看護の質向上に貢献することができていた。

また、今年度は昨年度に師長対象に行ったマネジメントリフレクション研修会を係長も対象に行った。普段、自身のマネジメントを承認してもらう機会も少ない事から、研修の中で承認を得られたことは管理者としての自信につながり、モチベーションを上げることができた。

看護研究委員会：秋山 由衣

昨年度同様に今戸慢性疾患看護専門看護師に看護研究指導者として、看護研究および研修を実施した。臨床看護研究研修Ⅱの受講生のうち、看護部倫理審査4組、計10名が承認され、看護研究に取り組んだ。3月1日看護研究発表会で発表し、発表会は質疑応答も活発に行われ盛況であった。

臨床看護研究研修Ⅰでは、集合研修を計5回実施し、10名参加した。研修評価は理解しやすいとの意見があれば、実際に実施してみると難しいとの意見もあった。3月22日5組計10名が、6回目の研修として看護研究計画発表会を実施した。

看護研究委員の研究に対する知識・技術向上に向けて、ナーシングスキルの看護研究動画を聴講するようにしていたが、自分の時間での視聴は、なかなか進まなかった。看護研究委員の質向上に向けて、委員自身の研究に取り組む者への支援に必要な知識について、委員会の中で共有していけるような取り組みを次年度は支援していきたい。

臨地実習委員会：高田 佳織

臨地実習指導ファイルを整備・活用し、各部署で実習準備、実習のオリエンテーションに活用できた。実施指導者が、看護学生に効果的に支援できるよう、実習支援シートも活用した。学生が学んだことを言語化してもらい、その内容を実習支援シートに記入し、学びから翌日のケアを検討するなど、そのシートを活用して実施指導者が学生に関わることができていた。次年度も実習支援シートを効果的に活用していきたい。委員1名が大阪府看護協会臨地実習指導者講習を受講し、研修で学んだことを伝達講習した。カリキュラムや看護学生世代の特徴（Z世代の特徴）についてなど、委員に学びの還元ができていた。委員会では学生との関わりについて具体的な場面を共有し、臨地実習における効果的な支援について考えることができた。次年度も学生との関わりを具体的に言語化してリフレクションにつなぎ、委員や現場の実施指導者の臨地実習における実践能力を高めていきたい。

看護業務改善委員会：南波 広美

看護業務手順と検査手順の改訂に取り組み、現状と手順に違いがないように、また、ナーシングスキルや学会・院内委員会など看護師の安全のため現状に則したものであるのか検討しながら行い、整えることができた。院内電子カルテ内で閲覧できるよう環境を整えることもできた。院内電子カルテがない環境でも確認できるようファイル化し、各部署に設置している。

来年度は、手術前チェック項目など各部署独自のチェックリストを使用しているため標準化したチェックリストを作成する予定。ドレーン、チューブ類の固定方法にも各部署で違いがあるため、患者にとってより安全である固定方法を標準化できるよう取り組む予定である。

医療社会事業部

社会課

「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」という日本赤十字社の Mission statementのもと日々業務をおこなっており、赤十字運動の担い手として、人道の実現のために利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動しています。

<令和5年度スタッフ>

浦手 悟 (社会課長兼医事課長)
木野村 亨 (社会係長)

■令和5年度実績 (令和6年3月31日現在)

令和5年度日本赤十字社大阪府支部救護員 (救護班要員)

救護班要員 39名 医師5名、看護師長5名、看護師10名、こころのケア4名、
薬剤師5名、主事10名

	第1班	第2班	第3班	第4班	第5班
医師	小林 稔弘	平野 玄起	中森 翔平	伊丹 康夫	松村大志郎
看護師長	南波 広美	高田 佳織	依藤 里香	有持 由江	武内 綾香
看護師	寺田 裕子	奥川 聡子	亀岡さつき	永田 奈月	谷知 ルミ
	清田 絢子	武貞 美咲	鷲尾 愛	高橋 伸治	河野 紗月
主事	篠田 隆史	河野 博文	中村 義隆	友田 響	吉田 桂
	木野村 亨	杉本 健太	加賀 瀬博	松宮 源朗	不破賢太郎
薬剤師	瀧武 清範	宮西 将之	松本 弘誠	奥村 優介	松田ちひろ
こころのケア要員	高田 佳織・川崎 知子・門脇 寛子・井上 尚代				

◆ 日赤災害医療コーディネーター

小林 稔弘、平野 玄起

日赤災害医療コーディネートスタッフ

綱嶋 準、橋本 龍

◆ 国際活動 国際救援・開発協力要員の登録状況

原田 香織

◆ こころのケア指導者

高田 佳織、川崎 知子、門脇 寛子、井上 尚代

◆ 赤十字救急法指導員

高田 佳織、石黒 早苗、田淵 美世、仲 砂千代、前田 敦子、山崎 孝子、
南波 広美、清田 絢子、村上美穂子、松岡 郷子、濱田 健司、亀岡さつき、
谷森 涼子、友安 直美、有持 由江、町田 統麻、武井亜希子

◆ 第2級陸上特殊無線技師

迫田 博史、篠田 隆史、佐橋 克哉、阪本 達矢、西村 大樹、山崎 孝子、
吉田 桂、河野 博文、濱田 健司、網嶋 準、中尾 功一

● 令和5年度災害等救護員派遣

月 日	災害名 / 派遣場所	派遣者	人数
1月22日～ 1月26日	令和6年能登半島地震 / 石川県輪島市	【救護班】大阪府支部第5班 医師 中森 翔平 看護師長 南波 広美 看護師 清田 絢子 武貞 美咲 薬剤師 濱武 清範 主事 中村 義隆 篠田 隆史 松宮 源朗 友田 響	9
1月23日～ 1月27日	令和6年能登半島地震 / 石川県珠洲市	【日赤災害医療 CoT】大阪府支部第2班 Co 小林 稔弘	1
2月14日～ 2月18日	令和6年能登半島地震 / 石川県輪島市	【救護班】大阪府支部第8班 医師 沼本 諒 看護師長 依藤 里香 看護師 奥川 聡子 高橋 伸治 薬剤師 宮西 将之 主事 松山 佳央 町田 統麻	7

● 令和5年度災害対策訓練研修会等

【救護員研修会】

月 日	研修会名	参加者	人数
4月18日～ 5月31日	令和5年度 日本赤十字社大阪府支部救護員登録研修会 (オンデマンド配信)	医師 中森 翔平 沼本 諒 看護師 奥川 聡子 武貞 美咲 鷺尾 愛 河野 紗月 武内 綾香 高橋 伸治 主事 浦手 悟 久保 光希	11

6月11日	令和5年度 日本赤十字社大阪府支部救護班要員研修 I	看護師 武内 綾香 奥川 聡子 武貞 美咲 鷺尾 愛 河野 紗月 高橋 伸治 管理栄養士 西岡 美穂 スタッフ 木野村 亨	8
7月8日～ 7月9日	令和5年度第1回日赤災害医療コーディネーター研修会	副院長 小林 稔弘	1
7月27日～ 7月28日	令和5年度「無線従事者養成課程」	入院係長 中尾 功一	1
9月27日	令和5年度 第1回日本赤十字社大阪府支部こころのケア研修会	看護師 河野 紗月 高橋 伸治 管理栄養士 西岡 美穂 検査技師 町田 統麻 主事 浦手 悟 荻野 未来 三明 葵 講師 守矢あゆみ 川崎 知子	9
11月15日	令和5年度 第2回日本赤十字社大阪府支部こころのケア研修会	主事 友田 響 講師 井上 尚代	2
11月25日	令和5年度 日本赤十字社大阪府支部救護班要員研修 II	看護師 高橋 伸治 奥川 聡子 薬剤師 奥村 優介 臨床工学技士 杉本 健太 主事 守矢あゆみ 友田 響 スタッフ 木野村 亨 岩見 知樹 新行 彩加	9
3月24日	令和5年度大阪府災害医療コーディネーター研修	日赤災害医療 CoT Co 小林 稔弘 CoT スタッフ 網嶋 準	2

【災害救護訓練】

月 日	訓練名	派遣先	参加者	人数
6月16日	第27回日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練	日本赤十字社兵庫県支部災害救護支援センターほか	【救護班】 医師 沼本 諒 看護師長 南波 広美 看護師 寺田 裕子 清田 絢子 薬剤師 宮西 將之 主事 篠田 隆史 木野村 亨 【スタッフ】 薬剤部長 小島 一晃 看護副部長 高橋 晶子 社会課長 浦手 悟	10
9月9日	高槻市医師会災害医療救護訓練	高槻市医師会看護学校	副院長 小林 稔弘 看護師 西谷 貴子 奥川 聡子	3

11月2日	2023年度大阪国際空港航空機事故対策総合訓練	大阪国際空港第7エプロン	【救護班】 医師 中森 翔平 看護師長 高田 佳織 看護師 武貞 美咲 愛 鷲尾 愛 主事 河野 博文 杉本 健太 中村 義隆 【日赤災害医療 CoT】 Co 小林 稔弘 スタッフ 社会課長 浦手 悟 社会係長 木野村 亨	10
-------	-------------------------	--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

●各種講習会

赤十字救急法指導員養成講習

月 日	参加者
1月14日、2月10日、 2月11日、2月12日、 2月16日、2月17日、 3月22日、3月23日、	武井亜希子

赤十字救急法指導員（職員）研修会（大阪府支部にて開催）

月 日	研修名	参加者	人数
5月23日 6月1日	赤十字救急法指導員研修	看護師長 高田 佳織 看護師長 南波 広美 看護師長 有持 由江 看護係長 仲 砂千代 看護係長 亀岡さつき 看護師 友安 直美 看護師 村上美穂子 看護師 清田 絢子 事務員 濱田 健司	9
3月1日 3月20日	幼児安全法・健康生活支援講習指導員研修会	【幼安法】 看護係長 亀岡さつき 事務員 濱田 健司 【健康生活】 看護係長 工藤ゆかり 看護師 末廣 悦子 看護師 濱田 恵	5

●令和5年度赤十字救急法基礎・養成講習会＋指導員研修（高槻赤十字病院開催）

月 日	受講生	人数
令和5年 9月30日 10月7日 10月8日	【受講者】 扇田 裕允、三野 葵衣、武井亜希子、三浦 友奨、池上茉里阿、高松 香里、 岩本 七生、大赤見歩美（基礎のみ）、北 奈月、前畑 麻衣、清水 諒、 泉谷 和奏、川上伊津子 【指導員】 石黒 早苗、清田 絢子、濱田 健司、有持 由江、前田 敦子、町田 統麻、 南波 広美、友安 直美、有持 由江	22

幼児安全法講習指導員派遣（支部にて開催）

月 日	参加者
8月29日	亀岡 さつき
8月30日	濱田 健司

赤十字健康生活支援講習指導員養成講習

月 日	参加者
12月16日、2月17日、 2月18日、2月23日、 2月24日、2月25日	関岡 薫

健康生活支援講習 講師派遣

柳川コミュニティーセンター

6月16日	橋本 龍
6月23日	濱田 恵
6月30日	末廣 悦子
7月7日	仲 砂千代
7月14日	工藤ゆかり

庄所コミュニティーセンター

10月6日	橋本 龍
10月20日	末廣 悦子
10月26日	仲 砂千代
10月31日	工藤ゆかり

令和5年度ボランティア等受入れ・参加

月 日	項 目	人数
令和5年度	グリーンボランティア活動（水曜日、木曜日 9:00-12:00）	-
4月6日	新採用職員研修災害救護倉庫見学	10
4月13日	移動採血車来院	9
5月23日	ANA グループ客室乗務員による「すずらんのお見舞い」	4
9月22日	移動採血車来院	12
1月23日	移動採血車来院	10

中学生実習職業体験受入

月 日	項目	人数
令和5年10月25日、26日	高槻市立第四中学校 第2学年生 職業体験学習	中止

その他（ ）内前年度

令和5年度	赤十字社員増強運動実績	313人	199,200円	(329人	219,000円)
令和5年度	NHK海外たすけあい義援金実績		9,627円	(5,628円)	
	活動義援金		268,890円	(204,694円)	

患者支援センター

大中 玄彦	(総合診療科部長兼患者支援センター長)
中村 保清	(救急部長兼患者支援副センター長)
西浦 美香	(看護部付看護師長)
工藤ゆかり	(看護部付看護師 退院支援担当)
矢野原綾香	(看護部付看護師 退院支援担当)

地域医療連携課

<スタッフ>

渡部 悟	(地域医療連携課長)
山崎 雅樹	(地域医療連携一係長)
綱嶋 準	(地域医療連携二係長)
篠田 隆史	(地域医療連携三係長)
大迫 明子	(主事)
新行 彩加	(主事)
宮前 弥生	(嘱託主事)
陰地 弘美	(派遣職員)
小石原好江	(主事)
岩見 知樹	(主事)
三好 里沙	(主事)

(入退院支援看護師)

酒井 美幸	看護師
山本 裕恵	看護師
澄川 幸恵	看護師
中井 和子	看護師 (看護部付)
古田 理紗	看護師 (看護部付)
中川真奈未	看護師 (看護部付)
北村 弥生	看護師 (看護部付)
福谷 裕美	看護師 (看護部付)

<令和5年度活動実績>

- ・地域医療連携課で取り扱った電話依頼件数は7,378件で、前年度7,859件に比し481件減少した。
- ・新規の紹介患者数は5,071件で、前年度5,449件に比し378件減少、逆紹介は4,721件で前年度6,365件に比し、1,644件減少した。
- ・近隣病院・登録医への訪問は729件で、前年度440件に比し289件増加した。なお、医療

職同行訪問は 42 件で、前年度 92 件に比し 50 件減少した。

- ・新規開業・継承等される施設への登録医訪問を行った。
- ・登録医向け Web 講演会を開催した。

開催日	座長／演者	演題	参加人数
7月27日	村井 直樹 (むらい内科ハートクリニック) ／木澤 準	腫瘍循環器外来開設から2年間で 得た知見、展望 ～がん患者さんの心臓を守るため に求められる役割～	23名
12月15日	宗光 博文 (むねみつ診療所) ／中川 朋一	高齢者てんかんの診断と 治療について	19名

令和5年度研修会等開催実績

- ・公開消化器カンファレンス 10回
(4/12、5/10、6/14、7/12、9/13、10/11、11/8、12/13、2/14、3/13)
- ・公開呼吸器カンファレンス 8回
(5/18、6/15、7/20、9/21、10/19、11/16、2/15、3/21)
- ◆共同診療 10回
(5月1回、8月2回、9月2回、10月2回、12月1回、1月1回、2月1回)

<令和5年度活動目標>

I 地域の人々に安全・安心な医療地提供のために継続的に地域医療・院内の連携に努める

財務に関する事項	地域医療支援病院の継続	① 紹介率 65%以上・逆紹介率 40%以上 ② 地域医療支援病院に関する研修の実施
	登録医訪問の強化	① 紹介患者の増加 ② 当院の担当医師と共に訪問活動を強化
	がん診療拠点病院の獲得	① 承認事項の実施 ② がん患者・家族に沿って支援強化
	紹介率のアップ	① 未登録医への訪問 ② 近隣病院・登録医への年2回定期訪問
	がん連携パスの増加	① 大阪府がん診療連携パスの推進 ② がん疼痛緩和ケア地域連携パス運用に関する支援強化
顧客に関する事項	紹介患者の受入の迅速化	① 予約依頼から5分以内返答の徹底
	登録医の期待に応える	① 返書率 100% ② 逆紹介の推進
内部プロセスに関する事項	登録医からの紹介の断診 0%	① 当日緊急依頼の即応需化 ② オープン検査結果等の返書率 100% ③ 紹介状況の把握を行う(月次報告)
	地域医療連携業務の強化	① 開放病床利用率の増加

II 個々の専門性を活かした質の高い情報の提供と自己研鑽を行う

戦略に関する事項	個々の専門性を発揮し医療連携、患者支援の質の向上を図る	① 院内院外への研修に積極的参加 ② 患者支援サービスについて内容検討 ③ 課内の情報共有強化の実施
----------	-----------------------------	----------------------------------------------------------

III 令和5年度の紹介率と逆紹介率

紹介率 81.3% (令和4年度 60.6%)

逆紹介率 75.7% (令和4年度 70.8%)

紹介患者数(初診) 5,071人 (令和4年度 5,449人)

逆紹介患者数 4,721人 (令和4年度 6,365人)

※令和4年度に対して、紹介患者数は378人減少、逆紹介患者数は1,644人減少した。

新型コロナウイルス感染症の5類への移行後、初診患者数が激減したが、紹介率・逆紹介率ともに上昇した。

< 構 成 員 >

- 北 英夫 (室長、呼吸器科部長)
金村 誠哲 (副室長、緩和ケア科副部長)
上成 弥生 (診療支援課長)
西川 亜紀子 (がん看護専門看護師) (※)
志水 陽子 (医療ソーシャルワーカー 社会福祉士) (※)

< スタッフ >

- 藤原 和子 (緩和ケア認定看護師) (※)
信本 愛 (医療ソーシャルワーカー 社会福祉士) (※)
大島 由起子 (医療ソーシャルワーカー 社会福祉士) (※)
中野 慶子 (医療ソーシャルワーカー 社会福祉士)
小島 一晃 (薬剤部長 日本医療薬学会がん指導薬剤師)
宮崎 順平 (診療支援課 主事)
(※) はがん相談支援センター相談員基礎研修(1)～(3)修了者

< 特 色 >

当院は大阪府指定のがん診療拠点病院に指定されており、がん相談支援センターは、組織上、院長直属の部署として位置づけられている。がん相談支援センターの業務として、がんに関する一般的な情報提供、がん患者の療養上の相談、患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援などがある。当院では、がん相談の対象を院内外のがん患者・家族とし、いつでも気軽に相談できるように面談は予約なしで受けられる体制を整えている。相談内容に応じて、がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師および医療ソーシャルワーカーがそれぞれ兼務で対応し、必要時には院内外の職種とも連携している。当院は緩和ケア病棟を有するため、緩和ケアおよび緩和ケア病棟に関する相談も多く、緩和ケア病棟入院相談（緩和ケア病棟担当医が行う外来の予約を含む）については医療ソーシャルワーカーが担当している。また、がん患者サロンについては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため休止やオンラインで行っていたが、2023年度から対面でのサロンを再開した。三島医療圏のがん拠点病院合同事業にも参加した。

< 2023 年度の活動実績 >

1. 相談支援について

- 1) がん相談支援センターでは、ホームページ等で以下のように案内し、相談支援を行った。
- ・対象
がん患者・家族（他院通院中の方も可、匿名可）
 - ・相談にかかる費用
無料 セカンドオピニオンについては有料

・受付日時

毎週 月曜日～金曜日 9時～16時

※予約不要であるが予め電話等で予約していただければ確実に対応できるとご案内している。

・相談員

がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師・医療ソーシャルワーカー。うち5名はがん相談支援センター相談員基礎研修(1)～(3)を修了している。

2) 相談実績について

① 相談総件数(2023年4月～2024年3月):計1059件(月平均88件)

平成30年1月より厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容の入力項目を追加している。

[2023年度月別件相談数]

年月	2023年									2024年			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
相談件数	71	67	105	103	98	104	84	85	79	75	90	98	1059

② 相談内容

相談内容で最も比重の大きいものは上位から順に「不安・精神的苦痛」が218件(20.4%)、ほぼ同数で「受診方法・入院」が216件(20.2%)、「介護・看護・養育」が190件(17.8%)であった。複数件数でもこの3項目が上位に入っているが、「がん治療」「転院」「在宅医療」なども多数あり、1回の相談につき複数の問題が存在し、それに対応していることがわかる。

2023年度 相談内容 (n = 1,066)

相談内容	最も比重の大きいもの	参考) 複数件数
がんの治療	113	356
がんの検査	3	11
症状・副作用・後遺症	32	97
セカンドオピニオン(一般)	1	11
セカンドオピニオン(受入)	0	0
セカンドオピニオン(他へ紹介)	1	2
治療実績	0	0
臨床試験・先進医療	0	0
受診方法・入院	216	226
転院	69	100
医療機関の紹介	5	21
がん予防・検診	0	0
在宅医療	51	119
ホスピス・緩和ケア	87	249

食事・服薬・入浴・運動・外出など	9	62
介護・看護・養育	190	347
社会生活（就労・仕事・就学・学業）	3	34
医療費・生活費・社会保障制度	29	73
補完代替療法	0	0
生きがい・価値観	3	43
不安・精神的苦痛	218	404
告知	9	81
医療者との関係・コミュニケーション	4	8
患者－家族間との関係・コミュニケーション	13	38
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	0	1
患者会・家族会（ピア情報）	1	1
グリーフケア	0	0
不明	0	0
その他	9	17

令和4年度対応内容

対応内容	最も比重の大きいもの	参考) 複数件数
傾聴・語りの促進・支援的な対応	103	154
助言・提案	67	167
情報提供	124	241
自施設受診の説明	199	220
他施設受診の説明	12	26
自施設他部門への連携	21	85
他施設への連携	70	120
ピアサポート機能の紹介	1	3
苦情・要望への対応	0	1
判断不明	0	4
その他	21	23

③ 対応内容

対応内容で最も比重の大きいものは上位から順に「傾聴・語りの促進・支援的な対応」が367件（34.6%）、「情報提供」が214件（20.2%）、ほぼ同数で「自施設受診の説明」が212件（20%）であった。自施設受診の説明は、当院緩和ケア病棟への入院相談がほとんどである。しかし、自施設受診の説明と同時に傾聴や助言、情報提供なども行っている。複数カウントでは、情報提供の件数が一番多い。

2023年度 対応内容 (n = 1,059)

対応内容	最も比重の大きいもの	参考) 複数件数
傾聴・語りの促進・支援的な対応	367	504
助言・提案	110	565
情報提供	214	622
自施設受診の説明	212	236
他施設受診の説明	14	26

自施設他部門への連携	29	172
他施設への連携	100	149
ピアサポート機能の紹介	1	2
苦情・要望への対応	0	0
判断不明	1	1
その他	11	16

④ 相談対象者のがんの部位

相談対象者のがんの部位は、転移等を除いた主のもので、肺が234名(22%)で最も多く、以下、大腸が128名(12%)、乳房93名(8.7%)、胃88名(8.3%)、血液・リンパ80名(7.5%)であった。原発部位から肺や肝・胆、リンパや骨に転移しているケースも多い。

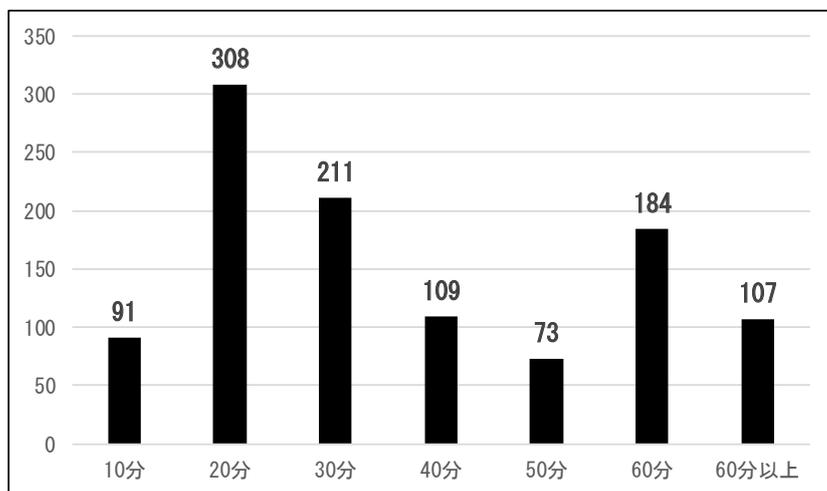
2023年度 相談者のがんの部位 (n = 1,059)

がんの部位	最も比重の大きいもの	参考) 複数件数
肺	234	343
大腸	128	143
乳房	93	104
胃	88	104
血液・リンパ	80	133
肝・胆	78	204
膵	67	82
腎・尿管・膀胱	59	65
前立腺	42	51
食道	37	52
眼・脳・神経	21	82
子宮	19	20
骨・軟部組織	18	116
後腹膜・腹膜	15	39
不明	14	13
卵巣・膣・外陰部	13	15
中皮腫	11	11
希少がん	11	11
耳鼻咽喉・口腔	10	12
小腸・肛門	7	10
その他	6	14
甲状腺	3	4
精巣	1	1
副腎	1	4
皮膚	1	12
原発不明	1	3
診断なし	1	3
縦隔・心臓	0	1

⑤ 相談対応時間

相談にかかった時間は20分が一番多く(308件 28.4%)、次いで30分(211件 19.4%)、60分(184件 16.9%)であった。平均時間は36.9分である。

2023年度相談対応時間 (n = 1,083)



⑥ 相談者の受診状況

相談者の受診状況は、自施設入院中が435名(40.3%)、自施設通院中が396名(36.7%)、他施設入院中が138名(12.8%)、他施設通院中が90名(8.3%)であった。(母数：1078件) 当院は緩和ケア病棟があり、そちらへの入院相談や緩和ケアそのものの相談を受ける機会も多く、他施設のがん患者や家族の相談に対応する割合が2割あるということは特徴の一つである。

⑦ がん患者指導管理料イ・ロの算定件数

2023年度のがん患者指導管理料イ・ロの算定件数は、以下のとおりである。

※がん患者指導管理料イ (500点)

医師が看護師と共同して診療方針等について話し合い、その内容を文書等により提供する。

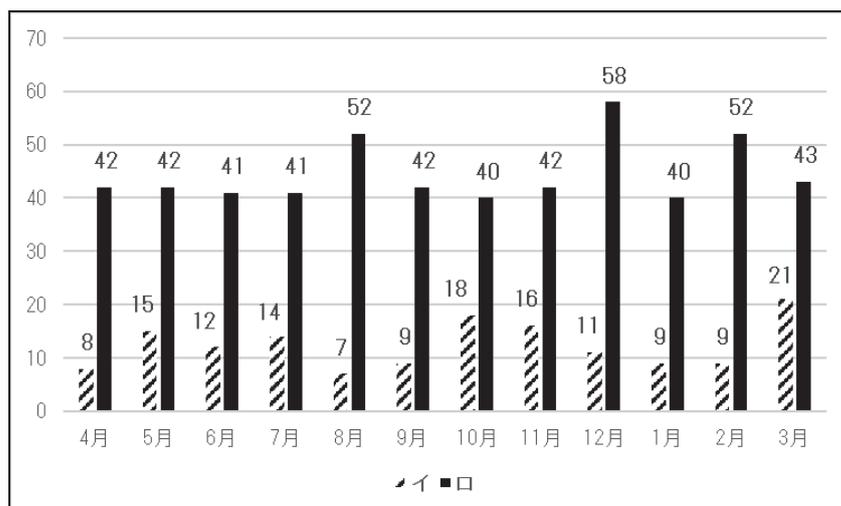
2023年度は149件であった。

※がん患者指導管理料ロ (200点)

医師、看護師または公認心理士が心理的不安を軽減するための面接を行う。

2023年度は535件であった。

2023 年度がん患者指導管理料イ・ロ月別算定実績



2. がん患者サロン

2020 年度以降、コロナ禍にて対面でのがん患者サロンが実施できていなかったが、2023 年度は三密を避け、マスク着用、手指消毒を行う等感染対策を行った上で、集合形式で実施することができた。院内外のがん患者およびその家族を対象とし、会場はやすらぎホールを使用した。ポスター、チラシ、ホームページで周知したが、参加人数は伸び悩んだ。サロンの構成や周知の方法など、次年度への課題の一つとなった。

2023 年度がん患者サロン（開催時間はいずれも 13：30 ～ 15：00）

開催日	テーマ	参加人数
2023 年 8 月 23 日(水)	がん患者・家族同士の情報交換、意見交換など	4 名
2023 年 10 月 18 日(水)	〃	3 名
2023 年 12 月 20 日(水)	〃	1 名
2024 年 2 月 28 日(水)	〃	2 名

3. 三島医療圏がん拠点病院合同事業への参加

三島医療圏には国拠点の大阪医科薬科大学病院、府拠点の当院、北摂総合病院、高槻病院、第一東和会病院の 5 病院ががん拠点病院に指定されており、共催という形で以下の事業に参画した。

① 三島医療圏 合同がん患者サロン

日時：2024 年 1 月 20 日（土）14：00 ～ 16：30 集合形式にて開催

会場：大阪医科薬科大学病院構内 歴史資料館 3 階

対象：5 病院にかかっているがん患者・家族

講師：日本キヤンサーケアヨガ協会代表 ココハナヨガ主宰 多田羅理恵氏

内容：椅子を用いたヨガの体験、患者・家族同士の交流会

② 三島医療圏 合同がん治療と仕事の両立支援講演会（患者向）

日時：2024年2月3日（土）14：00～15：15 ハイブリッド形式にて開催

会場：大阪医科薬科大学 新講義実習棟 1階 P101

対象：5病院にかかっているがん患者・家族

内容：第1部「病院で相談できる お金のこと・暮らしのこと」

講師：北摂総合病院 がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー 大西悠里氏

第2部「治療も仕事もあきらめない」

講師：伊藤貴志社会保険労務士事務所 伊藤貴志氏

4. 患者図書コーナー

2010年9月より1階フロアに開設している。開館時間は9時～15時であり、管理は診療支援課が行っている。2020年度から新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため閉鎖していたが、2023年度より再開した。がん相談支援センターからは、がんに関する研修会のチラシや患者会発行の機関誌が提供された際に図書コーナー外側に配架し周知した。

5. 広報活動

① がん相談支援センターのリーフレットを関連部署に配架した。

② 厚生労働省からの周知協力依頼に基づき、「がん検診月間」である10月に、がん検診受診率50%達成にむけてのポスターを作成し、院内とシャトルバス内に掲示した。

6. 大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会、三島医療圏がん診療ネットワーク協議会相談支援センター部会に参加した（いずれもオンライン）

① 大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会

第1回：2023年6月24日（土）13：30～15：30

第2回：2024年3月1日（金）16：00～17：30

② 三島医療圏がん診療ネットワーク協議会相談支援センター部会

第1回：2023年5月18日（木）17：00～17：40

第2回：2024年1月25日（木）17：00～17：40

7. 大阪府主催令和5年度「本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会」への参加

日時：2024年1月28日（日）9：00～17：30

形式：高槻赤十字病院来賓室に集合し、オンライン

参加者：金村誠哲医師 西川亜紀子看護師 志水陽子 MSW

< 2024年度の活動目標 >

1. がん患者サロンの対面開催を継続し、発展させる。ピアサポーター制度の活用も検討していく。

2. 相談対応の質の担保

① がん相談支援センター相談員基礎研修（1）～（3）未修了者の受講を推奨していく。

- ② 大阪府がん診療連携協議会緩和ケア部会・相談支援センター部会、三島医療圏がん診療ネットワーク協議会相談支援センター部会その他関連団体が主催する研修を受講する。
3. がん教育講演会への講師派遣事業への協力を行っていく。
4. がん拠点病院における相談支援センターの設置要件等に注視し、必要要件を整備していく。

【医療福祉相談係長 志水陽子】

<スタッフ>

志水 陽子（医療福祉相談係長・社会福祉士）
信本 愛（医療社会事業司・社会福祉士）
大島由起子（医療社会事業司・社会福祉士）
中野 慶子（医療社会事業司・社会福祉士）

<特 色>

医療福祉相談係では、ソーシャルワークを担当しており、厚生労働省の業務指針に基づき、①療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助、②退院援助、③社会復帰援助、④受診・受療援助、⑤経済的問題の解決・調整援助、⑥地域活動を行っている。

具体的に MSW が行っている業務を以下に示す。

- * 患者・家族と面接しアセスメント、ニーズの把握をする。
- * 転院・入所先の担当窓口と連絡・調整を行う。
- * 在宅支援関係職種や行政と連絡・調整を行う。
- * 多職種カンファレンスの開催調整・参加（日時調整、司会進行、記録など）
- * 社会資源の紹介、情報提供を行う。
- * 社会資源活用にあたって、必要文書の作成依頼や処理、管理など
- * 社会資源活用にあたって担当窓口と連絡・調整を行う。
- * 院内各職種と連携（各種カンファレンスへの参加、患者・家族の通訳的役割や院内外関係者との仲介など

また、当院は府指定のがん診療拠点病院に指定されており、がん相談支援センターでの業務も、医療ソーシャルワーカーが、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師とともに、がん相談支援センター相談員を兼務することで継続した。

令和5年度医療ソーシャルワーカーは4名配置されており、原則病棟ごとにケースを担当した。入退院支援看護師や退院調整看護師とともに担当の病棟の退院支援計画カンファレンスに参加し、入退院支援加算1を算定。その他、外来ケースにも対応している。

また、地域との連携や自己研鑽のため、三島圏域リハビリテーション連絡会や、大阪医療ソーシャルワーカー協会、三島圏域ソーシャルワーカー連絡会、全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会等に所属し、研修活動などに参加している。

<令和5年度の活動実績>

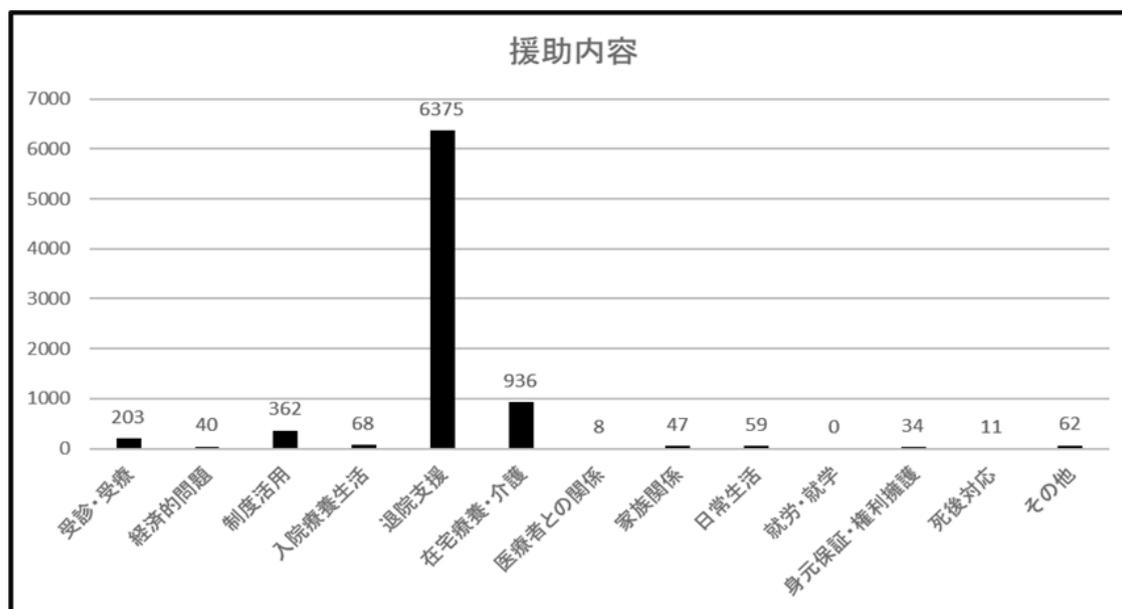
従来、「全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会」の日報・月報様式を使用し、活動実績を集計してきたが、令和3年度より新様式に変更となり、当係でも新様式を使用した。

◇年度実人数・・・計 1,547 名

◇対応した問題件数（延べ相談件数となる）・・・計 7,484 件

以下に、①援助内容、②援助方法、③社会的背景、④新ケースの紹介経路をグラフに示す。

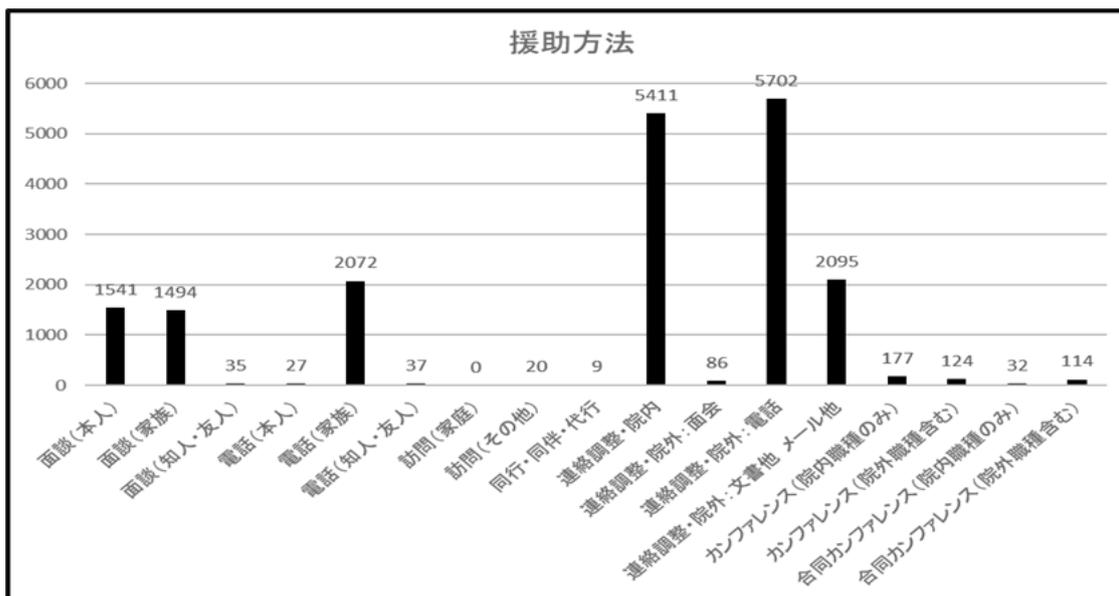
① 援助内容（複数カウント 単位：件 n = 8,205）



援助内容では、退院支援が全体の7割5分以上を占め、昨年度より1割増加している。このことは、医療ソーシャルワーカーの業務のうち退院支援にかかる業務の特徴や必然性を示している。また、在宅療養・介護、制度活用、受診・受療に関する項目もそれぞれ1割近くあり、令和4年度よりも外来患者の在宅療養支援ケースも増加していることを鑑みると、昨今の在院日数の短縮化や早期に在宅サービス導入を検討する際の重要な役割を医療ソーシャルワーカーが担っているといえる。

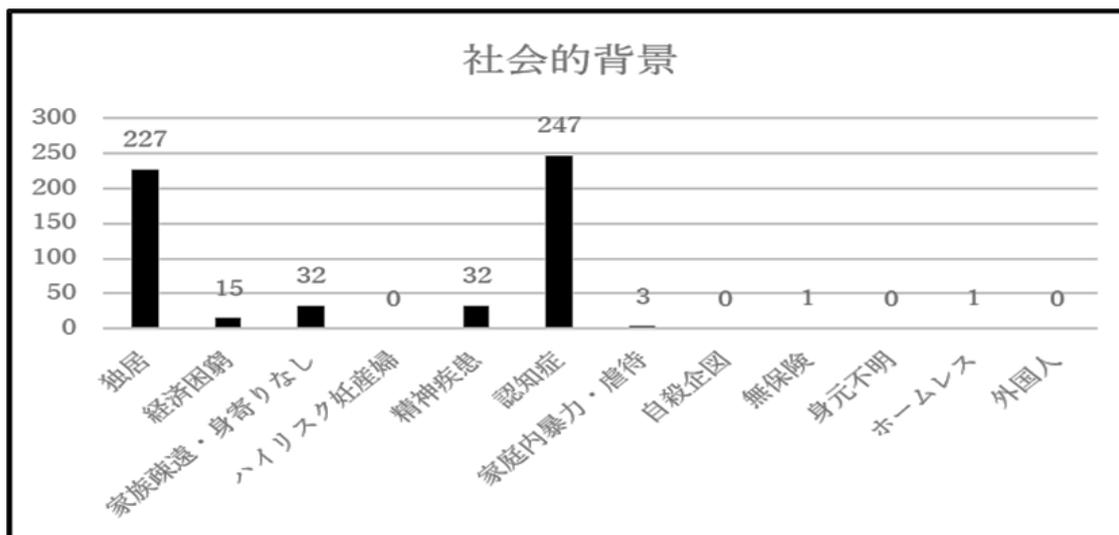
退院支援は在院日数を短縮や、ベッドの効率的な回転を促進するために、当院では最優先すべき項目であるが、医療ソーシャルワーカーが後方の受け入れ先の確保や地域の社会資源との連携に努めることはもちろんのことだが、それに専念できるよう、一部の制度説明や、単なる事務作業については他部署と役割分担していくことが課題となっている。また、特徴的なものとして、身元保証・権利擁護が34件、死後対応が11件ある。件数としては、昨年度より多少減少しているとはいえ、身寄りのないあるいは、疎遠となっている患者への対応が増えていることを示している。後見人や行政との連携も医療ソーシャルワーカーが担っており、今後、社会的背景と連動してこれらの件数は増えていくと思われる。

② 援助方法（複数カウント 単位：件 n = 18,976 件）



援助方法としては、電話・文書での院外との連絡調整が約4割を占める。コロナ対応が5類となってから、対面で関係機関と面会した件数は86件と昨年度と変化はないが、院外関係機関を含めたカンファレンスは昨年の2倍以上の件数となっている。家族との相談も少しずつ面談が増えてきているものの、面会によるものより電話による方法の方が多くなっている。コロナ対応が終わり、仕事がりモートでなくなったという生活スタイルの変化、また家族の本人に対するかかわり方の変化、さらに主治医からのICが対面だけでなく、電話でのICも増えてきていることにより、平日日中に病院へ足を運ぶ機会が少なくなっていることも一因として推測される。

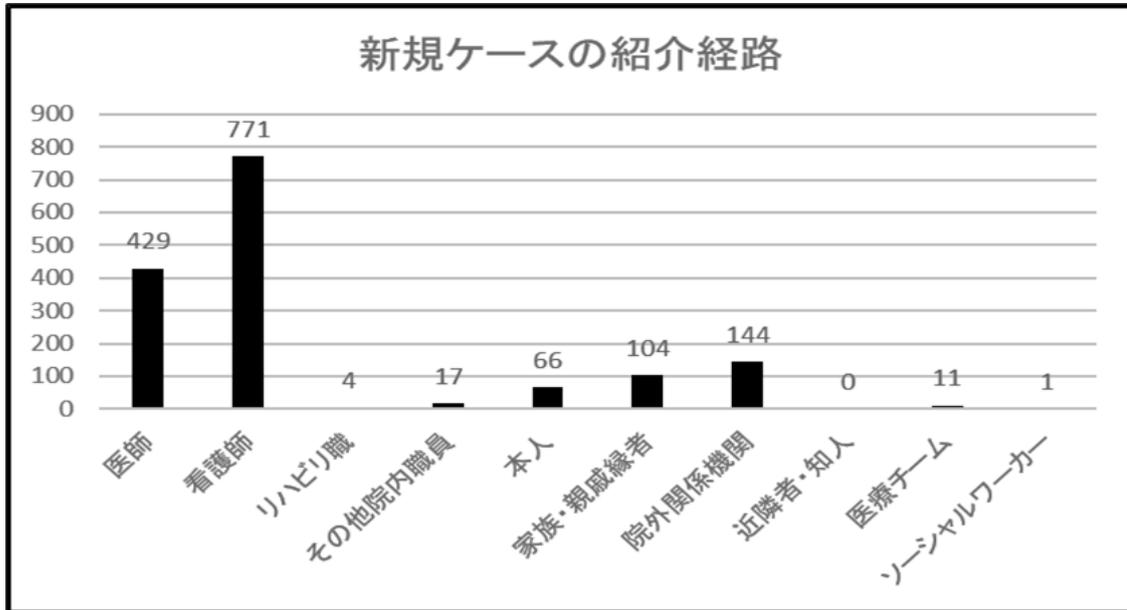
③ 社会的背景（対象のみ計上 単位：件 n = 558 件）



独居と認知症が各々全体の4割を占めている。数値には表れていないが、独居かつ認知症ケースも確実に増えている。その他独居と家族疎遠・身寄りなしが重なるケースなど社会的背景は単一ではなく複数要因があり、複雑なケースも多い。こうしたいわゆる困難ケースが

今後も増えていくことは予想され、退院支援や死後対応など、さらなる地域との連携や医療ソーシャルワーカーのスキルアップが課題となっている。

④ 新ケースの紹介経路 (実件数 単位：件 n = 1,547 件)



新ケースの紹介経路としては、看護師からの紹介が約5割、次いで医師からが約3割である。院外関係機関からの紹介も1割近くあり、医療ソーシャルワーカーがケアマネジャーや訪問看護師等、地域の社会資源との窓口となっていることを示している。院外関係機関からは、院内では把握できない患者の環境や問題点など入院生活に影響する情報提供や課題提供も多く、スムーズに退院支援につなげられるよう連携していくことが課題となっている。

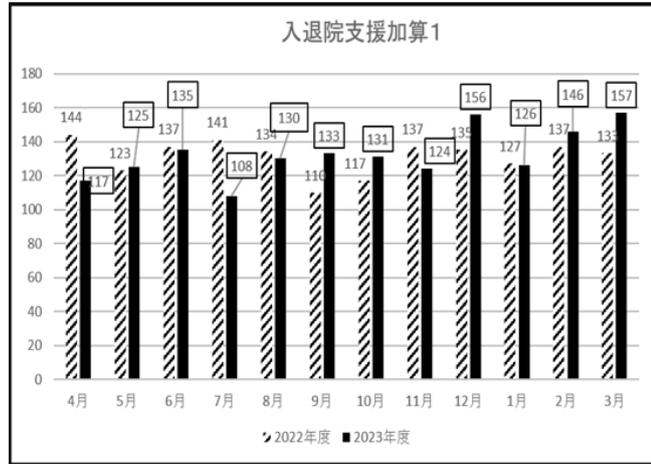
退院調整には院内外の関係者によるチームでのかわりが不可欠であり、当院の中でも定着してきている。医療ソーシャルワーカーは地域連携の窓口という役割も果たしており、患者・家族と社会資源だけでなく、院内外の関係職種の連携そのものを橋渡ししているといえる。

当院は2019年11月より、入退院支援加算1を適用しており、病棟の看護師・退院調整看護師・入退院支援看護師・医療ソーシャルワーカーが共同して週2回ずつ各担当病棟にて退院調整計画カンファレンスを行い、昨年度と同程度の該当患者に退院支援計画書を作成した。

入退院支援加算算定件数（2022年度・2023年度の比較 単位：件）

入退院支援加算1

	2022年度	2023年度
4月	144	117
5月	123	125
6月	137	135
7月	141	108
8月	134	130
9月	110	133
10月	117	131
11月	137	124
12月	135	156
1月	127	126
2月	137	146
3月	133	157
	1,575	1,588



総件数 2022年度：1,575件 2023年度：1588件

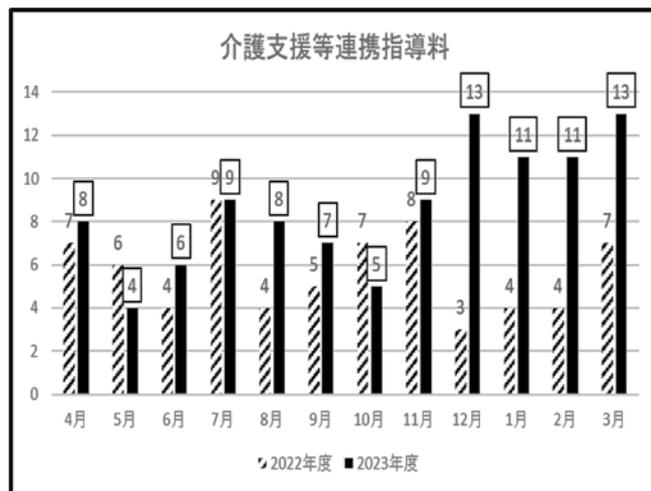
点数 2022年度：1,575件×700点=1,102,500点

2023年度：1,588件×700点=1,111,600点

介護支援等連携指導加算算定件数（2022年度・2023年度の比較 単位：件）

介護支援等連携指導料

	2022年度	2023年度
4月	7	8
5月	6	4
6月	4	6
7月	9	9
8月	4	8
9月	5	7
10月	7	5
11月	8	9
12月	3	13
1月	4	11
2月	4	11
3月	7	13
	68	104



総件数 2022年度：68件 2023年度104件

点数 2022年度：68件×400点=27,200点

2023年度：104件×400点=41,600点

介護支援等連携指導料は、病院を訪問したケアマネジャー等に情報提供を行うことで算定できるが、5類になったことや昨年度の反省を踏まえ積極的に連携をおこなった結果、昨年度より算定件数は1.5倍となった。

なお、退院時に利用者に対し、地域や施設の医師や看護師等と共同して療養上の指導をおこなう退院時共同指導は、昨年度は90件算定をおこなった。

シームレスな入退院となるよう、今後も積極的な各関係機関との連携を心掛けたい。

また、当院は平成29年度より認知症ケア加算1の施設基準を取得しており、医療ソーシャルワーカーも2名、専任として認知症ケアサポートチームに所属し、週1回のカンファレンスに参加した。その他、心臓リハビリテーションカンファレンスや外科カンファレンス、適正な退院促進カンファレンスにもチームの一員として参加した。

上記件数以外にがん相談支援センターの相談業務も兼務で行っているが、それについては「がん相談支援センター」の項目で活動報告を行う。

<令和6年度の活動目標>

1. 退院支援、地域連携の強化

- ① 適正な退院促進のため、院内外連携の強化と後方受け入れ先の確保に努める。
後方受け入れ先の機能や種類について、院内職員や患者・家族への可視化を行う。
- ② ケアブックをおおいに活用し、退院支援の効率化・可視可をはかる。
- ③ 近隣の関係施設や医療機関への訪問を随時行い、訪問が困難な場合は、オンラインでの連携も推進していく。
- ④ 地域関係機関の活動や会議に出席し、情報収集に努める。

2. 業務量の適正化

- ① 院内他部門との連携をよりいっそうはかり、役割分担を明確にしていく。
- ② 後進の育成も含め、医療ソーシャルワーカーの増員・雇用について引き続き上層部と相談していく。

訪問看護ステーション

<スタッフ>

看護師：酒井 美幸（管理者）、鈴木 恵子、栗林 愛美、廣瀬 友紀、村上 智香、
木村 淳子（兼）、森 彩子、北田 佑美、豊田 典子、今村 利恵
理学療法士：行本 鉄平
事務：本間 幸美

転入 令和5年 4月 鹿野 留美、 7月 栗林 愛美、酒井 美幸
転出 令和5年 6月 原田かおる、 7月 鹿野 留美
入職 令和5年 7月 守屋 裕子、10月 村上 智香
退職 令和6年 2月 上原加奈子 10月 守屋 裕子

<特色>

「大阪府がん診療拠点病院」「地域医療支援病院」である高槻赤十字病院の強いバックアップのもと、緩和ケア病棟や緩和サポートチーム等と連携し、エンド・オブ・ライフ・ケアに取り組んでいる。専門看護師、認定看護師等と協働しながら療養支援に取り組んでいる。

医療保険・介護保険双方に対応可能。

各種指定：[医療保険] 24時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア加算
専門管理加算

[介護保険] 緊急時訪問看護加算、特別管理加算、ターミナルケア加算
専門管理加算、サービス提供体制加算、看護体制強化加算Ⅱ

公費負担制度：原爆医療、労災（H7年9月～）

生活保護医療（R2年4月～R8年3月）

難病指定医療（H27年1月～R8年12月）

指定小児慢性特定疾病医療（H27年1月～R8年12月）

指定自立支援医療（H27年8月～R9年7月）

地域との連携

(1) 連携している医師

・地域の開業医 23施設 ・他病院 5施設8名 ・当院医師 38名

(2) 連携している居宅介護支援事業所

・43事業所

<活動実績>

※営業日数 243日（前年度 243日）

	医療保険	介護保険	合計	前年度差
訪問延数	989	3,868	4,857	- 650
（再掲）リハビリ	342	680	1,022	+ 55
利用者実数	209	772	981	- 70
新規利用者数	18	26	46	+ 1
終了者数	17	34	51	- 6
自宅・軽快	1	4	5	- 9
医療機関入院	1	7	8	+ 3
保健施設等	2	9	11	+ 9
死亡	13	13	26	- 6
その他	0	1	1	- 3
1日平均利用者数			20	- 3
看護師1人当訪問回数			5	0
24時間体制利用患者数			84	- 37
利用延回数				- 29
訪問回数				- 7

<事業計画 評価>

令和5年度 事業計画

訪問看護ステーションの運営の安定化と利用者数の回復を目指す。新体制の中、病院併設の利点を活かした体制づくり、病院内関係職種との連携強化、地域関係職種との顔の見える関係づくりをもとに地域に開かれた訪問看護ステーションを目指す。

1. 安定した使用者数の確保と増加に向けた体制を整備する

訪問目標件数 500件/月以上 4～5件/日

新規利用者目標値 平均 5人/月

<<評価>>

訪問件数 平均 405件/月（前年度 459件）

新規利用者 平均 3.8件/月（前年度 3.8件）

看護師の長期休暇複数名と管理者の交代に伴い体制維持に困難な状況が生じた。やむなく新規受け入れを制限せざるを得ない時期があったが、人員補充に伴い下半期は軌道にのった運営ができた。

ステーションの運営体制の整備として以下の取り組みを行った。

- ① Googleカレンダーを活用したスケジュール作成と調整
- ② チーム体制を強化し受持ちの負担軽減、情報共有、問題解決の促進
- ③ 必要なガイドライン等の整備
 - ・ハラスメント防止のための指針
 - ・自然災害発生時の業務継続計画（BCP）

- ・感染症の予防及びまん延防止のための指針
- ・高齢者虐待防止のための指針

2. 病院関係職種との連携強化

- ① 外来所属看護師の立場を活かし、外来診療との連携が円滑に進むようになった。
- ② 退院支援看護師、MSW とタイムリーに情報共有することで連携が促進できた
- ③ 各種専門・認定看護師へ相談の機会が増え、アセスメントや技術指導を受けることができた。
- ④ 訪問看護ステーション運営委員会を立ち上げた。院内各関係職種が構成員となり当ステーションの運営について意見を交わせる場が設けられた。

3. 地域との連携強化

- ① 地域圏域会議（阿武野包括・郡家包括）各2回 出席
- ② 開業医の指示に迅速に応え、報告・連絡・相談を密にとることができた。

4. 看護・理学療法の質の向上 アセスメント力の向上

年度途中で急な管理者交代が生じた。そのため活動の士気が下がったが、利用者への看護の提供は継続でき、メンバー間で問題解決に向けたディスカッションがこれまで以上にできるようになった。各自の学習計画に沿った自己学習ができていた。

5. 後進の育成、訪問看護普及のための実習生等の受け入れ

- ・大阪医科薬科大学看護学部 在宅看護実習 2週間2クール 4名
- ・大阪府立大学大学院 老年看護学 CNS コース 1名

<令和6年度 事業計画>

- ・目 標 訪問件数 450件/月 (5,400件/年)
新規利用者数 4人/月
看護師一人当たり訪問件数 3.5件/日
- ・戦 略 ① 広報活動・・・病院ホームページのリニューアル
リーフレットの配布
② 院内看護師研修の実施、地域圏域会議等での活動

以上

医療安全推進室

<スタッフ>

- 小林 稔弘 (副院長兼医療安全推進室長)
- 後藤 公男 (放射線科部長兼医療安全推進副室長)
- 松村大志郎 (消化器科医師)
- 中田 祐二 (医療安全管理者)
- 西 ひろみ (看護副部長)
- 小島 一晃 (薬剤部長兼医薬品安全管理責任者)
- 竹下 勇一 (臨床工学技術課長兼医療機器安全管理責任者)
- 萩原 大介 (総務管理課長)
- 迫田 博史 (総務管理課総務係長兼医療安全係長)

<令和5年度活動実績>

【活動目標】

- ① 患者確認行動のさらなる徹底。患者誤認件数“0 (ゼロ)”を目標とする。
- ② 医師のインシデント・アクシデント報告数を看護師の報告件数の5%以上 (90件程度以上)に増加させる。
- ③ 医療機器、材料の取扱と操作後の確認行動の徹底。
- ④ 転倒転落防止対策では、危険予測を行い被害の大きくなる予防対策を実施し現状を維持する。またスリッパの使用禁止と靴の履き方を再度周知していく。

【結果 インシデントアクシデント報告】

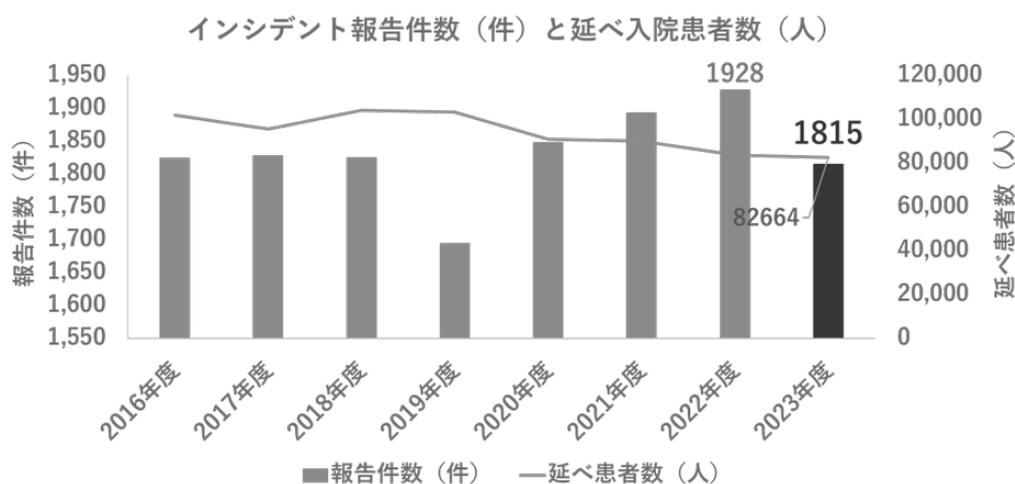


図1. 2016年度からのインシデント・アクシデント報告件数と延患者数の推移
患者数は減少しつつも報告件数は維持できていた。

表 2. 職種別報告件数の構成比

職 種	2016年度	2017年度	2018年度	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	構成比
看 護 師	1,625	1,653	1,637	1,499	1,607	1,583	1,609	1432	78.9%
医 師	26	22	28	13	24	15	45	56	3.09%
薬 剤 師	78	65	77	74	56	86	62	65	3.58%
検 査 技 師	26	23	43	27	56	135	143	70	3.86%
放射線技師	11	15	14	17	15	12	5	17	0.94%
OT・PT・ST	12	7	5	18	5	5	4	8	0.44%
栄 養 士	25	25	16	14	19	10	14	24	1.32%
臨床工学技師	7	4	8	2	10	15	11	6	0.33%
事 務 他	21	18	25	30	56	32	35	137	7.55%
合 計	1,831	1,832	1,825	1,694	1,848	1,893	1,928	1,815	100%

医師の報告件数は徐々に増加してきている。他方、事務の報告件数は2023年度に急激に上昇した。これはこれまでに事務からの報告（委託業者）からの報告が少なかった事、そして書類混入事例を報告するようになったためと考えられた。

表 3. 医療機器の種類別分類

種類別	件数 (件)
手術関連機器・器具	13
透析関連機器・器具	1
麻酔関連機器・器具	1
検査関連機器・器具	1
人工呼吸器関連	7
酸素投与器具	2
生体モニター	10
輸液ポンプ・シリンジポンプ	12
そ の 他	4
合 計	51

表 4. 医療機器のレベル別分類

レベル別	件数 (件)
レベル 0	9
レベル 1	23
レベル 2	8
レベル 3a	10
レベル 3b	0
該当なし	1
合 計	51

2023年度は2022年度と比較して、Lv3aの事例が増加した。内容は、医療機器関連褥瘡(MDRPI)4件、利尿剤のフリーフロー1件、体内での手術器具の破損1件、治療中の装置の電源切れ1件、人工呼吸器の回路外れ1件、透析関連が1件であった。すべてにおいて、大きな影響になりかねない事例であり、基本的な操作方法とルールの徹底、操作後の確認を行っていくことが必要と考えられた。

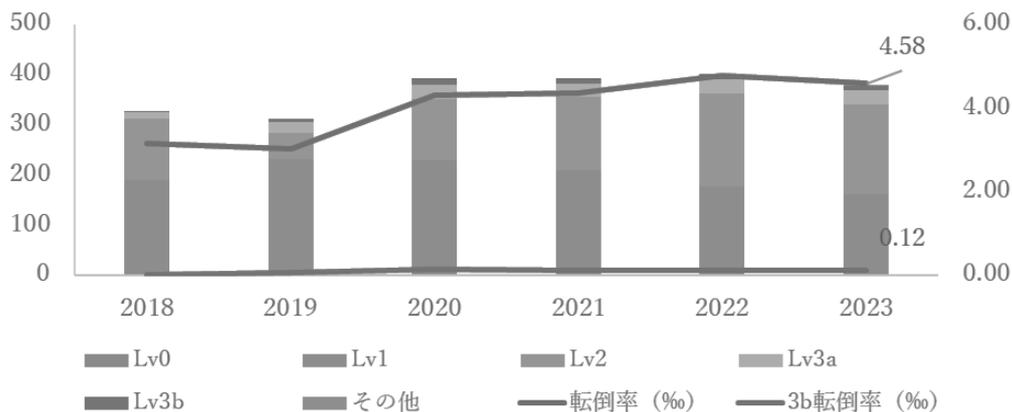


図 2. 過去 6 年間の各影響レベル別の転倒・転落件数 (件) と転倒率 (%)

表 5. 転倒転落場所

転倒・転落の発生場所	件数 (件)
病 室	341
トイレ・浴室	13
その他 (病棟内)	16
その他 (病棟外)	9
合 計	379

表 6. 転倒転落のレベル別報告件数

転倒・転落の外傷レベル	件数 (件)
レベル 0 (外傷なし又は軽微)	1
レベル 1 (軽度な処置実施)	159
レベル 2 (処置、検査実施)	179
レベル 3a (簡単な治療実施)	29
レベル 3b (濃厚な治療実施)	10
その他	1
合 計	379

転倒転落件数の総計では過去 5 年間で最大値となった 2022 年度よりは低下したが、転倒率 (%)、優有害事象発生率 (%) の低下はみられていなかった (図 6)。特に 3b 事例数は 2022 年度の 9 件より 1 件増加して 10 件となっていた。しかしながら、2023 年度にキャンペーンを行った結果、2022 年度に踵の無い靴 (スリッパなど) を要因の一つとした 3b 事例は発生していなかったことは評価できると考えられた。

表 7. 2023 年度アクシデント 14 事例の内容

患者への影響	
保存的治療を要した案件	6 …… 転倒 6 件 (安静、固定)
侵襲的治療を要した案件	8 …… 転倒 4 件 (手術)、ERCP 中の心肺停止 1 件 (リカバー)、 麻酔・挿管後の緊張性気胸 1 件、術後出血・ドレナージ・血腫除去術 1 件、窒息 1 件 (リカバー)
合 計	14

重要案件事例の内、転倒に関しては侵襲的治療を要したのが 4 件であった。転倒件数および転倒率自体は 2022 年度とで著変はないが、影響レベルが高くないよう転倒に対して対策が取られていたと推測された。

一方、転倒事例以外では、危機的な状況に陥る可能性の高い事例であった。死亡事例は発

生していない。現場の対応を評価したい。しかしながら想定される事態であるため、できる限りの発生率の低下に心がける必要があり、対策を講じていきたい。

表 8. 患者誤認の場面

主な内容	件数 (件)
処方・調剤・与薬	9
検査・治療・処置	8
文書管理	7
配膳	6
案内・移送	4
合計	34

表 9. 患者誤認のレベル別分類

レベル	件数 (件)
レベル 0	14
レベル 1	10
レベル 2	7
レベル 3a	0
その他	3
合計	34

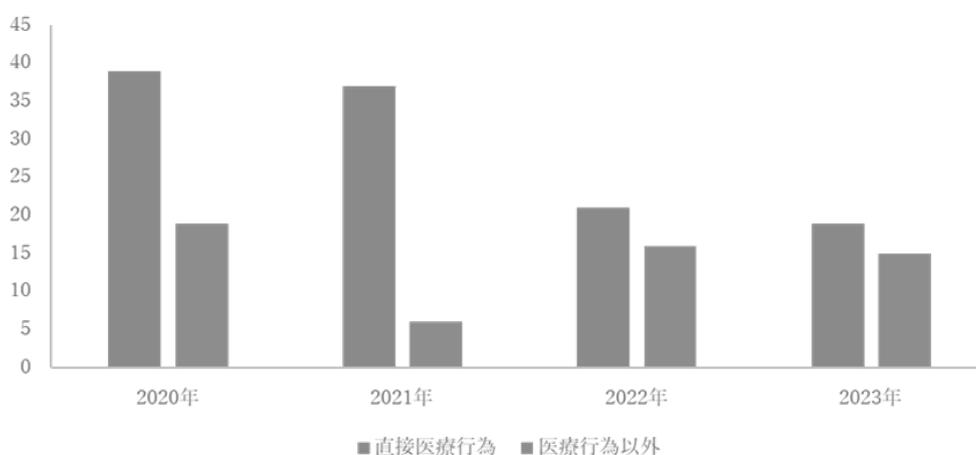


図 3. 過去 4 年間の患者誤認件数 (件)

2022 年度は直接的な医療行為が顕著に減少したが、2023 年度は変わりなかった。

2022 年度は直接医療行為（処方・調剤・与薬、検査・治療・処置、配膳）の場面での患者誤認の減少が伺え、引き続き 2023 年度も患者確認行為の徹底を行ったが十分な減少に至らなかった。報告から患者確認行動への行動変容が充分であったとは言い切れない。人の意識や行動変容に頼るのは限界があるとすれば、システム的な対応になるが、現状のシステムの変更は難しい。この為意識の向上および行動変容を進めていくことが最善と考えられるが、これまで当院ではやってこなかった手法を用いて意識向上を図っていかないと行動変容に繋がらないかもしれない。

【活動内容】

- ・医療安全研修会 10 項目開催（各研修会で動画上映会およびオンデマンド配信）
- ・リスクマネジメント部会 10 回開催（コロナ禍の為 1 回中止）
- ・ANZEN ニュース毎月 発行
- ・安全メール配信 44 回

- ・マンガで医療安全 発行 6 件
- ・ANZEN ちゅ～ぶ 作成 2 件
- ・安全ラウンド 全部署 43 部署実施
- ・毎月時計、PHS、医療機器などの時刻合わせ活動
- ・CVC 報告制度および研修、運用継続
- ・転倒防止対策継続実施
- ・医療安全地域連携
 - I - I 連携 済生会茨木病院
 - I - I 連携 愛仁会リハビリテーション病院
 - I - II 連携 水無瀬病院

相互に訪問し評価を行った。

- ・三島医療圏医療安全ネットワーク会議への参加
- ・「ポジティブレポートを報告しようキャンペーン」実施
- ・「麻薬の病棟管理方法の改善の取り組み」実施
- ・「踵のある靴をキチンと履こうキャンペーン」の実施
- ・多職種集まったの事例分析（RCA を含む）4 件

【院内研修会】

表 10. 全体の 2 回参加率

	2023 年度	2022 年度	2021 年度	2020 年度
2 回以上参加率 (%)	99.8	97	95	92.1
3 回以上参加率 (%)	70.4	62	72	82.8
4 回以上参加率 (%)	46.5	36	52	65.0

表 11. 開催内容と各研修会の参加人数

実施日	研修会名	対象	参加人数
年度中	安全な CV 挿入に係る取り決め（オンデマンド）	医療職	16 名
2023 年 4 月	チームステップス	新職員	13 名
6 月	安全な医療ガスの取扱いを知ろう	全職員	317 名
6 月	2022 年度ポジティブレポート集計結果から見る医療安全対策	全職員	297 名
8 月	CVC ハンズオン研修会	医師、研修医	16 名
9 月	認知症とせん妄および鑑別について	全職種	391 名
10 月	安全な輸血製剤の取扱と輸血療法について	全職員	288 名
12 月	麻薬の取扱 2023 ～事故対応は大丈夫？～	医療職	195 名
12 月	放射線科部門医療安全研修会	医療職	246 名
2024 年 2 月	医師が語る 事例から学ぶリスクマネジメント	全職員	153 名

医療安全研修会 2 回以上参加率は、年々上昇し 2023 年度は回参加率は前年度 99.8%まで(退職者、長期休暇者含まず) に上昇した。

【患者相談・意見への対応】

1. 相談対応（医療メディエーション）

・患者側からの相談 17件 ・医療者側からの相談 10件

2. 意見・苦情の総数件

接遇、職員の対応（説明不足、態度が悪い、不信間等）	15件
施設、設備（病室、トイレ、備品、駐車場等）	10件
環境（清掃、空調、臭気、騒音等）	1件
診療体制（予約方法、待ち時間、逆紹介等）	9件
受付体制（受付処理、会計処理、案内等）	2件
その他（売店、循環バス等）	9件
感謝、激励	5件

【保安、その他】

1. 暴力行為 8件（昨年度 10件） 警察への通報 0件（昨年度 0件）

発生場所：病棟 8件

2. 盗難被害 1件（昨年度 0件） 警察への通報 0件（昨年度 0件）

発生場所：病棟 0件

3. 紛失・破損・盗難被害 報告件数 3件（前年度 0件） 警察届出事案 0件（前年度 0件）

発生場所：病棟 0件

4. 迷惑行為等 報告件数 1件（前年度 0件） 警察届出事案 0件（前年度 0件）

発生場所：病棟 0件、外来 0件

5. 虐待案件 0件

発生場所：外来 0件

<令和6年度活動目標>

2023年度も、これまでの患者誤認“0（ゼロ）”を目指して各部門の協力を依頼し、周知・対策を取ってきたが、未だ直前の患者確認行動の不備で患者誤認事例が発生した。発生場面は様々で、それぞれの場面で基本的な確認行動が欠落していた。基本的確認行動は重要であるが、他方システム的な対策も必要となってくる。今後は、それぞれの場面に適したシステムを模索して、構築し安全対策に努める必要がある。

次に医師のインシデント・アクシデント報告の増加に関しては、目標に達していないが確実に年々増加しており、報告の文化が根付いてきていると考えられる。

最後に、転倒転落では2023年度より、キャンペーンを行いスリッパから踵のある靴に変えていただくよう患者、医療スタッフに投げかけた。これによりスリッパなどを要因とした転倒3b事例は0件となったし、医療スタッフの中でもスリッパから踵のある靴替えてくれる方も現れた。

定着まで、今後も続けていきたいと考えている。

【令和6年度目標】

- ① 医師のインシデント・アクシデント報告数を看護師の報告件数の8%以上に増加させる。
- ② Lv0 および1 の報告を増加させる。
- ③ 患者確認行動のさらなる徹底。
- ④ 転倒転落防止対策では、危険予測を行い被害の大きくならない予防対策を実施し現状を維持する。またスリッパの使用禁止と靴の履き方を再度周知していく。
- ⑤ 医療機器、材料の取扱と操作後の確認行動の徹底。

事務部

<スタッフ> 令和5年4月1日付

事務部長 松田 好正

事務副部長 欠

課長職 7名

総務管理課長 萩原 大介

人事課長 松田 好正 (兼)

財務課長 眞清水裕子

経営企画課長 大川 健

医事課長 渡部 悟

診療支援課長 上成 弥生

病床管理担当課長 日高 利明

社会課長兼事務部付課長 (医事課外来・救急担当) 浦手 悟

係長職 14名

<組織編成>

総務課広報・管理係を廃止し新たに経営企画課に広報・調査係を設置

研修課を廃止し新たに人事課に研修・厚生係を設置

企画情報課を経営企画課に変更

用度課を廃止し新たに財務課に用度係を設置

診療支援課医師事務作業補助係を診療支援係に名称変更

<令和5年度活動状況>

今後の医療を取り巻く環境は非常に厳しいが、地域のニーズを的確に把握しながら、更なる経営改善の推進、経営課題へスピーディーな対応を行うことで、黒字体質の標準化を目指す。また、「病院機能評価基準 (3rdG: Ver.3.0) 達成し、急性期医療で地域医療を支える病院を目指す。」というスローガンを掲げ、職員一丸となり 人道・博愛の赤十字精神に基づき、良質で安全な医療を提供することで、地域の方々に信頼される病院となるよう努めた。

1. 経営健全化に向けた取り組み

1) 本社医療事業推進本部との定例 (月1回)web会議を行い、コロナ対応状況、ガントチャートを用いて経営状況等の情報交換を行った。9月の本部管理病院指定解除以降も継続して経営戦略会議を立ち上げ財務状況、人事採用・高額医療機器等購入についての検討、ガントチャート進捗管理など経営戦略について毎月検討を行った。

2) 診療科との院長ヒアリングを実施し、各診療科の課題等について協議を行った。

(5月～7月、の1回実施)

- 3) 令和6年度の診療報酬改定に向けたWGを立ち上げ新規施設基準の取得に向け協議を進めた。
- 4) 令和5年7月から患者獲得プロジェクトを立ち上げ患者獲得推進に努めた。
- 5) 予算作成にあたり前年度同様、各所属長に支出抑制の意識づけを行い、人件費・委託費の適正化、厳格な予算執行管理費用の予算内執行を行った。また、医業費用、経費の削減を目的に費用削減プロジェクトを立ち上げた。

2. 事務部の取り組み

- 1) 組織編成を行い人材の適正配置、生産性の向上を図った。
- 2) 事務職員の夜勤業務（救急外来受付業務）を令和5年4月から委託を実施した。
- 3) 中高生を対象としたブラックジャックセミナーを4年ぶりに令和5年11月に開催した。

<令和6年度 重点課題>

1. 病院収支黒字化の継続

- 1) 新規患者の獲得
- 2) 地域医療連携の推進
- 3) 救急応需体制の強化
- 4) 広報活動の強化（病院ホームページの充実・広報誌の定期発行・公式LINE、YouTubeを活用した情報配信）
- 5) 新規施設基準の取得
- 6) 予算に基づいた支出管理の徹底、無駄な支出（投資）の抑制および費用削減、価格高騰への対応の推進

2. 病院機能評価基準（3rdG: Ver.3.0）認定取得1）

Ⅶ 委員会活動

院内感染防止対策委員会

目 的

院内感染の防止対策及び予防活動に関する事案を審議する。実働部隊としての ICT・AST から各サーベイランスの報告を受け、院内感染防止対策の監視と啓発活動を行う。

委員会開催

定例会議 議題	毎月第 4 木曜日 16 時 30 分～ MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、抗菌薬使用状況について報告と審議
開催日	議 題
令和 5 年 4 月 28 日	① 新型コロナウイルス感染症 5 類移行後の病床確保について ② 小児科外来での発熱外来運用について
5 月 25 日	① COVID-19 院内発生状況について (7 病棟) ② 播種性帯状疱疹の院内発生について (8 病棟) ③ 結核の院内発生について (9 病棟)
6 月 22 日	① 感染症法に基づく医療措置協定事前調査について
7 月 7 日 (臨時開催)	① 大阪府医療措置協定締結に先立つ事前調査アンケートについて
7 月 26 日	① クーリングタワーのレジオネラ検査について ② 新型コロナウイルス感染症受け入れ病床について ③ 針刺し・切創マニュアルの新規作成と運用について
8 月 24 日	① クーリングタワーのレジオネラ検査結果について ② 小児科外来の改修について ③ 院内感染対策マニュアルの見直しと改訂について
9 月 28 日	① 新型コロナウイルス感染症確保病床について ② XBBL5 対応の新型コロナウイルスワクチンについて ③ 空気清浄機の予算申請について ④ 行政調査に関する担当部署の明確化について
10 月 26 日	① ヘパリンプレフィルド製剤供給量減少に伴う、院内対応について ② 院内感染防止対策研修会について ③ インフルエンザ流行期の院内アナウンスについて ④ パームスタンプを用いた手術時手洗いの評価について
11 月 30 日	① 中国の肺炎について ② 病院機能評価について ③ 院内感染防止対策研修会について ④ 新型コロナウイルス感染症に関連した当院の方針について
12 月 28 日	① 新型コロナウイルス感染抗原定性キットの職員配布について ② インフルエンザの発生状況と予防投与について ③ 年末年始のアウトブレイク発生時の連絡体制について ④ 小児科外来改修工事完了について

令和6年 1月25日	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染性廃棄物管理規定マニュアルの改訂について ② 感染症法に基づく医療措置協定締結について ③ ヘパリンプレフィルド製剤の供給状況について ④ 9病棟改修工事について
2月22日	<ul style="list-style-type: none"> ① CD院内発生状況と対策について（9病棟） ② 感染症法に基づく医療措置協定締結について ③ 院内感染防止対策研修会について ④ COVID-19院内発生状況について（6病棟、8病棟） ⑤ 吸引器のディスポ導入部署の拡大について
3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ① アンチバイオグラムのポケット版作成と配布について ② JANIS SSIサーベイランスについて ③ 院内感染防止対策研修会について

ICT・AST委員会

目 的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など院内感染防止対策の啓蒙活動。

毎週木曜日、約 60 分間の ICT ラウンド（環境）を実施。

今年度目標 ① WHO 手指衛生のガイドライン 5 つのタイミングが周知・遵守できる
②経路別感染予防策が遵守できる

委員会開催

定例会議 毎月第 1 木曜日 16 時 00 分～（AST 委員会と合同開催）

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

開催日	議 題
令和 5 年	
4 月 6 日	・ラウンド予定表について
5 月 11 日	・播種性帯状疱疹について ・防護用具（マスク）について ・院内ルールについて
6 月 1 日	・感染症の発生状況について
7 月 6 日	・コロナについて ・コロナワクチンについて ・院内感染対策の基本指針の更新について
8 月 3 日	・定量キットについて ・保健所監査について
9 月 7 日	・院内感染防止対策研修会について ・保健所監査について
10 月 5 日	・院内感染防止対策研修会について ・患者の感染症情報についての情報共有
11 月 2 日	・院内感染防止対策研修会について ・COVID-19 のアイコン表示について
12 月 7 日	・COVID-19 に関連した職員の行動指針について（ ・マニュアルの冊子について
令和 6 年	
1 月 11 日	・インフルエンザの発生状況について

医療安全管理委員会

目 的

安全かつ適切な医療ができる体制を確立すること。

委員会開催

第1回：令和5年4月21日（金）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（3月）
- ②トピックス事例

2. 検討事項

- (1)2023年度版 安全ラウンド予定表について
- (2)2023年度 セーフティマネージャーについて
- (3)報告管理体制加算にかかる報告

第2回：令和5年5月19日（金）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（4月）
- ②トピックス事例

2. 検討事項

- (1)2022年度インシデントアクシデント集計報告と2023年度目標
- (2)2022年度医療安全研修会報告と2023年度スケジュール
- (3)医療安全管理マニュアル「転倒・転落防止対策」改訂案について
- (4)医療安全管理マニュアル「Ⅷ. 説明と同意に関する指針」における各診療科で準備・作成されている固有の説明書や同意書の届出もしくは承認について
- (5)報告管理体制加算にかかる報告

第3回：令和5年6月16日（金）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（5月）
- ②トピックス事例

2. 検討事項

- (1)医療安全管理マニュアル「Ⅷ. 説明と同意に関する指針」における各診療科で準備・作成されている固有の説明書や同意書の届出もしくは承認について（前回からの持ち越し案件）
- (2)医療安全管理マニュアル「Ⅳ. 医療事故・紛争対応マニュアル」のCPA搬入時の警察への異状死連絡について
- (3)「踵のある靴をキチンと履こうキャンペーン」の実施について
- (4)医療安全管理マニュアル「Ⅶ-3. 情報伝達エラー防止対策」改定案について
- (5)医療安全管理マニュアル「Ⅹ-1. 院内暴力行為の発生時の対応」改定案について
- (6)報告管理体制加算にかかる報告

第4回：令和5年7月21日（金）

議題：1. 報告事項

①インシデントレポート（6月）

②トピックス事例

2. 検討事項

(1)医療安全管理マニュアル「V-3. 抗菌薬投与に関連するアナフィラキシー対策」の改定について

(2)医療安全管理マニュアル「診療放射線安全管理指針」の追加について

(3)説明同意文章申請（新規）呼吸器科「気管支サーモプラスチック（BT）治療説明書」の承認について

(4)報告管理体制加算にかかる報告

第5回：令和5年8月18日（金）

議題：1. 報告事項

①インシデントレポート（7月）

②トピックス事例

2. 検討事項

(1)同席基準について（Ⅷ. 説明と同意に関するマニュアルの改定）

(2)K製剤の希釈の院内ルール

(3)口頭指示メモの改定について

(4)説明同意文章申請（新規）呼吸器科「在宅持続気道陽圧（CPAP）療法の導入に関する説明・同意書」の承認について

(5)報告管理体制加算にかかる報告

第6回：令和5年9月15日（金）

議題：1. 報告事項

①インシデントレポート（8月）

②トピックス事例

2. 検討事項

(1)V-3. 抗菌薬投与に関するアナフィラキシー対策の改訂案について（マニュアルの改訂）

(2)ⅩⅢ. 虐待被害者発見時の対応の改訂案について（マニュアルの改訂）

(3)報告管理体制加算にかかる報告

第7回：令和5年10月20日（金）

議題：1. 報告事項

①インシデントレポート（9月）

②トピックス事例

2. 検討事項

(1)「Ⅶ-7. 無断離院防止対策と対応（改定案）」について

(2)「V-3. 抗菌薬投与に関連するアナフィラキシー対策」の改定案について

(3)放射線科からの同意書の改定について

(4)説明同意文章申請（新規）呼吸器科の承認について

- (ア)局所麻酔下胸腔鏡検査 説明書および同意書
- (イ)「超音波気管支鏡下経気管支リンパ節穿刺法」
- (5)報告管理体制加算にかかる報告

第8回：令和5年11月17日（金）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（10月）
- ②トピックス事例
- 2. 検討事項
 - (1)同意書に関連する説明不足によるトラブル報告
 - (2)説明同意文章申請（新規）呼吸器科の承認について
 - (ア)CT ガイド下経皮肺生検説明書および同意書
 - (イ)気管支鏡検査についての説明および同意書
 - (ウ)胸腔穿刺・ドレナージの説明と同意書
 - (3)報告管理体制加算にかかる報告

第9回：令和5年12月15日（金）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（11月）
- ②トピックス事例
- 2. 検討事項
 - (1)応召義務にかかる除外規定について
 - (2)医療安全管理マニュアル「人工呼吸器装着中の事故防止」の改定について
 - (3)医療安全管理マニュアル「医療機器安全管理責任者」改定について
 - (4)医療安全 指針「医療安全管理に関する基本指針」改定について
 - (5)説明同意文章申請（新規）の承認について
 - (ア)乳腺外科「乳がん手術に関する説明および同意書」 →承認
 - (イ)呼吸器内科 5件 →承認
 - (ウ)形成外科 36件 →承認
 - (エ)麻酔科 1件 →承認
 - (オ)輸血に関する説明書 →承認
 - (カ)CV カテーテル挿入 →承認
 - (6)報告管理体制加算にかかる報告

第10回：令和6年1月19日（金）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（12月）
- ②トピックス事例
- 2. 検討事項
 - (1)医療安全管理マニュアルの改定
 - (ア)X -3 新生児連れ去り防止と対応
 - (イ)XI 閉じこめ事故発生時の対応マニュアル
 - (ウ)XII -2 輸血拒否患者への対応に関する基本方針

- (エ) V -5 禁忌薬剤の誤投与防止と VII -4 アレルギー情報の共有
- (オ) VII -12 針刺し防止対策と曝露発生時の対応
- (2)説明同意文章申請（新規）の承認について
 - (ア)消化器内科（31 件） →承認
 - (イ)外科（6 件） →承認
 - (ウ)化学療法（2 件） →承認
 - (エ)眼科（緑内障、1 件） →承認
- (3)報告管理体制加算にかかる報告

第 11 回：令和 6 年 2 月 16 日（金）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（1 月）
- ②トピックス事例
- 2. 検討事項
 - (1)医療安全管理「静脈血栓塞栓症（VTE）の予防」マニュアルの改定
 - (2)説明同意文章申請（新規）の承認について
 - ・消化器外科（2 件） →承認
 - (3)報告管理体制加算にかかる報告

第 12 回：令和 6 年 3 月 15 日（金）

議 題：1. 報告事項

- ①インシデントレポート（2 月）
- ②トピックス事例
- 2. 検討事項
 - (1)医師のためのルールブック（改定案）について
 - (2)医療安全管理マニュアルの改定
 - (ア)「安全な CVC 挿入に係る取り決め」と認定制度について
 - (イ)持参薬の取り扱いの改定について
 - (ウ) X III 虐待等被害者発見時の対応 改定案について
 - (3)説明同意文章申請（新規）の承認について
 - (ア)血管造影検査・血管塞栓術の説明書および同意書 →承認
 - (イ)腹部血管造影検査 →承認
 - (ウ)腹水穿刺 →承認
 - (エ)クライオバイオプシーに関する説明書・同意書 →承認
 - (4)報告管理体制加算にかかる報告

医療ガス安全管理委員会

目 的

高槻赤十字病院において使用する医療ガス（診察の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素ガス等をいう。）設備の安全を図り、患者の安全を目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 6 年 3 月 18 日（月）

- 議 題：1. 令和 5 年度 医療ガス保守点検実績について
2. 医療ガス管理マニュアルについて
3. 委員会規程の改訂について
4. その他（酸素供給業者の変更について）

放射線安全委員会

目 的

放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保する目的として、当委員会で放射線被ばく等に関する必要な事項を企画、審議する。

委員会開催

開催日：令和5年12月20日

議 題：

- ①放射線治療における放射線業務従事者の教育訓練について
- ②漏洩線量測定の結果
- ③第1種放射線取扱主任者の講習について
- ④その他

開催日：令和6年3月27日

議 題：

- ①放射線障害防止法に基づく定期検査及び定期確認について
- ②漏洩線量結果について
- ③その他

医療放射線管理委員会

目 的

医療法施行規則 第一条の十一に則り、放射線に関わる検査の適性な運営を推進する

委員会開催

開催日：令和5年11月22日（水）16：00

1. 医療放射線管理委員会振り返り
2. 線量管理部会、MRI 安全管理部会からの報告
3. 本年度研修会の実施について

研修会

開催日：① 上映会

日時：令和5年12月4～6日 9：30～18：00

場所：232 会議室

② オンデマンド配信

期間：令和5年12月4～10日

医療安全研修枠での開催

正当性：後藤公男 約7分

最適化：関本淑徳 約11分

MRI 安全管理：木戸口堯史 約13分

（画像報告書管理 松原健夫 約10分）

※医師・看護師 全員対象

がん診療連携拠点病院としての、患者に適切ながん診療を提供するためにがん診療体制を整備することを目的とする。

目 的

大阪府指定がん診療拠点病院として、患者に適切ながん診療を提供するためにがん診療体制を整備することを目的とする。

委員会開催

委 員 会：必要に応じて開催する

がん診療連携拠点病院開催 47回（2023年4月～2024年3月）

検討症例：6～7名/回 程度の新規消化器がん治療開始患者、術後患者

内 容：新規治療開始患者の治療方針の決定及び経過報告、術後患者の経過報告及び今後の治療方針の決定を行う

血液浄化療法委員会

目 的

血液浄化療法室および病棟等で行われる血液浄化療法の運営と管理に必要な事項を審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 6 年 3 月 28 日

議 題

報告事項

「血液浄化療法における収益について」

審議事項

「血液浄化療法室の今後の運用について」

「新型コロナウイルスに感染した維持透析患者の受け入れについて」

褥瘡委員会

目 的

高槻赤十字病院において褥瘡対策を円滑に推進するため、院内褥瘡対策について討議検討し、その効果的な推進を図ることを目的とする。

委員会

褥瘡対策の実際としては毎週、褥瘡対策チームが回診を行い、ベッドサイドカンファレンスでケアの評価、及び処置を実施・指導している。褥瘡委員会の下部組織として、褥瘡リンクナース会を設置し、各病棟にリンクナースを配置して褥瘡対策に取り組んでいる。

院内発生褥瘡について DESIGN-R ○ R2020 で深さ d2 以上の褥瘡発生件数は 45 件で、推定発生率は 0.9%、であった。深さ d2 以上の持ち込み褥瘡は 65 件あり、部位は仙骨部、尾骨部、大転子部と踵部が多かった。

褥瘡ハイリスク患者ケア加算は 902 件算定した。

NST 委員会

目 的

医療の質と向上のために、全ての治療の基盤である栄養管理を促進する。

委員会の開催

令和5年11月13日（月）

議事

- ・NST 実績報告（2022年）
- ・NST 委員会規定の改訂
- ・入院時嚥下スクリーニングフローチャートの新設

勉強会開催

なし

令和5年度委員会活動

<給食委員会>

目 的

患者の栄養管理ならびに給食サービスの円滑な運営とその向上を図る

委員会開催

令和6年4月4日（令和5年度分）

1. 令和5年度嗜好調査報告
2. 令和5年度給食数実績

輸血療法委員会

目 的

輸血療法の適応、血液製剤の選択、輸血用血液の検査項目・検査術式の選択と精度管理、輸血実施時の手続き、血液の使用状況調査、症例検討を含む適正使用推進の方法、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握方法と対策、輸血関連情報の伝達方法、院内採血の基準や自己血輸血の実施方法についての検討するとともに、改善状況について定期的に検証する。

委員会開催

第1回

開催日：令和5年4月5日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（3月分）
② 輸血副作用報告（2月分）
③ 前年度分の血液製剤破棄状況報告
④ 委員変更報告

第2回

開催日：令和5年5月10日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（4月分）
② 輸血副作用報告（3月分）

第3回

開催日：令和5年6月7日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（5月分）
② 輸血副作用報告（4月分）
③ 稀な血液型 Bombay 型患者に対する輸血実施報告

第4回

開催日：令和5年7月5日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（6月分）
② 輸血副作用報告（5月分）
③ 輸血関連検査の査定状況報告
④ 血液製剤ラベルの運用について
⑤ 輸血機能評価認定制度 (I&A) 受審について

第5回

開催日：令和5年8月2日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（7月分）
② 輸血副作用報告（6月分）
③ 輸血関連検査の査定状況報告

- ④ 輸血管理料ⅠからⅡになった場合の年間減益料について
- ⑤ カリウム除去フィルターの査定状況について
- ⑥ 不規則抗体スクリーニング検査の査定状況について

第6回

開催日：令和5年9月6日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（8月分）
- ② 輸血副作用報告（7月分）
 - ③ 輸血機能評価認定制度（I&A）視察について
 - ④ 血液製剤ラベルの運用についての経過報告
 - ⑤ 院内輸血療法マニュアルの改訂について
 - ⑥ 輸血指示コメントの活用について

第7回

開催日：令和5年10月4日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（9月分）
- ② 輸血副作用報告（8月分）
 - ③ I&A 視察について
 - ④ 輸血同意書の改訂について
 - ⑤ 手術室における血液製剤保冷庫の運用について
 - ⑥ FFP 解凍機について

第8回

開催日：令和5年11月1日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（10月分）
- ② 輸血副作用報告（9月分）
 - ③ I&A 視察について
 - ④ 異型輸血のシミュレーションについて
 - ⑤ 血液製剤ラベルの運用について
 - ⑥ 手術室における血液製剤保冷庫の運用について
 - ⑦ 輸血同意・説明書の運用について
 - ⑧ 看護師によるルート確保研修の進捗状況について

第9回

開催日：令和5年12月6日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（11月分）
- ② 輸血副作用報告（10月分・11月分）
 - ③ I&A 視察報告

- ④ インシデント発生事例報告
- ⑤ 輸血療法委員会メンバーの交代について
- ⑥ 血液製剤の査定状況報告

第10回

開催日：令和6年1月10日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（12月分）
② 輸血副作用報告（12月分）
③ 手術室の血液製剤保冷庫運用について

第11回

開催日：令和6年2月7日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（1月分）
② 輸血副作用報告（1月分）
③ 輸血セットの単一使用について

第12回

開催日：令和6年3月6日（水）

- 議 題：① 血液製剤の使用状況報告（2月分）
② 輸血副作用報告（2月分）
③ 手術室の血液製剤保冷庫運用について
④ I&A 視察中間報告 及び 再視察について
⑤ 輸血療法マニュアルの改訂について
⑥ 院内ラウンドについて

■令和5年 医療安全研修会

開催日：2023年10月18日（水） 17：30～18：30

テーマ：安全な輸血の取扱いについて

講演者：大阪府赤十字血液センター 石田 拓巳 先生

手術室運営委員会

目 的

高槻赤十字病院における手術室運営に関する諸問題の協議・調整を行い、安全かつ適切な手術が行える体制を確立する。

4月28日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和5年3月手術件数 2. 在庫薬品について(薬剤部) 3. COVID-19感染既往患者の手術について
5月26日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和5年4月手術件数 2. COVID-19感染後の周手術期リスクマネジメント 3. 在庫薬品について 4. 診療担当看護師について
6月23日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和5年5月手術件数 2. 術後疼痛管理加算について 3. ソノサージ購入について 4. 安全に手術を受けるための身の回りの準備
7月28日(金)	休会
8月4日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和5年6月手術件数 2. 術後疼痛管理加算について 3. エンシール・リガシユアについて 4. 周手術期における徐脈血栓塞栓症予防マニュアルの改訂
9月22日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和5年7・8月手術件数 2. 術後疼痛管理加算について 3. 購買委員会の来年度予算申請について 手術室内エアコンと手術台 4. 病院機能評価 第3領域 単回使用医療機器に関する現状について 5. 滅菌の質保証のため生物学的インジケーターの変更について
10月27日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和5年9月手術件数 2. 単回使用医療機器に関する現状について
11月24日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和5年10月手術件数 2. 単回使用医療機器に関する現状について 3. 空調システム故障(手術室ホール周辺)
12月22日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和5年11月手術件数 2. 手術室における全身麻酔および鎮静後の覚醒・帰室の基準 3. 禁煙指導について 4. 閉庁日の緊急手術時の麻薬処方について 5. オリンパス内視鏡タワーについて

1月26日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和5年12月手術件数 2. 手術室 USP 更新工事 3. イントラ手術室・中央材料室 マニュアル更新・追加 4. 2月8日(木) 模擬機能評価 (部署訪問: 手術室・中央材料室) 5. 2月18日(日) 中材オートクレーブ点検 (9時~17時)
2月16日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和6年1月手術件数 2. 周手術期における徐脈血栓塞栓症予防マニュアルの改訂 3. ナイフテープサンプル使用 4. OP室(部屋)空調工事
3月22日(金)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計報告 令和6年2月手術件数 2. 単回使用の医療機器について 3. ナイフテープサンプル使用 4. 手術室工事について 6室の手術ベッドの床のたわみ 3月28日~31日 手術室ホールの空調 5月連休予定

SPD・診療材料購入審査委員会

目 的

新規診療材料の採用の可否・SPD活動（不在在庫削減・診療材料の購入コスト低減・業務の効率化）の推進による病院経営の合理化を目的とする。

委員会開催

第1回

開催日：令和5年4月4日（火）16時30分～17時00分

- 議 題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから
④ その他

第2回

開催日：令和5年5月9日（火）16時30分～17時00分

- 議 題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ 文書審議について
④ エム・シー・ヘルスケアから

第3回

開催日：令和5年6月6日（火）16時30分～17時00分

- 議 題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから

第4回

開催日：令和5年7月4日（火）16時30分～17時00分

- 議 題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから

第5回

開催日：令和5年8月1日（火）16時30分～17時00分

- 議 題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから

第6回

開催日：令和5年9月5日（火）16時30分～16時40分

- 議 題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから

第7回

開催日：令和5年10月3日（火）16時30分～17時00分

- 議題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ 財務課からの提案
④ エム・シー・ヘルスケアから

第8回

開催日：令和5年11月7日（火）16時30分～17時00分

- 議題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ 財務課から
・オートクレーブ滅菌判定用試薬（BD）について
・寄贈品（手袋・サージマスク）の配布について
④ エム・シー・ヘルスケアから

第9回

開催日：令和5年12月5日（火）16時30分～17時00分

- 議題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから

第10回

開催日：令和6年1月9日（火）16時30分～17時00分

- 議題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから

第11回

開催日：令和6年2月6日（火）16時30分～17時00分

- 議題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから

第12回

開催日：令和6年3月5日（火）16時30分～17時00分

- 議題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから

購買委員会

目 的

各部署から提出された医療用機械備品・その他器械備品等（原則、購入予定価格が160万円以上の物品）の整備依頼調書に基づき、各部署のヒアリングを行い、購入の是非を検討する。

委員会開催

第1回

開催日：日 時 令和5年10月18日（木）15：00～18：00

議 題：令和6年度購入備品の検討

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1	皮膚灌流圧測定装置 PAD4000	皮膚科	保留
2	①放射線治療装置更新 ②ソフト・ハードのアップグレード	放射線科	四役会議で議論
3	メディカルディスクシステム	放射線科	保留
4	被ばく管理システム	放射線科	保留
5	システム8 胸骨鋸ハンドピース 他一式	呼吸器外科	保留
6	ショートタイプダブルバルーン 内視鏡 EI-580BT	消化器内科	保留
7	血液ガス分析装置ラビットポイント 500e	検査部	保留
8	呼吸機能測定装置	検査部	保留
9	睡眠評価装置ソムノ HD Eco-plus	検査部	承認
10	超音波診断装置 LOGIQ E10s	検査部	承認
11	2ランクキャッチベット (小児用ベッド)	看護部	保留
12	点滴ミキシング台	看護部	承認
13	勤怠管理システム	人事課	承認
14	婦人科診察台	産婦人科	承認
15	フレキシブルインチューベーションビ デオエンドスコープ 11301ABX	麻酔科	保留
16	電子カルテノート PC のリプレース (200台)	経営企画課	承認(50台)
17	コードレスドライバー	整形外科	承認
18	T7 パーソナルプロテクションシステム (人口関節手術用清潔ヘルメット)	整形外科	保留

19	脊椎手術用四点支持マット (腹臥位用手術架台：イソ LT-2000)	整形外科	承認
20	四肢手術用ターケット	整形外科	承認
21	Qルビーレーザー IB103	形成外科	保留
22	Humeca コードレスデルマトーム	形成外科	保留
23	手術台 MOT-VS600DJ	手術室	保留
24	整形外科手術台 MOS-1302B	手術室	承認
26	再来受付機 (2台)	医事課	承認
27	調剤室内業務用エアコンの整備	薬剤部	保留
28	医薬品在庫管理システムの更新 (ENIFwin Nex-Sus)	薬剤部	承認

ME 関連

1	個人用透析装置 DBB-200Si	臨床工学技術課	承認
2	個人用 RO 装置 (WRO)	臨床工学技術課	保留
3	電気メス VIO3	臨床工学技術課	保留
4	電気メステスタ (454A の後継種)	臨床工学技術課	保留
5	セントラルモニタ・ベッドサイド モニタ・送信機	臨床工学技術課	保留
6	セントラルモニタ	臨床工学技術課	承認
7	ヘモクロンシグニチャーエリート	臨床工学技術課	保留
8	HCU セントラルモニタ	臨床工学技術課	保留
9	ベッドサイドモニタ (手術室)	臨床工学技術課	承認

治験関連

1	InBody S10	血液内科	保留
---	------------	------	----

施設関連

1	3階講義室マイク設備一式	総務管理課	承認
2	手術室系統 GHP 更新工事(4系統)	総務管理課	承認
3	印刷機	総務管理課	保留
4	RI 系統空調機更新工事	総務管理課	承認
5	手術棟機械室空調整備	総務管理課	承認

6	24H 系統ファンコイルポンプ更新 工事	総務管理課	承認
---	-------------------------	-------	----

支部 令和6年度救急医療体制の整備にかかる補助金 申請予定

1	vivid iq	循環器科 検査部	承認
---	----------	-------------	----

《臨時開催》

内視鏡室 VPP 契約の更新

開催日：日 時 令和5年8月17日（木） 16：30～17：00

議 題：令和5年11月契約終了に伴う VPP 契約の更新

連番	議題内容	申請部署	本委員会での結果
1	内視鏡 VPP 契約の更新	消化器科 呼吸器科	承認

目 的

標準的な診断及び治療方法に基づいた適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保すること、及び、診療情報及び診療記録に関する事項を検討・討議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 4 年 4 月 5 日

- 議 題：① ポリペクスのコーディングについて
② 敗血症、DIC の病名について

第 2 回

開催日：令和 4 年 7 月 8 日

- 議 題：① ペースメーカー留置術施行時のコーディングについて
② 機能評価係数Ⅱについて

第 3 回

開催日：令和 4 年 11 月 2 日

- 議 題：① 入院診療計画書について
② 機能評価係数Ⅱについて

第 4 回

開催日：令和 5 年 2 月 7 日

- 議 題：① 複数病態を有する腹水穿刺患者コーディングについて
② 内視鏡レポートの病名について

クリニカルパス委員会

目 的

クリニカルパスを活用し、医療の質の向上、患者満足度の向上、EBMに基づいた標準的医療の実施、資源の効果的使用を実現することを目的として、クリニカルパス委員会を設置する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 5 年 6 月 13 日

- 議 題：① 2022 年度パス適用率について
② 病院機能評価受審に向けたバリエーション分析について
③ その他

第 2 回

開催日：令和 5 年 10 月 31 日

- 議 題：① 2023 年度上半期のパス適用率について
② 病院機能評価受審に向けたバリエーション分析について
③ その他

第 3 回

開催日：令和 6 年 1 月 23 日

- 議 題：① 2023 年度パス適用率について
② 新規申請パス 急性心筋梗塞について
③ 病院機能評価受審に向けたバリエーション分析の結果について
④ その他

令和 5 年度クリニカルパス新規承認パスは 1 件であった。

No.	委員会開催（書面審議）月	令和 5 度新規申請パス
1	令和 6 年 1 月	急性心筋梗塞パス

治験審査委員会

目 的

新規治験の実施および進行中の治験の継続について、科学面・安全面・倫理面から適正に審議することが目的。

GCP（医薬品の臨床試験の実施に関する省令）に準拠した委員会であり、構成人員・審議書類・記録方法等が詳細に規定されている。

併せて、GPSP（医薬品の製造販売後の調査および試験の実施の基準に関する省令）に準拠した製造販売後調査・副作用報告に関する審議・報告等も必要に応じ実施している。

委員会開催

第1回

開催日：令和5年4月21日（現地開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
3. 安全性情報（治験の継続を審議）
4. 製造販売後調査の実施の可否を審議

第2回

開催日：令和5年5月19日（現地開催）

- 議 題：1. 委員会審議（治験の継続を審議）
2. 安全性情報（治験の継続を審議）

第3回

開催日：令和5年6月16日（現地開催）

- 議 題：第1回と同様

第4回

開催日：令和5年7月21日（現地開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
3. 安全性情報（治験の継続を審議）
4. その他（治験業務手順書の改訂）

第5回

開催日：令和5年8月18日（現地開催）

- 議 題：第1回と同様

第6回

開催日：令和5年9月15日（ハイブリッド開催）

- 議 題：1. 新規治験の実施の可否を審議
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
3. 安全性情報（治験の継続を審議）

4. 製造販売後調査の実施の可否を審議

【新規承認試験】

- ◇ JNJ-70033093 第Ⅲ相試験（循環器内科／心房細動）
- ◇ BIIB059 第Ⅱ / Ⅲ相試験（皮膚科／皮膚エリテマトーデス）

第7回

開催日：令和5年10月20日（現地開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
3. 安全性情報（治験の継続を審議）

第8回

開催日：令和5年11月17日（現地開催）

議 題：第7回と同様

第9回

開催日：令和5年12月15日（現地開催）

議 題：第7回と同様

第10回

開催日：令和6年1月19日（現地開催）

議 題：第1回と同様

第11回

開催日：令和6年2月16日（現地開催）

議 題：第7回と同様

第12回

開催日：令和6年3月15日（現地開催）

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
3. 安全性情報（治験の継続を審議）
4. その他（製造販売後調査・副作用報告 実施状況についての報告）

治験・製造販売後調査等の終了報告

【治験】

- EX9536-4388 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科
- LY3298176(GPHZ) 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科
- NN9932-4738 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科
- NN1535-4593 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科
- NN9535-4321 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科
- NN1535-4592 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・代謝内科

【製造販売後調査】

オルミエント錠 4mg、2mg 呼吸器内科

レットヴィモカプセル 40mg、80mg 呼吸器内科

エドルミズ錠 呼吸器内科

ビーリンサイト点滴静注用 35 μ g 血液内科

ジクトルテープ 緩和ケア科

テリルジー 100 エリプタ 14 吸引用 /30 吸入用、テリルジー 200 エリプタ 14 吸入用 /30 吸入用

呼吸器内科

ビーリンサイト点滴静注用 35 μ g 血液内科

ウプトラビ錠 0.2mg、0.4mg 循環器内科

テプミトコ錠 250mg 呼吸器外科

ベネクレクスタ錠 血液内科

令和5年度の振り返り

4月より新たな委員長を迎え新体制での委員会の運営となったが、委員の方々や治験事務局員、治験コーディネーター、メディカルスタッフの協力を得て、大過なく治験を進めることができた。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後も安全に留意しつつ、安定した委員会を開催できたと感じている。

また糖尿病・内分泌・代謝内科の治験の多くが終了し、新規治験の打診も減少傾向ではあるものの、他科での新規治験を受諾できた。

引き続きどのような状況下でも治験審査委員会を定期的開催し、被験者が安全に治験に参加できるよう適切な審議を継続していきたい。

以上
幹事 仲 忠士

目 的

臨床検査の適性なる運営を推進すること

第 253 回

開催日 2023 年 4 月 11 日火曜日 16 時 30 分から 16 時 45 分

1. 3 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査について
3. AFP-L3 の院内測定について
4. PIVKA- II 院内化について
5. 検査機器更新の進捗

第 254 回

開催日 2023 年 5 月 16 日 16 時 30 分から 17 時 45 分

1. 4 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査について
3. AFP-L3 の院内測定について

第 255 回

開催日 2023 年 6 月 13 日 16 時 30 分から 17 時 45 分

1. 5 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査について
3. AFP-L3 分画 院内測定実施日について
4. 日臨技臨床検査精度管理調査について
5. 病院機能評価の臨床検査機能評価について

第 256 回

開催日 2023 年 7 月 11 日 16 時 30 分から 16 時 45 分

1. 6 月分 院内測定項目 実績件数
2. CoV-2 抗原検査の試薬について
3. 検査試薬費増加の報告、試薬費削減の検討

第 257 回

開催日 2023 年 8 月 8 日 16 時 30 分から 16 時 50 分

1. 7 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注項目検査について
3. 保険未収載検査申請 FISH BCL2、MYC
4. 検査試薬費用について

5. 保健所立入り検査について

第 258 回

開催日 2023 年 10 月 31 日 16 時 30 分から 16 時 55 分

1. 8 月、9 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注項目検査について
3. 2023 年度 日本臨床検査技師会精度管理調査結果
4. 免疫測定装置のメンテナンスについて
5. 検査試薬費用について

第 259 回

開催日 2023 年 11 月 14 日 16 時 30 分から 16 時 50 分

1. 10 月分 院内測定項目 実績件数
2. BNP と NTproBNP のオーダーについて
3. 計画停電時検査部対応について
4. 検査試薬費用について

第 260 回

開催日 2023 年 12 月 12 日 16 時 30 分から 17 時

1. 11 月分 院内測定項目 実績件数
2. 保険未収再検査、個別申請免除上申書
3. BNP と NT-proBNP の検査費用について
4. 異常値報告手順確認
5. 検査試薬費用について

第 261 回

開催日 2024 年 1 月 16 日 16 時 30 分から 17 時

1. 12 月分 院内測定項目 実績件数
2. 査定項目について
3. BNP と NTproBNP の件数について
4. HBV 抗体検査について
5. 異常値報告手順確認

第 262 回

開催日 2024 年 2 月 14 日 16 時 30 分から 16 時 50 分

1. 1 月分 院内測定項目 実績件数
2. トロポニン T 定量院内検査について
3. 生化学機器用洗浄液の変更願い 現行の酸性洗剤アシッド Z からアシッド ST に変更

第 263 回

開催日 2024 年 3 月 12 日 16 時 30 分から 16 時 50 分

1. 2 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査について
3. 第 57 回日本医師会精度管理調査の報告
4. トロポニン T 定量院内化について
5. 病院評価機構対応

地域医療支援病院運営委員会

目 的

委員会は、地域における医療の確保・向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

委員会開催

第1回	令和5年6月21日	集合形式
第2回	令和5年9月20日	Web形式
第3回	令和5年11月15日	Web形式
第4回	令和6年2月21日	Web形式

内 容

- ・ 紹介患者実績、紹介率・逆紹介率、救急搬入件数、セミナーなど、地域医療支援病院承認要件の報告。その後、当院の現状・活動について、今後当院との連携強化に向けて各委員（院外委員）と意見交換を実施。

患者支援センター運営委員会

目 的

本院を利用する患者が円滑に診療を受けられるように支援するとともに、地域包括ケアシステム推進に向け病院と地域を繋ぐ役割を果たすため設置された「患者支援センター」の運営に関する問題点や課題を改善するとともに、より一層の地域との機能連携を推進することを目的とする。

委員会開催

- 第1回 令和5年4月26日
- 第2回 令和5年5月24日
- 第3回 令和5年6月28日
- 第4回 令和5年7月26日
- 第5回 令和5年8月30日
- 第6回 令和5年10月25日
- 第7回 令和5年12月27日
- 第8回 令和6年2月28日

内 容

月ごとの紹介率・逆紹介率、紹介不応需状況、営業活動、患者支援センターに関する患者相談ミーティングでの報告事項。高槻赤十字病院地域連携の会開催について など。

がん診療関連機能充実委員会

目 的

「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に則して、当院におけるがん診療関連機能の充実を図ることについて討議する

活動実績

令和5年度は計10回開催した。委員会開催日と議題は以下のとおりである。

第1回

開催日：令和5年4月25日（火）

- 議 題：1. 各部会の担当について
2. 緩和ケア研修会について
3. 今後の予定
4. その他
- ① 院内がん登録2次利用に関するオプトアウトについて
 - ② 患者図書コーナーの再開について
 - ③ PDCA サイクルについて

第2回

開催日：令和5年5月30日（火）

- 議 題：1. 各部会の報告
2. 緩和ケア研修会について
3. PDCA サイクルについて
4. 今後の予定
5. その他
- ① 院内がん登録2次利用に関するオプトアウトについて
 - ② 当院ホームページに掲載されている緩和ケア研修会受講医師リストの更新について

第3回

開催日：令和5年6月27日（火）

- 議 題：1. 各部会の報告
2. 緩和ケア研修会について
3. PDCA サイクルについて
4. 今後の予定
5. その他
- ① 患者図書コーナーについて
 - ② がん患者サロンについて

第4回

開催日：令和5年7月25日（火）

- 議 題：1. 各部会の報告

2. 緩和ケア研修会について
3. PDCA サイクルについて
4. 今後の予定
5. その他
 - ① 患者図書コーナーについて
 - ② がん患者サロンについて

第5回

開催日：令和5年9月26日（火）

- 議 題：1. 各部会の報告
2. 緩和ケア研修会について
 3. がん診療拠点病院指定要件について
 4. 今後の予定
 5. その他
 - ① 患者図書コーナーについて
 - ② がん診療関連機能充実委員会規程について

第6回

開催日：令和5年10月31日（火）

- 議 題：1. 各部会の報告
2. 緩和ケア研修会について
 3. ACP 相談員研修会について
 4. 今後の予定
 5. その他
 - ① 患者図書コーナーについて
 - ② 現況報告について

第7回

開催日：令和5年11月28日（火）

- 議 題：1. 各部会の報告
2. 現況報告について
 3. 今後の予定
 4. その他
 - ① 患者図書コーナーについて
 - ② カンファレンスの診療録への記載について
 - ③ アドバンス・ケア・プランニングに係るものについて

第8回

開催日：令和6年1月30日（火）

- 議 題：1. 各部会の報告
2. アドバンス・ケア・プランニング研修会について
 3. 今後の予定
 4. その他

- ① がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会修了者のためのフォローアップ研修会について

第9回

開催日：令和6年2月27日（火）

- 議 題：1. 各部会の報告
2. 市民公開セミナーについて
3. 今後の予定
4. その他

第10回

開催日：令和6年3月26日（火）

- 議 題：1. 各部会の報告
2. 市民公開セミナーについて
3. 今後の予定
4. その他
- ① がん教育について
 - ② 現況報告に追加データ提出について
 - ③ 緩和ケアマニュアルについて

研修運営委員会

委員会開催

日 時：令和5年4月12日

- 議 題：1. 新研修医の紹介
2. 研修進捗状況
3. 一般外来の研修について
4. その他
- ・令和6年度採用研修医について
 - ・CVの研修について

日 時：令和5年5月10日

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. その他
- ・研修のお知らせ
 - ・一般外来のスケジュールについて
 - ・来年受審予定の機能評価について

日 時：令和5年6月14日

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 1年目の選択科目について
3. 採用試験（令和6年度4月研修開始）について
4. その他
- ・ポジティブレポートの提出について
 - ・ICLS

日 時：令和5年7月12日

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 採用試験応募状況について
3. その他
- ・年休の取得について
 - ・研修医の当直について
 - ・研修医の評価について
 - ・ポジティブレポートについて

日 時：令和5年8月9日

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 採用試験応募状況について
3. その他
- ・CVC挿入に係る研修会

日 時：令和5年9月6日

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 採用試験応募状況について
3. その他
・労働安全衛生委員会での時間外勤務

日 時：令和5年10月11日

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 採用試験応募状況について
3. 研修管理委員会（書面開催）
4. 令和6年度 ローテーションについて
5. その他
・共通講習 安全な輸血製剤の取り扱いと輸血療法について
・インシデントレポートについて
・令和5年度赤十字病院臨床研修医研修会（本社にて）
・時間外申請に関して

日 時：令和5年11月8日（水）

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 採用試験応募状況について
3. その他
・チーム医療へ参加
・令和6年度のローテーション

日 時：令和5年12月13日

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. その他
・チーム医療への参加
・令和6年度のローテーションに関して

日 時：令和6年1月10日

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. その他
・2023年度基本的臨床能力評価試験
・共通講習 よりよい終末を迎えるための話し合い
・研修管理委員会
・研修医修了式
・チーム医療への参加について
・臨床研修の手引きについて
・次年度のローテーションについて

日 時：令和6年2月14日

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 令和6年度開始の研修医ローテーションについて
 3. その他
 - ・学生実習のオリエンテーションについて
 - ・実習生が行う医療行為について
 - ・共通講習 よりよい終末を迎えるための話し合い

日 時：令和6年3月13日

- 議 題：1. 研修進捗状況
2. 2年目研修医の修了式について
 3. 令和6年度開始の研修医ローテーションについて
 4. 一般外来の研修について
 5. 令和6年度レジデント勉強会&ミニレクチャー（ML）について
 6. その他
 - ・4/29（月）マイナビレジデントフェスティバル
 - ・学生実習について

研修管理委員会

書面会議

令和5年度 第1回研修管理委員会

1. 令和6年度研修開始 研修医採用試験結果について（報告）
2. 研修医の研修進捗状況について（報告）
3. 令和6年臨床研修プログラム（案）について
4. 研修医採用に関する事業計画について

委員会開催（ハイブリット）

令和5年度 第2回研修管理委員会

開催日：令和6年3月8日

1. 研修管理委員長挨拶
2. 令和6年4月採用予定研修医の紹介
3. 次年度の研修について
4. 1年目 研修状況報告
5. 2年目 修了判定
6. その他

個人情報保護委員会

目 的

病院における個人情報保護の利用目的、運営及び管理に関すること、固有個人情報の開示等の決定判断に関すること、その他病院における個人情報保護に関することを審議する。

委員会開催

[第1回]

開催日：令和5年12月7日

- 議 題：① 個人情報の記載された用紙の紛失について（1件）
② 会計ファイルに別患者伝票が混入していた事例について
③ 点滴ラベルの廃棄について
④ 個人情報保護委員会規程の改訂について
⑤ その他（個人情報保護にかかる研修会の開催について）

研修会開催

[第1回]

開催日：令和5年4月3日

医療機関における個人情報の保護について

講 師：総務管理課長 萩原大介

[第2回]

開催日：令和6年1月11日～1月31日

個人情報の適正な取り扱いにかかる研修（WEB研修）

広報委員会

目 的

病院の広報に関することを検討する。

主に院内広報誌、院外広報誌、Web サイトの掲載内容について検討する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 5 年 5 月 26 日

- 議 題：① 院外広報誌の掲載記事について（令和 5 年 8 月発行予定分）
② 院内広報誌掲載記事及び配信方法の変更について
③ Web サイトのリニューアルについて
④ 病院ホームページ（新規・変更）依頼書の書式変更について

第 2 回

開催日：令和 5 年 11 月 6 日

- 議 題：① 院外広報誌について（令和 6 年 1 月発行予定分）
② 院内広報誌について（令和 6 年 1 月発行予定分）
③ 委員会規定の改訂について
④ 公式 YouTube チャンネルの開設について
Web サイトのリニューアルについて（研修サイト）
Web サイトのアクセス解析について

活動実績

- ・ 令和 5 年 10 月 4 日 公式 YouTube チャンネルを開設
- ・ 院外広報誌（日赤の森）115 号、116 号発行
- ・ 院内広報誌（にっせきたかつき）264 号発行
- ・ 令和 5 年 7 月に Web サイトをリニューアル（研修医サイト）

図書委員会

目 的

図書室の運用及びそれに関する事項について審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日 令和 5 年 10 月 5 日 (木)

議 題

- I 来年度予算案について
 - 1. 洋雑誌の選定について
 - 2. 和雑誌の選定について
 - 3. 文献検索等データベースについて
 - 4. 文献取り寄せについて
 - 5. 臨時購入について
- II 機能評価 1.5.2 診療ガイドラインの活用について

医の倫理委員会

目 的

当院で行われるヒトを対象とした医学の研究及び臨床応用についての「医の倫理」に関する事項をヘルシンキ宣言（2013年 WMA フォルタレザ総会修正）の趣旨に添い審議することを目的とする。

委員会開催

第1回

開催日：令和5年10月4日

- 議 題：① 難治性尋常性疣贅に対する squaric acid dibutylester (SADBE) による免疫療法
(皮膚科)
- ② 高流量鼻カニューラ酸素療法における非対称鼻カニューラデバイスの短期効果の検討
(呼吸器内科)
- ③ 当院における抗体製剤使用喘息の臨床的寛解に関する調査 (呼吸器内科)
- ④ 血液中短鎖 RNA 測定による肺癌の診断法確立に向けた研究 (呼吸器内科)
- ⑤ 肩腱板断裂に対する大腿筋膜グラフトを用いた肩関節包再建術が肩および股関節機能に与える影響 (整形外科)

第2回

開催日：令和6年1月22日

- 議 題：① 対面事例検討会とオンライン事例検討会における参加者の経験の質的相違の実証的研究
(臨床心理士)

書類審議

第1回

開催日：令和5年4月18日

- 議 題：① 造血器腫瘍及び固形腫瘍におけるゲノムおよびエピゲノム異常の網羅的解析
(血液腫瘍内科)
- ② Multimorbidity 患者の重症度、医療・看護必要度の特徴と臨床マネジメントへの応用
(看護部)

第2回

開催日：令和5年6月1日

- 議 題：① 人工胸腹水下 RFA 治療の処置成功率、合併症に関する研究 (消化器内科)
- ② ルストロンボパグ使用による血小板増加数と増加予測因子に関する検討(第3版)
(消化器内科)
- ③ 免疫関連有害事象 (irAE) における予後関連因子の検証 (薬剤部)
- ④ 当院におけるニボルマブ＋イピリムマブ併用療法の実態調査 (薬剤部)
- ⑤ 急性骨髄性白血病の疾患分類ごとの治療選択及び個別カスタム微小残存測定と治療成績との統計学的解析 (血液腫瘍内科)

- ⑥ COVID-19 に関するレジストリ研究 (消化器外科)
- ⑦ 食道 ESD/EMR における偶発症に関する全国調査 (消化器内科)

第3回

開催日：令和5年11月1日

- 議 題：① 当院における複合免疫療法の実態調査～第3報～ (薬剤部)
- ② eCura System の外的妥当性に関する多機関共同後ろ向き観察研究 (消化器内科)
- ③ レセプト及びDPCデータを用いた循環器疾患における医療の質に関する研究 (総合診療科)

第4回

開催日：令和5年12月1日

- 議 題：① Nivolumab 療法と皮膚障害の関係性について (薬剤部)
- ② COVID-19 罹患者の長期的な健康状態に関する調査研究 (呼吸器内科)

第5回

開催日：令和6年3月15日

- 議 題：① 倫理委員会規定の改正について

業務改善委員会

目 的

高槻赤十字病院における医療従事者の負担軽減及び処遇の改善を図り、医療事業の円滑な運営及び推進に資すること

委員会開催

第1回

開催日 令和6年3月15日（金）

- 議 題：
1. 令和5年度医療従事者にかかる負担軽減の取り組み評価
 2. 令和6年度医療従事者にかかる負担軽減の取り組み計画
 3. 機能評価模擬審査で指摘された事項について
 4. 「外来会計伝票入」の運用について
 5. その他

ハラスメント防止委員会

委員会開催

第1回：令和5年7月28日（金）16：35～17：00

議 題：1. ハラスメント相談員研修会について
2. その他

第2回：令和5年12月22日（金）8：40～9：15

議 題：1. パワーハラスメント事案について

第3回：令和6年1月24日（水）16：00～16：30

議 題：1. ハラスメント事案について
2. 委員会規程の見直しについて
3. パワーハラスメント案件

第4回：令和6年3月21日（木）14：00～14：25

議 題：1. ハラスメント事案について
2. ハラスメント防止委員会規程（案）の改訂について

労働安全衛生委員会

日 時 令和5年4月18日(火) 16:30～16:50
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. コロナワクチンについて
3. その他

日 時 令和5年5月23日(火) 16:30～16:45
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. コロナワクチンについて
3. 職員定期健康診断について
4. その他

日 時 令和5年6月20日(火) 16:30～16:45
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. 職員定期健康診断について
3. その他

日 時 令和5年7月18日(火) 16:30～16:43
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. 職員定期健康診断について
3. その他

日 時 令和5年8月22日(火) 16:30～16:45
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. その他

日 時 令和5年9月19日(火) 16:30～16:45
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. その他

日 時 令和5年10月24日(火) 16:30～16:55
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. その他

日 時 令和5年11月21日(火) 16:30～16:45
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. その他

日 時 令和5年12月19日(火) 16:30～16:45
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. その他

日 時 令和6年1月23日(火) 16:30～16:40
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. その他

日 時 令和6年2月20日(火) 16:30～16:50
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. その他

日 時 令和6年3月19日(木) 16:30～16:42
議 案 1. 時間外勤務45時間超 職種別人数について
2. その他

防火防災・災害対策委員会

目 的

当院における防火防災の徹底を図り、火災その他の災害による人的・物的被害を軽減すること、及び日本赤十字社災害救護体制要綱、日本赤十字社大阪府支部災害救護体制要綱、高槻赤十字病院BCP災害対策ガイドライン及び高槻赤十字病院災害救護要綱の定めるところに基づき、災害時における災害救護体制に関する事項を審議することを目的とする。

委員会開催

第1回

開催日：令和5年4月18日（火）

議 題：① 報告事項

- ◆ 前回訓練（2023.3.13）の振り返りについて
- ◆ WG開催報告 5月（予定）
- ◆ 実訓練 10-11月 自衛消防 + 災害対策

② 検討事項

- ◆ 令和5年度の災害対策WGの構成について
- ◆ 栄養課 備品について

第2回

開催日：令和5年8月14日（月）

議 題：① 台風7号対策について

- ◆ 停電・暴風対策
- ◆ 公共交通機関の運休による出退勤の影響について
- ◆ 診療体制等病院運営について

第3回

開催日：令和5年11月14日（火）

議 題：① 報告事項

- ◆ BCP災害対策WG 進捗について
- ◆ 実施訓練 11月30日 自衛消防 + 災害対策

② 検討事項

- ◆ 11月30日の実訓練への参加者招集について

③ その他

- ◆ 安否確認について
- ◆ 職員の非常食について

第4回

開催日：令和6年3月27日（水）

議 題：① 検討事項

- ◆ 院内災害対策訓練の振り返りについて
- ◆ BCPについて
- ◆ 災害マニュアルについて

消防訓練開催

第1回 新入職員対象消防訓練

開催日：令和5年4月6日（木）9時50分～11時40分

目的：新入職員に対し消火・避難訓練を行い自衛消防意識の向上を図る

内容：① 粉末ABC10型消火器（12本）を使用する消火訓練
② 3人1組での屋内消火栓を使用する消火訓練
③ 担架や毛布を利用する搬送・避難誘導訓練

第2回 全職員対象消防訓練（高槻北消防署予防係）

開催日：令和5年11月30日（木）15時00分～16時30分

目的：地震により発生した火災及び閉じこめを想定した自衛消防活動訓練を実施し手順の確認を行う。

想定：大阪北部を震源とした巨大地震により発生した出火

内容：① 通報連絡の実施
② 出火時における初期消火の実施
③ 閉じ込め発生時における救出の実施
④ 出火上階病棟における避難誘導の実施
⑤ 消防車両による本館5階病棟へのアプローチ

病床管理運営委員会

理 念

病床は経営における重要な資源である。原則、全病床は全科共通のものであることを認識し、医師及び看護師は常に効率的な入退院を心掛けなければならない。

目 的

病床を一元管理し、入院から退院まで円滑かつ効果的に運用することを目的とする。

日 時：令和5年4月9日（木）

- 1 月別一日平均新入院患者数推移について
- 2 平均在院日数・DPC入院期間Ⅰ＋Ⅱ退院率について
- 3 病棟別稼働率について
- 4 コロナ陽性の稼働推移について
- 5 9病棟一般病床の使用状況について
- 6 月別クリーン病床の稼働について
- 7 月別HCU病床の稼働推移について
- 8 月別緩和ケア病床の稼働推移について
- 9 月別一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 10 3月の状況と今月の状況について
- 11 診療科の目標定床数について
- 12 その他

日時：令和5年5月11日（木）

- 1 月別一日平均新入院患者数推移について
- 2 平均在院日数について
- 3 病棟別稼働率について
- 4 コロナ陽性の稼働推移について
- 5 9病棟一般病床の使用状況について
- 6 月別クリーン病床の稼働について
- 7 月別HCU病床の稼働推移について
- 8 月別緩和ケア病床の稼働推移について
- 9 月別一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 10 診療科目標定床数に使用する常勤医師換算定義について
- 11 各病棟の主科等について
- 12 その他

日時：令和5年6月8日（木）

- 1 月別一日平均新入院患者数推移について
- 2 平均在院日数について
- 3 病棟別稼働率について
- 4 コロナ陽性の稼働推移について

- 5 月別クリーン病床の稼働について
- 6 月別 HCU 病床の稼働推移について
- 7 月別緩和ケア病床の稼働推移について
- 8 月別一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 9 診療科目標定床数変更について
- 10 9病棟について
- 11 その他

日時：令和5年7月13日（木）

- 1 6月の入院患者延数について
- 2 6月の病棟別稼働率について
- 3 6月のDPC入院期間Ⅰ＋Ⅱについて
- 4 6月の稼働額及び単価について
- 5 今月現時点の病棟別稼働率について
- 6 今月現時点の月別一般病床（クリーン含む）と全体病床の一日平均稼働数推移について
- 7 今月現時点の月別一日平均新入院患者数推移について
- 8 今月現時点の平均在院日数について
- 9 今月現時点の月別一日平均稼働数推移について
- 10 今月現時点の月別クリーン病床の稼働について
- 11 今月現時点の月別 HCU 病床の稼働推移について
- 12 今月現時点の月別緩和ケア病床の稼働推移について
- 13 今月現時点の各科目目標病床達成率について
- 14 患者数増に向けて
- 15 今後の各科病床目標数について
- 16 その他

日時：令和5年8月10日（木）

定例開催中止

日時：令和5年9月14日（木）

- 1 8月の病棟別稼働率について
- 2 8月の診療科別病床目標達成率について
- 3 今月現時点の病棟別稼働率について
- 4 今月現時点の診療科別病床目標達成率について
- 5 今年度の診療科別病床目標達成率について
- 6 今月現時点の月別一日平均新入院患者数推移について
- 7 今月現時点の月別一日平均稼働数推移について
- 8 今月現時点の平均在院日数について
- 9 DPC 入院期間Ⅰ・Ⅱの退院率について
- 10 今月現時点のコロナ病床稼働数について
- 11 今月現時点のクリーン病床の稼働について
- 12 今月現時点の HCU 病床の稼働について
- 13 今月現時点の緩和ケア病床の稼働について

- 14 5病棟の影響による病床運用について
- 15 育短医師の係数について
- 16 その他

日時：令和5年10月19日（木）

- 1 本社と病院の協議について
- 2 病棟別一日平均稼働数について
- 3 診療科別病床目標達成率について
- 4 11月の診療別別目標病床数について
- 5 一日平均新入院患者数推移について
- 6 一日平均稼働数推移について
- 7 平均在院日数について
- 8 DPC入院期間Ⅰ・Ⅱの退院率について
- 9 コロナ病床稼働数について
- 10 クリーン病床の稼働について
- 11 HCU病床の稼働について
- 12 緩和ケア病床の稼働について
- 13 その他

日時：令和5年11月15日（水）

- 1 病棟別一日平均稼働数について
- 2 診療科別病床目標達成率について
- 3 一日平均稼働数について
- 4 一日平均新入院患者数について
- 5 平均在院日数について
- 6 DPC入院期間Ⅰ・Ⅱの退院率について
- 7 クリーン病床の稼働について
- 8 HCU病床の稼働について
- 9 緩和ケア病床の稼働について
- 10 その他

日時：令和5年12月14日（木）

- 1 病棟別一日平均稼働数について
- 2 診療科別病床目標達成率について
- 3 一日平均稼働数について
- 4 一日平均新入院患者数について
- 5 平均在院日数について
- 6 DPC入院期間Ⅰ・Ⅱの退院率について
- 7 クリーン病床の稼働について
- 8 HCU病床の稼働について
- 9 緩和ケア病床の稼働について
- 10 その他

日時：令和6年1月11日（木）

- 1 入院患者延数推移について
- 2 一日平均稼働数について
- 3 病棟別一日平均稼働数について
- 4 診療科別病床目標達成率について
- 5 一日平均新入院患者数について
- 6 診療科別一日平均新入院数について
- 7 平均在院日数について
- 8 クリーン病床の稼働について
- 9 HCU 病床の稼働について
- 10 緩和ケア病床の稼働について
- 11 病棟改修工事について
- 12 公私病院連盟令和4年病院運営実態分析調査の概要について
- 13 その他

日時：令和6年2月14日（水）

- 1 入院患者延数推移について
- 2 一日平均稼働数について
- 3 病棟別一日平均稼働数について
- 4 診療科別病床目標達成率について
- 5 一日平均新入院患者数について
- 6 診療科別一日平均新入院数について
- 7 平均在院日数について
- 8 クリーン病床の稼働について
- 9 HCU 病床の稼働について
- 10 緩和ケア病床の稼働について
- 11 令和6年度診療科目標確保病床数について
- 12 その他

日時：令和6年3月14日（木）

- 1 入院患者延数推移について
- 2 一日平均稼働数について
- 3 病棟別一日平均稼働数について
- 4 診療科別病床目標達成率について
- 5 一日平均新入院患者数について
- 6 診療科別一日平均新入院数について
- 7 平均在院日数について
- 8 クリーン病床の稼働について
- 9 HCU 病床の稼働について
- 10 緩和ケア病床の稼働について
- 11 令和6年度診療科目標確保病床数について
- 12 病棟改修工事について
- 13 その他

病床再編成検討・検証委員会

目 的

当院の将来構想に基づき、短期・中期の病棟再編成を検討・検証する。

委員会開催

令和5年度開催実績なし。

新病院新築移転構想検討委員会

目 的

当院の将来構想に基づき、新病院新築移転構想を検討する。

委員会開催

令和 5 年度開催実績なし。

教育・研修推進委員会

委員会開催

第1回：令和5年11月15日（水）15：00～15：40

- 議 題：1. 研修の年間スケジュールについて
2. 部署ごとの新人教育・研修について
3. 実習生の受け入れ体制について
4. その他

第2回：令和6年1月23日（火）15：00～16：00

- 議 題：1. 令和6年度新入職員研修会プログラムについて
2. その他
- ・eラーニングシステム業者選定
 - ・急変時の対応について

病院機能評価受審委員会

目 的

病院機能評価を受審し、その認定を取得することにより病院機能の向上を図ることを目的とする

委員会開催

第 2 回

開催日：令和 5 年 4 月 11 日

- 議 題：1. 全体説明会と病院機能評価受審までのスケジュール案について
2. 領域別ワーキンググループの編成について
3. 訪問審査で準備が必要な書類について

第 3 回

開催日：令和 5 年 9 月 28 日

- 議 題：1. 病院理念・基本方針の見直しについて
2. 日本病院機能評価機構の模擬審査について
3. 各領域の進捗状況について

第 4 回

開催日：令和 5 年 10 月 31 日

- 議 題：1. 病院理念・基本方針に基づいた中・長期計画の策定について
2. 模擬審査の当日の進行について
3. 各領域の進捗状況について

第 5 回

開催日：令和 5 年 11 月 14 日

- 議 題：1. 病院理念・基本方針に基づいた中・長期計画の策定について
2. 模擬審査の部署訪問の検討について
3. 各領域の進捗状況について

第 6 回

開催日：令和 6 年 1 月 12 日

- 議 題：1. 令和 6 年 5 月本審査の日程候補日について
2. 模擬審査の当日進行担当表について
3. 病院機能評価書類保管方法について

第 7 回

開催日：令和 6 年 2 月 16 日

- 議 題：1. 令和6年5月本審査の日程について
2. 模擬審査の課題の共有について
3. 訪問審査関連書類の変更に関するご案内について
4. 模擬審査と本審査の変更点について

第8回

開催日：令和6年3月26日

- 議 題：1. 令和6年5月本審査サーベイヤーについて
2. 本審査当日進行対応担当表（案）について

活動実績

- ・令和5年4月26日 病院機能評価説明会（概要・質疑等）
（外部講師：日本病院評価機構 評価事業推進部 浅田光博）
- ・令和6年2月8日 模擬審査受審（サーベイヤー派遣）

訪問看護ステーション運営委員会

目 的

- ・訪問看護ステーションの健全な運営を推進すること、病院との連携を円滑に行うこと

委員会開催

第1回：令和5年12月21日（木）

- 議 題：1. 現状報告
2. 今年度の目標設定
 3. ステーションの困りごと・要望
 4. その他：定例開催日時の決定

第2回：令和6年1月25日（木）

- 議 題：1. 現状報告
2. 2024年4月からの指定訪問看護運営に関する義務化項目について
 3. その他：・医療保険でのオンライン請求・オンライン資格確認について
・トピックス

第3回：令和6年2月22日（木）

- 議 題：1. 現状報告
2. 2024年4月からの指定訪問看護運営に関する義務化項目について

第4回：令和6年3月28日（木）

- 議 題：1. 現状報告
2. 2024年4月からの訪問看護ステーションの体制について
 3. その他：(1) オンライン請求・オンライン資格確認について
(2) 診療報酬改定の準備について
(3) 感染委員会のステーション内の設置について

VIII 誌上・講演発表

《誌 上》

神経内科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
細川 恭子 大井 和起、人見 健文、 三枝 隆博、中川 朋一、 池田 昭夫	Epstein-Barr ウイルス脳炎後に 間欠的に「不思議の国のアリス 症候群」を生じ、てんかん発作 との鑑別を要した成人例	臨床神経学：64巻2号：99- 104	2024年

看護部

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
川崎 知子 橋本 龍、前田 敦子	看護記録時間調査により明らか になった現状と課題	看護展望 July.2023.Vol.48. No.9. p 57-62	2023年

雑誌寄稿

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
今戸 美奈子	今こそ知りたい！ハイフローセ ラピーのケアとアセスメント 急性期～終末期まで：慢性期 在宅ハイフローセラピーの患者 支援・退院支援・環境整備のサ ポートと継続看護	みんなの呼吸器 Respica、21 (6)：841-848.	2023年
里村 裕史	「急性期」NPPV 管理中の呼吸 困難	みんなの呼吸器 Respica	2023年

血液内科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
June Takeda Makoto Iwasaki, Junya Kanda, Yasuhito Nannya, Nobuhiro Hiramoto, Tadakazu Kondo, Takayuki Ishikawa, Mitsumasa Watanabe, Takahito Kawata, Takeshi Maeda, Yasunori Ueda, Kazunori Imada, Toshiyuki Kitano, Masaaki Tsuji, Yoshitomo Maesako, Satoko Oka, Yasuhiro Tanaka, Takashi Miyoshi, Kosuke Asago, Mitsuru Itoh, Akifumi Takaori-Kondo	Prognostic Impact of Chromosomal Abnormalities in TP53-Mutated Acute Myeloid Leukemia and High-Risk Myelodysplastic Syndromes	Blood 2023, Volume 142, Supplement 1, 2 November, Page 4328	2023年

呼吸器内科

雑誌寄稿

著者	題名	誌名・巻(号)：頁	発行
北 英夫	第1回 「睡眠時無呼吸症候群」の基礎知識～ぜん息・COPD患者さんとそのご家族は知っておきましょう！	環境再生保全機構 すこやかライフ Web コラム 『睡眠時無呼吸症候群と喘息・COPD』	2023.7.28
北 英夫	第2回 ぜん息と睡眠時無呼吸症候群～夜間の低酸素状態がぜん息の炎症悪化を招きます	環境再生保全機構 すこやかライフ Web コラム 『睡眠時無呼吸症候群と喘息・COPD』	2023.8.4
北 英夫	第3回 COPDと睡眠時無呼吸症候群～肥満型のCOPD患者さんは要注意！	環境再生保全機構 すこやかライフ Web コラム 『睡眠時無呼吸症候群と喘息・COPD』	2023.8.18
北 英夫	Evaluation of elevated plasma fatty acids as relevant factors for adult-onset asthma: The Nagahama Study.		
北 英夫	Increased blood eosinophils and airflow obstruction as new-onset asthma predictors in the elderly: The Nagahama study.		
北 英夫	新型コロナウイルス感染症パンデミックのCOPD増悪入院への影響に関する臨床的検討(原著論文)		
北 英夫	【あなたも名医！ひとりのできるアレルギー診療 Total allergist 的診療の手引き】(第5章)様々な視点に基づく患者啓発 吸入指導(解説) 日本医事新報社 2023.11	jmed mook89号 Page122-124 (2023.12)	2023年
山本 晴香	『専門研修の選び方』	レジデントノート 第25巻 第4・5号 羊土社	

小児科

雑誌寄稿

著者	題名	誌名・巻(号)：頁	発行
河上 千尋	子どもへのナッジ-行動変容を促す環境のデザイン-	小児科：64：751-757	2023年

外科

雑誌寄稿

著者	題名	誌名・巻(号)：頁	発行
平松 昌子	日本医学会分科会における女性割合の変遷	日本外科学会雑誌：124(6)：464-468	2023年11月
平松 昌子 馬場 秀夫、小寺 泰弘、 島津 研三、藤川 葵	特集：日本外科学会雑誌リニューアル記念座談会 誰もが輝ける外科の未来へ	日本外科学会雑誌：125(1)：5-15	2024年1月
平松 昌子	学会活動、診療・研究に SNS 等のツールをどう活用するか 1. 特集によせて	日本外科学会雑誌：125(1)：16	2024年1月

整形外科

英語論文

著者	題名	誌名・巻(号)：頁	発行
Itami Yasuo Limpisvasti O, McGarry MH,Patel NA, Lin CC,Dooney T, Mihata T,Neo M,Lee TQ	Biomechanical Characterization of a New locking Loop Stitch for Graft Fixation versus Krackow Stitch.	Clin Orthop Surg. 15.3.508-515	2023年

皮膚科

英語論文

著者	題名	誌名・巻(号)：頁	発行
Fukumi Furukawa:	Effective Treatments for Japanese Patients' Skin Lesions Associated with Discoid Lupus Erythematosus	978-81-967723-6-9, eBook ISBN: 978-81-967723-7-6 DOI: 10.9734/bpi/acpr/v3/1863G	2023年
Siying Zhang Yuko Ishida, Akiko Ishigami, Mizuho Nosaka, Yumi Kuninaka, Haruki Yasuda, Ayumi Kofuna, Jumpei Matsuki, Miyu Osako, Wei Zhang, Akihiko Kimura, Fukumi Furukawa, Toshikazu Kondo	Forensic application of epidermal expression of HSP27 and HSP70 for the determination of wound vitality in human compressed neck skin	Scientific Reports 2023; 13: 6692 https://doi.org/10.1038/s41598-023-33799-4	2023年
Mizuho Nosaka Yuko Ishida, Yumi Kuninaka, Akiko Ishigami, Akira Taruya, Emi Shimada, Yumiko Hashizume, Hiroki Yamamoto, Akihiko Kimura, Fukumi Furukawa, Toshikazu Kondo	Relationship between intrathrombotic appearance of HSP27 and HSP70 and thrombus age in murine model of deep vein thrombosis	Scientific Reports, 2023 Dec 16;13(1):22416. doi: 10.1038/s41598-023-48987-5	2023年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Yoshimi Kubo Nobuo Kanazawa, Hironobu Fukuda, Yutaka Inaba, Naoya Mikita, Masatoshi Jinnin, Fukumi Furukawa, Yasushi Kuraishi, Shigemi Yoshihara	Saliva contact during infancy and allergy development in school-age children	J Allergy Clin Immunol Global	2023 年

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
社団法人日本皮膚科学会 マニュアル作成委員会、 橋本 公二、古川 福実	薬剤性過敏症症候群	改訂新版 重篤副作用疾患別対 応マニュアル 第4集 5-20 日 本医薬情報センター (JAPIC)、 東京、	2023 年
社団法人日本皮膚科学会 マニュアル作成委員会、 橋本 公二、古川 福実	急性汎発性発疹性膿疱症	改訂新版 重篤副作用疾患別対 応マニュアル 第4集 23-44 日本医薬情報センター (JAPIC)、 東京、	2023 年
古川 福実	食物アレルギーにどう対応する か	ガイドライン準拠 エキスパー ト 管理栄養士養成シリーズ 調理学 [第3版] 第10刷、207 - 212、青木三恵子編、化学同人、 京都	2023 年
中村 道子 古川 福実	アトピー性皮膚炎	ひとりのできるアレルギー診療 Total allergist 的診療の手引き、 寺田哲也、福永淳、中村敬彦、大 関ゆか (編集)、69-73、日本医 事新報社、東京	2023 年
園村 真美 奥野 愛香、古川 福実、 野溝 崇	肺癌に対し施行した免疫チェッ クポイント阻害薬を含む化学療 法中断2ヵ月後に中毒性表皮壊 死症が出現した1例	皮膚科の臨床 65:1471-1474	2023 年
川上 民裕 有村義宏、池田 高治、 石黒 直子、石津 明洋、 伊藤 吹夕、猪原登志子、 沖山 奈緒子、小野 さち子、 要 伸也、岸部 麻里、 小寺 雅也、渋谷 倫太郎、 菅原 弘二、鈴木 和男、 清島 真理子、田中 麻衣子、 辻本 康、長谷川 稔、張田 豊、 古川 福実、宮脇 義亜、 山口 由衣、吉崎 歩	日本皮膚科学会ガイドライン皮 膚血管炎・血管障害診療ガイド ライン 2023—IgA 血管炎、ク リオグロブリン血症性血管炎、 結節性多発動脈炎、リベド様血 管症の治療の手引き 2023—	日本皮膚科学会誌、133 (9): 2079-2134	2023 年
古川 福実	高槻赤十字病院	2021-2022 年度京都大学大学 院医学研究科皮膚科学年報、7： 103-107	2023 年
古川 福実	高槻赤十字病院病院長時代 (2017 年度から 2021 年度) を 振り返って	2021-2022 年度 京都大学大学 院医学研究科皮膚科学年報、7： 128-133	2023 年
古川 福実	講演2 コロナ禍でのマスクと ニキビ	第11回日本痤瘡研究会大会記 録集、5-6	2023 年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
古川 福実	故郷に錦を飾る	浜松医科大学皮膚科同門会 木公会業績集 木公 vol.17, MOKKO、11-12	2023 年
古川 福実	森田栄伸先生のご退職に際して	森田栄伸教授退任記念業績集 17-18	2023 年
古川 福実	書評 美容皮膚科学のきほん(中 山書店)	Monthly Book Derma 338:15	2023 年
古川 福実	書評 間宮家の皮膚科医(南山 堂)	Visual Dermatology 22:1084	2023 年
古川 福実	令和 4 年度 Master of Dermatology(マルホ)を受賞 して(前半)	和歌山県皮膚科医会会誌第 16 号、3- 7	2023 年
島本 純子 古川 福実	冬に多い皮膚疾患	日赤の森 116 号 2024 年 1 月号、6 ページ	2024 年
古川 福実	令和 4 年度科研費基盤 C 損傷 組織における時計遺伝子発現変 化に基づく受傷後経過時間推定 法の開発(研究代表 古川福実) 令和 4 年度から 6 年		2023 年

《講 演》

看護部

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今戸 美奈子	間質性肺疾患患者の息切れのマネジメント	間質性肺炎看護ケアWebセミナー	大 阪	2023年 4月8日
今戸 美奈子	セルフマネジメント支援における看護師の独自性－望む生活に向けて－：呼吸困難のセルフマネジメント支援	第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	仙 台	2023年 12月2日
今戸 美奈子	非がん性呼吸器疾患（NMRD）の緩和ケアをどのように現場で行うか：呼吸困難のセルフマネジメント支援	第102回日本呼吸器学会近畿地方会・第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会合同学会	大 阪	2024年 1月20日

教育講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今戸 美奈子	基礎からマスター！ 在宅ハイフローセラピーのケア	在宅呼吸ケア管理セミナー	大 阪	2023年 7月15日
今戸 美奈子	慢性呼吸器疾患患者の治療ケアにおける協働的意思決定を促進する看護師の役割	第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	仙 台	2023年 12月1日

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
坂井 志麻 東 めぐみ、岡 佳子、 富田 真佐子、今戸 美奈子、 近藤 ふさえ、宮澤 初美、 今井 由佳	外来医療から在宅医療への移行期における患者・家族支援と他職種連携の実態	第17回日本慢性看護学会学術集会	川 崎	2023年 9月2日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
今戸 美奈子	慢性呼吸器疾患患者に対する呼吸困難のセルフマネジメント支援	第28回新潟呼吸療法研究会	新 潟	2023年 6月23日

緩和ケア

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
岡村 宏美 恩田 佳幸、岩井 真理絵、 福井 美礼、南波 広美、 西川 亜紀子、藤原 和子、 安齋 尚之、金村 誠哲、 橋本 典夫	終末期に自ら臨床心理士介入の枠組みを設定した患者との面談過程	第28回日本緩和医療学会学術大会	神 戸	2023年 6月30日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
橋本 典夫	e-learning の復習	第8回北河内緩和ケア研修会	独立行政 法人地域 医療機能 推進機構 星ヶ丘 医療セン ター	2023年 9月30日
橋本 典夫	全人的苦痛に対する緩和ケア	箕面市立病院緩和ケア研修会	箕面市立 病院	2023年 12月2日
諏訪 亜希子	化学療法による皮膚障害に対 するケア	第31回三島圏域がん研究会	大 阪	2024年 1月25日

形成外科

講 演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
田嶋 晴夏 櫛田 哲史	メッシュ加工したEpiFixを 用いた下肢静脈うっ滞性潰瘍 の治療経験	第66回日本形成外科学会総 会・学術集会	神戸国際 会議場・ 神戸ポー トピアホ テル	2023年 4月10日

外科

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子		第123回日本外科学会	東京都	2023年 4月27日
平松 昌子		第123回日本外科学会	東京都	2023年 4月29日
平松 昌子		第75回日本食道学会	大阪市	2023年 6月30日
平松 昌子		The 36th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association-Japan Chapter (PPSA-JP)	Honolulu, Hawaii	2023年 8月23日
平松 昌子		オブジーボ胃癌セミナー	高槻市	2023年 8月28日
平松 昌子		第85回日本臨床外科学会	岡山市	2023年 11月17日
平松 昌子		第12回次世代の臨床外科医 のための特別セミナー	東京都	2024年 2月4日
平松 昌子		第96回日本胃癌学会	京都市	2024年 2月29日
平松 昌子		第60回日本腹部救急医学会	北九州市	2024年 3月21日

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
平松 昌子	日本外科学会におけるダイバーシティ推進の取り組み	第31回日本医学会総会	東京都	2023年 4月22日
小林 稔弘 川口 佳奈子、平松 昌子、 矢子 昌美、恒松 一郎、 サンフォード 舞子、 園村 純、河合 俊哉	乳癌による癌性潰瘍に対する Mohs Paste 処置の経験	第8回がんサポーターケア 学会	奈良市	2023年 6月23日
川口 佳奈子 小林 稔弘、矢子 昌美、 平松 昌子	乳頭異常分泌症例における乳 管造影所見と病理診断の相関 性の検討	第31回日本乳癌学会	横浜市	2023年 6月29日
小林 稔弘 川口 佳奈子、平松 昌子、 矢子 昌美	乳腺solid papillary carcinomaの6例	第31回日本乳癌学会	横浜市	2023年 6月30日
矢子 昌美 小林 稔弘、川口 佳奈子、 平松 昌子	乳腺原発MALT型リンパ腫 の1例	第31回日本乳癌学会	横浜市	2023年 6月30日
太田 紅仁香 小林 稔弘、矢子 昌美、 川口 佳奈子、平松 昌子	乳腺に発生した腺様嚢胞癌が 肺転移した1例	乳腺・内分泌外科地域連携の 会	高槻市	2023年 10月6日
河合 俊哉 平松 昌子、恒松 一郎、 小林 稔弘、沼本 諒、 園村 純、太田紅 仁香	手術を契機に発症した Heterotopic Mesenteric Ossification (HMO) の1 例	第85回日本臨床外科学会	岡山市	2023年 11月18日
太田 紅仁香 小林 稔弘、平松 昌子	多職種連携による精神疾患を 伴う終末期乳癌患者への介入 ～遅発パラフレニーを合併し た両側乳癌術後再発の1例を 通して～	第21回乳癌学会近畿地方会	京 都	2023年 11月25日
園村 純 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、 サンフォード 舞子、 川口 佳奈子、虫明 修	胆嚢捻転症の2例	第36回日本内視鏡外科学会	横浜市	2023年 12月9日
平松 昌子 池田 徳彦、武富 紹信、 田尻 達郎、掛地 吉弘	日本外科学会におけるダイ バーシティ推進への取り組み	第17回日本性差医学・医療 学会	広島市	2024年 1月27日
平松 昌子	思いを形に。選択肢は無 限。	第16回兵庫県医師会ダイ バーシティ研修会	神戸市	2024年 2月17日
沼本 諒	鼠径ヘルニアに対する当院の 術式選択	第9回北摂ヘルニア教育セミ ナー	高槻市	2024年 2月24日
平松 昌子	誰もが輝ける外科の未来へ	第253回大分県外科医会 医 政の会	大分市	2024年 3月13日

検査部

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
亀山 雅貴 古川 理奈、平野 玄起、 森 京子、木澤 隼	多量の心嚢液を契機に診断し 得た心臓脂肪肉腫の一例	日本心エコー図学会 第34回 学術集会	岐 阜	2023年 4 月21日
古川 理奈 亀山 雅貴、森 京子、 深田 寛子、木澤 隼	短期間で劇的な縮小傾向を示 した多形癌の心腔内浸潤の1 例	日本心エコー図学会 第34回 学術集会	岐 阜	2023年 4月21日
坂口 絵美 古川 理奈、亀山 雅貴、 村上 浩子、吉田 桂、 佐藤 裕司、荒木 孝一郎、 古川 福実、渡邊 千尋、 小林 稔弘	乳腺腺様嚢胞癌の一例	第59回日本赤十字社医学会 総会	京都府	2023年 11月10日

特別講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
扇田 裕允	質量分析装置 MALDI Biotyper を使用してきて	第35回日本赤十字社臨床検 査技師会 近畿ブロック研修 会	大阪府	2023年 9月2日

呼吸器内科

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
北 英夫		高槻市薬剤師会定例研修会 (4月)		2023年 4月15日
北 英夫		GSK Severe Asthma Web Seminar in Osaka		2023年 4月25日
山本 晴香 村山 恒峻、野溝 岳、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	重症COVID-19症例におけ る呼吸困難に関する検討	第63回日本呼吸器学会学術 講演会 東京国際フォーラム	東 京	2023年 4月28日
野村 奈都子 松本 久子、林 優介、 西 健太、寺田 悟、 古郷 摩利子、砂留 広伸、 長崎 忠雄、小熊 毅、 西村 善博、浅野 浩一郎、 平井 豊博	気管支拡張症合併難治性喘息 とアスペルギルス感作の関係 ー全国調査よりー	第63回日本呼吸器学会学術 講演会 東京国際フォーラム	東 京	2023年 4月28日
西 健太(京都大学 呼吸器内 科学) 長崎 忠雄、小熊 毅、 林 優介、寺田 悟、 野村 奈都子、古郷 摩利子、 砂留 広伸、佐藤 晋、 松本 久子、平井 豊博	喘息 病因・病態 気管支 喘息における喀痰中TSLP・ YKL-40はその後の長期呼吸 機能経年低下を予測しうる	第63回日本呼吸器学会学術 講演会 東京国際フォーラム	東 京	2023年 4月28日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
古郷 摩利子(京都大学 呼吸器内科) 松本 久子、森本 千絵、 小熊 毅、佐藤 晋、 田辺 直也、佐藤 篤靖、 野村 奈都子、寺田 悟、 西 健太、砂留 広伸、 長崎 忠雄、大橋 快、 塚原 隆充、平井 豊博	閉塞性気道疾患における喀痰 sIgAと細菌叢・炎症型との 関係	第63回日本呼吸器学会学術 講演会 東京国際フォーラムC	東 京	2023年 4月28日
寺田 悟(京都大学 呼吸器内 科学) 小熊 毅、林 優介、西 健太、 古郷 摩利子、野村 奈都子、 砂留 広伸、長崎 忠雄、 平井 豊博	難治性慢性咳嗽に対する Gefapixantの治療効果予測 因子の検討	第63回日本呼吸器学会学術 講演会 東京国際フォーラムC	東 京	2023年 4月28日
古郷 摩利子(京都大学 呼吸 器内科) 佐藤 晋、室 繁郎、 松本 久子、林 優介、 寺田 悟、西 健太、 野村 奈都子、砂留 広伸、 長崎 忠雄、村瀬 公彦、 川口 喬久、田原 康玄、 松田 文彦、陳 和夫、 平井 豊博	Preserved ratio impaired spirometryの呼吸器症状 ながはまコホート	第63回日本呼吸器学会学術 講演会 東京国際フォーラムC	東 京	2023年 4月28日
北 英夫		重症喘息の明日を考える会 in 高槻・三島 WEB開催	WEB 開催	2023年 5月11日
山本 晴香		第5回 next generation NSCLC conference		2023年 5月19日
北 英夫		重症喘息治療のNext Generation 大阪Ver.		2023年 5月24日
山本 晴香		CDSオンライン勉強会		2023年 5月28日
山本 晴香 村山 恒峻、野溝 岳、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	COVID-19症例における呼 吸困難について	第31回北摂4医師会医学会総 会 2023.6.10		2023年 6月10日
北 英夫	教育セミナー	第9回日本アレルギー学会近 畿地方会		2023年 6月11日
山本 晴香		CDSオンライン勉強会		2023年 6月13日
北 英夫		第10回 Clinical Forum of Interstitial Lung Disease		2023年 6月16日
北 英夫		北河内学術講演会		2023年 7月8日
山本 晴香		CDSオンライン勉強会	WEB 開催	2023年 7月13日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫		在宅呼吸ケア管理セミナーin 高槻	WEB 開催	2023年 7月15日
山本 晴香		ILDコンサル事例集セミナー	WEB 開催	2023年 7月18日
北 英夫		名阪 Cross Talk Seminar	WEB 開催	2023年 7月19日
山本 晴香 (高槻赤十字病院) 三崎 裕美子、日詰 健太郎、 村山 恒峻、野村 奈都子、 野溝 岳、深田 寛子、 中村 保清、北 英夫	悪性胸膜中脾腫に対してニボルマブ、イビリムマブ 4コース投与後、血球貧食症候群を生じた1例	第101回 日本呼吸器学会近畿地方会 第131回 日本結核・非結核抗酸菌症学会近畿支部会 合同学会		2023年 7月22日
北 英夫	ランチョンセミナー	第101回 日本呼吸器学会近畿地方会 第131回 日本結核・非結核抗酸菌症学会近畿支部会 合同学会		2023年 7月22日
北 英夫		第101回 日本呼吸器学会近畿地方会 第131回 日本結核・非結核抗酸菌症学会近畿支部会 合同学会 ランチョンセミナー	WEB 開催	2023年 7月22日
山本 晴香		CDSオンライン勉強会	WEB 開催	2023年 8月14日
山本 晴香		キャリアデザインに関するオンラインミーティング	WEB 開催	2023年 8月24日
北 英夫		第11回三島呼吸器疾患セミナー	WEB 開催	2023年 9月2日
北 英夫		プライマリ・ケアで診る咳喘息 WEB Seminar	WEB 開催	2023年 9月21日
北 英夫		NSCLC I-0 Meet the Experts Seminar in TAKATSUKI		2023年 10月5日
北 英夫		Respiratory Web Conference		2023年 10月12日
山本 晴香		CDSオンライン勉強会	WEB 開催	2023年 10月12日
北 英夫		肺癌ゲノム検査を考えるin MISHIMA	WEB	2023年 10月25日
野村 奈都子		第58回 Japan Airway Club (旧 吸入療法研究会)		2023年 11月11日
北 英夫		非小細胞肺癌I0-I0 WEB Seminar	WEB 開催	2023年 11月15日
北 英夫		肺がん周術期治療を考える in MISHIMA		2023年 11月17日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
北 英夫		茨木市薬剤師会研修会	WEB 開催	2023年 11月18日
北 英夫		IV期NSCLC治療のNew Standard ~複合免疫療法への期待~		2023年 11月22日
北 英夫	一般演題『ネーザルハイフロー』	第32回日本呼吸ケアリハビリテーション学会		2023年 12月1日
山本 晴香		第6回 next generation NSCLC conference		2023年 12月1日
山本 晴香		CDSオンライン勉強会	WEB 開催	2023年 12月17日
北 英夫		GSK Severe Asthma Web Seminar	WEB 開催	2023年 12月19日
北 英夫		POSEIDON masters Seminar	WEB 開催	2024年 2月7日
北 英夫		第7回がん免疫療法実践セミナー		2024年 2月9日
野村 奈都子		第7回がん免疫療法実践セミナー		2024年 2月9日
北 英夫		第31回 大阪呼吸ケア研究会		2024年 3月9日
北 英夫		好酸球 WEB Symposium ~好酸球性喘息における治療戦略編~		2024年 3月12日
野村 奈都子		第22回 Kinki Hokuriku Airway disease Conference		2024年 3月31日

循環器内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
蟻本 紘平	心筋に再発し、短時間で増大傾向を示した脂肪肉腫の1例	第135回 日本循環器学会近畿地方会	大 阪 千里ライフ サイエンス センター	2023年 7月15日
町田 尚央	高齢で肺血栓塞栓症を発症した重複下大静脈の1例	第135回 日本循環器学会近畿地方会	大 阪 千里ライフ サイエンス センター	2023年 7月15日
平野 玄起	カルフィルゾミブの投与により誘発されたと考えられる冠攣縮性狭心症の1例	第135回 日本循環器学会近畿地方会	大 阪 千里ライフ サイエンス センター	2023年 7月15日

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
森京子	IgG4関連疾患が疑われる冠動脈周囲炎の1例	第135回 日本循環器学会近畿地方会	大阪千里ライフサイエンスセンター	2023年7月15日

教育講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
木澤隼	知っておきたい超高齢社会における抗凝固療法	第366回臨床心臓病研修会	大阪	2023年12月3日

消化器内科

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
松村大志郎	幹細胞治療の施設の現状	肝細胞治療を考える会		2023年9月29日
神田直樹	胃酸分泌抑制薬に関する話題と最近の内視鏡治療のトピック	高槻消化器疾患懇話会		2023年9月30日
吉岡拓人	Introduction of a safe device "Gangi-HydroGuard" for artificial pleural effusion and ascites in RFA	APASL(Asian Pacific Association for the Study of the Liver) 2024 Kyoto (第33回アジア太平洋肝臓学会年次総会) Oral presentation		2024年3月29日
山本悠生 上原祐介、森英亜、 平井美帆、矢倉伊織、 奥野岳、中森翔平、 松村大志郎、吉岡拓人、 玉田尚、神田直樹	当院におけるOTSC(Over-The-Scope Clip)の使用経験	第44回京大消化器内科関連病院症例検討会		2023年7月1日
森英亜 中森翔平、上原祐介、 山本悠生、平井美帆、 矢倉伊織、奥野岳、 松村大志郎、吉岡拓人、 神田直樹	Perivascular Epithelioid Cell Tumor (PEComa)の2例	第241回日本内科学会近畿地方会		2023年9月2日
吉岡拓人 森英亜、山本悠生、 平井美帆、奥野岳、 矢倉伊織、中森翔平、 松村大志郎、玉田尚、 神田直樹	当院においてデュルバルマブ・トレメリマブ療法を選択した肝癌4症例の検討	第120回日本消化器病学会近畿支部例会 ワークショップ		2024年1月27日

小児科

一般演題・院内健康講座

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
河上千尋	ワクチンを知ろう	高槻赤十字病院院内健康講座	高槻赤十字病院	2023年11月10日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
河上 千尋	紫斑病のはなし	高槻赤十字病院院内健康講座	高槻赤十字病院	2023年 12月1日
河上 千尋	脚の異常のオノマトペ	第10回高槻茨木連携Web会	高槻赤十字病院	2023年 12月14日
河上 千尋	オノマトペとは？	高槻赤十字病院院内健康講座	高槻赤十字病院	2024年 3月1日

整形外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
伊丹康夫 Hasegawa A	Return to Sports and Physical Labor After Arthroscopic Superior Capsule Reconstruction for Irreparable Rotator Cuff Tears			
伊丹康夫 Hasegawa A	Return to Sports and Physical Labor After Arthroscopic Superior Capsule Reconstruction for Irreparable Rotator Cuff Tears			
伊丹康夫 Hasegawa A	Return to Sports and Physical Labor After Arthroscopic Superior Capsule Reconstruction for Irreparable Rotator Cuff Tears			
伊丹康夫 長谷川彰彦	腱板修復術の治療成績；上方関節包再建による補強の有無での比較			
徳山 文人 伊丹 康夫、高島 雅俊、 永田 大貴	腰椎変性すべり症に対する内視鏡下椎弓切除術の治療成績 ーすべりの無い腰部脊柱管狭窄症との比較検討ー			

乳腺外科

一般講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
川口 佳奈子	乳頭異常分泌症例における乳管造影所見と病理診断の相関性の検討	第31回日本乳癌学会学術総会	神奈川県横浜市	2023年 6月29日
小林 稔弘	乳腺solid papillary carcinomaの6例	第31回日本乳癌学会学術総会	神奈川県横浜市	2023年 6月30日
矢子 昌美	乳腺原発MALT型リンパ腫の1例	第31回日本乳癌学会学術総会	神奈川県横浜市	2023年 6月30日

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
太田 紅仁香	多職種連携による精神疾患を伴う終末期乳癌患者への介入～遅発パラフレニーを合併した両側乳癌術後再発の1例を通して～	第21回日本乳癌学会近畿地方会	京都府	2023年 11月25日

血液内科

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
前迫 善智 上杵 裕子、田端 理英、 竹井 雄介、中山 大輔、 永井 雄也、北脇 年雄	十二指腸型濾胞性リンパ腫からの形質転換と考えられたDEL/DHLにCAR-T治療を施行した1例	第44回 日本造血・免疫細胞療法学会総会	横浜	2023年 5月12日

泌尿器科

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
天野 賢士 六車 光英	多発性骨髄腫精巣転移の1例	第255回日本泌尿器科学会関西地方会	奈良県 コンベンションセンター	2024年 2月3日

皮膚科

院内健康講座

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
古川 福実（監修）、 地域医療連携課（山崎・岩見・渡部）、 河上 千尋、中村 道子（小児科） 田中 慎子・小島 一晃（薬剤部） 西岡 美穂（栄養課） 島本 純子（皮膚科） 川上 伊津子（看護部） アクセーナ株式会社	アトピーが増えたのは世の中の衛生状態が良くなったから？ 古川福実	高槻赤十字病院	大阪	2023年 7月7日
中村 道子	アトピー性皮膚炎 スキンケア 外用剤実践編	高槻赤十字病院	大阪	2023年 8月4日
アクセーナ株式会社 中村 道子	日焼け止めクリームの効果的な塗り方	高槻赤十字病院	大阪	2023年 8月4日
田中慎子・小島一晃	乳児・小児への粉薬の飲ませ方	高槻赤十字病院	大阪	2023年 9月1日
中村 道子	食物アレルギー～最近の傾向と対策～	高槻赤十字病院	大阪	2023年 10月13日
西岡 美穂	食物アレルギー 調理の工夫	高槻赤十字病院	大阪	2023年 10月13日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
島本 純子	冬場のスキンケア	高槻赤十字病院	大 阪	2023年 11月10日
中村 道子	小児 冬のスキンケア	高槻赤十字病院	大 阪	2023年 12月1日
川上 伊津子	永く歩くためのフットケア	高槻赤十字病院	大 阪	2024年 2月9日
川上 伊津子	あなたの爪切り間違っていますか？	高槻赤十字病院	大 阪	2024年 3月1日

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
片山 博視 中村 道子、古川 福実、 芦田 明	結節性硬化症関連精神神経症 状と思われる聴覚情報記憶保 持低下に起因する不登校の 軽症結節性硬化症の一女兒例	第126回日本小児科学会学術 集会	東 京	2023年 4月14日
島本 純子	不織布マスクとウレタンマ スクの特性の比較検討	第25回北摂皮膚科医会	大 阪	2023年 4月15日
Jinnin M Kaminaka C, Furukawa F, Yamamoto Y	Usefulness of medical makeup in patients with cutaneous lupus erythematosus	5th International Conference on Cutaneous Lupus Erythematosus 2023 (ICCLE2023)	東 京	2023年 5月9日
Yoshinobu Murakami Seisho Azuma, Kimiye Baba, Masahiko Taniguchi, Fukumi Furukawa	Inflammation of epidermal keratinocytes induced by various indoor air pollutants and its suppression by naringenin	International Societies for Investigative Dermatology,	東 京	2023年 5月10日
古川 福実 奥野 愛香、島本 純子、 松中 浩	不織布マスクとウレタンマ スクの特性の比較検討	第122回日本皮膚科学会総会	横 浜	2023年 6月1日
片山 博視 中村 道子、古川 福実、 芦田 明	結節性硬化症関連精神神経症 状と思われる聴覚情報記憶保 持低下に起因する不登校の 軽症結節性硬化症の一女兒例	第47回日本小児皮膚科学会 学術大会	大 阪	2023年 7月15日
島本 純子	過酸化ベンゾイル製剤および アダパレン製剤の当院での使 用の現状	Acne Care Seminar in北摂	大 阪	2023年 9月21日
古川 福実	温故知新 乾癬 三都物語— 京都、浜松、和歌山	第3回 紀南皮膚疾患連携セミ ナー	新 宮	2023年 10月5日
村上 能庸 吾妻 正章、馬場 きみ江、 谷口 雅彦、古川 福実	オゾン水による微生物由来有 害物質の失活	日本機能水学会第21回学術 大会	福 岡	2023年 10月7日
西田 美央 島本 純子、深田 寛子、 古川 福実	免疫抑制患者に発症した Mycobacterium shigaense による皮膚非結核性抗酸菌症 の1例	第74回日本皮膚科学会中部 支部学術大会	京 都	2023年 10月28日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
坂口 絵美 荒木孝一郎、古川 理奈、 亀山 雅貴、村上 浩子、 佐藤 裕司、吉田 桂、 渡邊 千尋、古川 福実、 小林 稔浩	乳腺腺様嚢胞癌の1例	第59回日本赤十字社医学会 総会	京 都	2023年 11月9日
古川 福実	昭和・平成・令和 ニキビは 続くよ いつまでも	北摂三島乙訓エリア 皮膚疾 患地域連携の会	高 槻	2023年 12月2日
島本 純子 西田 美央、古川 福実	当院での血管内大細胞型B細 胞リンパ腫疑いに対するのラ ンダム皮膚生検の現状	日本皮膚科学会大阪地方会第 500回記念大阪地方	大 阪	2023年 12月3日
村上 能庸 吾妻 正章、馬場きみ江、 谷口 雅彦、古川 福実	オゾン水による微生物由来有 害物質の失活	第4回オゾン水研究会	大 阪	2024年 3月1日
西田 美央 島本 純子、古川 福実、 河上 千尋	オマリズマブを投与した木村 病の1例	日本皮膚科学会第502回大阪 地方会	大 阪	2024年 3月2日
村上 能庸 吾妻 正章、馬場 きみ江、 谷口 雅彦、古川 福実	オゾンガスによる環境アレル ゲンの失活	日本薬学会第144年会	横 浜	2024年 3月28日

病理診断科

教育講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
山田 桂実 荒木 孝一郎	認定資格取得に向けてのアド バイス 認定病理検査技 師、細胞検査士	第35回日本赤十字社臨床検 査技師会近畿ブロック研修会	大阪府	2023年 9月2日

放射線科

ポスター発表

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
柳田 泰祐	MRIにおける「歪み補正法 (RDC)を用いたDiffusion 撮影の検討」	第59回日本赤十字社医学会 総会	京 都	2023年 11月10日

薬剤部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小島 一晃	免疫関連有害事象 (irAE) における予後関連因子の検証	第33回日本医療薬学会年会	仙 台	2023年 11月4日
濱武 清範	当院におけるニボルマブ+イ ピリムマブ併用療法の実態調 査	第59回日本赤十字社医学会 総会	京 都	2023年 11月9日
小島 一晃	薬剤	第59回日本赤十字社医学会 総会	京 都	2023年 11月10日

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
濱武 清範	当院におけるニボルマブ+イ ピリムマブ併用療法の実態調 査 ～第3報～	第45回日本病院薬剤師会近 畿学術大会	和歌山	2024年 1月28日
濱武 清範	Nivolumab療法と皮膚障害 の関係性について	臨床腫瘍薬学会学術大会 2024	名古屋	2024年 3月2日

講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
野間 敏也	キャリアアップ支援に向けた 取り組み	三島医療圏がん専門・認定薬 剤師の会	WEB	2023年 9月27日

リハビリテーション科

一般演題

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
井上 環	臍帯血移植を実施した急性リン パ球性白血病若年患者のリ ハビリテーション	第59回日本赤十字社医学会 総会（京都みやこメッセ）	京 都	2023年 11月10日
不破 賢太郎 大中 玄彦、木澤 隼	当院における外来心臓リハビ リテーション開設に向けた取 組み	第59回日本赤十字社医学会 総会（京都みやこメッセ）	京 都	2023年 11月10日

臨床工学

講演

氏名	演題	発表場所	開催地	月日
竹下 勇一	当院における臨床工学技術課 業務	扶桑薬品 社内研修会	大阪市	2023年 12月15日

令和5年度 病院年報

発行日 令和7年3月

発行者 **高槻赤十字病院**

院長 玉田 尚

〒569-1096

高槻市阿武野一丁目1番1号

☎ (072) 696-0571

編集者 経営企画課

印刷所 株式会社 一心社